

～「叶えたい」を支えたい～

結婚・子育て支援策の推進に向けた 論点整理

—— 2026 ——



結婚や子育てに関する「不安」を「安心」に変え、希望を叶える東京へ

- 社会経済環境の変化や価値観の多様化など、時代の移り変わりとともに、人々のライフプランや日々のくらしは大きく変化してきた。こうした中で、「結婚したい」「子供を持ちたい」という望みを持ちながら、将来への不安・悩みを抱え、一步を踏み出せない人が少なくない。その背景には、雇用の不安定化、仕事と育児の両立、教育費の負担など、様々な要因が考えられる。
- 都では、望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現に向けて、多様な価値観や考え方を尊重しながら、都民目線でのライフステージを通じた切れ目ない支援を積極的に展開してきた。
- 都が展開する施策には多くの共感が寄せられ、今では9割を超える都内の子育て家庭に、東京は子育てしやすいと実感いただいている。こうした中、昨年の東京における日本人の出生数は、10年ぶりに増加に転じた。出生数の先行指標とも言われる婚姻数も、2年連続で大幅に増加している。
- 都民の共感を基軸としながら、「結婚したい」「子供を持ちたい」という希望を叶える東京を実現していくため、「現在地」を確認するとともに、最新のデータや知見を基に、把握した課題や都民ニーズを踏まえ、為すべき施策を果敢に進める必要がある。
- また、社会の存立基盤を揺るがす国家的な課題である少子化に対し、日本全国の若者が明るい将来展望を描けるよう、都の先駆的な取組を全国に波及させ、国を挙げた取組に発展させることが重要である。
- 本資料は、出会いから結婚、妊娠・出産、子供の健やかな成長に至るまで、幅広い分野における来年度予算の政策検討の課題を整理したものである。

「叶えたい」を支えたい アクションプラン 2026

令和8(2026)年1月



望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現に向け、令和8(2026)年度に実践する結婚・子育て支援策の全体像を整理

～「叶えたい」を支えたい～ 結婚・子育て支援策の推進に向けた論点整理 2026

令和8(2026)年7月



出会いから結婚、妊娠・出産、子供の健やかな成長に至るまで、幅広い分野における令和9(2027)年度予算に向け政策検討における課題を改めて整理

「叶えたい」を支えたい アクションプラン 2027(仮称)

結婚・子育て支援策の
更なる加速・新たな展開

東京都が目指す社会

- 「結婚を望む人が前向きに一步を踏み出すことができる」
「子供を持つことを望む人が安心して産み育てることができる」
都は、そうした社会の実現に向けて、多様な価値観を尊重しながら、都民が抱える不安や悩みに寄り添った結婚・子育て支援策を展開
- 結婚や子育てに関するあらゆる「不安」を解消し、
「安心」に変えていくことで、
「結婚したい」「子供を持ちたい」と望む人を強力に後押し



結婚を望む人が前向きに一步を踏み出すことができる
子供を持つことを望む人が安心して産み育てることができる



結婚や子育てに関する
あらゆる「不安」を解消し、「安心」に変えていく



出会い・結婚

妊娠・出産



子育て期の支援

結婚・子育て
支援策

教育・住宅



就労環境・職場環境

社会気運・環境整備



都の主な結婚・子育て支援策(令和8年度予算)



出会い・結婚

結婚に向けた気運醸成等

拡 結婚気運の醸成

拡 婚活・結婚関連団体との連携

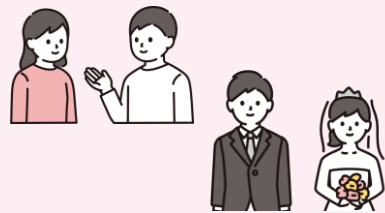
拡 結婚支援マッチング事業

東京都結婚支援ポータルサイト
「TOKYOふたりSTORY」

東京ライフデザインシミュレーター

ライフデザインセミナー

TOKYOふたり結婚応援パスポート



ライフステージをシームレスにサポートし、「子育てしやすい東京」を実現



妊娠・出産

子育て期の支援

0歳から18歳まで、切れ目のない経済的支援

拡 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

どうきょうママパパ応援事業等

子育てに不安を抱える妊婦や
子育て家庭を支援するため、
伴走型相談支援等を実施

東京都出産・子育て応援事業

※妊婦のための支援給付(国制度)を含む

妊娠時

6万円

出産後

15万円+3万円

1歳未満2歳

6万円

【R7補正予算】
赤ちゃんファースト+（プラス）
（R8.1月生まれ～R9.3月生まれ）
※国の重点支援地方交付金を活用

拡 東京ユースヘルスケア推進事業
（プレコンセプションケアの推進）

拡 都立学校における産婦人科医を活用した
ユースヘルスケア事業

拡 不妊治療費助成

キャリアとチャイルドプラン両立支援事業

卵子凍結への支援

新 出産・子育てに関する講演会事業

拡 東京都無痛分娩費用助成等事業

新 妊産婦向け情報発信の強化



保育所・幼稚園等

拡 保育料等無償化

都内全ての家庭における
子供の保育料等を無償化

小・中学校

学校給食費の負担軽減

都内全ての公立学校は
学校給食費が無償

高校等

高校等授業料の
実質無償化

都立も私立も所得制限な
しで授業料を実質無償化

大学等

都立大学等の授業料
実質無償化

都立の大学・高等専門学校の
授業料を所得制限なし
で実質無償化



018サポート 0-18歳の全ての子供たちに一人当たり月額5,000円を支給

【R7補正予算】
子育て応援+（プラス）

0-14歳の子供たちに一人当たり11,000円を1回支給
※東京アプリ生活応援事業の支給対象外の都民

医療費助成事業(乳児～高校生等)

拡 子供・子育てメンター “ギュッとチャット”

新 子供食堂等居場所支援事業・子供食堂普及啓発事業

デジタルを活用した便利で快適な子育て支援サービスの推進

乳幼児期

拡 ベビーシッター利用支援事業

拡 東京都病児保育推進事業

拡 多様な他者との関わりの機会の創出

拡 どうきょう すくわくプログラム推進事業

ファミリー・アテンド

学齢期以降

拡 東京都認証学童クラブ事業

拡 朝の子供の居場所づくり

学童クラブ待機児童解消区市町村支援事業

新 学童クラブ従事職員宿泊借上げ支援事業

学童クラブ事業費補助

新 私立小中学校等給食費等負担軽減区市町村補助

私立中学校等特別奨学金補助

新 私立中学校等授業料保護者負担軽減臨時特別事業費補助

受験生チャレンジ支援貸付事業

住宅

拡 アフォーダブル住宅の供給促進

拡 東京こどもすくすく住宅の供給促進

拡 「子供を守る」住宅確保促進事業

拡 都営住宅における結婚・子育て支援

新 女性向けキャリアアチェンジ・キャリアアップ支援事業

新 女性しごと応援ナビPlus

拡 働く女性への総合サポート事業

女性キャリアアップ再就職支援プログラム

拡 企業における女性管理職等の活躍促進事業

新 女性の活躍推進に向けた職場環境改善プロジェクト

企業における「年収の壁突破」総合対策促進事業

拡 企業と働く女性のキャリアパートナーシップ支援事業

拡 働く女性のウェルネス向上事業

東京デジタルアカデミー 若手エンジニアコース
(伴走型若手DX人材育成事業)

若者のキャリアデザイン支援

若者世代職場定着促進事業

拡 正規雇用転換安定化支援事業

新 働く人の育業応援事業

拡 「手取り時間」創出・エンゲージメント向上推進事業

働きやすい職場環境づくり推進事業

テレワーク普及促進プロジェクト

新 育児・介護との両立のためのテレワーク活用促進事業

社会気運 環境整備

拡 こどもスマイルムーブメント
(育業の推進)

拡 男性の家事・育児促進に向けた
マインドチェンジプロジェクト

拡 女性の活躍推進のための
気運醸成

拡 地域の底力発展事業助成

子育て応援スペースの導入拡大

子供家庭支援区市町村包括補助事業

これまでの10年間の取組の変遷

✓ 都はこれまでの10年間で、経済的支援のみならず、人を中心に据えた先駆的で切れ目のない支援を多面的に展開



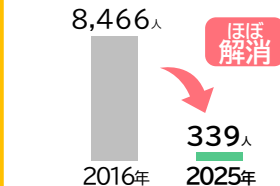
都の結婚・子育て支援策により
結婚や子育てに関する「不安」を「安心」に

2016年度～

待機児童解消
に向けた各種取組

待機児童はほぼ解消

保育所等利用待機児童数(都)



2022年度
不妊治療費助成

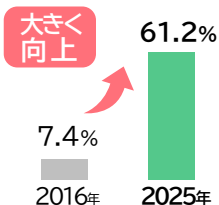
「育業」の推進
愛称「育業」を発表

2023年度
卵子凍結に係る取組

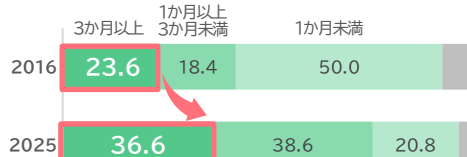
018サポート
第二子保育料無償化

男性育業取得率は大きく向上・取得期間も大幅に伸長

男性の育業取得率(都)



男性の育業取得期間(都)



「3か月以上」の割合が大幅に増加

2024年度
AIマッチングシステム
「TOKYO縁結び」本格稼働
こどもDXの推進

高校等授業料の実質無償化
学校給食費等の負担軽減

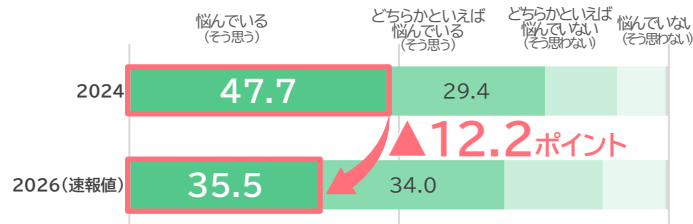
2025年度
無痛分娩の環境整備
認証学童クラブ制度の創設

第一子保育料無償化

2026年度
TOKYO八結び
令和8年結婚おうえんキャンペーン
アフォーダブル住宅
供給開始

子育て・教育費用に悩む保護者が減少

子育てや教育の費用に悩む保護者の割合(都)



「悩んでいる」の割合が大幅に減少

(資料)東京都「とうきょう こども アンケート」を基に作成

不安や悩みに寄り添う取組の成果が、都内に着実に浸透
都民からの「共感」が「実感」につながりつつある

I 「結婚したい」「子供を持ちたい」という希望を叶える東京に向けた現在地

- 都民の望みと現実のギャップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 結婚・出産を取り巻く都の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 東京の20～30代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 都民の不安や悩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

II 分野ごとの現状・分析と今後の政策検討課題

- 分野①：出会い・結婚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 分野②：妊娠・出産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 分野③：子育て期の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 分野④：教育・住宅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 分野⑤：就労環境・職場環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- 分野⑥：社会気運・環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- 結婚・子育て支援策の更なる充実に向けて ～今後の政策検討課題～・・・・・・ 39

III 取組のバージョンアップに向けて

- 不断に取組をバージョンアップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 令和8年度 取組の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

IV 国を挙げた取組に向けて

- 都の取組を全国に波及させることの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 国に影響・波及した都の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- 国への要望内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

V 附属資料

- 結婚・子育て支援策の取組状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- 東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」・・・・・・ 55
- 有識者からの意見聴取の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110

I | 「結婚したい」「子供を持ちたい」という 希望を叶える東京に向けた現在地

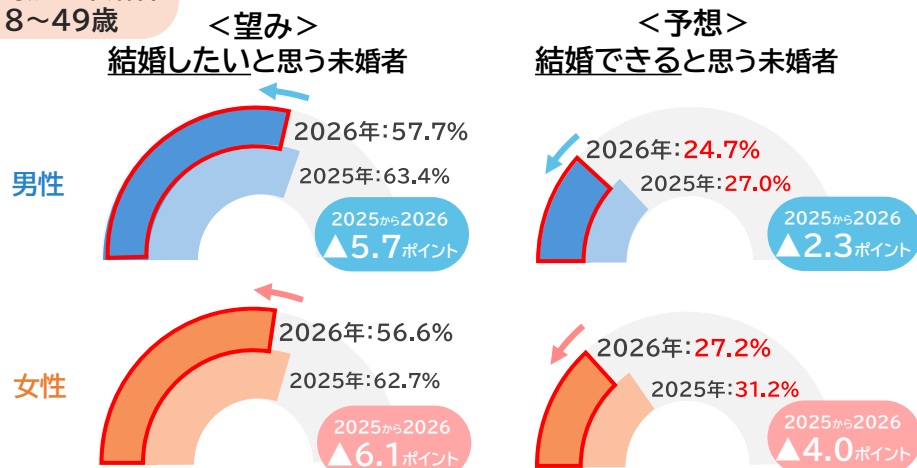


「結婚したい」・「子供を持ちたい」という都民の望みと現実には依然としてギャップがある

将来的に結婚できると思う未婚者は約4人に1人

- 結婚願望のある人は、男女とも約6割いるが、結婚できると予想する割合は、そのうちの半数にも満たない

未婚者の結婚に対する「望み」と「予想」(都・男女別)

各年時点の未婚者
18～49歳

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

- 2020年時点で50歳を迎えた世代をみると、結婚経験があるのは男性の約3人に2人、女性の約4人に3人

各年時点で
50歳の方

<実際>

50歳時の結婚経験の割合(都・男女別)



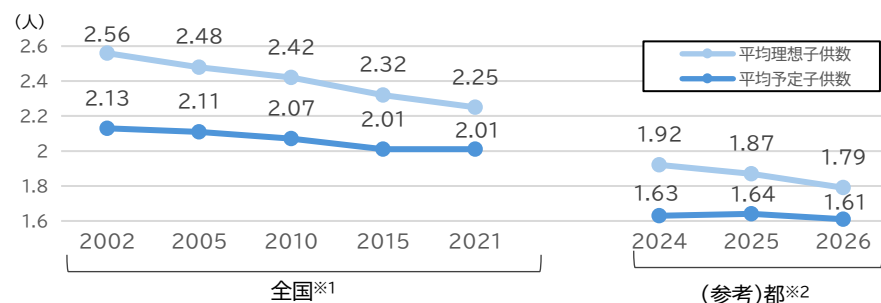
(資料)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2026年版」を基に作成

夫婦の理想と予定の子供数の差は依然として残る

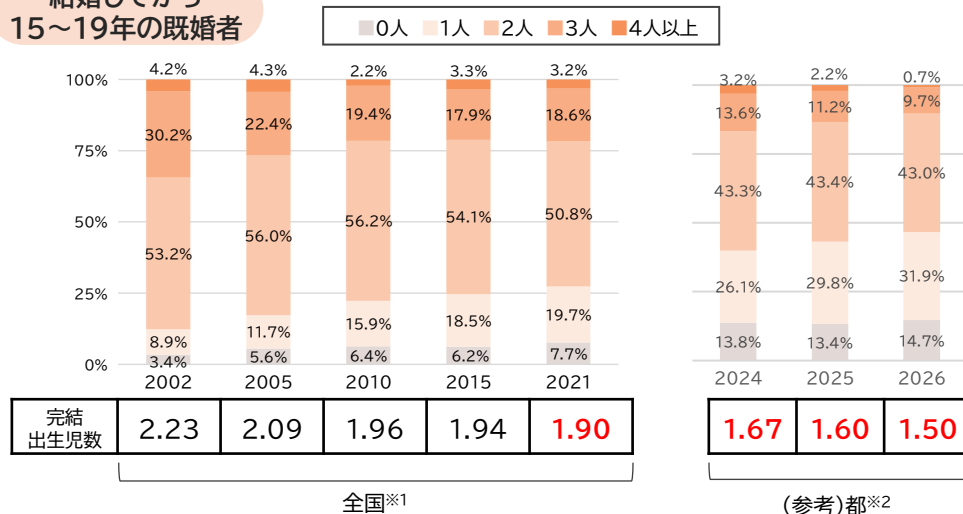
- 都の夫婦の理想の子供数と予定の子供数の差は縮小しているものの、依然としてギャップがある

既婚者
18～49歳

夫婦の平均理想子供数と平均予定子供数(全国・都)



- 都の完結出生児数は3年間で一貫して減少

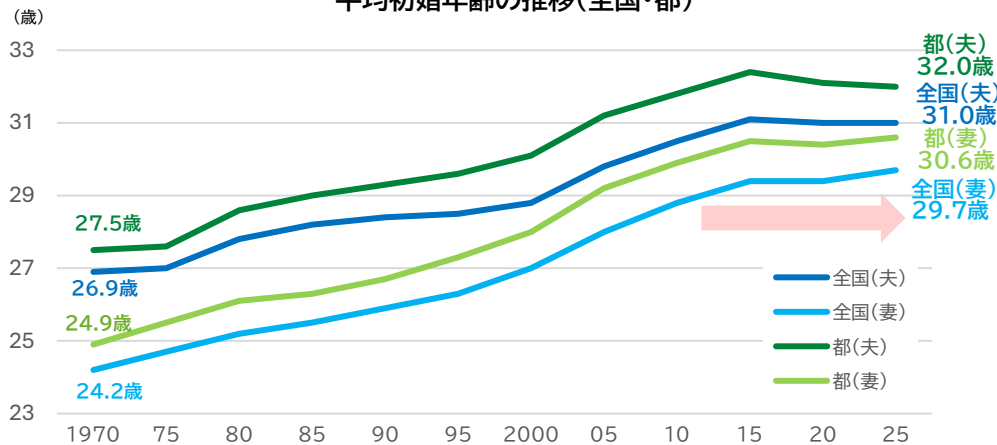
夫婦の出生子供数の割合・完結出生児数(結婚持続期間15～19年)
(全国・都)結婚してから
15～19年の既婚者(資料)※1国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」を基に作成
※2東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

晩婚化・未婚化が進行し、生涯未婚率や無子率も増加

平均初婚年齢は高止まり傾向

- 平均初婚年齢は全国・都ともに、2010年以降30歳前後で高止まり

平均初婚年齢の推移(全国・都)

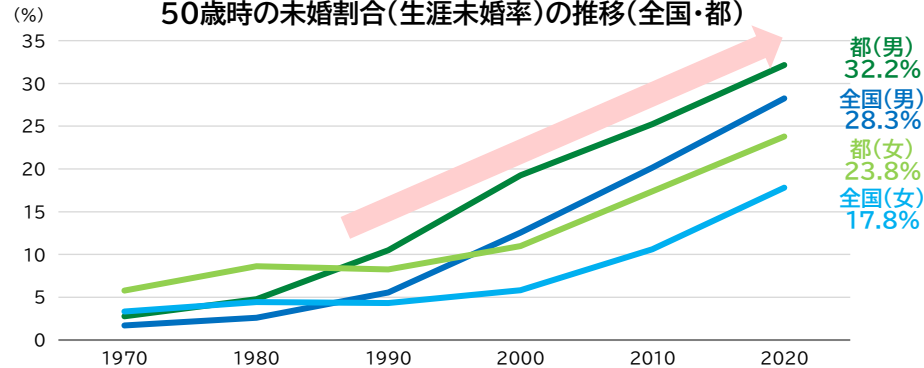


※2025年については概数 (資料)厚生労働省「人口動態調査」を基に作成

生涯を通じて結婚経験のない人の割合は大きく上昇

- 生涯未婚率は、全国・都ともに、1990年以降大幅に上昇
 ➤ 都では、50歳時点で、男性の約3人に1人、女性の約4人に1人が結婚経験がない

50歳時の未婚割合(生涯未婚率)の推移(全国・都)

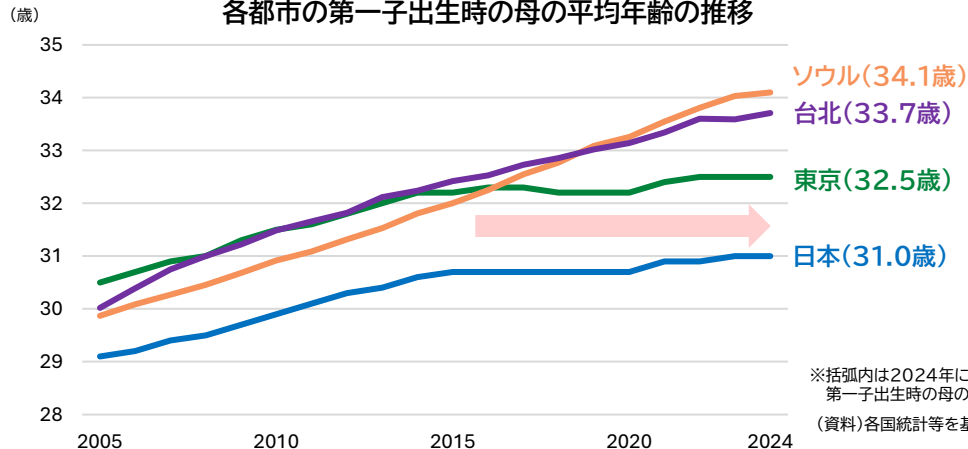


(資料)国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2026年版」を基に作成

東京の第一子出生時の母の平均年齢は高止まり傾向

- 東アジアの他都市では晩産化が進んでいる中、東京における第一子出生時の母の平均年齢は32歳付近で高止まり

各都市の第一子出生時の母の平均年齢の推移

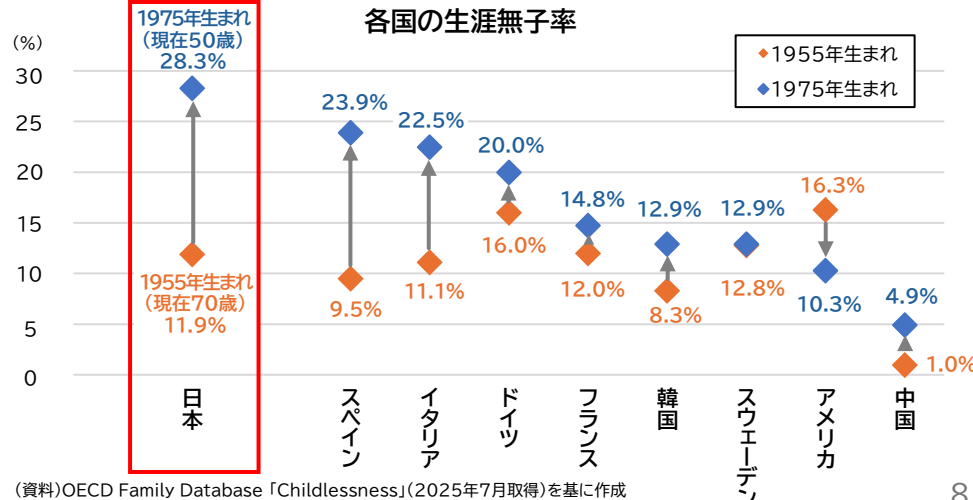


※括弧内は2024年における第一子出生時の母の平均年齢
 (資料)各国統計等を基に作成

生涯を通じて子供をもたない人の割合は大幅に上昇

- 世界的に生涯無子率は上昇しているが、日本の上昇率は特に大きい

各国の生涯無子率



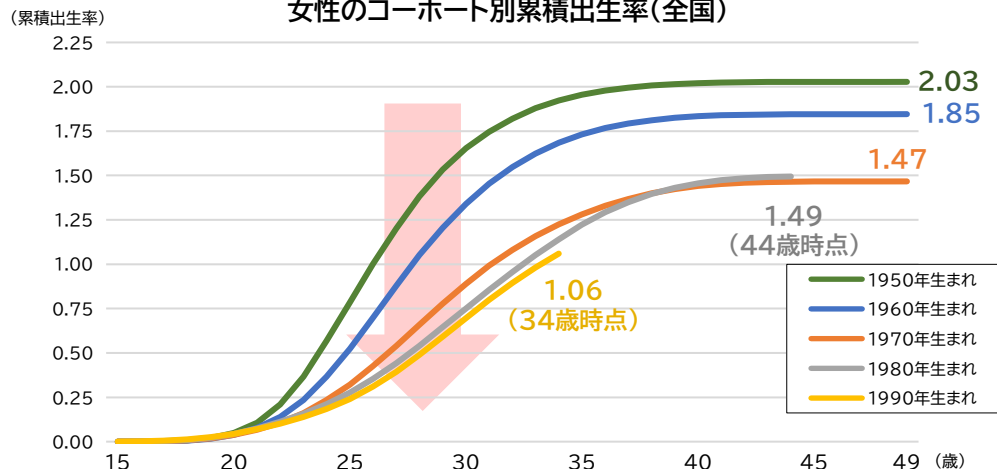
(資料)OECD Family Database「Childlessness」(2025年7月取得)を基に作成

出生は若年世代で大きく減少、20代までに結婚する人は世代を追うごとに一貫して減少

日本の若年女性の出生率は低下

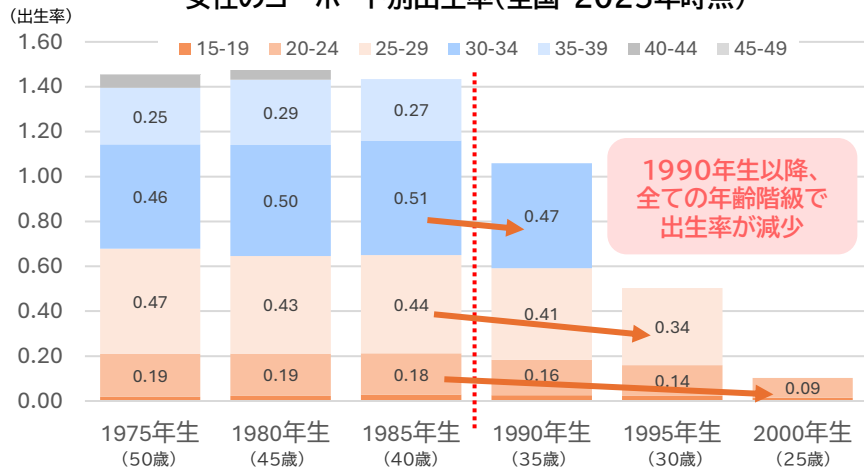
- 日本において、20代女性の出生率は低下している

女性のコーホート別累積出生率(全国)



- 現在30代半ば(1990年生)の世代以降は、全ての年齢階級で世代を追うごとに出生率が減少

女性のコーホート別出生率(全国・2025年時点)

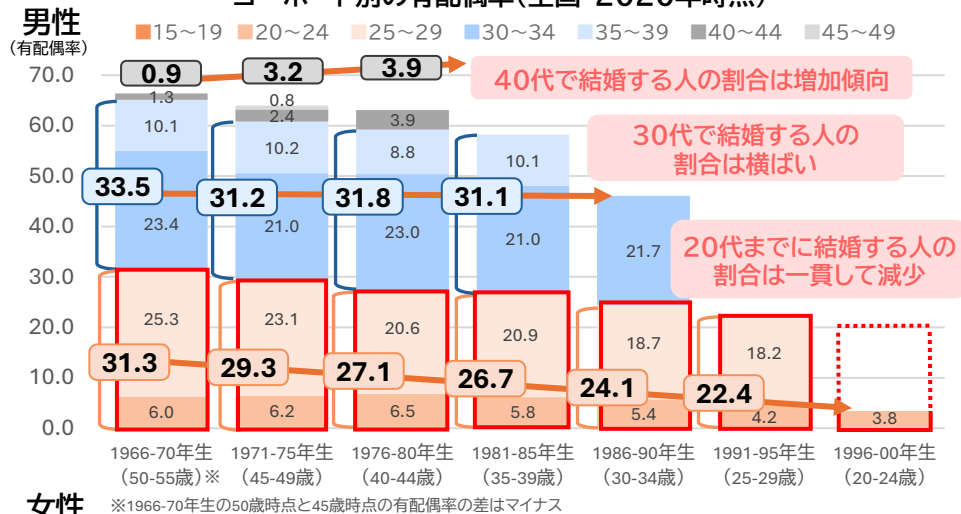


20代までに結婚する人は世代が進むにつれて減少

- 30歳時点の有配偶率は男女ともに世代を追うごとに一貫して減少
- 男性は40代での結婚割合^(※1)が増加傾向にあり、女性は30・40代での結婚割合^(※2)が増加傾向

(※1)40代での結婚割合:50歳時点と40歳時点の有配偶率の差
(※2)30・40代での結婚割合:50歳時点と30歳時点の有配偶率の差

コーホート別の有配偶率(全国・2020年時点)

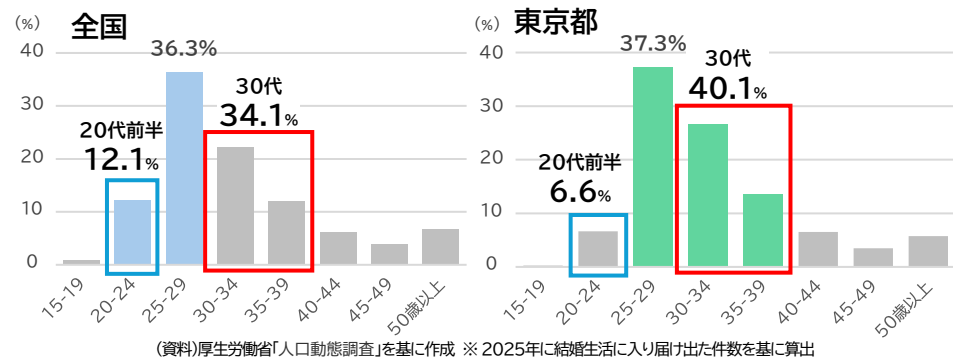


東京は20～30代の結婚・出産が多く、若年女性の働き方にも大きな変化

東京では30代での婚姻も多い

- 年齢層ごとの婚姻数を全国と東京で比較すると、**婚姻のピーク**はどちらも**20代後半**であるが、**全国**では**20代前半**の婚姻割合が相対的に多く、**都**では**30代**での婚姻割合が多い

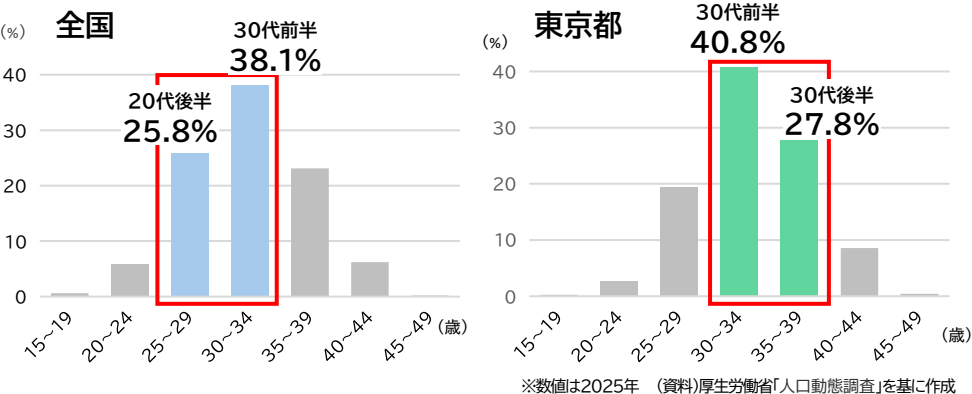
年齢層別婚姻数の割合(全国・都)



東京における出産年齢のピークは30代

- 年齢層ごとに出生数を見ると、**全国**では**20代後半～30代前半**で出産する割合が多い
- **都**では、**30代前半～30代後半**で出産する割合が多い

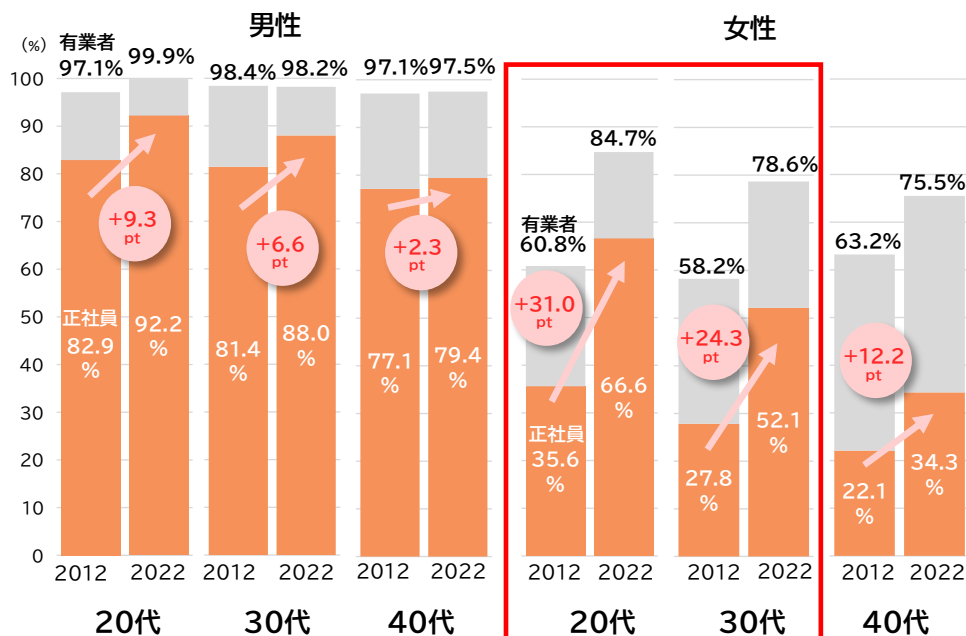
年齢層別出生数の割合(全国・都)



若い世代ほど、夫婦ともに正社員で働く家庭が増加

- 東京の20代後半～40代前半の既婚者の就業状況推移を見ると、**男女ともに正社員が占める割合は増加**
- 特に**若年女性の正社員が大幅に増加**しており、直近では**過半数を超える割合**を占めている

既婚者(25歳～44歳)の就業状況(都・年代別・男女別)



都民の皆様の意見

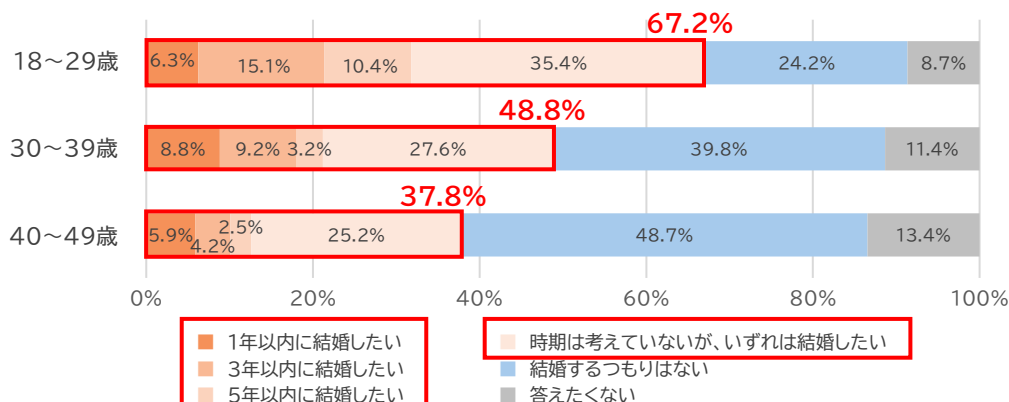
- 将来のことを考えると子供がいた方が良いと考える。成長を見る楽しさはあるが、仕事との両立に不安を感じる(男性30代・既婚)
- 両親は共働きで祖父母が子育てを担っていた。自分は東京で夫婦だけで頑張らないといけない。時間的に厳しいと感じる(女性30代・既婚)

若い世代ほど結婚意向は高いが、結婚に対する考え方は多様化

20代までの世代の6割以上が結婚意向がある

- 将来の結婚意向は若い世代ほど高く、20代まででは6割以上、30代では約半数にのぼる

結婚に対する考え(都・未婚者)



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成



都民の皆様の意見

- 結婚は人生が豊かになる一方で、友人の話を聞いていると責任の発生や、育児にかかる資金面の負担など大変なイメージもある(男性20代・未婚)
- 結婚願望はない。一人暮らしに慣れているため、自分の生活に干渉されたくないという思いがある(女性30代・未婚)
- 30代後半になって1人で生きていくのは嫌だと思い、結婚相談所に通った(男性40代・既婚)

有識者の意見

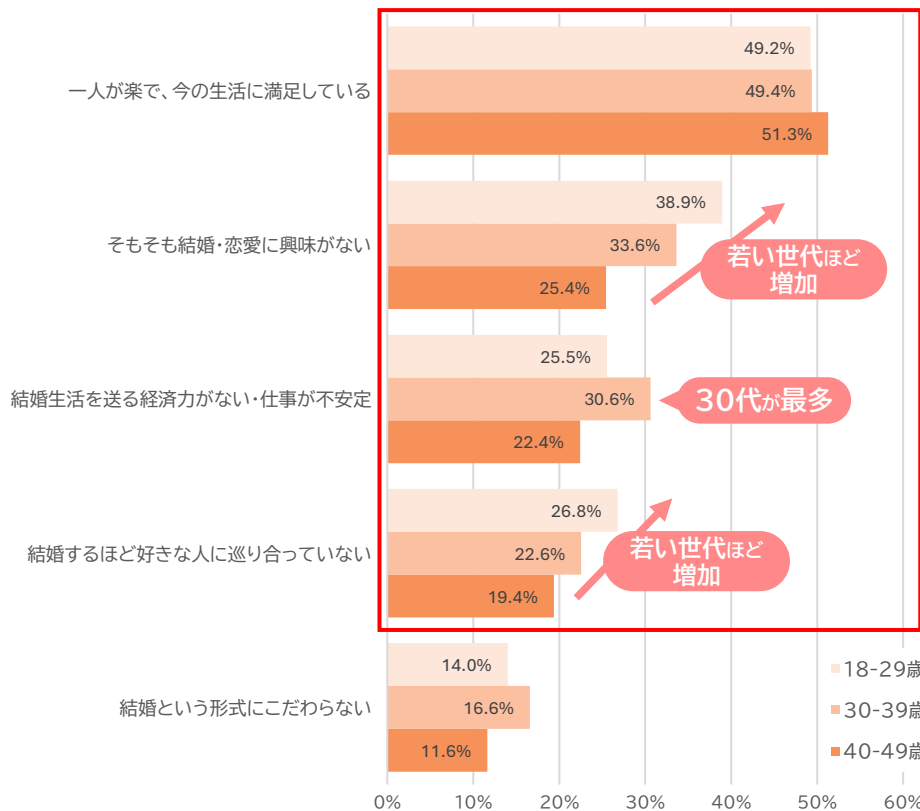
- 結婚の意思の変化について、本当に結婚したくない人と、自分の収入、雇用状況から結婚を考えない人が混在しているため、単純に価値観の変化とするのはミスリーディングにつながりかねない
- どのような属性の人々が結婚・恋愛に興味がないのかを明らかにすることも重要である

結婚に対する考え方は世代ごとに異なる特徴

- 結婚するつもりがない理由は、「一人が楽で、今の生活に満足している」が最多
- 若い世代ほど、「結婚や恋愛に興味がない」や「好きな人に巡り合っていない」割合が高く、また、「経済力や仕事の不安定さ」を理由にあげるのは30代が最多

結婚するつもりはないと思う理由(都)

※複数選択・一部抜粋

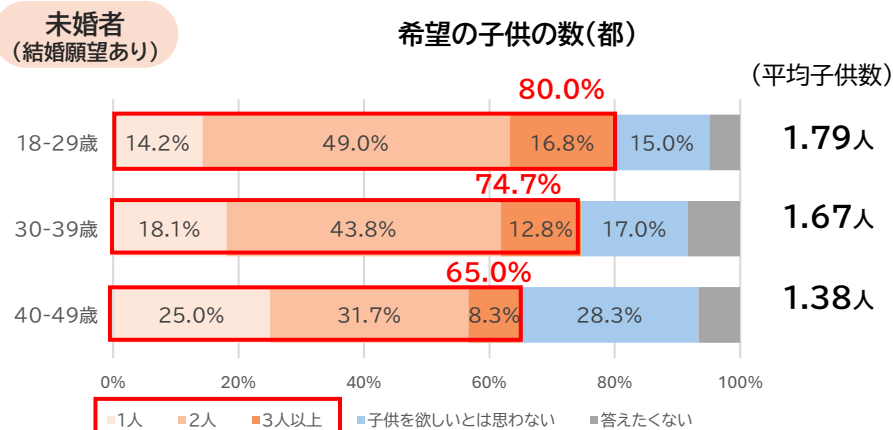


(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

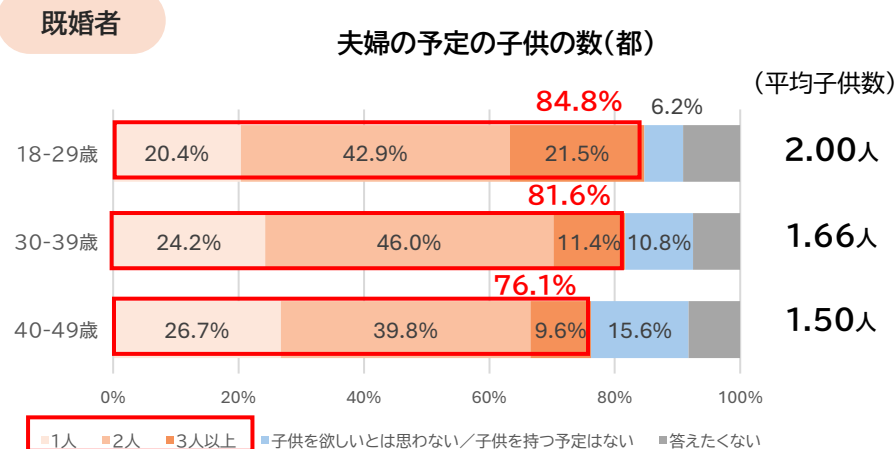
多くの夫婦が子供を持つことを望むが、若い世代の子供を持つことに対する考え方は多様化

既婚者や結婚を望む未婚者の多くは子供を持ちたい

- 結婚願望のある未婚者においては、**いずれの世代でも多くの人が子供を持ちたいと考えており、若い世代ほどその割合は高い**
- 既婚者においては、**未婚者よりも更に多くの人が子供を予定しており、30代までの世代では5人のうち4人以上が子供を予定している**



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

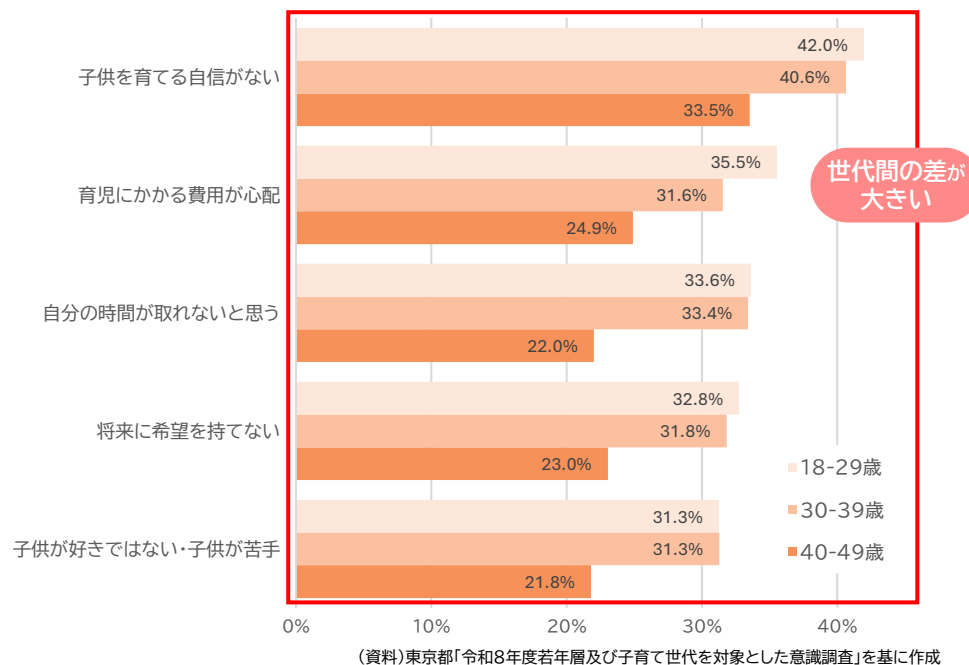


(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

子供を持つことへの考え方は世代間で差が大きい

- 子供を欲しいと思わない理由は、「**子供を育てる自信がない**」が最多
- 若い世代ほど、「**自分の時間が取れない**」や「**将来に希望が持てない**」などの割合も高く、**理由が多様化している傾向**

子供を欲しいと思わない理由(都) ※複数選択・一部抜粋



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

都民の皆様の意見

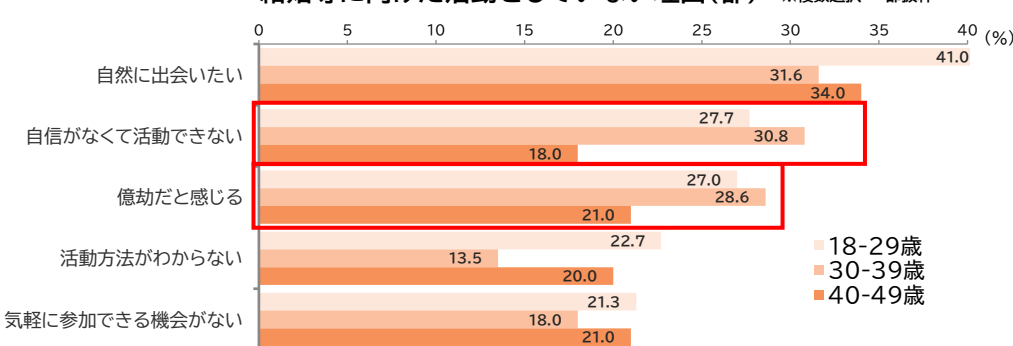
- 子供が自分の誇りになるのではないかな。成長を見守りながら、子供が新しいことができるようになることが自分の喜びになると思う(男性20代・未婚)
- 子供を持つと、金銭面の不安や子供の健康への責任、自分と妻の時間が取れなくなると考えている(男性30代・既婚)
- 子供がいるからこそできる経験がたくさんある。楽しい思い出も多い(女性40代・既婚)

結婚や子供を持つことに対する都民の不安や悩みは多岐に渡る

若年世代は婚活への心理的なハードルがある

- 婚活を行っていない理由として、「自然に出会いたい」に次いで、若年層を中心に「自信がない」・「億劫だと感じる」があげられている

結婚等に向けた活動をしていない理由(都) ※複数選択・一部抜粋

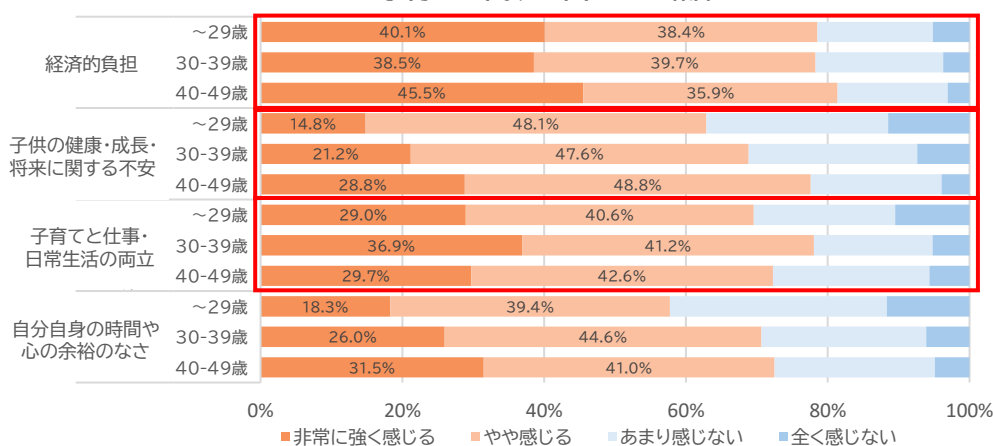


(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

子育てに関する困りごとは世代によっても様々

- 子育てに関する困りごとは、「経済的負担」が全世代で最多
- 「子育てと仕事・日常生活との両立」では30代が最多、「子供の健康・成長・将来に関する不安」などは世代が上がるごとに増加

子育てに関する困りごと(都) ※上位抜粋

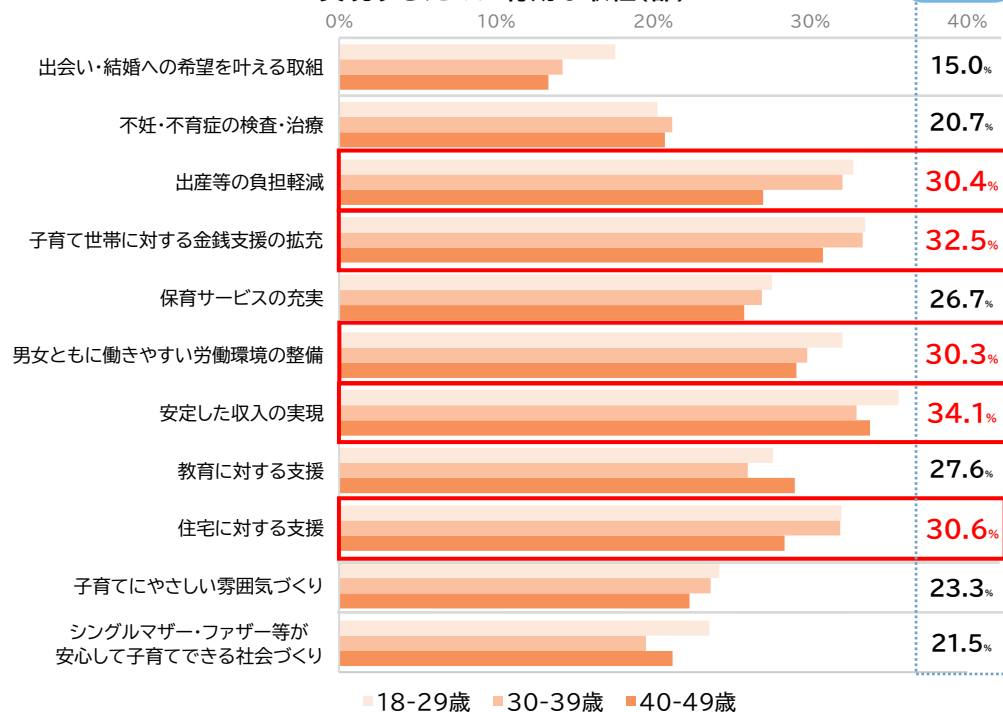


(資料)東京都「令和8年度018サポートの申請情報を活用したアンケート調査」を基に作成

都民からは更なる取組強化の期待

- 「望む人が安心して子供を産み育てることができる社会」の実現に向け、都民からはライフステージを通じた幅広い取組の充実に期待

望む人が結婚から妊娠・出産・子育てしやすい社会を実現するために有効な取組(都)



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

都民の皆様の意見

- 子供ができると金銭面の負担が大きくなることが不安。子供が塾や習い事に通いたいと言い出した際に、希望を叶えられるのか不安(男性30代・未婚)
- 子育ては責任の重さへの不安が大きく、金銭支援だけでなく心理的負担の軽減につながる施策が欲しいと感じる(女性40代・既婚)

2025年の東京の婚姻数・出生数

9割超が「子育てしやすい」と実感

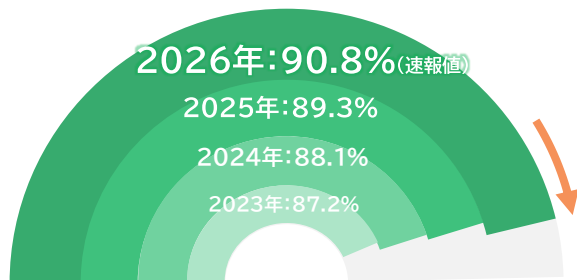
「住んでいる地域が子育てに良い場所」だと思う都内の子育て層は**年々増加**し、**2026年には9割を超えたんだ！**



住んでいる地域が子育てに良い場所であると思う
と回答した人の割合(都)

(「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」の回答率の合計)

3年連続の増加！



2025から2026
+1.5ポイント

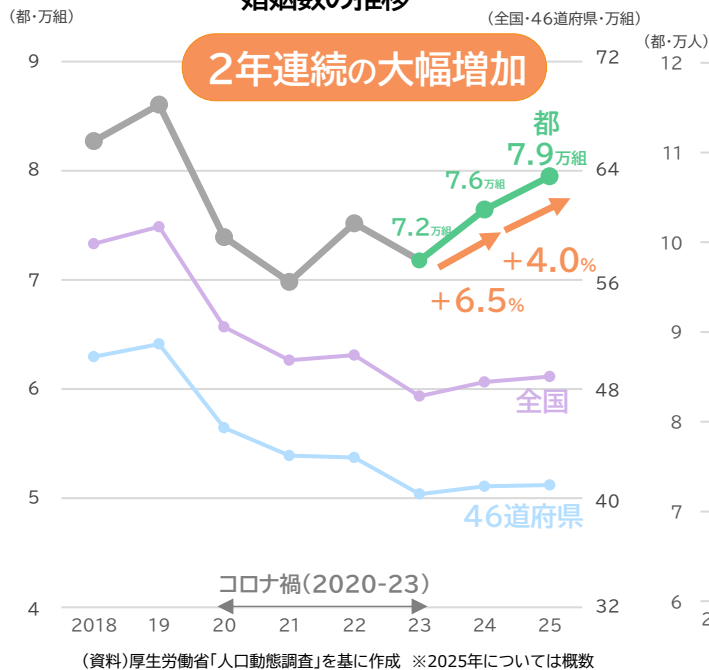
(資料)東京都「とうきょう こども アンケート」を基に作成
※調査対象:3歳児、小学3年生、小学5年生、中学2年生、17歳の子供の保護者
※2026年の数値は速報値

都の婚姻数は2年連続の大幅増加

出生数の先行指標とも言われる婚姻数について、2025年の都内の日本人婚姻数は、**前年から4.0%増加**し、**2年連続で大幅に増えているんだ！**



婚姻数の推移

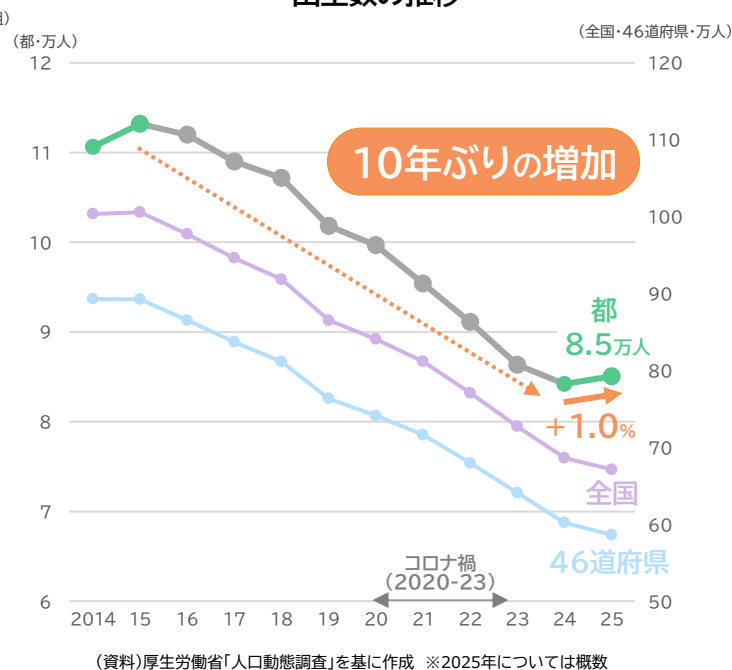


都の出生数は10年ぶりに増加

2025年の都内の日本人出生数は、**1.0%増加**したよ。プラスに転じるのは**10年ぶり**のことなんだ！



出生数の推移



「東京が子育てしやすくなったこと」や「都内婚姻数の増加」が都内の出生数増加に寄与しているんだね

※ 出生数や婚姻数等に関する詳細な分析は、『データから見る東京の出生数・婚姻数』をご覧ください



少子化に関する指標には、「出生率」が名称に含まれるものがあるがいくつかあるね

出生率 人口千人当たりの出生数			有配偶出生率 結婚している15～49歳の女性千人当たりの出生数			合計特殊出生率 女性1人が一生に 出産する子供の数		
全国	東京	46道府県	全国	東京	46道府県	全国	東京	46道府県
5.6%	6.3%	5.5%	72.9%	74.9%	72.6%	1.14	0.96	1.17

※出生率及び合計特殊出生率は2025年、有配偶出生率は2020年
(資料)総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」及び東京都「人口動態統計」を基に作成

指標によって全国と東京都の高低が異なり、
出生率や有配偶出生率は、東京都の数値が全国と比べて高いよ
同じ「出生率」でも、全く見え方が違うね

【合計特殊出生率の計算式】

※国勢調査年次以外の都道府県の例

$$\left(\frac{\text{15～19歳の母の出生数}}{\text{15～19歳の女性人口}} \right) \times 5 + \sim + \left(\frac{\text{45～49歳の母の出生数}}{\text{45～49歳の女性人口}} \right) \times 5$$

合計特殊出生率は、出生数が変わらなくとも、様々な要素
(女性の人口移動・出産年齢のピークなど)の影響を受けて変動するよ
そのため、都道府県間で合計特殊出生率を単純に比較することに
意味はないんだよ

一方で時系列での比較として、2025年の東京都の合計特殊出生率は、
出生数が増加したにもかかわらず、前年比で横ばいとなったよ。その理由について、
合計特殊出生率に影響を与える要素を整理し、解き明かしてみよう

合計特殊出生率の要因分解

合計特殊出生率を要因分解して実際の数値を当てはめてみよう

$$\text{合計特殊出生率} = \left(\frac{\text{出生数}}{\text{女性人口(15～49歳)}} \right) \times \text{年齢構成の違い(係数)} \times 35$$

※「年齢構成の違い」=実際の年齢構成が「どの年齢の女性の人数も同じという年齢構成」とどのくらい違うかを示すもの

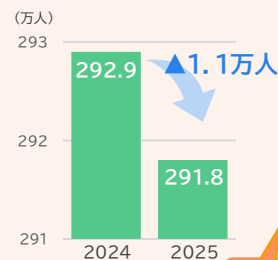
合計特殊出生率				出生率の高い年齢層 の女性人口が 相対的に多くなるほど、 係数はより小さくなる
2024年	0.96	=	8.4万人 / 292.9万人	
		+1.0%	▲0.4%	▲1.4%
2025年	0.96	=	8.5万人 / 291.8万人	▲0.4%

分子の出生数が増えていて、分母の女性人口は減っているのに、合計特殊
出生率が変わっていないのは、年齢構成が変わったことが要因なんだ

都の女性人口の年齢構成の変化

次に、年齢構成について昨年と比較すると、15～49歳の女性人口は
減少している一方で、都内に住んでいた方が年齢進行により、30代に
入ったことで、出産年齢のピークである30代人口は増加したよ

女性人口(15～49歳)推移



女性の年齢層別人口構成比の変化

	2024	→	2025
15-19歳	8.7% (255千人)	+0.2ポイント (+4千人)	8.9% (259千人)
20-29歳	29.2% (856千人)	+0.1ポイント (▲2千人)	29.3% (854千人)
30-39歳	29.3% (857千人)	+0.3ポイント (+7千人)	29.6% (864千人)
40-49歳	32.8% (961千人)	▲0.6ポイント (▲20千人)	32.2% (941千人)

出産年齢の
ピーク

(資料)厚生労働省「人口動態調査」を基に作成
※人口移動の数値は、「住民基本台帳人口移動報告」(令和8年1月1日時点)を基に作成

30代人口の増加は
人口移動によるものではなく
年齢進行によるもの

30代が0.3ポイント(7千人)
増加した内訳

年齢進行等	+8千人
人口移動	▲1千人
合計	+7千人

合計特殊出生率は年齢構成の影響を受けるものであり、合計特殊出生率が上昇していなくても出生数の増加は特筆すべきことだね

出生数減少の要因分解

日本の少子化は「結婚の減少」が原因と聞いたけど、本当なのかな？

出生数の変化について、要因分解した分析を見てみよう

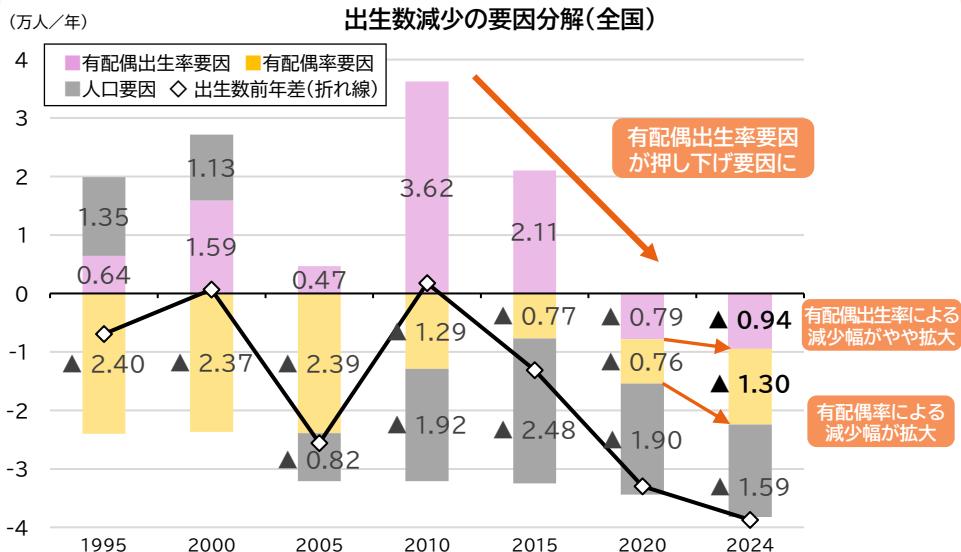
$$\text{出生数} = \text{女性人口} \times \frac{\text{結婚している女性人口}}{\text{女性人口}} \times \frac{\text{出生数}}{\text{結婚している女性人口}}$$

【人口要因】 【有配偶率要因】 【有配偶出生率要因】

2015～2020年では、それまでから一転して有配偶出生率要因が押し下げ要因となっていて、2020～2024年では、有配偶率要因による減少が大きくなっているよ

少子化対策としては、「結婚」・「子育て」のどちらに力を入れるべきなんだろう？

有配偶率は、長期にわたって一貫して減少しているよ
一方、2015～2020年では、有配偶出生率が大きく低下している
「子育て」への支援・「結婚」への支援、どちらも重要だね



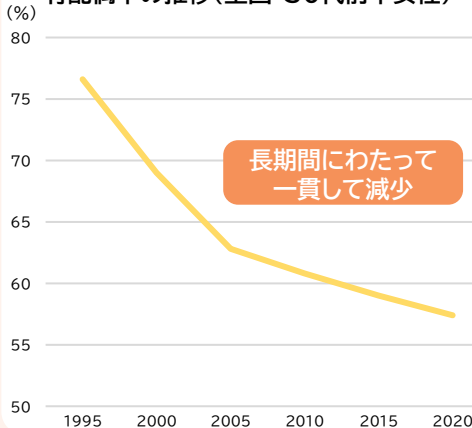
有配偶出生率要因が押し下げ要因に

(資料)厚生労働省「人口動態統計」、総務省「人口推計」及び「国勢調査」を基に株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員 藤波氏作成
※出生数及び各要因の値は、1年当たりの変化量に換算。なお、通常有配偶率や有配偶者数は国勢調査のデータを用いるが、2024年の分析に当たっては人口動態の婚姻数、離婚数から概算

【有識者の意見】

少子化の要因を分解してみると、近年は有配偶出生率が出生数を押し下げていることが分かる。結婚している人も出生意欲が低下していることを示唆している

有配偶率の推移(全国・30代前半女性)



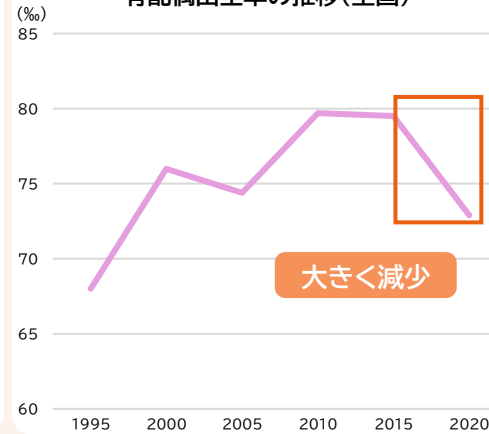
(資料)総務省「国勢調査」及び厚生労働省「人口動態調査」を基に作成

【有識者の意見】



「結婚」と「子育て」は、それぞれ独立した事象として捉えられることが多いが、「子供を持ちたい」という希望は結婚行動に明確な影響を与えている
有配偶率を上昇させるためには、若者の結婚を支援するとともに彼らが子供を持ちたいと思えるような子育て支援の充実も必要

有配偶出生率の推移(全国)



女性活躍の輪
Women in Action



東京八結 結婚応援プロジェクト

都是これまで、ライフステージを通じた切れ目のない支援を展開してきました

東京都の子供・子育て支援
ゼロイチハチ
018 サポート



育業
あなただけの未来

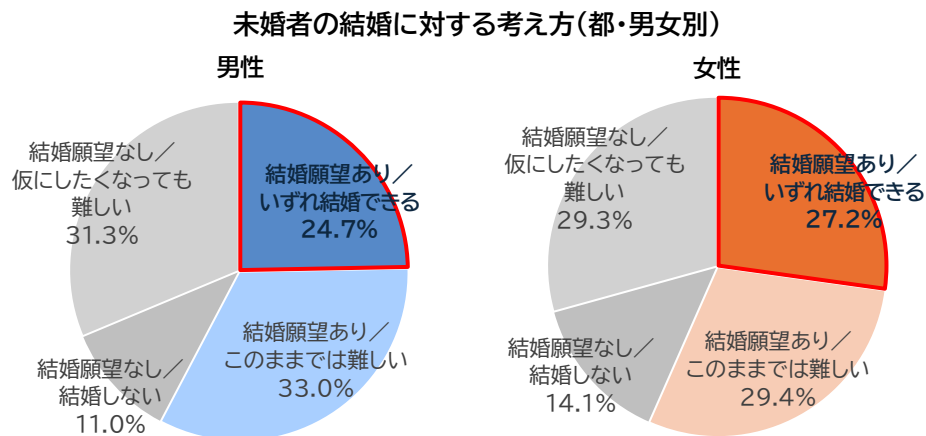
今後も、結婚や子育てへの支援をはじめ、働き方改革への支援など、幅広い分野の取組の更なる充実を進めていきます

Ⅱ | 分野ごとの現状・分析と今後の政策検討課題



結婚願望があって実現できると考える人は約4人に1人

- 結婚願望がある未婚者は男女ともに約6割
- そのうち、「いずれ結婚できる」は男性が24.7%、女性が27.2%



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

有識者の意見

- 結婚・出産を希望しながら実現できていない層にフォーカスし、出会いや働き方などの条件がどう整えば実現に繋がるのか潜在ニーズを深掘りするとよい
- 若い男女が描くライフデザインを実現できるようにしていくことが必要



都民の皆様の意見

- 恋愛と結婚に違いを感じる。結婚は価値観のすり合わせなどが重要だと思う(男性20代・未婚)
- 結婚はしたい人がすればよいし、したくない人はしなくてよいと思う。価値観があう人がいれば結婚すればよいと思う(女性20代・未婚)

結婚に関する情報についてもニーズがある

- 若年層が今後のライフプランを考える上で、**お金やキャリア**に関する情報に加えて、**結婚に関する情報**にも**一定のニーズ**がある

※複数回答、上位抜粋

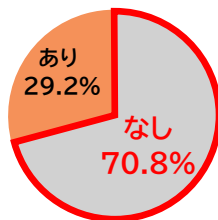
今後のライフプランを考える上で知っておきたい情報(全国・未婚者)	高校生	大学生	20代社会人	30代社会人
マネープラン	35.9%	42.5%	37.0%	42.5%
キャリアプラン	26.3%	31.4%	21.7%	18.3%
コミュニケーションの方法	27.2%	25.0%	19.3%	20.0%
結婚や結婚生活に関する情報	22.5%	23.3%	19.6%	14.8%
結婚の仕方	20.8%	20.1%	15.1%	11.5%

(資料)こども家庭庁「令和6年度『若者のライフデザインや出会いに関する意識調査報告書』」を基に作成

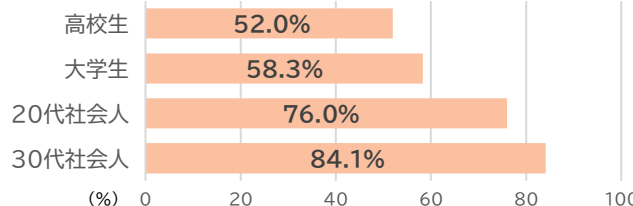
ライフデザインを学ぶ機会は少ない

- 未婚者のうち、学ぶ機会がなかった人は約7割
- 大学生までの世代においても、学ぶ機会がなかった人は半数以上

ライフデザインを学ぶ機会
(全国・未婚者)



ライフデザインを学ぶ機会がなかった人の割合
(全国・未婚者)



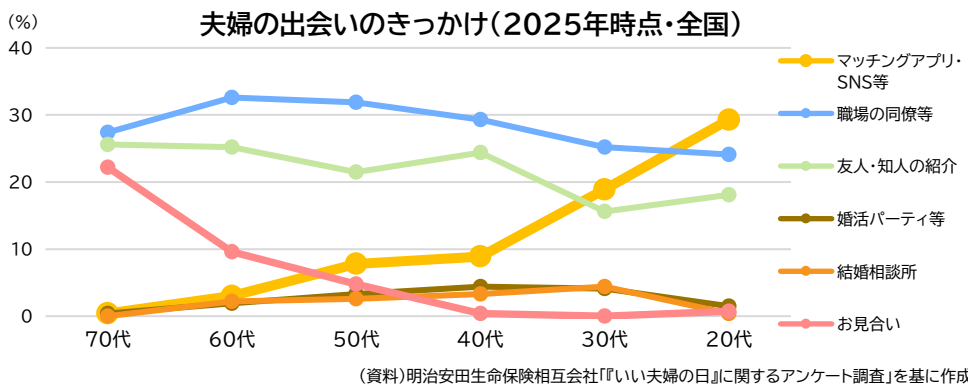
(資料)こども家庭庁「令和6年度『若者のライフデザインや出会いに関する意識調査報告書』」を基に作成



- ✓ 将来の選択肢を広げる大きなきっかけになった
- ✓ 漠然と考えていた未来が明確になった

出会いのきっかけは変わってきている

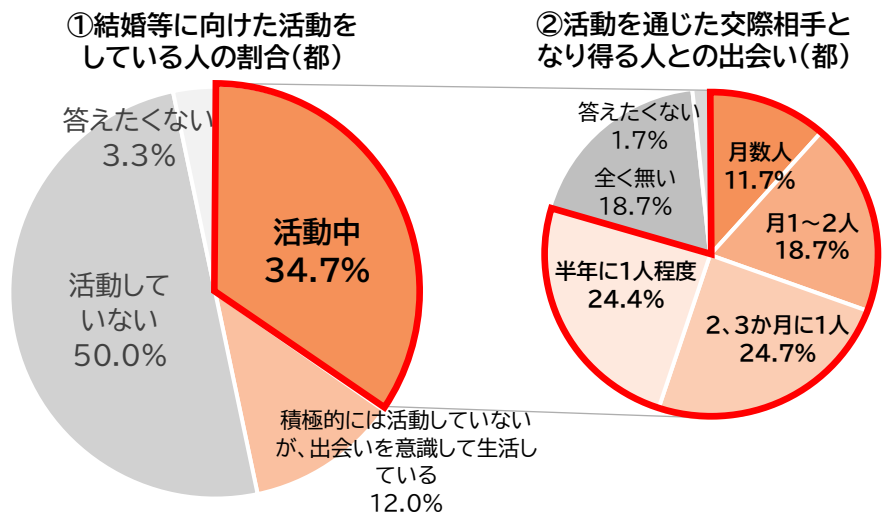
➤ 出会いのきっかけは、お見合い等からマッチングアプリ等に変化



婚活をしている人は着実に出会っている

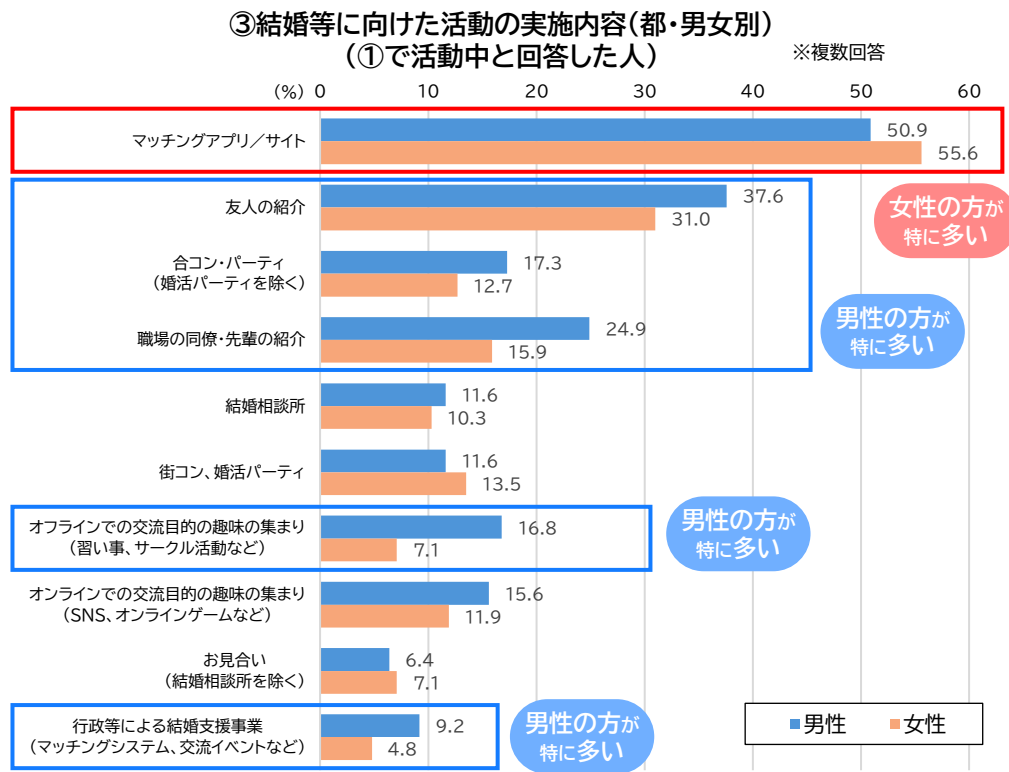
➤ 結婚等に向けた活動をしている人は34.7%、出会いを意識して生活している人は12.0%と、全体の半数程度

➤ 活動を通じて出会いがあった人は約8割



結婚等に向けた活動内容は男女で差がある

➤ 結婚等に向けた活動のうち「マッチングアプリ等」は女性の方が多く、「合コン・パーティ」「職場の同僚・先輩の紹介」等のリアルな活動は男性の方が多くなど、男女間で差がある



有識者の意見

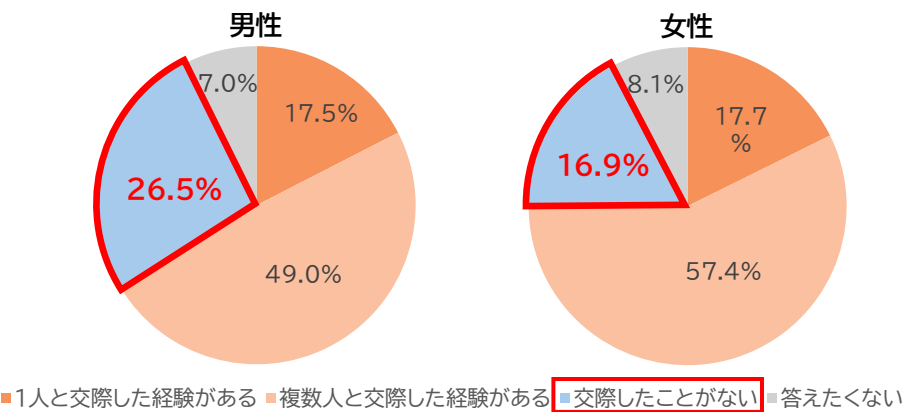
- マッチングアプリは利用者がアクティブ層に偏在していることが考えられるため、「出会いがない」と言っている人には今もリーチしていない印象
- 出会いの機会は、職場の人間関係などの職縁結婚が多いことが伺える。若い社会人の交流を促す政策を実施することの副次的効果として、出会いの機会を創出することが期待できるのではないかと

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

結婚願望があるが交際経験のない者は一定数存在

結婚願望がある人のうち、男性の約3割、女性の約2割が交際未経験

結婚願望がある人のうち交際経験がある人の割合(都・男女別)

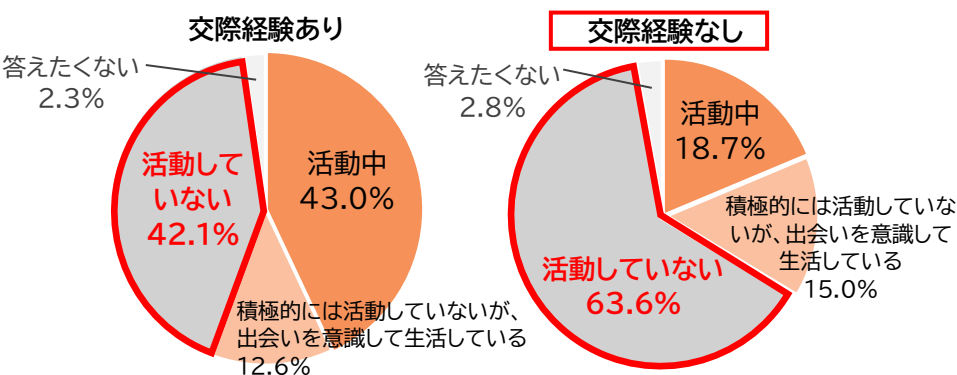


(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

交際未経験者は婚活していない人が多い

結婚願望はあるが交際経験がない人の約6割が結婚等に向けた活動をしていない

結婚願望がある人のうち、結婚等に向けた活動をしている人の割合(都・交際経験別)



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

自信がなくて活動できない交際未経験者も多い

結婚願望のある交際未経験者の結婚に向けた活動をしていない理由では、男女共に「自信がなくて活動できない」や「活動方法がわからない」が多い

※複数回答、上位抜粋

結婚に向けた活動をしていない理由(都・結婚願望のある交際未経験者・男女別)

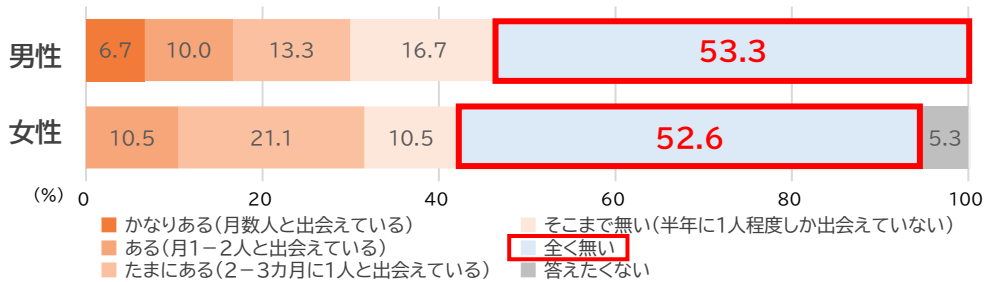
男性		女性	
自信がなくて活動できない	40.9%	自然に出会いたい	53.8%
活動方法がわからない	30.4%	自信がなくて活動できない	36.5%
自然に出会いたい	30.4%	活動方法がわからない	36.5%
億劫だと感じる	29.6%	億劫だと感じる	32.7%
気軽に参加できる機会がない	24.3%	気軽に参加できる機会がない	21.2%

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

交際未経験者には寄り添ったサポートが必要

交際経験がない人の約半数が活動を通して出会えていない

結婚に向けた活動等を通じた交際相手となり得る人との出会い(都・交際未経験者・男女別)



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

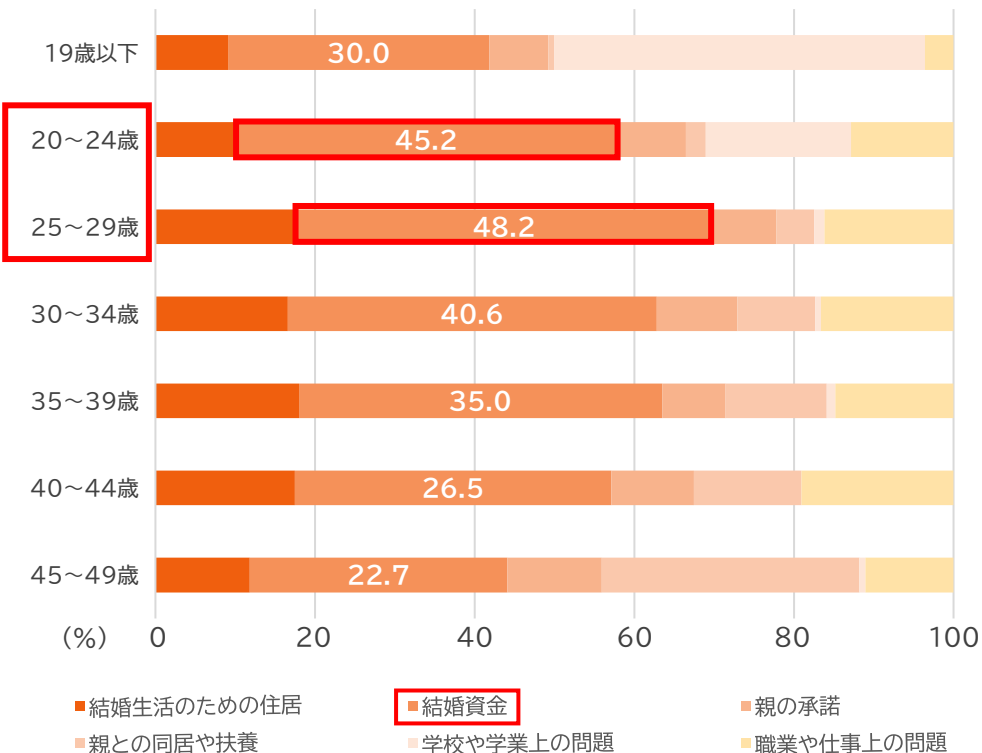
有識者の意見

- 日本は恋愛に対し受動的な層の割合が突出して高いため、どのような介入ができるか検討の余地

結婚資金が結婚へのハードルになっている

- 結婚資金が1年以内の結婚を阻害する要因として高く、特に20代においてその傾向が顕著

未婚者が1年以内の結婚の障害と考える最大の要因(全国)



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」を基に作成



都民の皆様の見解

- 結婚し、生活を送るには金銭面で少し不安で、また交際して1年であるため、もう少し交際を続けてから結婚したい(男性20代・未婚)
- 結婚に至っていない背景としては、主に家賃や生活費等の金銭的負担がある(女性30代・未婚)

コラム



令和八年 結婚おうえんキャンペーン

末広がりや横にするとインフィニティ(∞)などおめでたい意味を持つ「八」の年である令和8年を、「結婚のきっかけにしたい特別な1年」と位置付け、結婚に向けた後押しをさらに強化するため「TOKYO 八結び」キャンペーンを展開



TOKYO結婚おうえんフェスタ



令和8年8月8日に麻布台ヒルズにて、結婚への気運を醸成する大型イベントを開催



ふたりの結婚報告キャンペーン



888結婚記念日編

令和8年8月8日に結婚したカップルへ、キャンペーンへのご協力で東京ポイント8,888pt等プレゼント!

ウェディング編

団体加入の式場で結婚式を挙げた方でキャンペーンにご協力いただいたカップルに東京ポイント8,888ptをプレゼント!



ふたりの未来応援キャンペーン(ポイントおうえん編)



AIマッチングシステム「TOKYO縁結び」や「交流イベント」を通じて真剣交際に進まれた方に、キャンペーンへのご協力で東京ポイント888ptをプレゼント



お試し結婚相談



AIマッチングシステム「TOKYO縁結び」会員の888人に結婚相談所のサービス(プロフィール作成、お見合い体験 等)を無料で提供

東京都結婚支援ポータルサイト

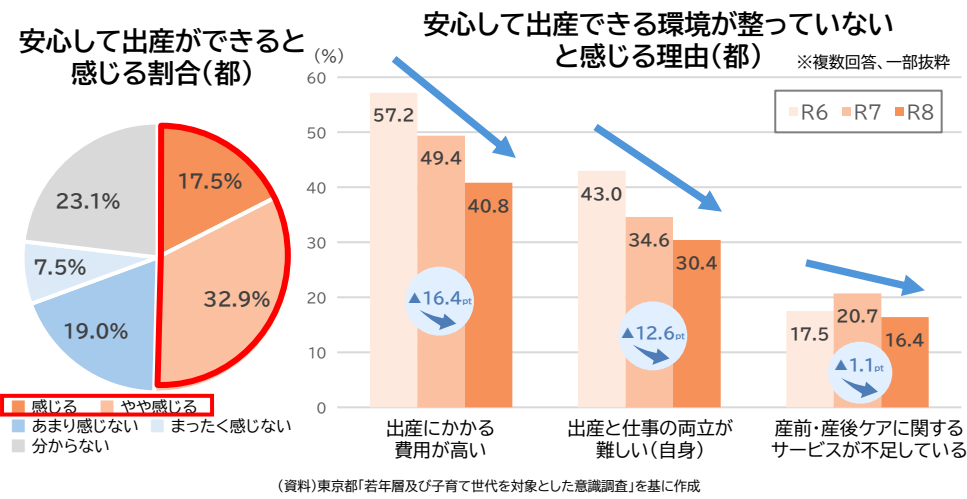
TOKYOふたりSTORY

結婚を希望する方、関心を持っている方に様々な情報を総合的に提供



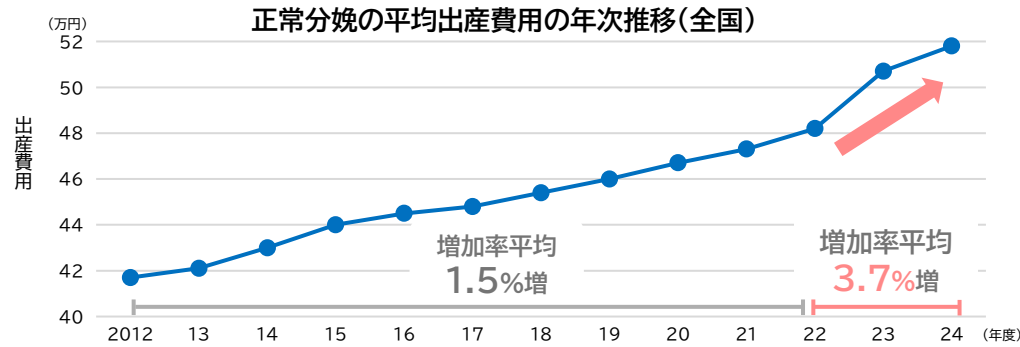
妊娠・出産に当たっては様々な不安がある

- 半数以上の人が安心して出産できると感じており、**出産費用や仕事との両立等を課題と考える割合も減少傾向にあるが**、引き続き幅広い支援が求められている



出産にかかる費用は年々増加している

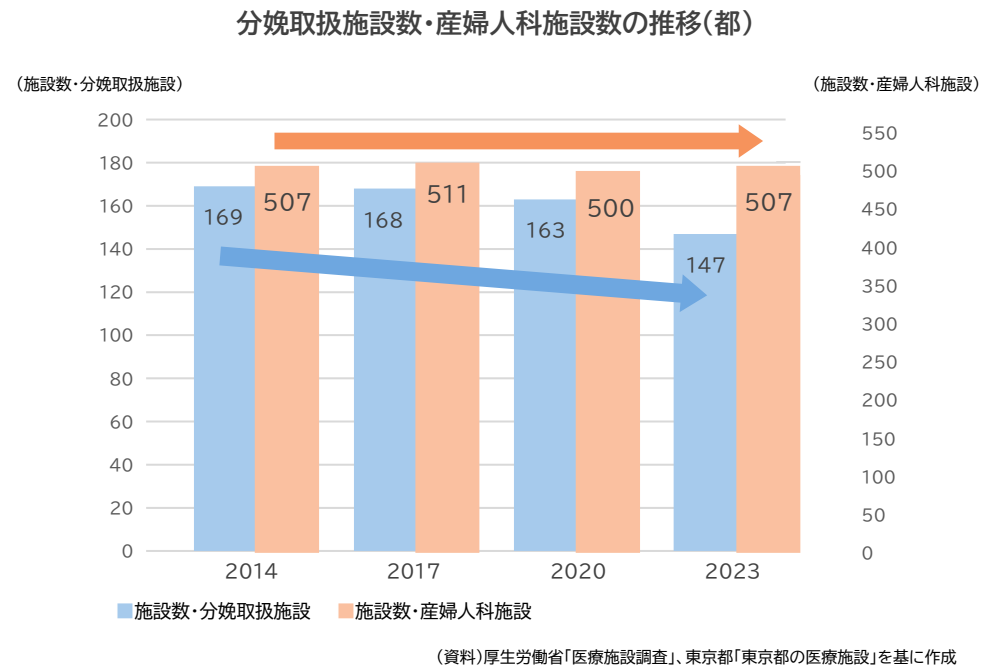
- 出産費用は年々増加しており、**令和4(2022)年度以降、増加率も高まっている**



※令和6(2024)年度については上半期
(資料)厚生労働省「第5回妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会【資料1-3】 出産費用の状況等について」を基に作成

都内の分娩施設は年々減少している

- 都内の**分娩取扱施設**は微減傾向だが、**産婦人科施設**は横ばい



有識者の意見

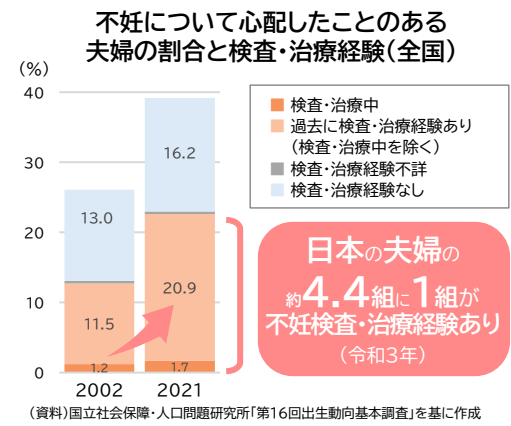
- 結婚や出産・子育てに向けた経済的支援など不安を取り除くためのポジティブな情報をパッケージでもっと発信するべき

都民の皆様の意見

- 妊娠・出産については身体への負担と金銭的な負担が不安(女性20代・未婚)
- 妊娠中は通院が必要でお金がかかるイメージ(女性20代・未婚)

不妊治療に関する不安は様々

- 不妊検査・治療経験のある夫婦の割合は**増加**
- 不妊治療開始時の不安としては、「**妊娠出産できるかどうか**」に次いで、**治療費や仕事との両立に関する不安**をあげる人が多い



※複数回答、上位抜粋

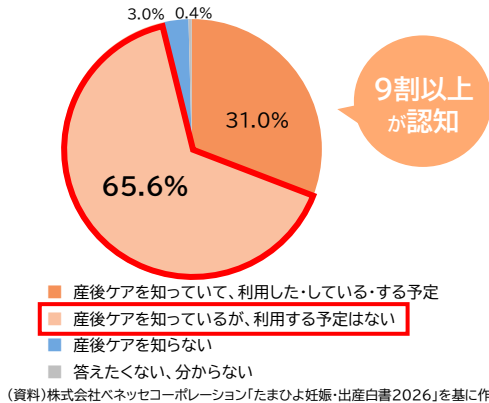
不妊治療開始時の不安(全国)	
妊娠出産できるかどうか不安	67.8%
治療費についての不安	52.1%
仕事との両立	20.3%
生まれてくる子供の健康	18.6%
治療による自身の体調への影響	16.7%

(資料)こども家庭庁「不妊治療の実態に関する調査研究」(令和2年度実施)を基に作成

産後ケアの認知度は高いが利用者は少ない

- 産後ケアは**広く認知**されている一方、多様な理由から**6割以上の母親が利用していない**

産後ケアの認知率と利用・利用意向率(全国・母親)



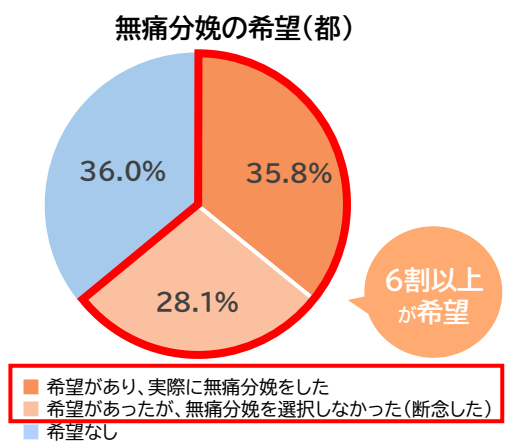
※複数回答、上位抜粋

産後ケアを希望しなかった理由(全国)	
上の子供がいるため	44.0%
必要性を感じなかった	42.7%
手続きが面倒	24.4%
自己負担額が多い(宿泊型)	15.1%
居住地の近くにない	14.1%

(資料)日本産婦人科医会「産婦が必要とする産後ケア(事業)に関する調査結果」(令和7年度実施)を基に作成

無痛分娩を希望する人は多い

- 無痛分娩を希望する人は**6割以上**にのぼる一方で、**費用の高さ等**の理由から**選択できていない**人も多い

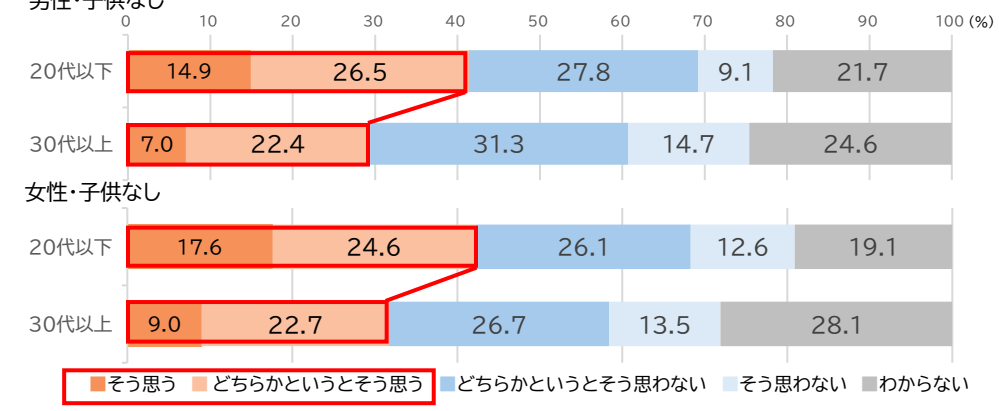


※複数回答、上位抜粋

無痛分娩を希望していたが、選択しなかった理由(都)	
帝王切開となるなど希望どおりの分娩ではなかった	43.1%
費用が高いから	33.8%
無痛分娩できる施設が近くになかった	18.1%

若年層の心身の健康に関する情報提供等が求められる

- 心身の健康等についての**情報提供**や**こころのケア**が**十分だと感じている人の割合は、20代・30代ともに半数に満たない**
こども・若者の心身の健康等についての**情報提供**や**こころのケア**が**十分だと思う人の割合**(全国・男女別)



子育て世帯は様々な悩みを抱えている

- 子育て家庭を地域で支える仕組みや、ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービスの充実が求められている

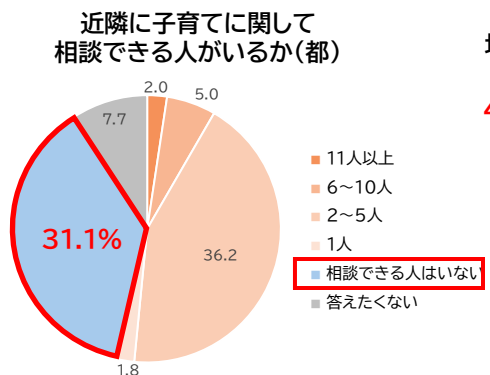
※複数回答、上位抜粋

子育て世帯が子供・子育て支援の施策として充実して欲しいと思うもの(都)	
子育て家庭を地域で支える仕組みとサービスの充実 (子供家庭支援センターなどでの相談支援、一時預かりなど)	33.9%
ライフスタイルや就業形態の多様化に応じた様々な保育サービス (夜間保育、延長保育、学童クラブなど)	33.2%
小児・母子医療体制の整備 (休日・夜間における小児診療体制の整備など)	30.3%
就学前教育(幼稚園、保育施設及び認定こども園における小学校就学前の 子供に対する教育)の充実	29.0%
就学後の子供の生きる力(「確かな学力」・「豊かな人間性」・「健康と体力」) をはぐくむ環境の整備	28.5%

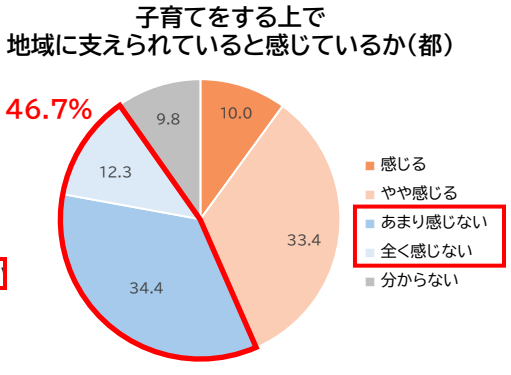
(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

子育て家庭の悩みや不安に寄り添う取組が必要

- 近隣に子育てに関して相談できる人がいない層は一定数おり、子育て世帯の半数近くが地域に支えられている実感がない
- 子育て家庭を地域で支える仕組みが重要



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成



感じる

やや感じる

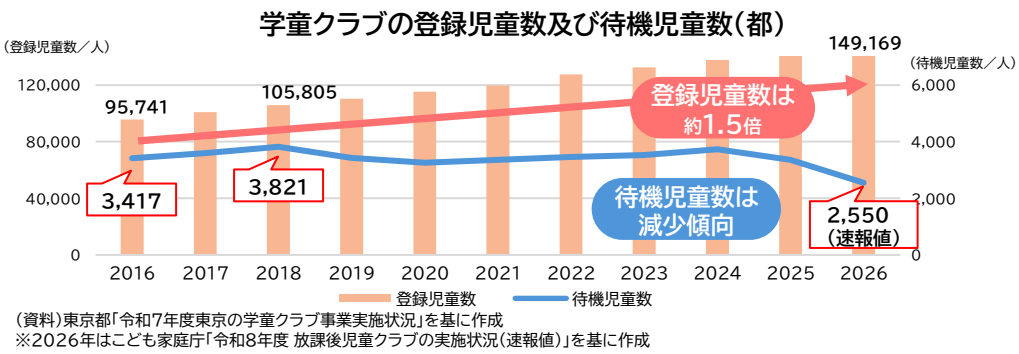
あまり感じない

全く感じない

分からない

多様な居場所の整備が求められる

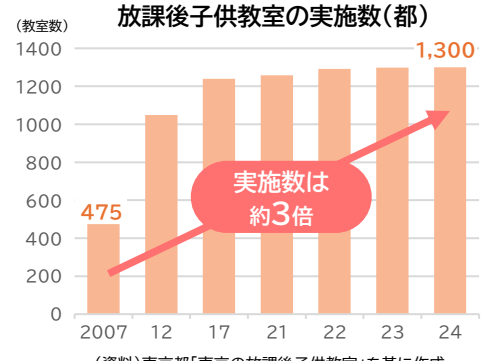
- 学童クラブの登録児童数が増加する中、待機児童数は減少傾向
- 児童が放課後の時間を過ごす居場所は多様



※複数回答、上位抜粋

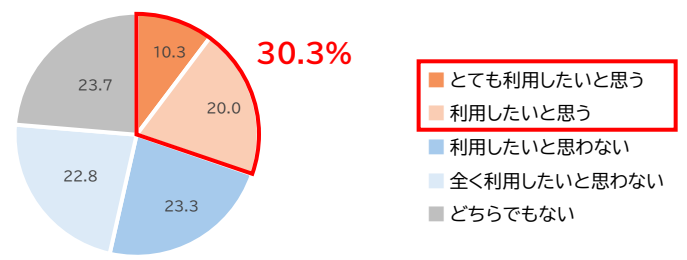
学童クラブ以外に、小学生の子供が放課後過ごしている場所(都)	
自宅	73.6%
塾や習い事(地域のスポーツクラブを含む)	52.5%
公園	25.5%
放課後子供教室	10.5%

(資料)東京都「令和4年度東京の子供と家庭」を基に作成



- 朝の子供の居場所を求める声も一定数みられる

始業前の自宅以外の子供の居場所の利用希望(全国)



とても利用したいと思う

利用したいと思う

利用したいと思わない

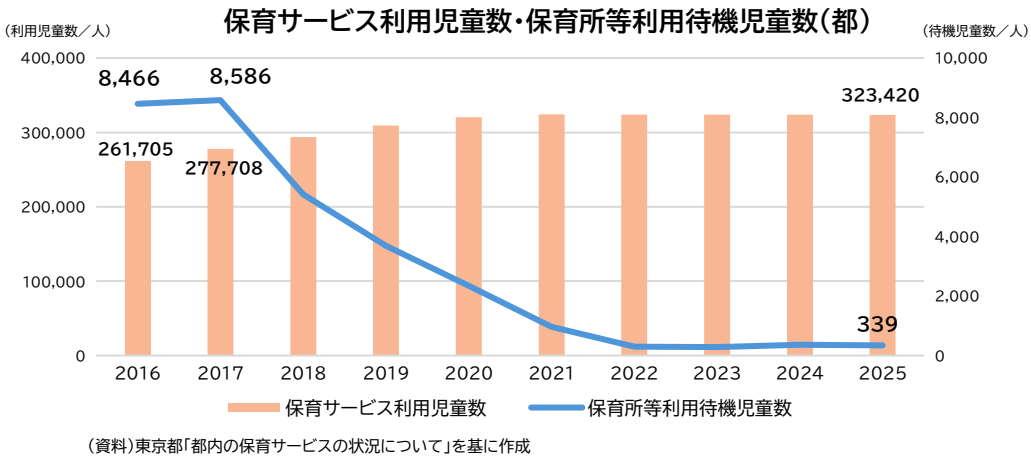
全く利用したいと思わない

どちらでもない

(資料)こども家庭庁「小学校の長期休業中におけるこどもの居場所に関する調査研究(令和6年度実施)」を基に作成

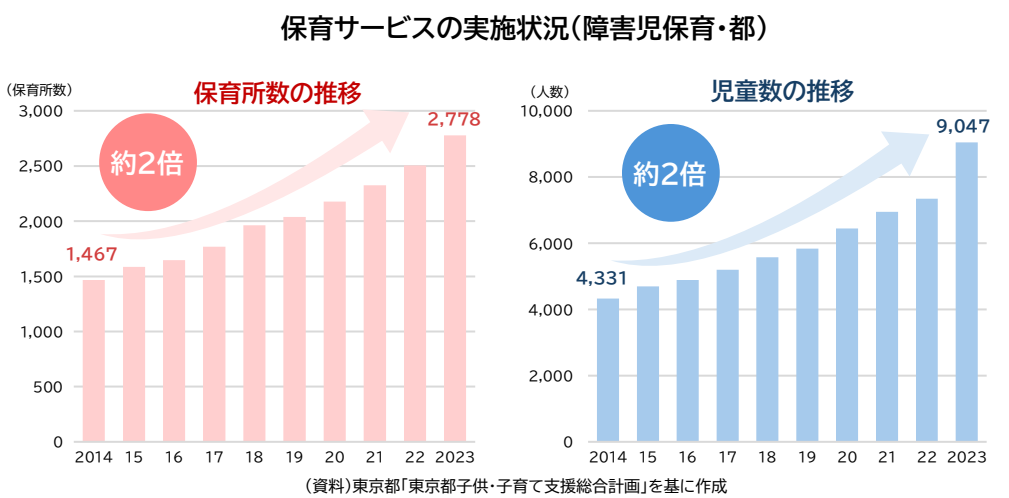
保育サービスに対するニーズが依然として高い

- 待機児童数はピーク時に比べて減少しているものの、**保育サービスの利用児童数は高止まり傾向**



障害児保育を実施する保育所、児童数はともに増加

- **障害児保育の保育所数及び児童数は10年で約2倍に増加**

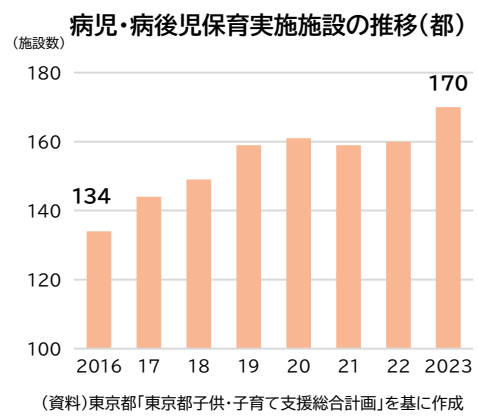


病児保育には多様なニーズがある

- 病児保育について、**利用したい時に利用できないことや予約に関する手続**を課題に感じている保護者が多い
 - **実施施設は増加傾向にあるが、導入コストの負担等、予約に関する手続の効率化には様々な課題がある**
- ※複数回答、上位抜粋

病児保育の利用にあたり、困っていること、困ったこと(全国)	
予約が埋まっていることが多く、利用したい時に利用できない	43.8%
個別に施設に連絡しないと、予約の空き状況がわからない	34.2%
利用前の事前登録手続きが煩雑である	24.6%
予約やキャンセルの受付時間の設定が合わない	20.6%
予約の手続きが煩雑である	16.5%

(資料)こども家庭庁「病児保育事業の運営状況に関する調査研究」(令和5年度実施)を基に作成



ICT化を実施しない理由(全国)	
導入コストの負担	38.0%
システムを導入するほど利用者が多くない	37.0%
現状の予約・キャンセル業務に課題を感じていない	31.3%
ランニングコストの負担	26.9%
システムを導入することで、利用者の病状等の確認が丁寧に行えなくなる	25.5%

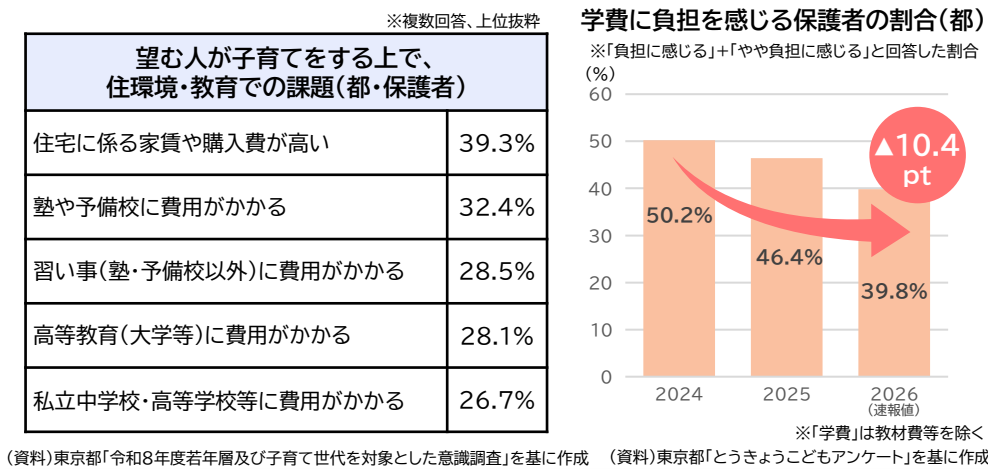
(資料)こども家庭庁「病児保育事業の運営状況に関する調査研究」(令和5年度実施)を基に作成

有識者の意見

- 急に支援が必要になった時の預け先の整備の必要性は高い
- 学童クラブの整備は親の働き方や女性の就労継続という面で重要

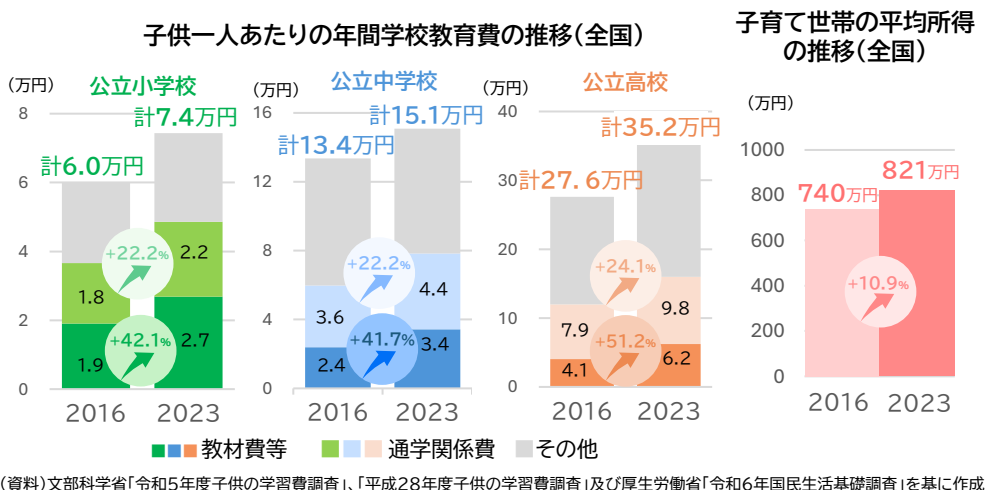
子育てにおける住環境や教育の課題は様々

➤ 住宅費や教育費の負担が大きいと感じる人が多い中、学費については、負担を感じる保護者の割合は近年大幅に減少

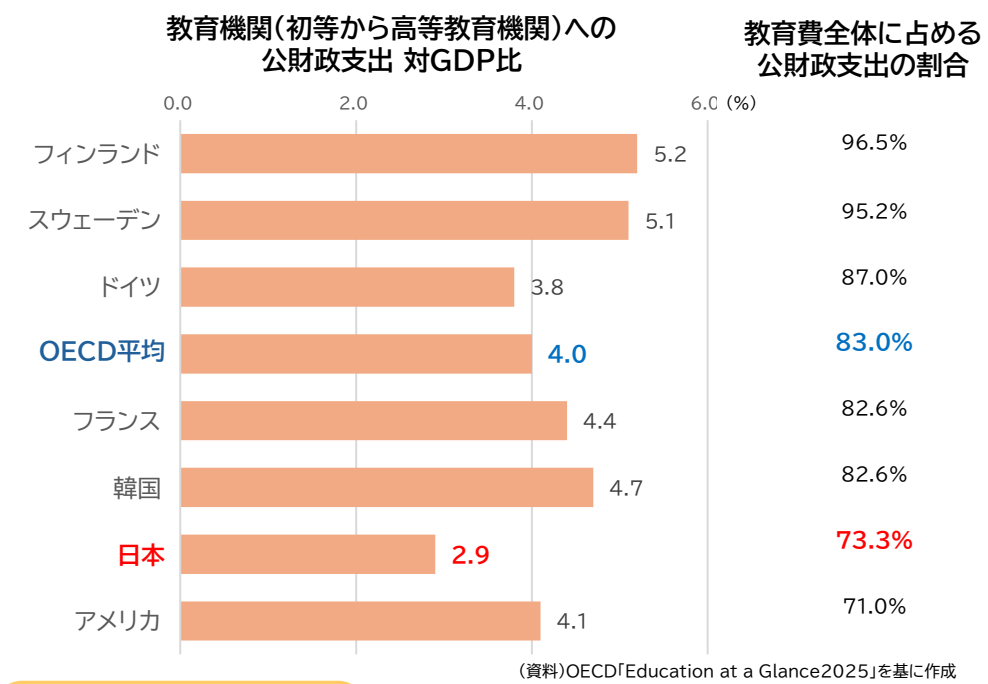


教材費や通学関係費の家計負担は近年増加傾向

➤ 子育て世帯の所得上昇率を上回る水準で、教材費や通学関係費の負担額は増加傾向



➤ 日本は諸外国と比較して、教育への公財政支出の対GDP比が低く、教育費全体に占める割合も少ない

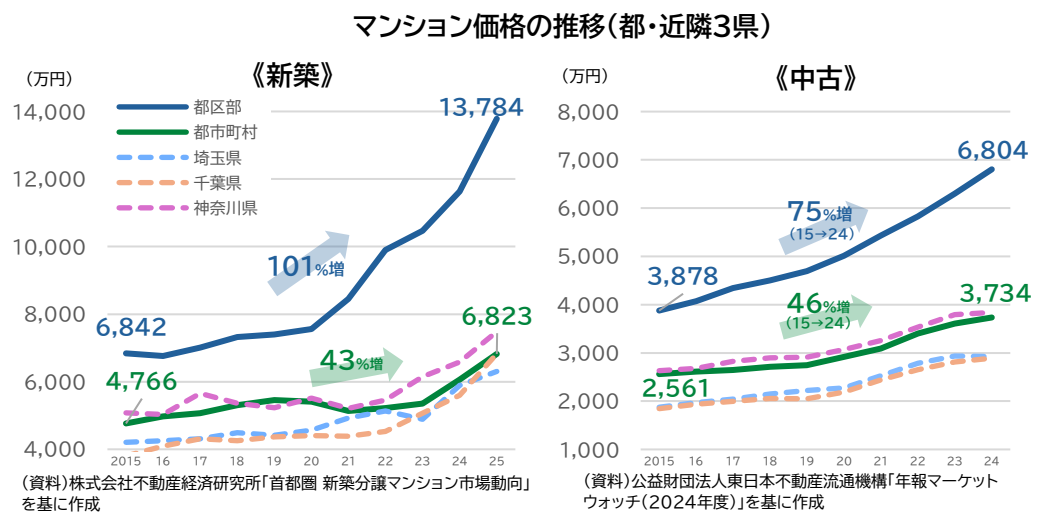


都民の皆様の意見

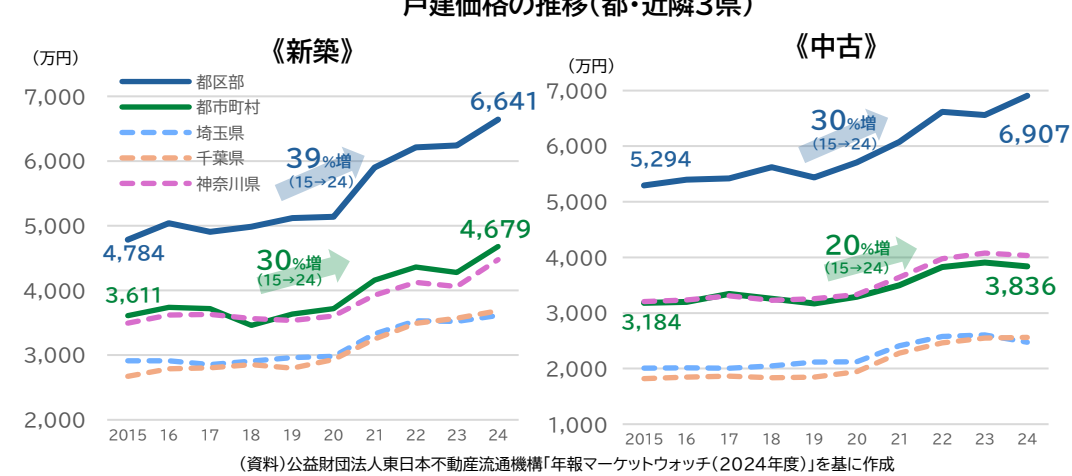
- 東京都の子育て施策は支援が手厚いとSNS等で見聞きする一方、友人からは中学受験をするのは東京都だけと言われた経験もある(女性20代・未婚)
- 金銭的な不安がある。進学にあたって、金銭的な理由で進路を諦めさせたくない(女性20代・既婚)
- 東京は経済的支援などが充実しているので子育てはしやすいと考えている(女性30代・既婚)
- 東京都は、医療費補助や待機児童解消、教育費無償化等、子育てをしやすいイメージがある(男性40代・既婚)

住宅価格の上昇率は新築・中古や地域によって異なる

- 区部におけるマンション価格は、とりわけ新築で近年**上昇**
- 市町村部の価格は、新築・中古ともに**近隣3県と大きな差はない**

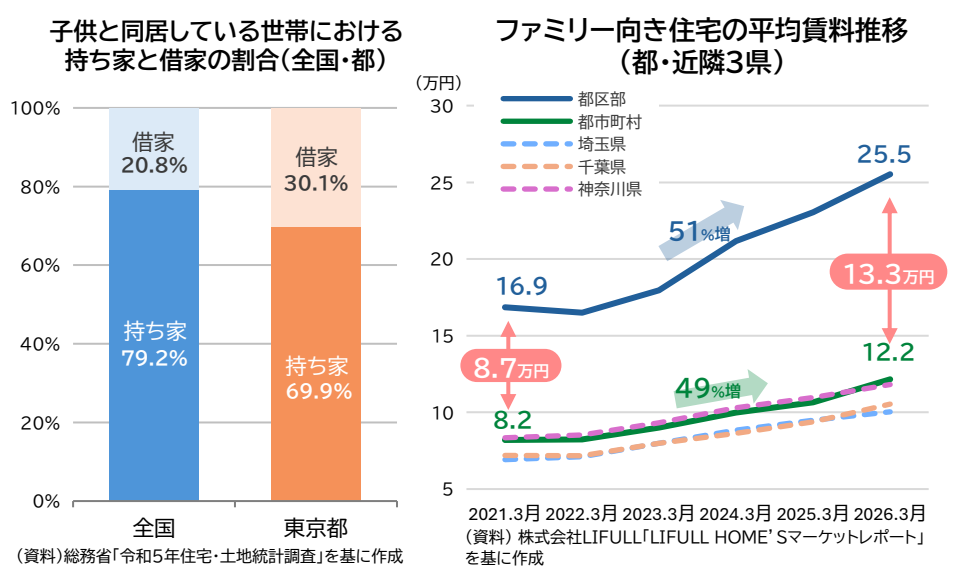


- 戸建は、マンションと比べ**価格の上昇率は低い**
- また、新築・中古ともに**区部での価格上昇が目立ち、市町村部は近隣3県と大きな差はない**



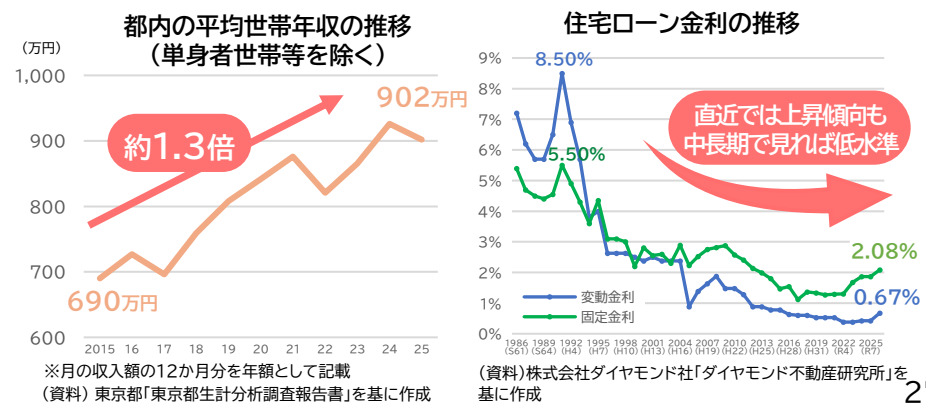
ファミリー向け住宅の賃料は近年では上昇傾向

- 東京は子供と同居している世帯の**借家に住む割合が高い**
- ファミリー向け住宅の賃料は**区部・市町村部とも近年では上昇傾向**



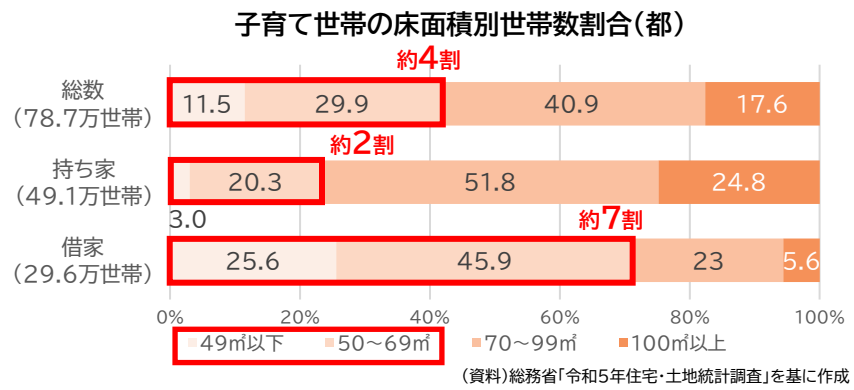
世帯年収は上昇し、住宅ローン金利は低水準

- 都内の単身者世帯等を除く**世帯年収は、この10年間で約1.3倍に増加**
- **住宅ローン金利水準は、直近では上昇傾向も、中長期で見れば低水準**

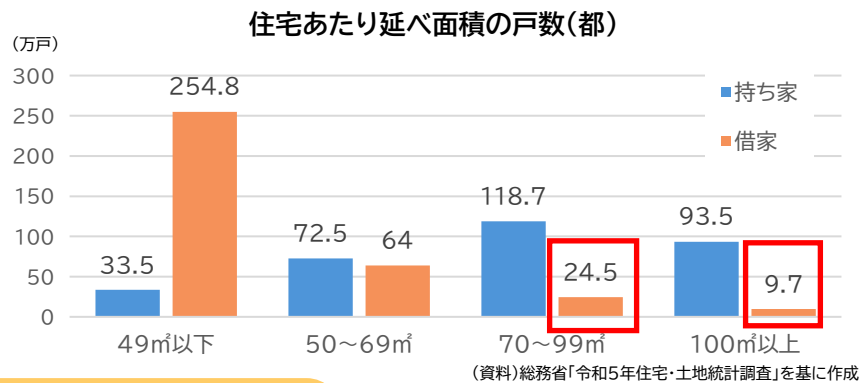


子育て世帯が住みやすい広さの住宅が少ない

➤ 都内の子育て世帯のうち70㎡未満の住宅に住んでいる世帯は約4割であり、借家に住む世帯の場合、その割合は約7割にのぼる



➤ 都内の住宅のうち70㎡以上の広さの借家の戸数は少ない

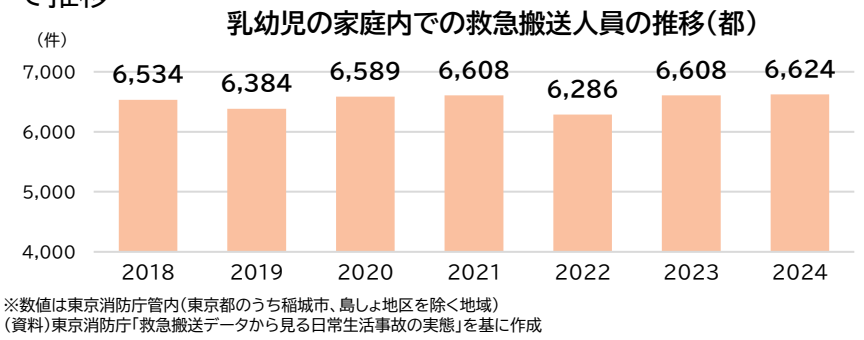


都民の皆様 의견

- 東京は住居費が非常に高い。子供を持ったら成長に合わせて引っ越しが必要だろう(男性30代・既婚)
- 東京は生活環境が充実しているが、十分な広さを持つ住宅を見つけることが困難(男性30代・既婚)

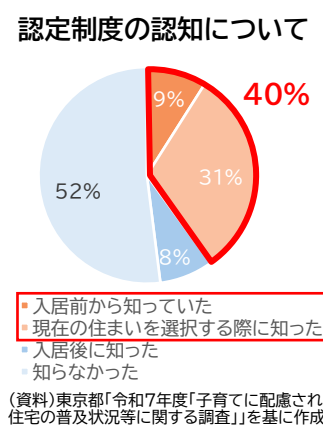
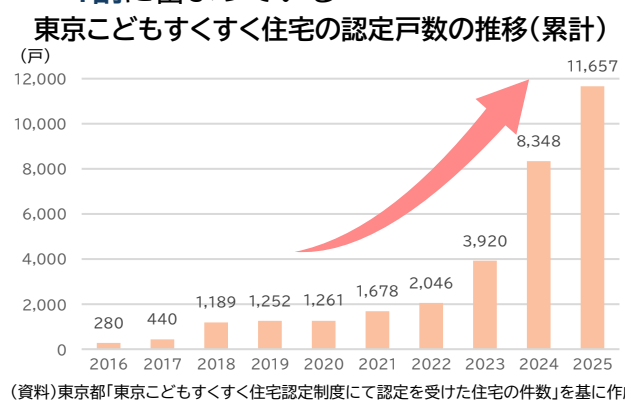
家庭内での事故防止に向けた取組が必要

➤ 都内における乳幼児の家庭内での事故件数は、年間6,000件程度で推移



東京こどもすくすく住宅の認知度向上が課題

- 東京こどもすくすく住宅の認定戸数は着実に増加
- その一方で、住宅選びの際に制度を認知していた子育て世帯は、4割に留まっている



有識者の意見

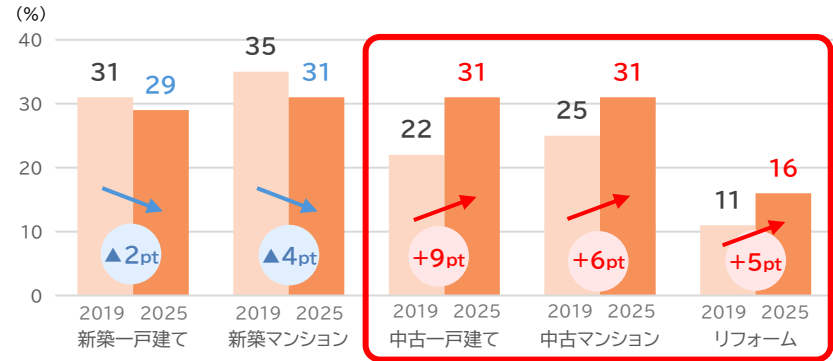
- 住宅環境は結婚や出産に関わる重要な要素である
- 高層化需要が高い地域の規制緩和によって、都市に比較的近い場所に住めるようになり、通勤の問題が緩和されることも考えられる

住宅市場にて中古住宅等への選好が高まっている

➤ 新築住宅における供給量の減少や価格上昇などの影響もあり、2019年と比べると2025年は、**中古住宅やリフォームの検討率が上昇傾向にある**

住宅種別ごとの検討率

※複数回答、一部抜粋



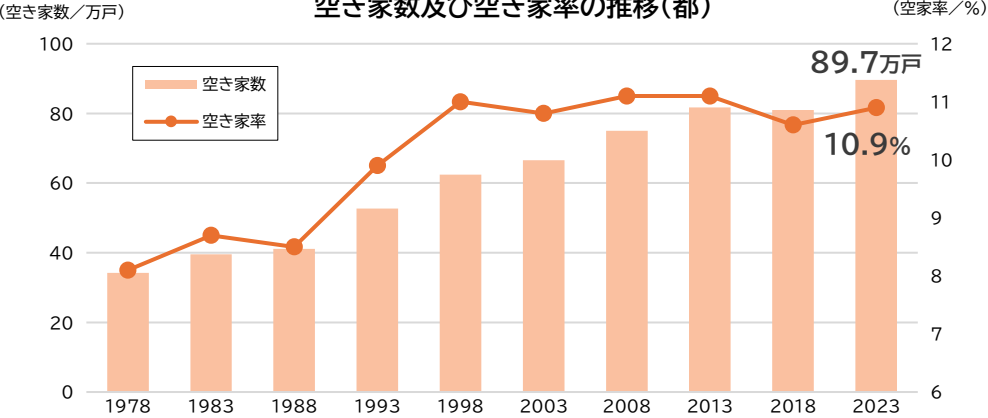
※調査対象エリア 首都圏(東京都/千葉県/埼玉県/神奈川県)・関西(大阪府/京都府/奈良県/兵庫県/和歌山県/滋賀県)・東海(静岡県/愛知県/岐阜県/三重県)・札幌市・仙台市・広島市・福岡市在住の20歳~69歳男女

(資料)株式会社リクルート「『住宅購入・建築検討者』調査(2025年)」を基に作成

都内78万戸の空き家に利活用のポテンシャルあり

- 都内の空き家数は年々増加し、2023年には約90万戸
- 空き家率は約1割で都内住宅の10戸に1戸は空き家となる

空き家数及び空き家率の推移(都)



(資料)東京都「令和5年住宅・土地統計調査」を基に作成

➤ 都内の空き家のうち、約60万戸の市場流通用に加え、長期不在等の空き家が約18万戸あり、利活用のポテンシャルがある

空き家の状況(都)

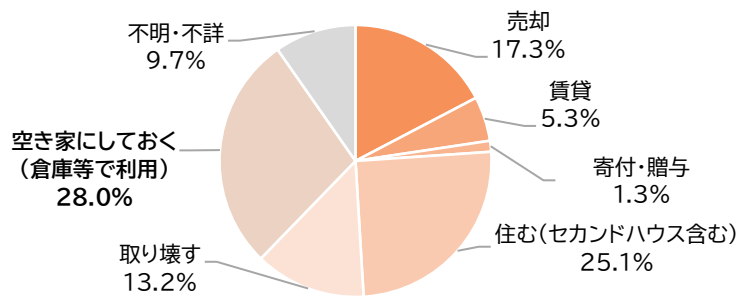
(単位:戸)

都内の空き家(89.7万)		
腐朽・破損なし		腐朽・破損あり
市場流通用の空き家 (賃貸・売却用)	長期不在等の空き家	壊れた空き家
60.6万	17.6万	10.5万
戸建:1.6万 マンション等:59.0万	戸建: 5.3万 マンション等:12.3万	戸建:2.6万 マンション等:7.9万

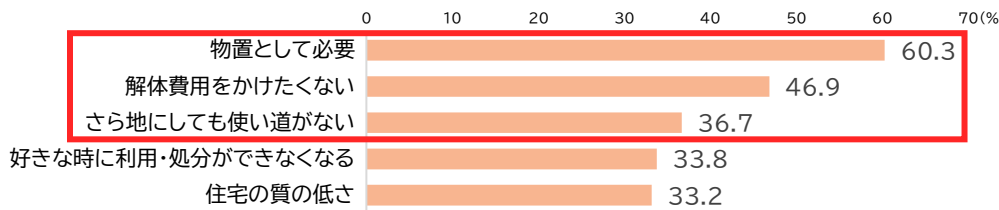
(資料)総務省「令和5年住宅・土地統計調査」を基に作成

- 今後の空き家の利用意向について、約3割が空き家にしておくと回答
- 物置利用や解体費用等を理由に、活用可能性のある住宅を空き家にしておく人が多い

今後の空き家の利用意向(全国)



空き家にしておく理由(全国) ※複数回答、上位抜粋

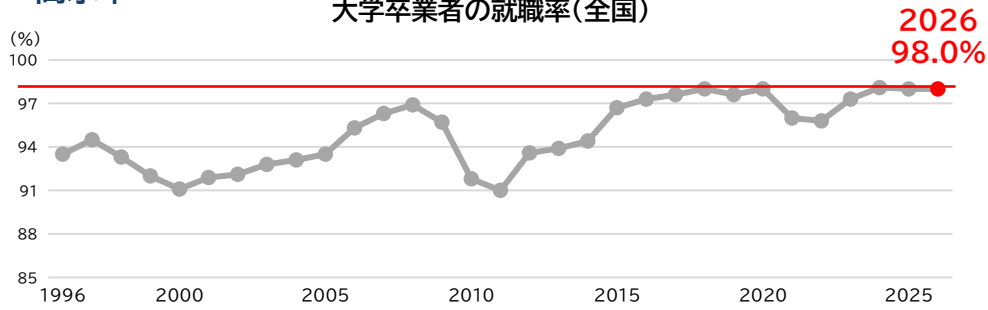


(資料)国土交通省「令和元年空き家所有者実態調査報告書」を基に作成

大卒就職率は過去2番目の高さ

- 令和8年3月大学卒業者の就職率は**98.0%**と前年に**引き続き高水準**

大学卒業者の就職率(全国)

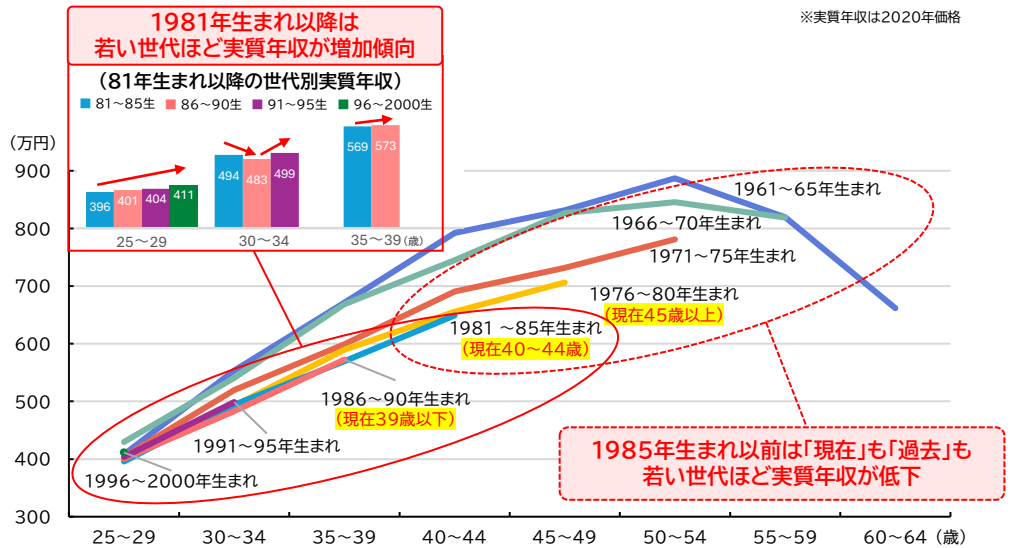


(資料)労働省「平成9年度大学等卒業生就職状況調査(平成10年4月1日現在)」について及び厚生労働省・文部科学省「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職内定状況等調査」を基に作成

1981年生まれ以降の世代は実質年収が増加傾向

- 大卒男性正社員において、1980年生まれ以前の世代は、**若い世代ほど実質年収は低下傾向**にあったが、近年**20・30代の実質年収は増加傾向**

出生年別、大卒男性正社員の実質年収の変化(全国)



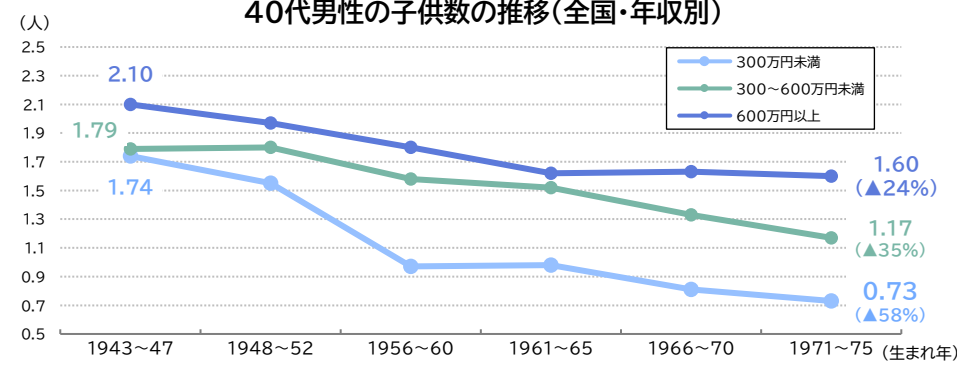
※実質年収は2020年価格

(資料)厚生労働省「賃金構造基本統計調査」及び総務省「消費者物価指数」を基に株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員 藤波匠氏が作成

収入が低い層ほど子供の数が少ない

- 年収別に見た男性の出生年代別の40代時点での合計出生率の推移を見ると、**収入が低い層ほど数値が低く、減少幅も大きい**

40代男性の子供数の推移(全国・年収別)



(資料)東京大学「我が国における子供の数と学歴・収入の関係 全国調査から明らかになる少子化の実態」の研究を基に作成

安定した収入の実現が求められている

- 望む人が安心して結婚から妊娠・出産・子育てしやすい社会を実現するためには、**「安定した収入の実現」が重要**

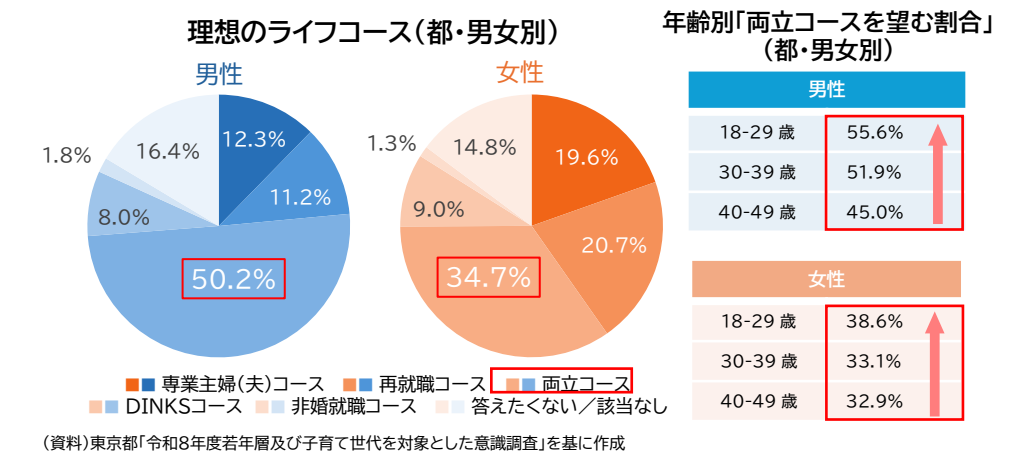
※複数回答、上位抜粋

望む人が結婚から妊娠・出産・子育てしやすい社会を実現するために有効な取組(都)	
賃上げや正社員への転換支援など、安定した収入の実現	34.1%
金銭給付など、子育て世帯に対する手当・補助金の拡充	32.5%
家賃の負担軽減など、住宅に対する支援	30.6%
出産費用の軽減や産後ケアの充実など、出産等の負担軽減	30.4%
育児休業や短時間勤務など、男女ともに働きやすい労働環境の整備	30.3%

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

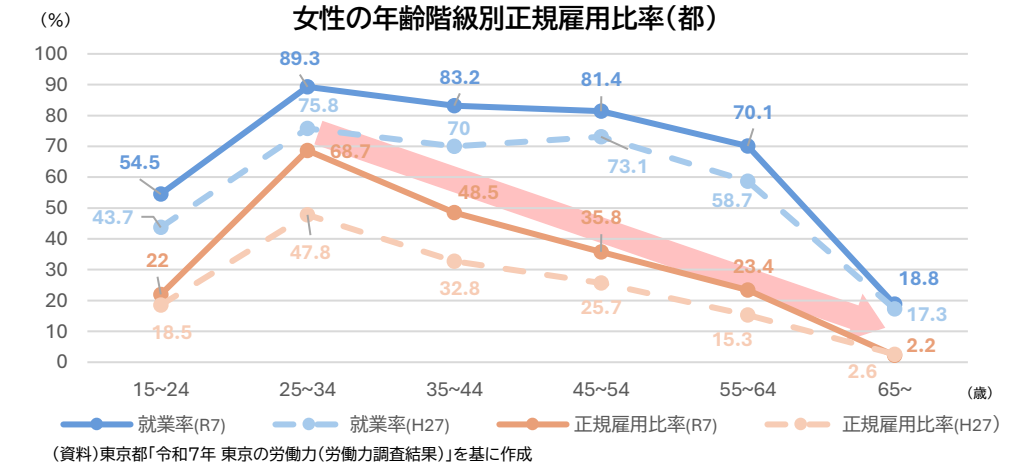
若い世代ほど育児と仕事の両立を望んでいる

➤ 男女とも理想のライフコースは「両立コース(結婚し子供を持つが、仕事も続ける)」が第1位。特に若い世代ほど両立コースを望む割合が高い



女性の正規雇用比率は25～34歳をピークに低下

➤ 女性の就業率、正規雇用比率ともに上昇傾向だが、正規雇用比率はいまだ25～34歳をピークに右肩下がり「L字カーブ」の傾向



男女ともパートナーに「家庭と仕事の両立」を望んでいる

➤ 男女とも40%以上が配偶者・パートナーに望む働き方として「家庭と仕事を両立してほしい」と回答

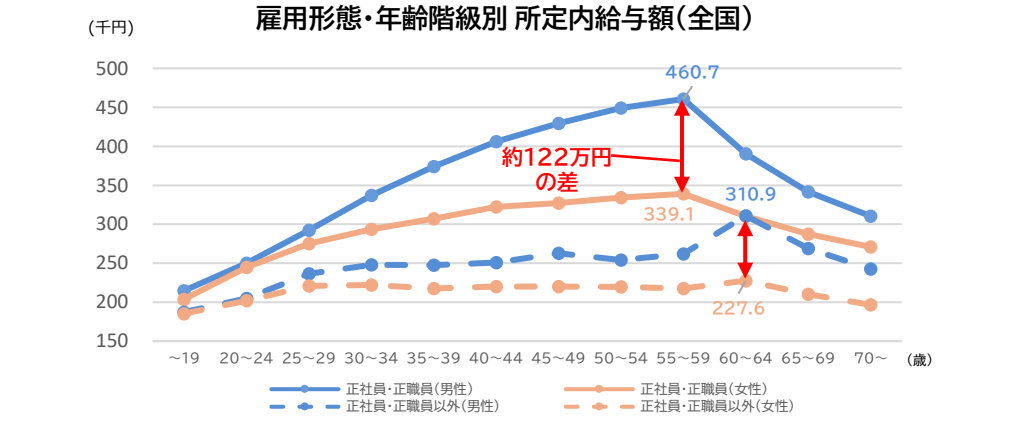
※複数回答、一部抜粋

配偶者・パートナーに望む働き方(都・男女別)	男性	女性
家庭と仕事を両立してほしい	40.5%	45.7%
出来れば収入を増やしてほしい	11.2%	27.2%
出来れば残業を減らして早く帰宅してほしい	12.2%	16.4%
どちらかと言うと仕事に専念してほしい	5.8%	18.8%

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

性別・雇用形態によって給与に差がある

➤ 同じ雇用形態でも男女間に給与差があり、その差は年齢とともに拡大する傾向



(資料)厚生労働省「令和7年賃金構造基本統計調査」を基に作成

女性にかかる子育ての負担が子供の数にも影響

➢ 「子供を育てる自信がない」「自分の時間が取れない」「育児の心理的、肉体的負担が重い」など、多くの選択肢において女性の回答割合が高く、子育てへの負担感が読み取れる

※複数回答、一部抜粋

子供を欲しいとは思わない理由(都・男女別)	男性	女性
育児にかかる費用が心配だから	30.3%	30.4%
将来の教育費が心配だから	24.9%	23.3%
子供を育てる自信がないから	34.0%	42.1%
自分の時間が取れないと思うから	27.7%	30.7%
子供が好きではない・子供が苦手だから	20.2%	34.3%
将来に希望を持ってないから	26.9%	30.6%
子育てしにくい社会だから	18.2%	21.2%

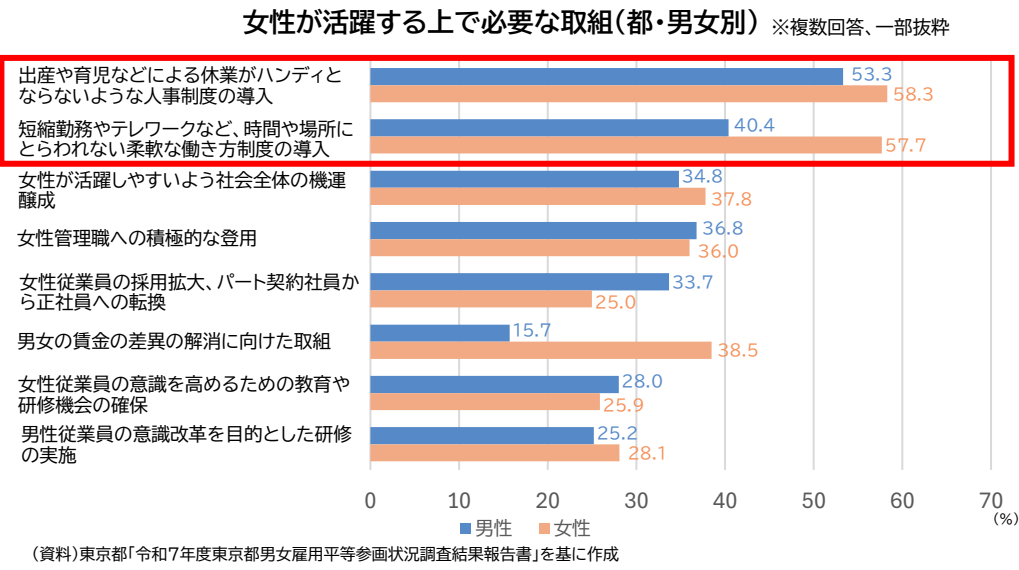
※複数回答、一部抜粋

予定の子供数が理想の子供数より少ない理由(都・男女別)	男性	女性
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	47.1%	50.3%
家が狭いから	20.6%	22.3%
自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから	12.1%	17.8%
高年齢で生むのはいやだから	20.2%	30.5%
育児の心理的、肉体的負担が重いから	22.9%	37.6%
健康上の理由から	12.1%	16.2%
欲しいけれどもできないから	17.0%	19.8%

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

女性の活躍には休業が不利とならない制度が必要

➢ 女性が活躍する上で必要な取組について、男女とも「人事制度の導入」「柔軟な働き方制度の導入」が最も多い



有識者の意見

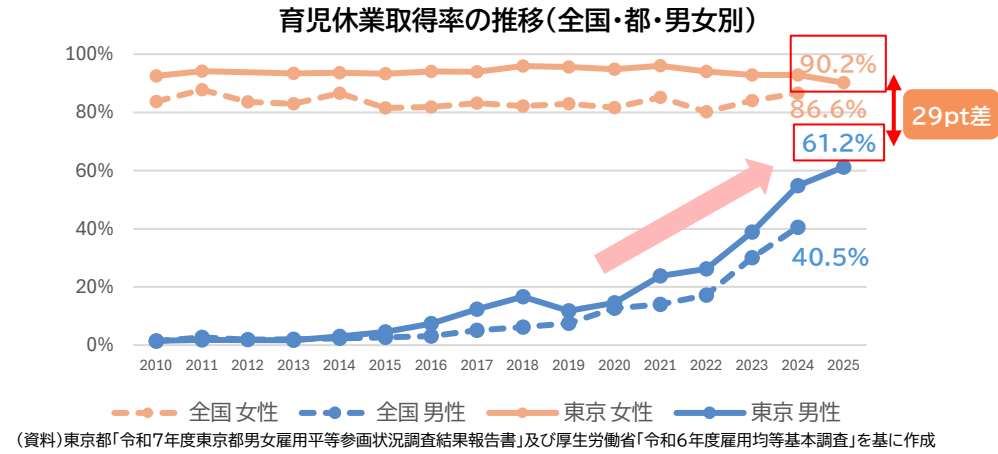
- 企業での働きやすさ・企業による充実した子育て支援が必要なのであって、企業に対するインセンティブ付与が必要
- 男性の正社員の働き方が改善されないと結婚や出産には踏み切れない

都民の皆様の意見

- 多様な働き方を施策として展開して欲しい。女性活躍というが、女性が会社で働き、子供を育てるのはかなり厳しい(女性30代・既婚)
- 仕事・家事に加えて、育児もこなすことを考えると大変さを感じる。自分の時間が持てなくなるのではないかと思う(女性20代・未婚)

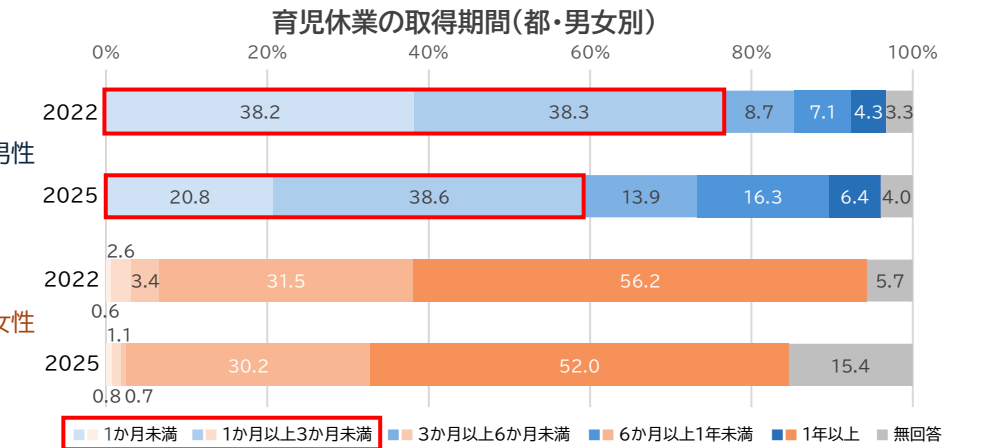
都内の男性の育業取得率は60%以上にまで上昇

➤ 全国・都ともに男性の育業取得率は近年大幅に上昇しているが、いまだ男女差が見られる



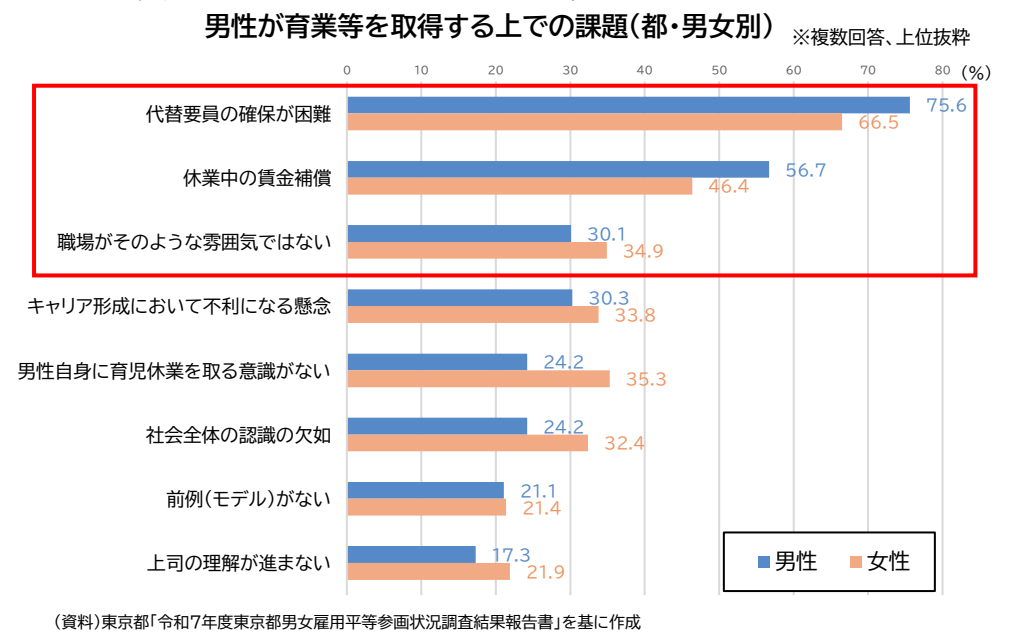
育業期間は男性と女性で大きな差

➤ 男性従業員の育業期間は伸びてきているが、依然として「1か月未満」や「1か月以上3か月未満」が多い



育業の推進には制度に加え職場の環境整備も重要

➤ 男性が育業するに当たっての課題は「代替要員の確保が困難」、「休業中の賃金補償」、「職場がそのような雰囲気ではない」など



有識者の意見

- 男性の1か月以上の育業は、男性の家事・育児時間を週4時間程度増加させる効果を持つことが明らかになっている
- 男性育業はインパクトが大きい。国の制度が整ったので、男性の家事育児分担に繋がる取組を工夫する必要

都民の皆様の意見

- 育業が取れるかについて会社と要相談。出張以外はフルリモートで子育てに専念できるよう会社と相談している(男性30代・既婚)
- 出産後の1か月は夫も育業を取得し、協力して育児ができた(女性20代・既婚)

柔軟に休める環境づくりが重要

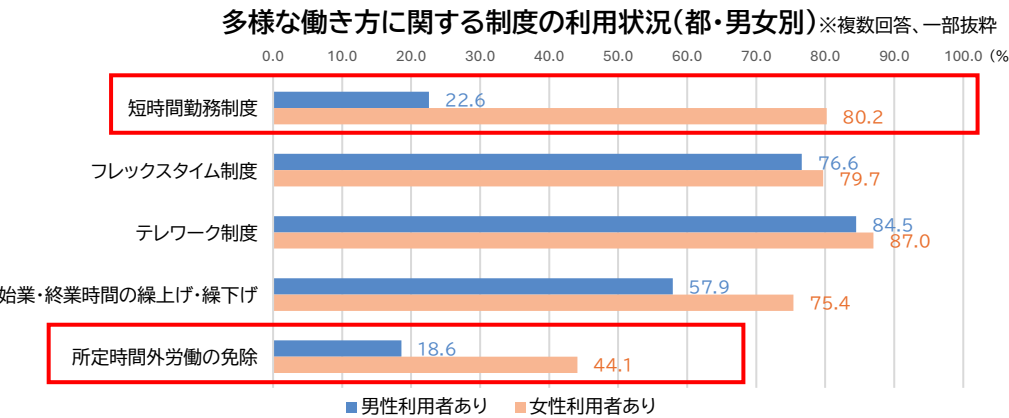
➤ 仕事・働き方での課題について、男性は「労働時間が長い」、女性は「子供にかかわる突発的な事情での休暇が取りにくい」が1位 ※複数回答、一部抜粋

望む人が子育てをする上で、仕事・働き方での課題(都・男女別)	男性	女性
仕事・収入が安定していない	22.7%	22.7%
労働時間が長い	27.5%	25.8%
場所にとらわれない働き方が難しい(テレワーク等)	21.5%	26.5%
時間にとらわれない働き方が難しい(短時間勤務・フレックスタイム等)	25.1%	30.3%
出産・育児などによる休暇等が昇進・昇給の妨げとなっている	17.8%	22.9%
職場において、育児への理解が進んでいない	16.3%	19.0%
育児休業が取りにくい	19.4%	17.5%
子供にかかわる突発的な事情での休暇が取りにくい(急な発熱等)	25.9%	35.7%
新たな知識・スキルを習得する時間が取りにくい	14.4%	13.8%

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

育児のための各制度の利用状況には男女差がある

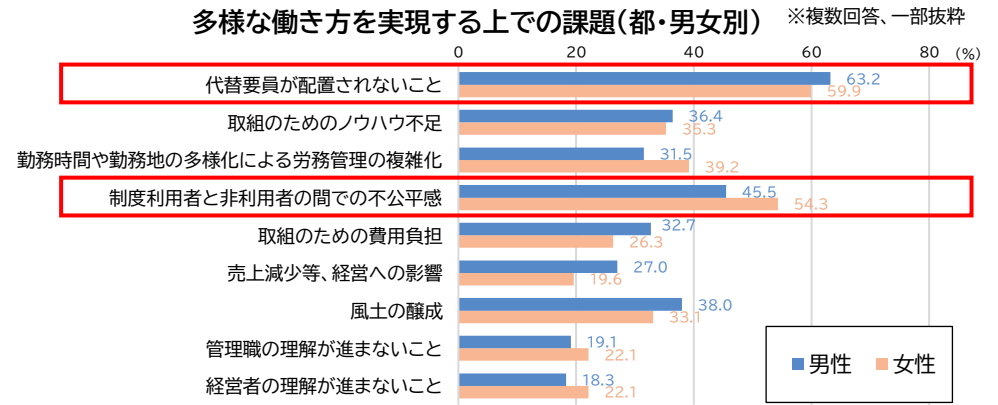
➤ 「短時間勤務制度」、「所定時間外労働の免除」等の制度については、利用された割合の男女差が大きい



(資料)東京都「令和7年度東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書」を基に作成

多様な働き方の実現には職場環境整備が必要

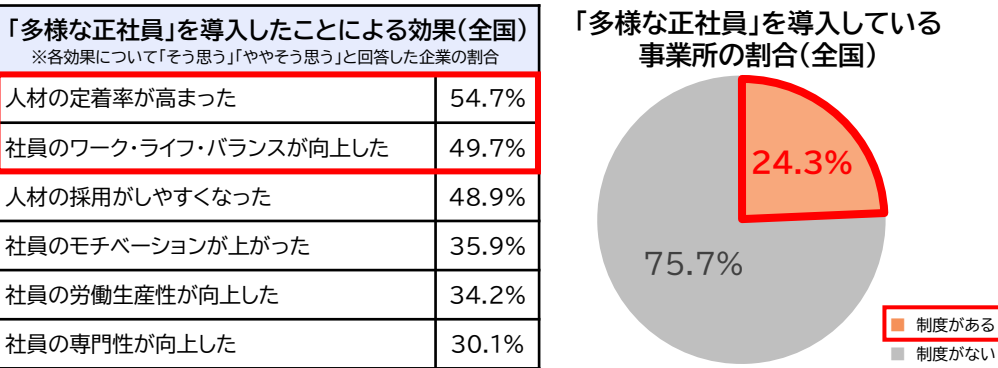
➤ 多様な働き方を実現する上での課題は、男性・女性ともに「代替要員が配置されないこと」が最も多く、次いで「制度利用者と非利用者の間での不公平感」の順となっている



(資料)東京都「令和7年度東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書」を基に作成

「多様な正社員」制度を導入する事業者は少ない

➤ 「多様な正社員」制度には人材の定着率の上昇やワーク・ライフ・バランスの向上等の様々な効果があるが、導入している事業所は3割未満 ※「多様な正社員」…勤務地、職務、労働時間等が限定されている正社員

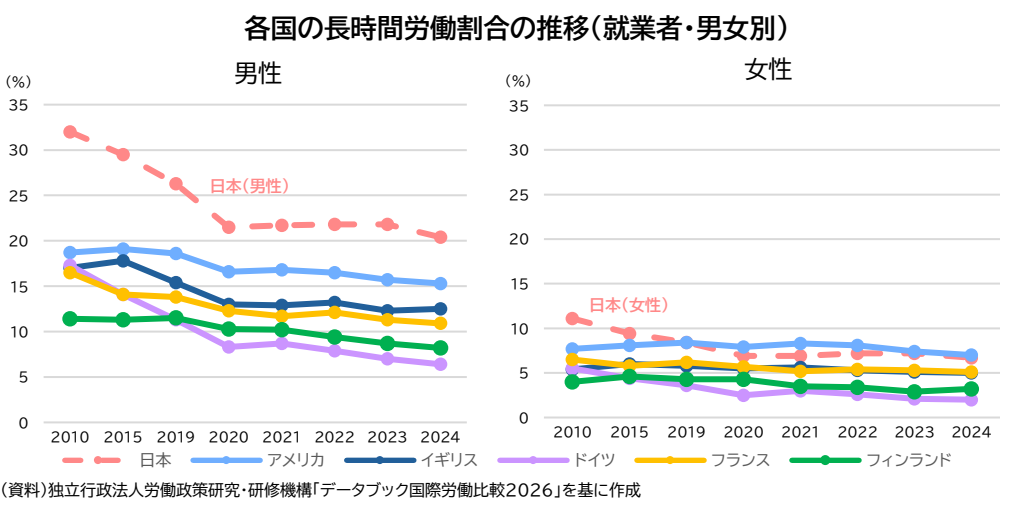


(資料)労働政策研究・研修機構「多様な働き方の進展と人材マネジメントの在り方に関する調査」(平成30年度実施)を基に作成

※制度が就業規則等で明文化されている事業所に限る (資料)厚生労働省「令和6年度雇用均等基本調査」を基に作成

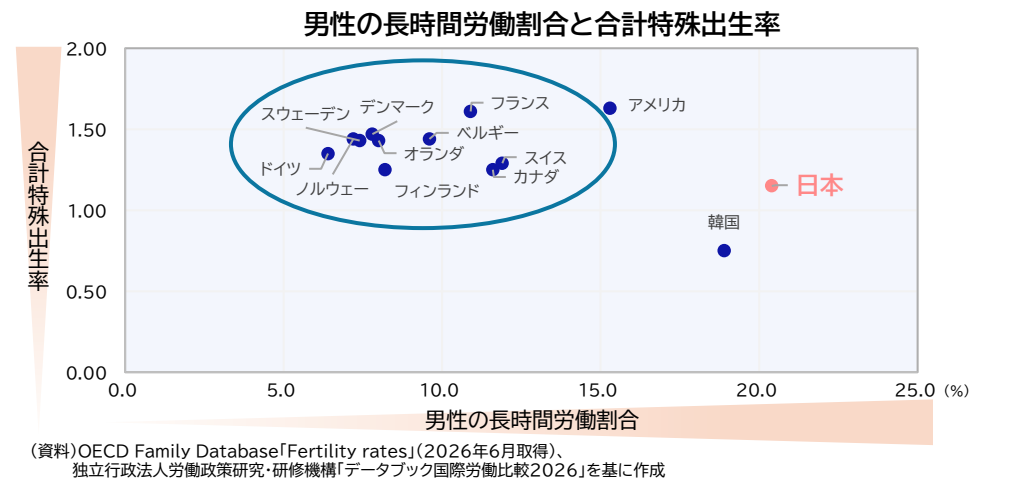
欧米に比べ日本の男性は長時間労働割合が高い

➤ 日本の男性の長時間労働割合は減少傾向にあるが、他国と比較すると依然として高い



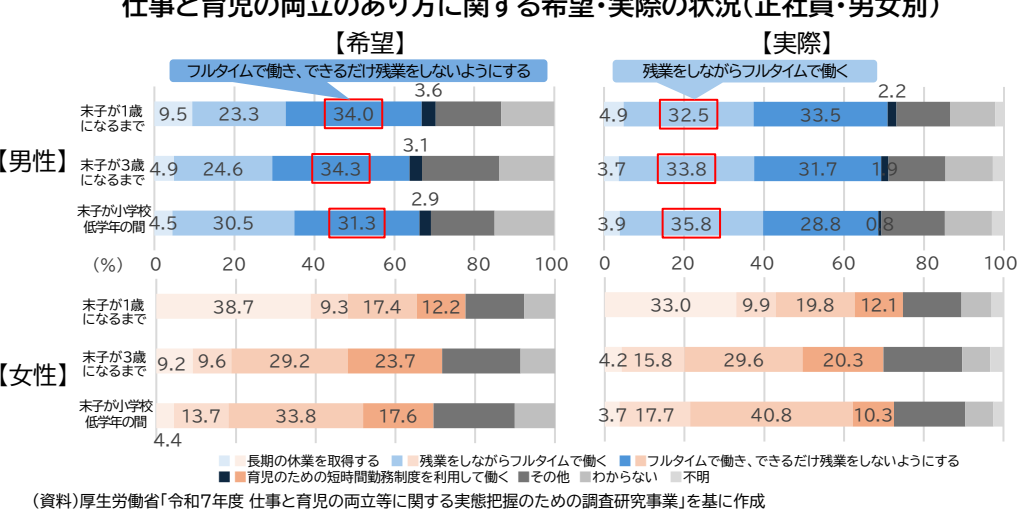
長時間労働割合が低い国は出生率が高い傾向

➤ 男性の長時間労働割合が低い欧米諸国は、合計特殊出生率が高い傾向



男性の仕事と育児の両立の「希望」と「実際」には差

➤ 男性は「できるだけ残業をしないようにする」の希望が多いが、実際は「残業しながらフルタイムで働く」人が多い



男性は家事・育児時間、女性は仕事時間を増やしたい

➤ 子供がいる男性は仕事時間を「減らしたい」、家事・育児時間を「増やしたい」と回答する割合が高く、特に若い世代でその傾向が強い

生活における時間の増減希望(全国・男女別)

20-39歳・子供有			40-69歳・子供有		
	減らしたい	増やしたい		減らしたい	増やしたい
仕事時間	女性	23.2% < 28.6%	仕事時間	女性	12.7% 22.5%
	男性	34.1% > 16.6%		男性	25.7% 10.2%
家事・育児時間	女性	33.5% > 14.4%	家事・育児時間	女性	20.2% 6.0%
	男性	14.1% < 27.7%		男性	7.6% 14.3%

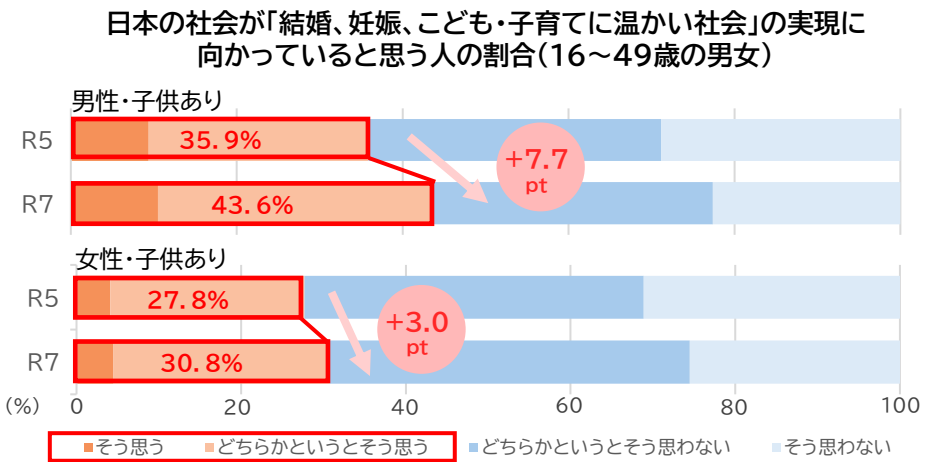
(資料)内閣府「令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書」を基に作成

有識者の意見

● 男性の長時間労働が改善され、家事・育児を男女共同で行うことで女性の社会進出がしやすくなる

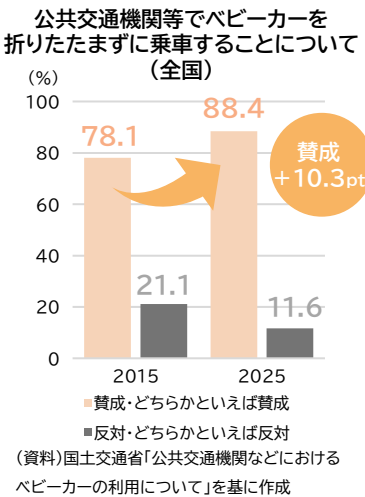
子供・子育てに関する社会の理解促進等が必要

日本の社会が「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会」の実現に向かっていると思う割合は、男女とも増加しているものの、半数に満たない



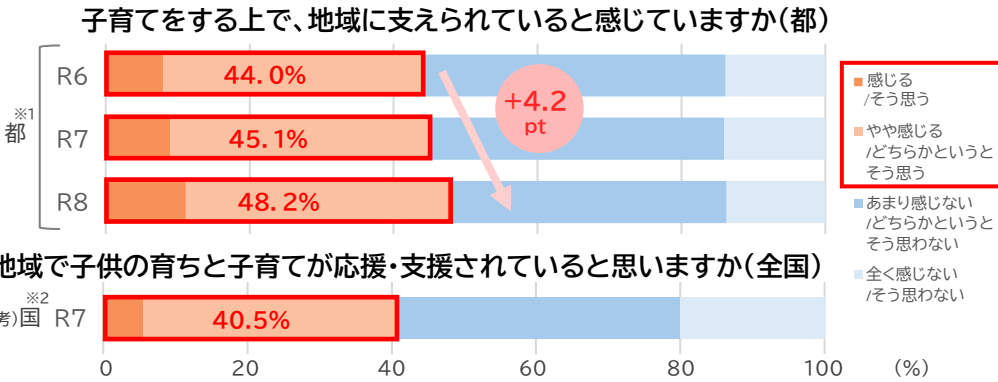
子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、**社会の理解促進**や**男性の家事・育児参加の促進**が有効だと思う人が多い

子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、有効だと思う取組(都) ※複数回答、上位抜粋	
子供・子育てに関する社会の理解促進	30.7%
男性の家事・育児参加の促進	28.3%
移動しやすい環境整備 (公共交通機関におけるベビーカー利用の円滑化に向けた取組等)	27.5%
公共・民間施設での育児サービスの充実 (おむつ替えスペース等)	25.1%
行政による子育て支援の情報発信	23.6%

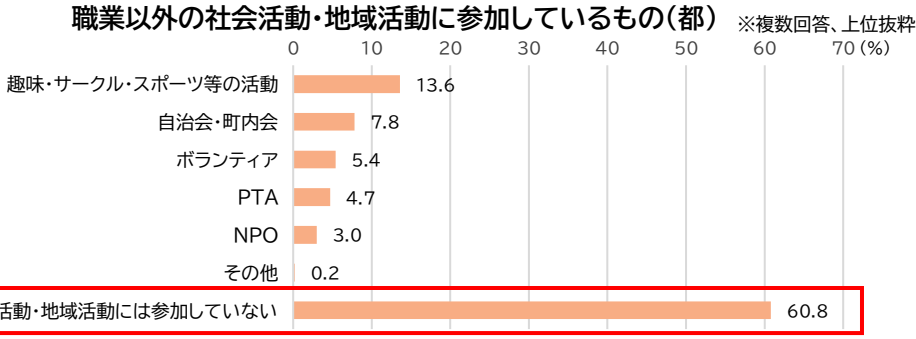


社会全体で子育てをサポートする気運醸成が重要

東京で地域に支えられていると感じている人は近年増加傾向にあり、直近では約半数



社会活動・地域活動に参加している人は約4割にとどまる



有識者の意見

- 都には若い世代が多いので、子育てしやすい街、子育てにフレンドリーな街になることを期待
- 地域における祖父母のような面倒見や相談役の役割を果たす、地域による子育ての支援も重要なのではないかと。心理的ハードルが低く、ちょっとした相談もできる、というのが大切

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

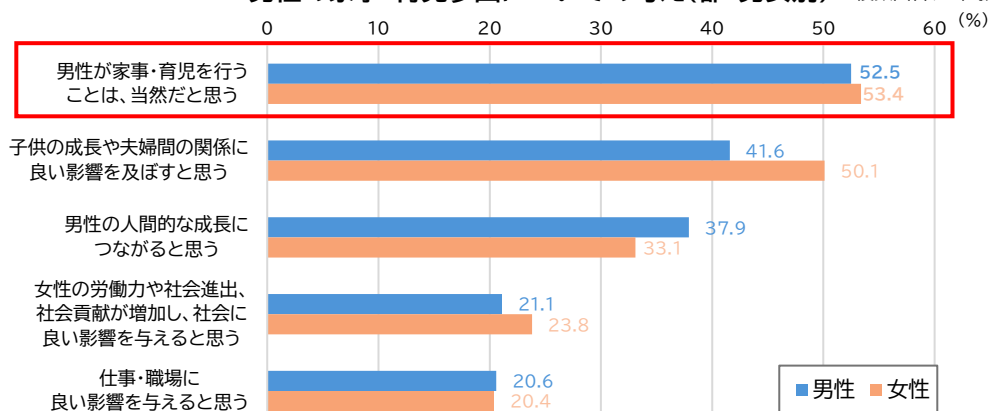
(資料)国土交通省「公共交通機関などにおけるベビーカーの利用について」を基に作成

(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

男女間で家事・育児関連時間に大きな差

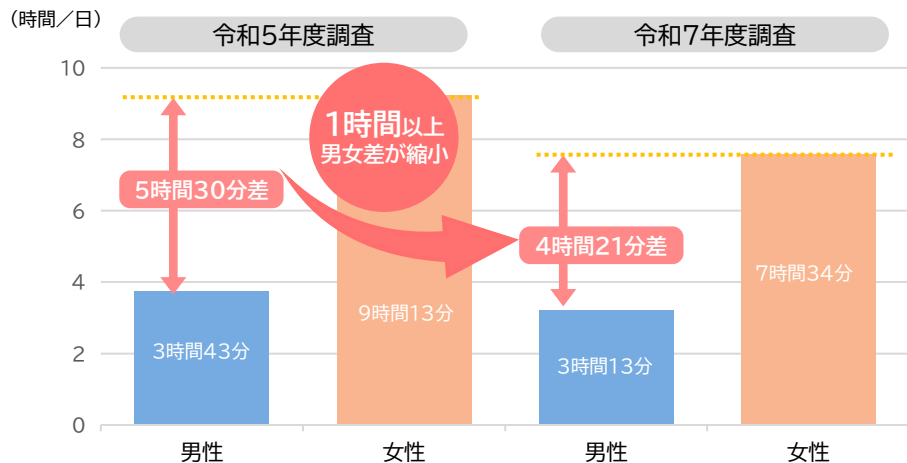
- ▶ 男女とも半数以上が「男性が家事・育児を行うことは当然」と考えている
- ▶ 一方、家事・育児関連時間の男女差は縮小しているものの、依然として家事・育児の負担は女性に偏っている状況

男性の家事・育児参画についての考え(都・男女別) ※複数回答、上位抜粋



(資料)東京都「令和7年度男性の家事・育児実態調査」を基に作成

家事・育児にかかる1日の平均時間(都・男女別)

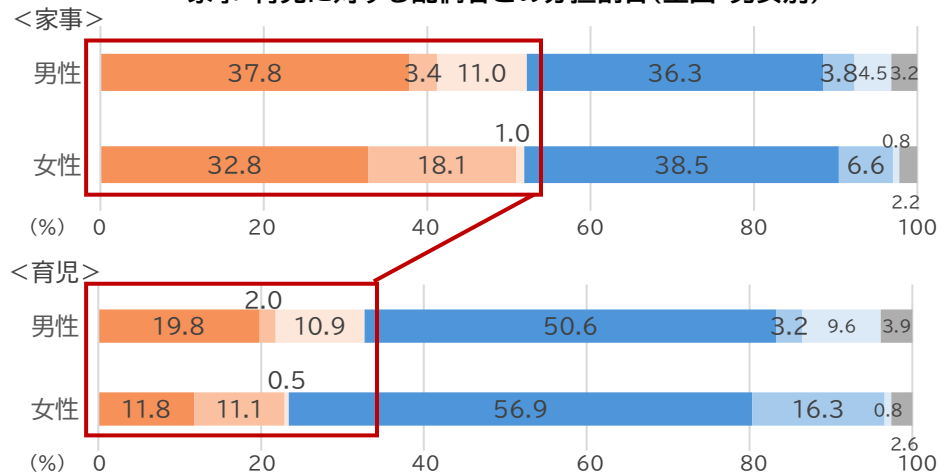


(資料)東京都「令和7年度男性の家事・育児実態調査」を基に作成

家事支援の外部サービス利用は進んでいない

- ▶ 育児支援の外部サービス利用に比べて、家事支援の利用は進んでいない

家事・育児に対する配偶者との分担割合(全国・男女別)



- 外部サービスは利用せず、自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスは利用せず、自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスは利用せず、配偶者の方が自分より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分と配偶者で半分ずつ分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は自分の方が配偶者より多く分担
- 外部サービスを利用しながら、それ以外は配偶者の方が自分より多く分担
- 無回答

(資料)内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査(令和6年9月)」を基に作成

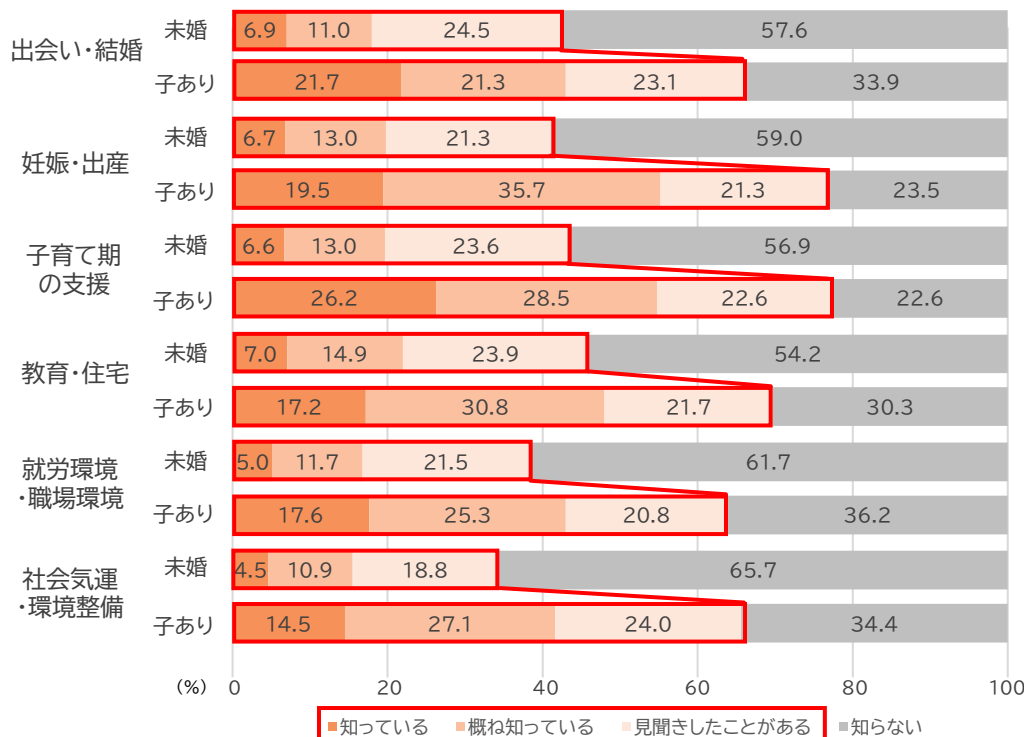
都民の皆様の意見

- 家事・育児の分担については、得意な家事・育児で役割分担し、2人とも苦手なものは折半か外部サービスを使いたい(女性20代・未婚)
- 子供を見てくれるシッターのサービスやピンポイントで利用できる家事代行サービスがあると良いと思う(男性30代・既婚)

未婚の若年層の都の取組に対する認知度向上が重要

- 全ての政策分野において、未婚の若年層の都の取組に対する認知度は、子供を持つ人に比べて低く、半数にも満たない

18-29歳の都の取組に対する認知度(都)



(資料)東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」を基に作成

有識者の意見

- 未婚者や子供がいない層は、都の子育て支援に関する評価について、「分からない」と回答する傾向が強い。全国でも同様の傾向と思うが、直面した人以外は情報をとりにいかないため、周知広報が重要
- 子育てに対するネガティブな印象が先行している。ポジティブな意見を広く人々に届けることも重要な取組

コラム



子供・子育てにやさしい社会づくりに向けた取組

こどもスマイルムーブメント(育業の推進)

令和4年、公募により育児休業の愛称を「育業」と決定。育児を「休み」ではなく「大切な仕事」と捉え、育業を社会全体で応援する気運醸成に取組み、望む人誰もが「育業」できる社会を目指している

令和8年度の取組

- ✓ 男性育業推進に向けた動画の制作・配信
- ✓ 育業サンキューエピソードの募集・普及啓発事業
- ✓ 育業推進企業へのメリット調査・普及啓発事業
- ✓ 国・自治体・民間企業と連携した発信強化



男性の家事・育児促進に向けた気運醸成

男性の家事・育児を促進するため、Webサイト「TEAM家事・育児」において、社会全体で家事・育児を「TEAM」として考え、変えていくための、様々な情報やアドバイスを発信

令和8年度の取組



- ✓ 夫婦間の家事・育児の可視化など、分担の見直しにつながるツールを制作
- ✓ 便利家電や冷食活用のおすすめ等、家事時間の総量削減に向けたコンテンツを充実

結婚・子育て支援策の更なる充実に向けて ～今後の政策検討課題～

- 分野ごとの現状・分析等を踏まえ、より実効性の高い施策を構築
- 望む人が安心して結婚、妊娠・出産、子育てできる社会の実現に向けて、様々な政策分野ごとに、制度の根幹に立ち返りながら、支援のあるべき方向性について多角的に検討

出会い・結婚

■ 望む人が一歩踏み出す後押しとなる取組を推進

- ・様々な出会いの機会を提供
- ・民間企業や区市町村等、様々な主体と連携した、安心して出会い、結婚ができる環境づくりや気運の醸成

妊娠・出産

■ 安心して妊娠・出産できる環境整備を促進

- ・出産時の不安や負担を取り除く取組
- ・将来の妊娠・出産に備えたい方や不妊・不育症を心配する方等、それぞれの希望に寄り添った支援
- ・子供を産み育てることを望みつつ働く人へのサポート
- ・妊娠期からの切れ目のない支援

子育て期の支援

■ 全ての子供・子育て家庭に対し、ライフステージを通じた切れ目ない支援を展開

- ・在宅子育て家庭を含めた子育て支援策
- ・多様なニーズに応えた保育サービスや子供の居場所づくり

教育・住宅

■ 子育て世帯の実態に応じた教育支援を充実

- ・将来にわたって安心して学ぶことができる環境の整備

■ 子育て世帯等が安心して生活できる住宅確保策を推進

- ・子育て世帯等が手頃な家賃で住むことができる住宅を供給
- ・既存ストック等を活用し、多様なニーズ等に対応した良質な住宅の充実

就労環境・職場環境

■ 若年層や子育て世帯の経済基盤を充実

■ 望む人が安心して結婚、妊娠・出産、子育てできる労働環境の整備を促進

- ・希望に応じた働き方の選択と経済基盤の確保
- ・女性も男性も誰もが能力を発揮できる社会の実現に向けた取組の推進
- ・男女ともに子育てと仕事を両立し、ポジティブに働き続けられる環境の整備
- ・時間や場所にとらわれない柔軟で多様な働き方の推進

社会気運・環境整備

■ 子供・子育てにやさしい社会づくりを推進

- ・子供の育ちや子育てを社会全体で応援する気運醸成
- ・公共交通機関等、官民における育児サービスの推進
- ・地域の実情に応じた区市町村の結婚・子育て支援策を後押し

Ⅲ | 取組のバージョンアップに向けて



- 都民ニーズや課題等を継続的に把握・分析するとともに、長期的な視点に立った効果検証を実施
- 『『叶えたい』を支えたい』をキーメッセージとして、事業単位の広報ではなく、統一的に都庁各局の結婚・子育て支援策をブランディングし、組織の垣根を超えた当事者目線での広報を展開

東京都

政策分野ごとに不断に取組を強化

- 出会い・結婚
- 妊娠・出産
- 子育て期の支援
- 教育・住宅
- 就労環境・職場環境
- 社会気運・環境整備

令和9年度以降

- ✓ エビデンスに基づく施策の継続的な推進
- ✓ ニーズや課題を踏まえた施策のバージョンアップ

ニーズや課題を取組に反映(毎年度)

取組成果

分かりやすく発信

継続的な要因分析

- 若年層及び子育て世代を対象とした調査
⇒ 生活実態や結婚・出産・子育てに関する意識を把握
- データ分析 ⇒ 少子化の現状や要因を多面的に分析
- 結婚や子育て等に関する海外意識調査
⇒ 海外における結婚や子供を持つことの意識を調査 等

長期的な視点に立った効果検証

- 定量・定性の双方から検証
- 統計的手法等による分析
- 総合的な影響度を算定

✓ 運用しながら改善を重ねていく

戦略的な情報発信

- 施策PR動画
 - ショートドラマ
 - ランディングページ
 - 冊子
- ⇒ 『『叶えたい』を支えたい』を
キーメッセージに情報発信

有識者等との連携

「少子化分析・検証フェロー」をはじめとした幅広い分野の有識者、
都内大学、民間シンクタンク など

若年層及び子育て世代を対象とした意識調査

- 都民の意識やニーズの変化等を継続的に調査、要因分析や効果検証に活用
 - 都内に暮らす18歳～49歳の方、5,000人にアンケート調査(定量調査)を実施
現在の暮らしの満足度や将来に対する展望、結婚や子供を持つことの意識、子育てをする上での課題を調査
 - 都内に暮らす18歳～49歳の方、70人(グループ40人、個人30人)にインタビュー(定性調査)を実施
対面での聞き取りにより、個人の意識やニーズ、抱えている問題を深掘り

結婚や子育て等に関する海外意識調査

- 海外における意識を調査して東京都の調査結果と比較・分析し、結婚や子育てに対する意欲に影響を与える要因を分析
 - 海外4か国に暮らす18歳～49歳の方 計3,200人(各国800人)
結婚や子供を持つことの意識、子育てをする上での課題を調査
 - 調査結果について都内の意識調査結果と比較・分析し、得られた示唆や課題を今後の都の取組の検討につなげていく

学校の教材等の共同利用等に関する調査・学生等の通学実態等に関する調査

- 都立高校等における取組に役立てるため、国内外の事例調査を実施するとともに、義務教育における海外事例等のリサーチを実施
- 学生等の通学手段やバスの利用状況、地域や家庭ごとの通学にかかる負担の状況など、学生等の通学実態等について様々な観点から調査を実施

長期的な視点に立った効果検証

- 結婚や子育てに関する不安や悩みは多面的であり、課題等に応じ様々な取組を展開する必要がある
また、効果が現れるまで一定程度の期間を要する
 - ➡ 長期的な視点に立った効果検証の仕組みを構築するとともに、EBPM推進に向けた実験調査を行うことで、多面的な考察を深め、エビデンスに基づく幅広い支援の充実につなげていく

◎ 効果検証の仕組みを実践する中で、適宜更新を行い、新しい内容にアップデート

◎ 統計的手法を用いた実験調査をアドバイザーの助言を得ながら実施し、多様なエビデンスに基づく支援の充実につなげる

若年層及び子育て世代への戦略的な情報発信

- 「『叶えたい』を支えたい」をキーメッセージとして、事業単位の広報ではなく、統一的に都庁各局の結婚・子育て支援策をブランディングし、組織の垣根を超えた当事者目線での広報を展開
- 結婚や子育てに対する不安やネガティブイメージを払拭し、安心感やポジティブな気運を切れ目なく発信
 - 毎月テーマを定め、関連施策や都民の声、これまでの成果等を紹介する施策PR動画を作成し、SNS等で発信
 - 施策PR動画等で発信した支援に関連する情報について、ライフステージごとにウェブサイトで一元的に紹介
 - ➡ より詳しく知りたい情報については、各局の事業ページに誘導
 - 仕事とライフイベントとの両立をテーマに「結婚したい・子供を持ちたい」と願う方の一步を後押しするショートドラマを作成
 - ライフステージを通じて都が展開する支援情報を、利用者視点で分かりやすく取りまとめ、冊子やデジタルブック形式で発信

東京の空から都民を見守る雲の妖精



カナウン

東京の空から都民を見守り
「叶えたい」思いに寄り添う

ササウン

カナウンの相棒で、
東京都の取組をよく知る
物知り屋さん

四葉のクローバーをモチーフに、都民の「叶えたい」という思いを表すハートを重ね合わせたデザイン

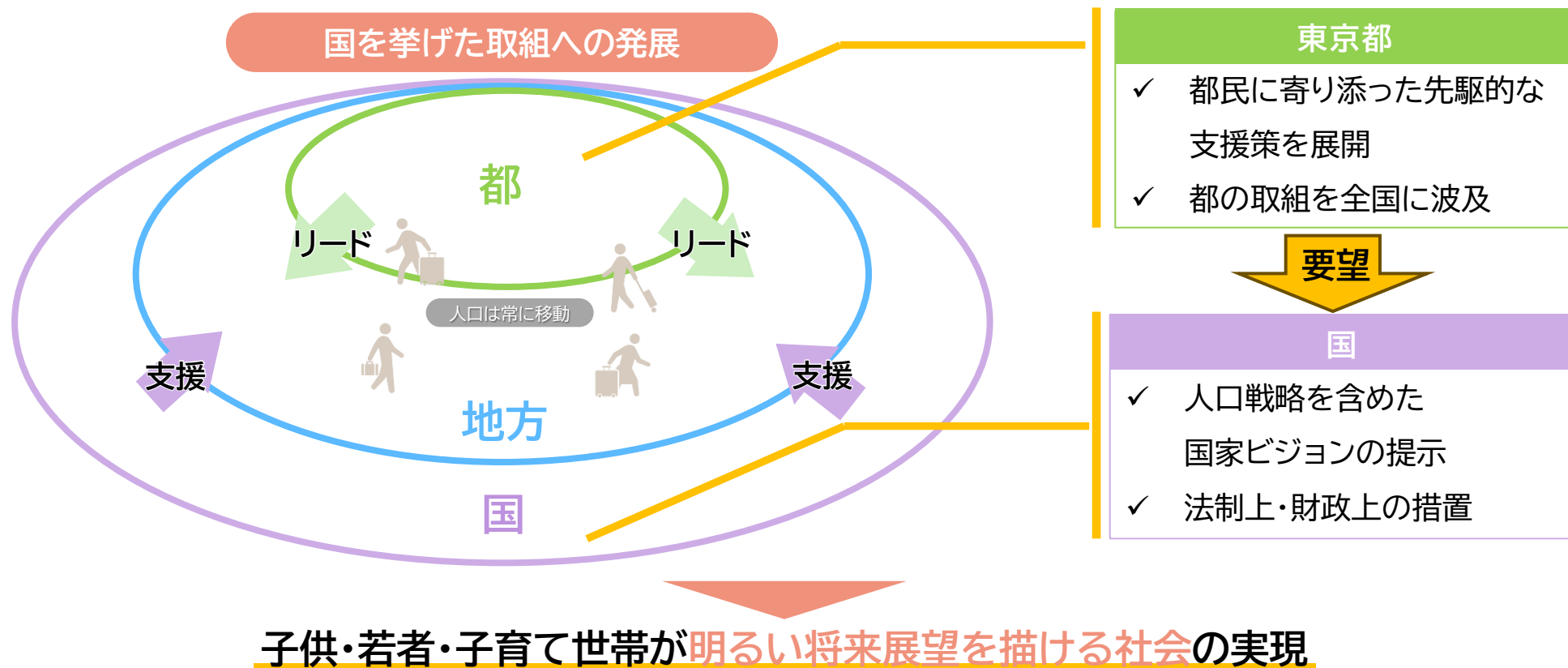
▲
ウェブサイトはこちら

IV | 国を挙げた取組に向けて



国を挙げた取組の必要性

- 少子化は、**社会の存立基盤を揺るがす国家的な課題**であり、国が**戦略的に取り組むべき**ものです。
- 少子化に対処するには、すべての子供・若者・子育て世帯が**明るい将来展望**を描けるようにすることが大切であり、**都の先駆的な取組を全国に波及させ、国を挙げた取組に発展**させることが重要です。
- そのために、国は、**人口戦略を含めた国家ビジョン**を示し、**法制上・財政上の措置**を行うことが必要です。
- 都は、望む人が安心して子供を産み育てることができる社会の実現に向け、引き続き都民に寄り添った支援策を果敢に展開し、**国や地方をリード**していきます。





東京都は、先駆的な結婚・子育て支援策に取り組み、
国にも大きな影響を与えたと聞けけれど、
具体的にはどのようなことがあるのかな

都の取組が国に影響を及ぼしたり、
波及したりした事例について見てみよう



国への影響・波及

高校等授業料の
無償化



国のR8予算
に計上

学校給食費の
負担軽減



国のR8予算
に計上(小学校段階)

所得制限
のない支援

018 ゼロイチハチ
サポート

児童手当の
所得制限撤廃

卵子凍結
に係る取組



国のR7補正予算
に計上

無痛分娩の
環境整備



国のR7補正予算
に計上

こどもDXの推進



都の取組を基に
国が全国展開

pick up!!

News!!

国の令和8年「骨太の方針」への反映

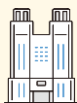


【経済財政運営と改革の基本方針2026(抜粋)】

妊娠から子育てまでの**切れ目のない支援**、不妊症等への支援を進める
保育料負担軽減をはじめ、幼児教育・保育の支援について(中略)取組を進める

反映!!

「切れ目のない支援」



都の結婚・子育て支援策
の基本理念



反映!!

「保育料負担軽減」



都は先駆的に
保育料等を無償化



国や全国に波及した都の
「こどもDXプロジェクト」の一例

保活ワンストップ

令和8年度に、都の取組をもとに
国が全国版の保活ワンストップを運用開始

オンラインで
ワンストップ

STEP1 保育園を探す

STEP2 保育園に見学予約
を申請

STEP3 入園を申請



要望趣旨

- 社会の存立基盤を揺るがす**少子化**は**国家的な課題**であり、**国を挙げて戦略的に対処する必要がある**
- **居住する地域に関わらず、日本全国の若者が明るい将来展望を描けるよう、人口戦略を含めた国家ビジョンや将来に向けた実効性ある成長戦略を明らかにするとともに、「出会い・結婚」「妊娠・出産」「子育て・教育」「育児と仕事を両立できる就労環境」など、結婚・子育てしやすい社会環境の整備に向け、国家的な視点で制度設計を行っていくことが求められている**
- **2030年代には若年層の人口が大幅な減少局面を迎えることから、更なる大胆な政策を、都や他道府県との連携・協力の下、早期に具体化していくことを要望する**

要望事項

I

人口戦略を含めた
国家ビジョンの提示

- **出生数の減少は、国の将来推計より約15年前倒しで進行し、将来を担う若年層の人口にも大きく影響**
- 国は、**実態に則した将来推計人口を示した上で、どのように国を運営し、持続可能な社会をつくりあげていくのかについて、人口戦略を含めた将来の国家ビジョンを掲げる**こと

II

経済成長政策・
社会保障制度の構築

- **出生数の減少は、経済活動の担い手である労働力人口の減少や、社会保障機能の低下につながる**
- 国は、**若者が日本の社会経済や自分自身の未来に対して明るい将来展望を描けるよう、実効性ある経済成長政策や、現役世代の負担を抑制しながら安定的で持続可能な社会保障制度を構築すること**

III

切れ目ない支援の
実現に向けた制度設計

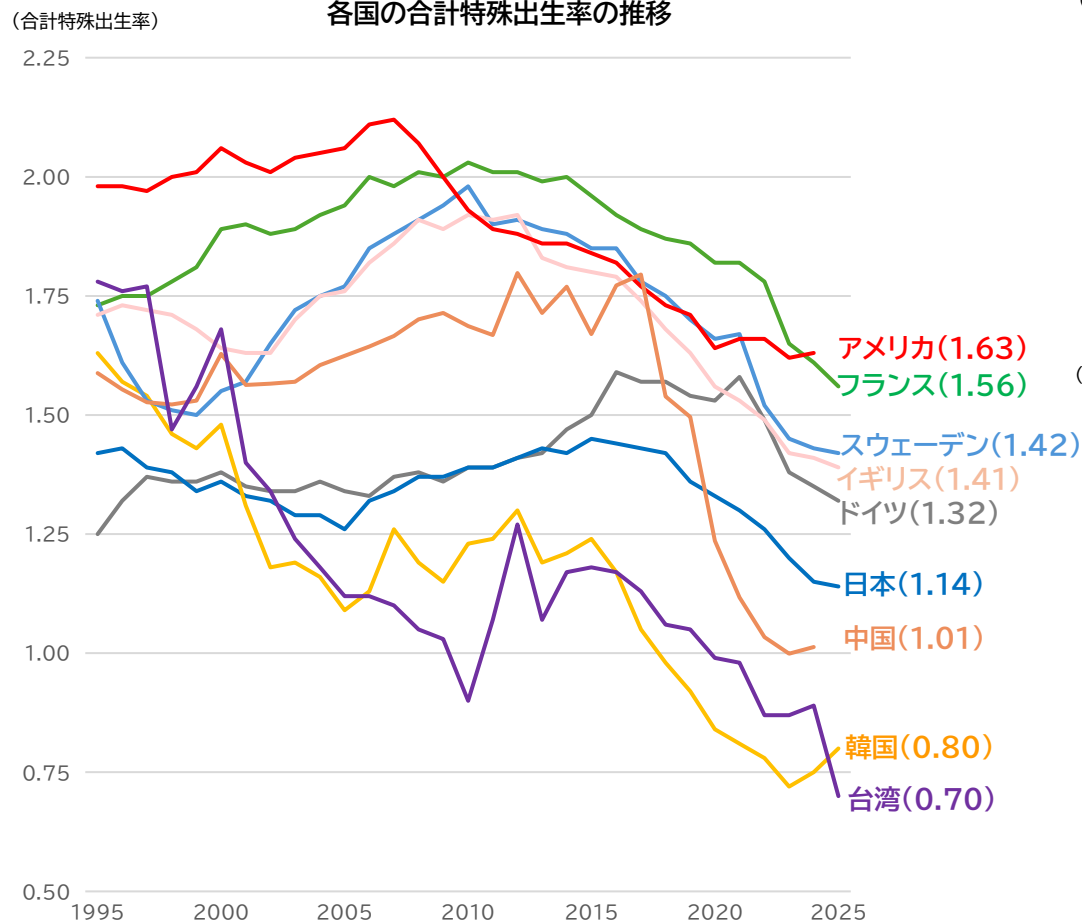
- 「出会い・結婚」「妊娠・出産」「子育て・教育」「育児と仕事を両立できる就労環境」など、**結婚・子育てしやすい社会環境の整備に向け、国家的な視点で制度設計を行っていくこと**
- 上記に関し、**国の方策が講じられるまでの間、地方自治体の取組へ財政支援を講じること**

「共存共栄」の視点を持ちながら、**国や他自治体との連携を一層強化し、相乗効果を発揮させることで、国を挙げた取組に発展させていく**

少子化は世界共通の課題

- 近年は**新型コロナウイルスの流行**に伴う行動制限等により、**国によって時間差があるものの、全世界的に少子化が進行**

各国の合計特殊出生率の推移

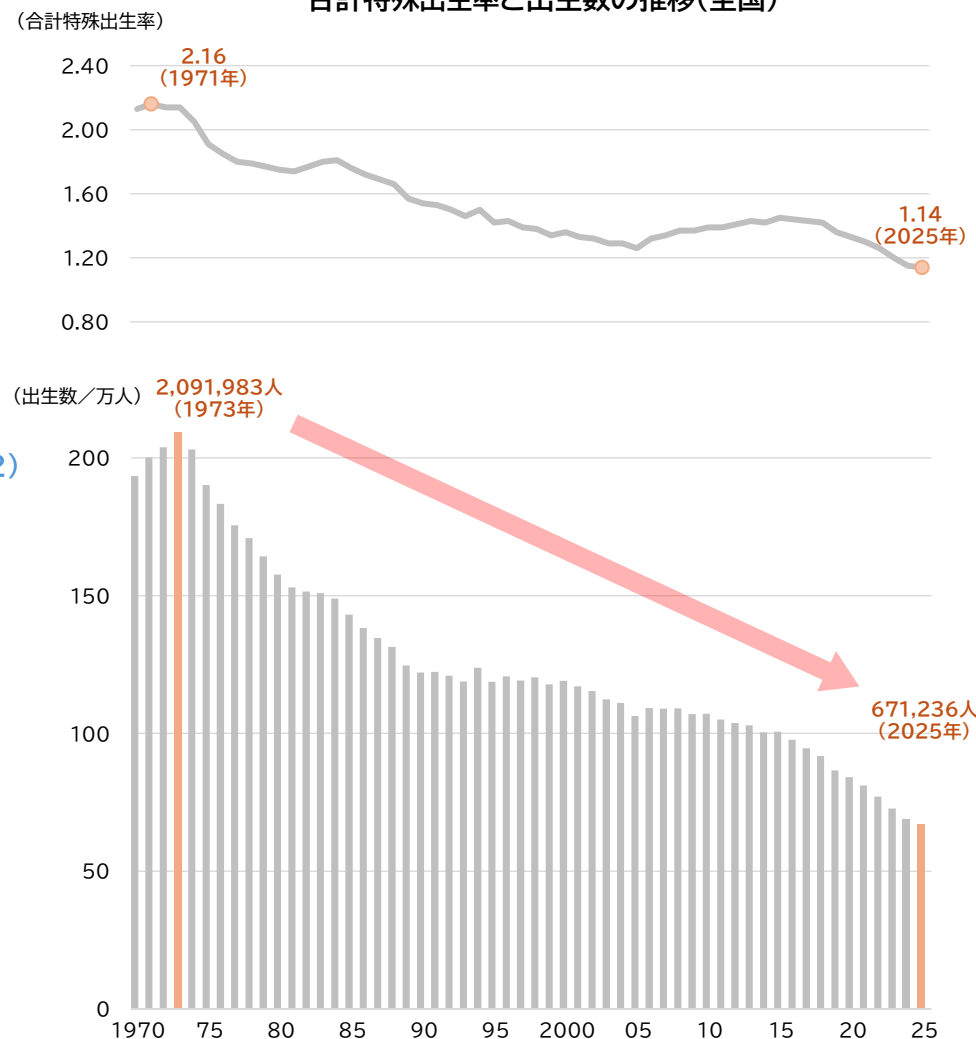


(資料)OECD「Total Fertility rates」(2026年7月取得)及び各国統計等を基に作成

日本においても少子化が進行

- 日本では、合計特殊出生率、出生数ともに**過去最低**を更新

合計特殊出生率と出生数の推移(全国)

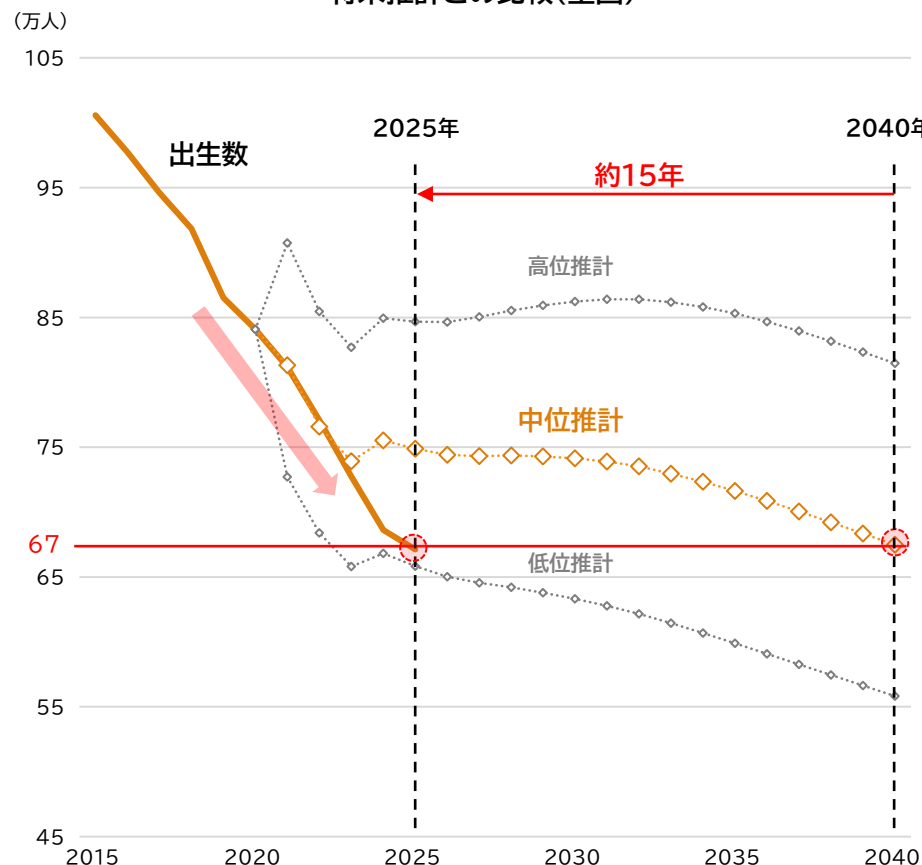


(資料)厚生労働省「人口動態調査」を基に作成 ※2025年については概数

出生数の減少は推計よりも前倒しで進行

- 国の将来推計(中位推計)では、70万人を下回るのは2030年代後半とされており、**約15年前倒し**で少子化が進行

将来推計との比較(全国)

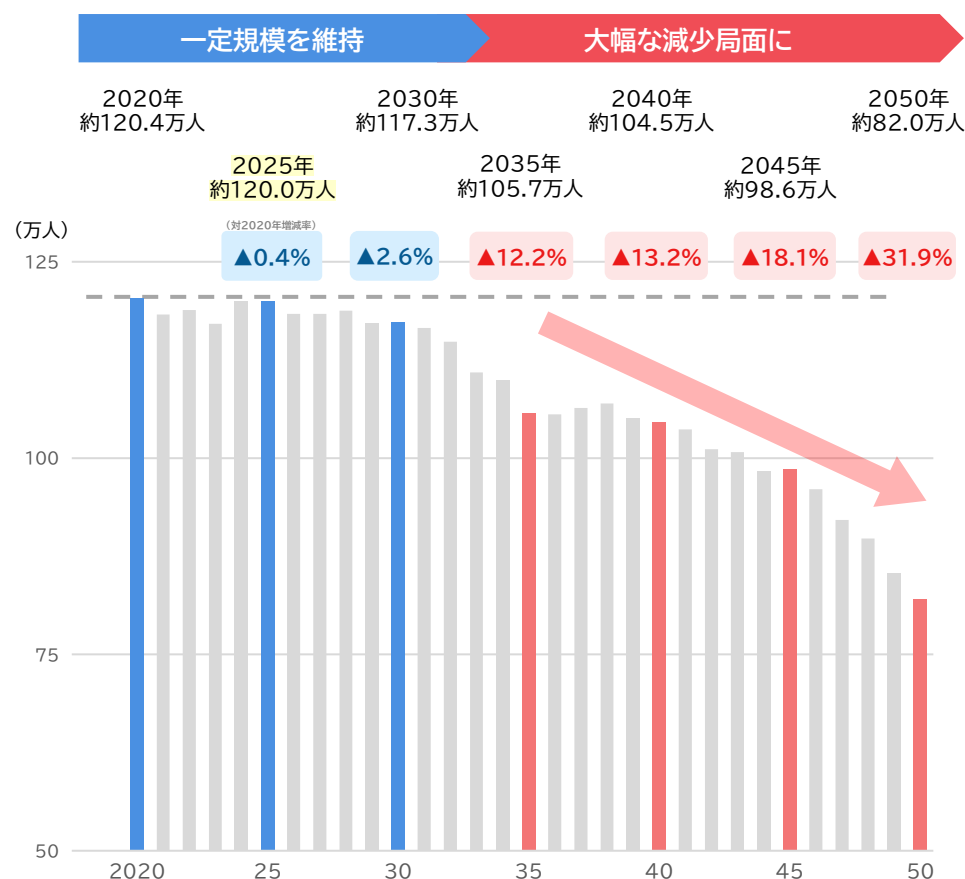


(資料)厚生労働省「人口動態調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」を基に作成

若年層の人口は急激に減少

- **30歳になる人口の推移**は、2030年までは一定規模を維持するが、**2030年代**に入ってからは**大きく減少**

30歳人口の推移(全国)



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」の出生中位(死亡中位)推計を基に作成

V | 附属資料



結婚・子育て支援策の取組状況

・都政の基本方針である「2050東京戦略」に掲げる312の政策目標のうち、結婚・子育て支援策に関する主な取組状況を掲載

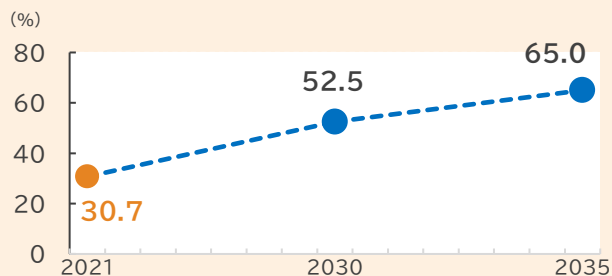
※ 2050東京戦略は、[こちら](#) からご覧ください



出会い・結婚

望む人が一歩踏み出す後押しとなる取組を推進

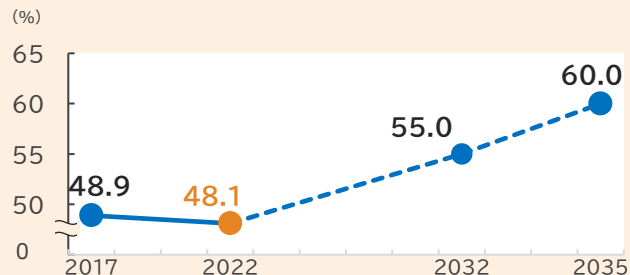
- 未婚の男女で結婚意向のある都民の、婚活の具体的な行動をとる方の割合を**65%まで向上**



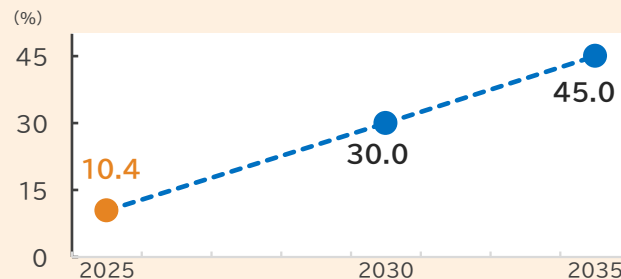
妊娠・出産

安心して妊娠・出産できる環境整備を促進

- 妊娠・出産に関する支援が充実していると思う人の割合を**60%まで向上**



- 「プレコンセプションケア」に関する妊産婦の認知度を**45%まで向上**

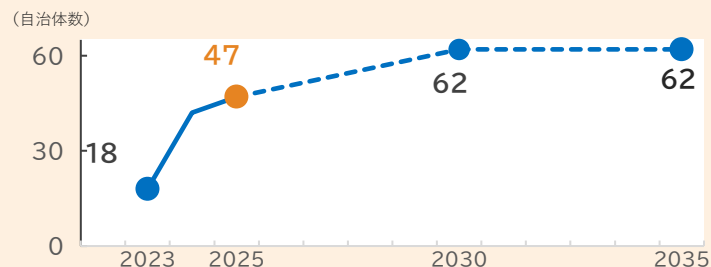


結婚・子育て支援策の取組状況

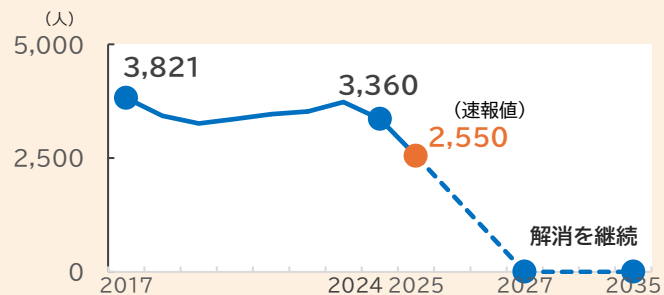
子育て期の支援

全ての子供・子育て家庭に対し、ライフステージを通じた切れ目ない支援を展開

- 保護者の就労等の有無に関わらず未就園児を保育所等で定期的に預かる取組を都内全域に展開し、支援を継続



- 学童の待機児童を2027年度末までに解消し、継続



住宅

子育て世帯等が安心して生活できる住宅確保策を推進

- 東京こどもすくすく住宅の認定戸数(集合住宅)※

10,000戸(2030年度)

適切な供給を促進(2035年度)

※東京都住宅政策審議会において検討

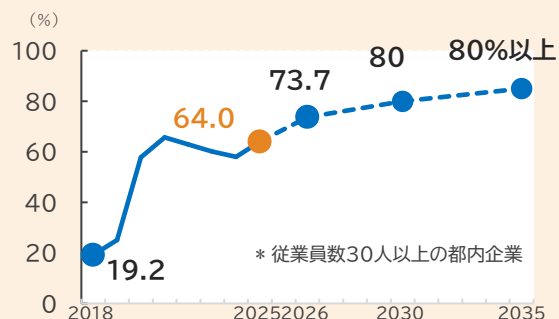


結婚・子育て支援策の取組状況

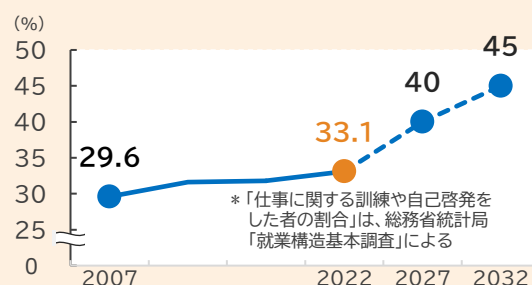
就労環境・雇用環境

- ✓ 若年層や子育て世帯の経済基盤を充実
- ✓ 望む人が安心して結婚、妊娠・出産、子育てできる労働環境の整備を促進

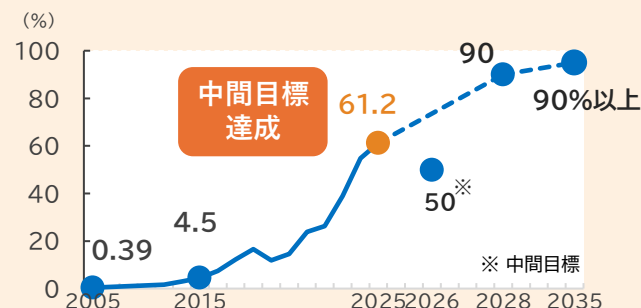
■ テレワーク導入率を80%以上とし、その状態を継続



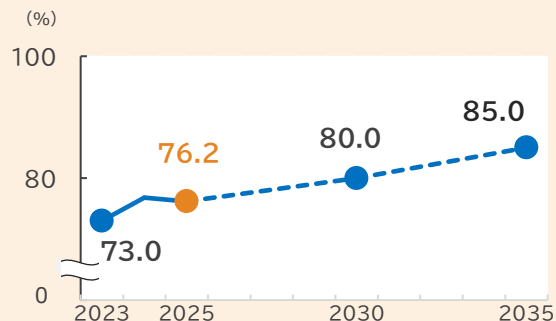
■ 過去1年間に仕事に関する訓練や自己啓発をした者の割合を45%に向上(2032年)



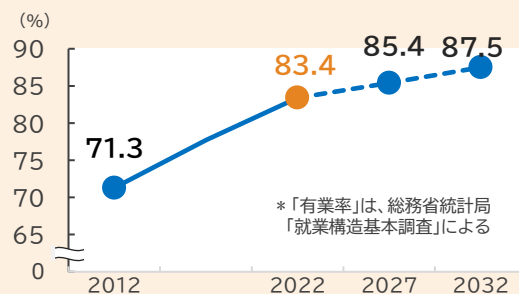
■ 男性の育児取得率を90%以上とし、その状態を継続



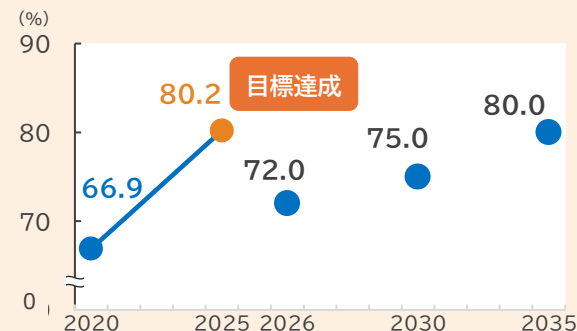
■ 都内企業における所定内給与額男女間格差を縮小



■ 女性(うち25歳～44歳)の有業率を87.5%に向上(2032年)



■ 「女性が活躍できると思う」割合を80%以上に向上



結婚・子育て支援策の取組状況

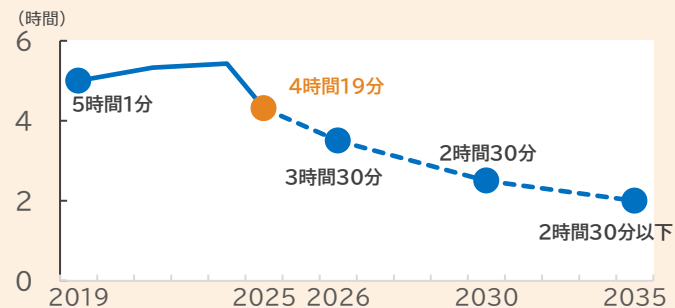
社会気運・環境整備

子供・子育てにやさしい社会づくりを推進

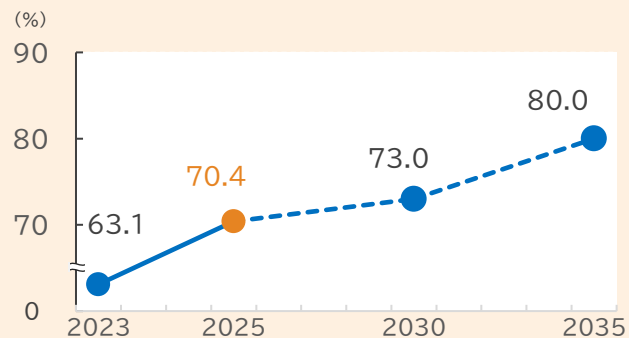
■ 子育てに関する先駆的・分野横断的な取組を 全区市町村に展開



■ 家事・育児関連時間の男女差を2時間30分以下とし、 その状態を継続



■ 家事・育児分担の満足度を80%以上に向上



■ 男性の育業取得率を90%以上とし、その状態を継続



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

調査対象:都内在住の若年層(18～29歳)及び子育て世代(30～49歳)の男女

〔アンケート〕

回答者数:計5,000人

*属性は東京都の人口配分を基準に割付

調査方法:オンライン調査

調査期間:令和8年4月17日～5月7日

〔グループインタビュー〕

回答者数:40人(5人×8グループ)

調査方法:対面調査

調査期間:令和8年5月16日～5月24日

〔個別インタビュー〕

回答者数:30人

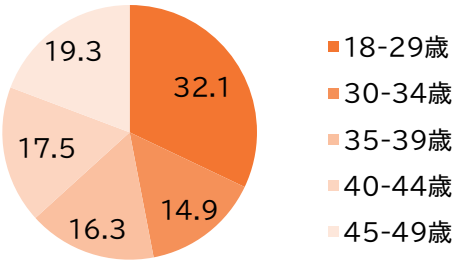
調査方法:対面調査(オンライン形式含む)

調査期間:令和8年6月20日～6月30日

調査概要

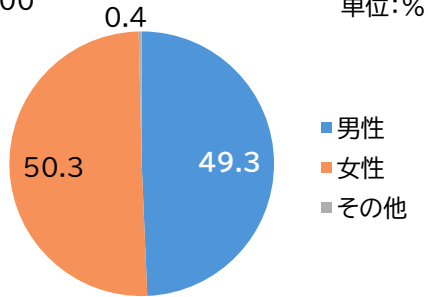
FQ1 あなたのご年齢をご回答ください。

n=5,000



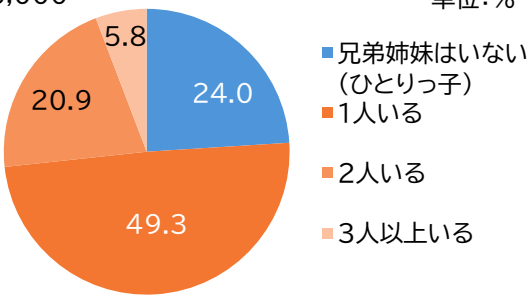
FQ2 あなたの性別をご回答ください。(SA)

n=5,000



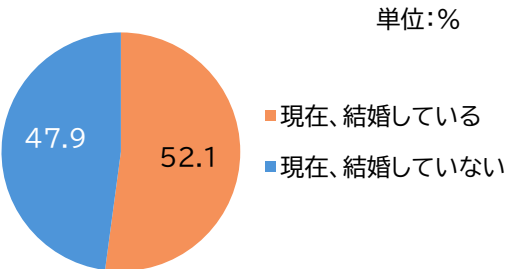
SC3 あなたには、兄弟姉妹がいますか。(SA)

n=5,000



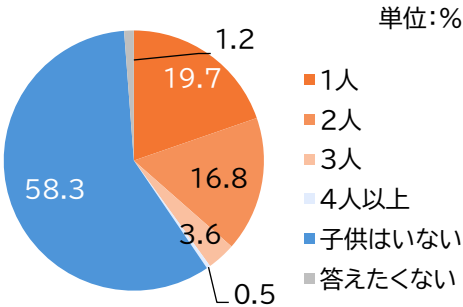
SC1 あなたは現在、結婚していますか。
(ここでの「結婚」は事実婚・パートナーシップ関係を含みます。)(SA)

n=5,000



SC2 あなたの子供の人数(妊娠中の子供を含む)に当てはまるものをお選びください。(SA)

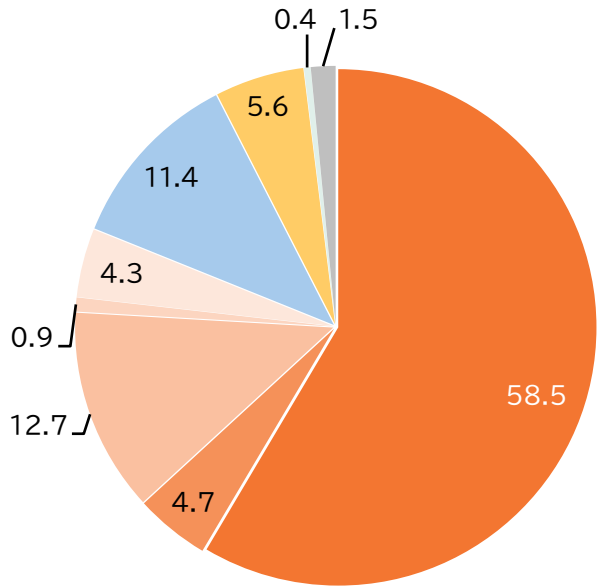
n=5,000



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q1_2 あなたの現在の働き方をお選びください。
※現在、産休・育児休業中の方は、「休業に入る前の働き方」をお選びください。(SA)

n=5,000 単位: %

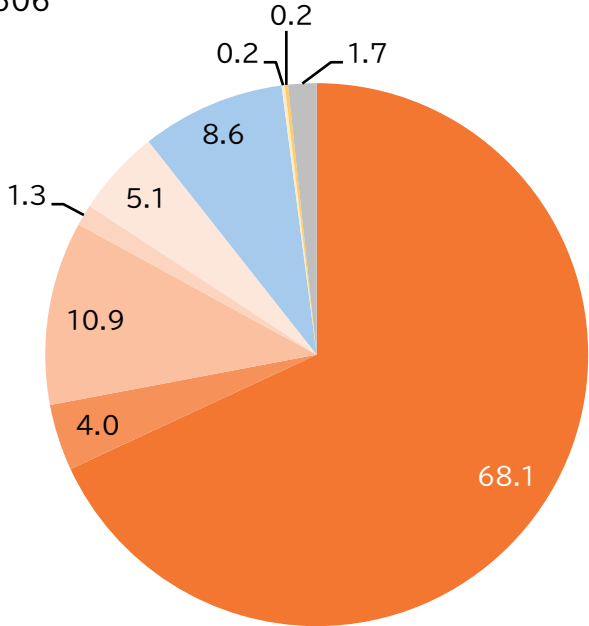


- 正規の社員・職員
- パート・アルバイト
- 自営業主・家族従業者・内職
- 学生
- 答えたくない
- 派遣・嘱託・契約社員
- 会社役員・その他法人団体の役員
- 無職・家事
- その他

Q13_2 今のあなたの配偶者(パートナー)の現在の働き方をお選びください。
※現在、産休・育児休業中の方は、「休業に入る前の働き方」をお選びください。(SA)

既婚者

n=2,606 単位: %



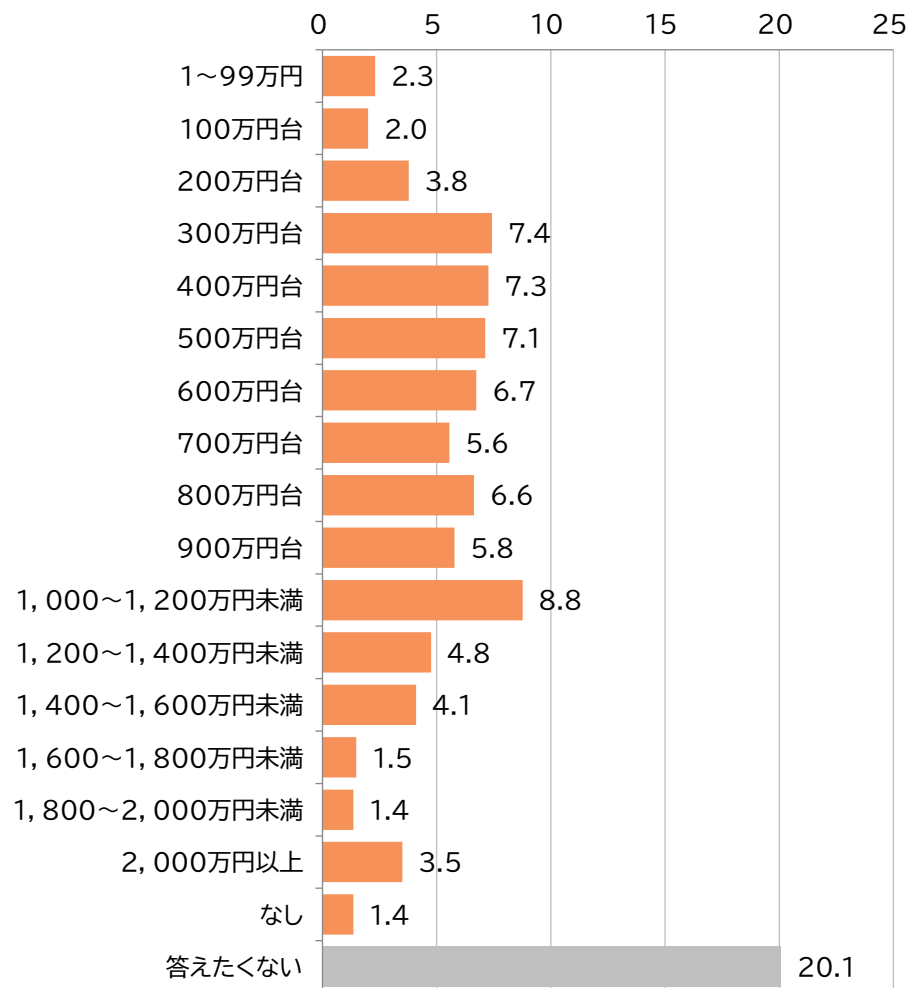
- 正規の社員・職員
- パート・アルバイト
- 自営業主・家族従業者・内職
- 学生
- 答えたくない
- 派遣・嘱託・契約社員
- 会社役員・その他法人団体の役員
- 無職・家事
- その他

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q2_1 あなたの世帯年収について、最も近いものをお選びください。
(SA)

n=5,000

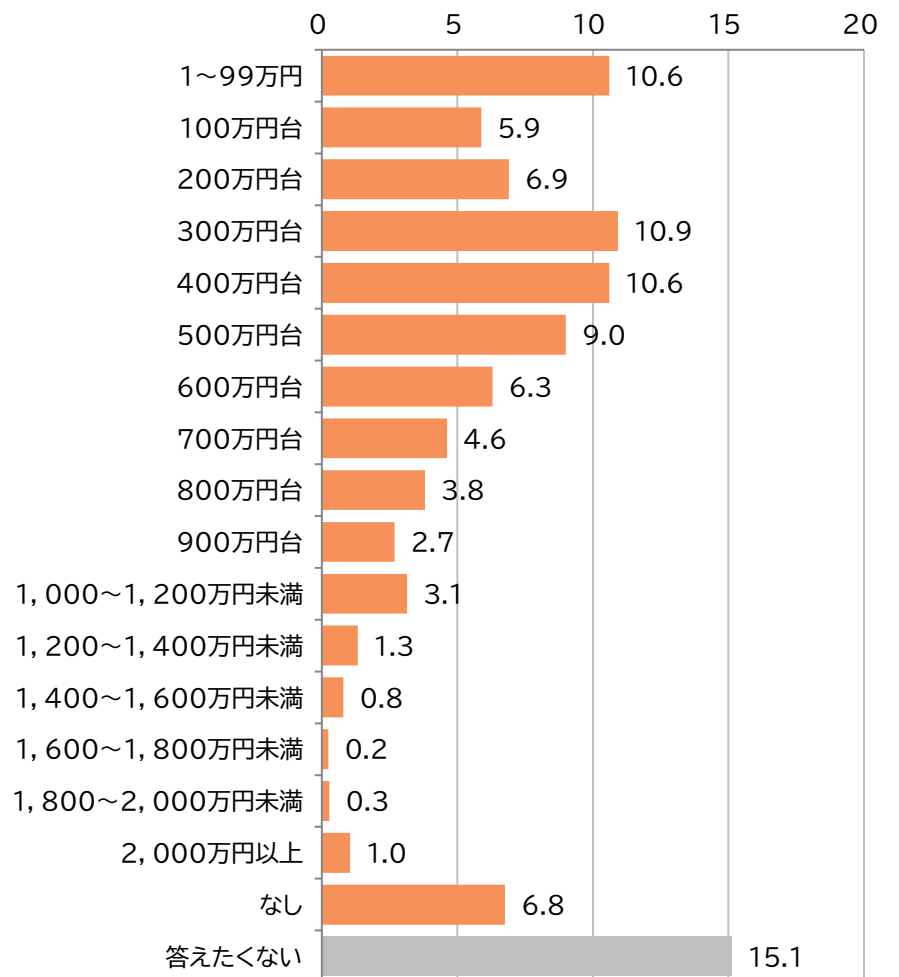
単位: %



Q2_2 あなたご自身の年収について、最も近いものをお選びください。
※現在、産休・育児休業中の方は、休業に入る前の年収を目安にお答えください。(SA)

n=5,000

単位: %

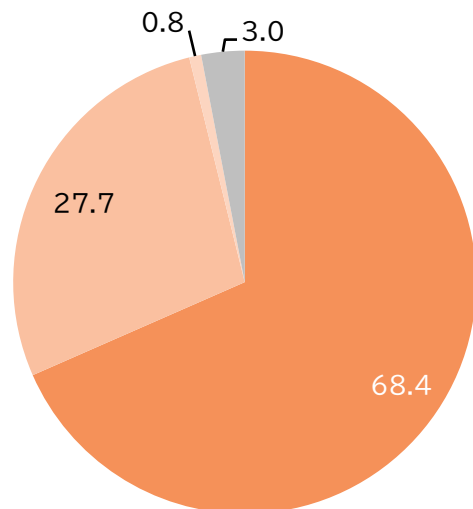


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q3 あなたの住んでいる地域に当てはまるものをお選びください。(SA)

n=5,000

単位: %

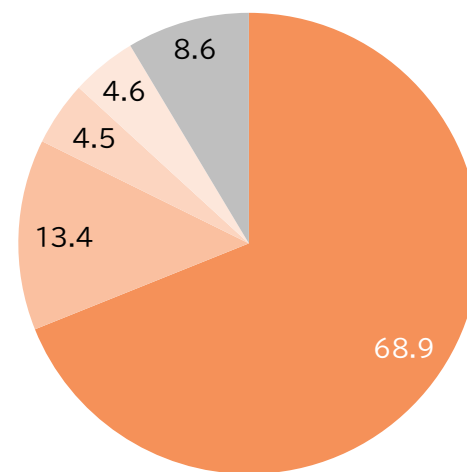


■ 区部 ■ 市部 ■ 町村部 ■ 答えたくない

Q7 あなたは、現在、住んでいる地域に今後も住み続けたいと考えていますか。当てはまるものをお選びください。(SA)

n=5,000

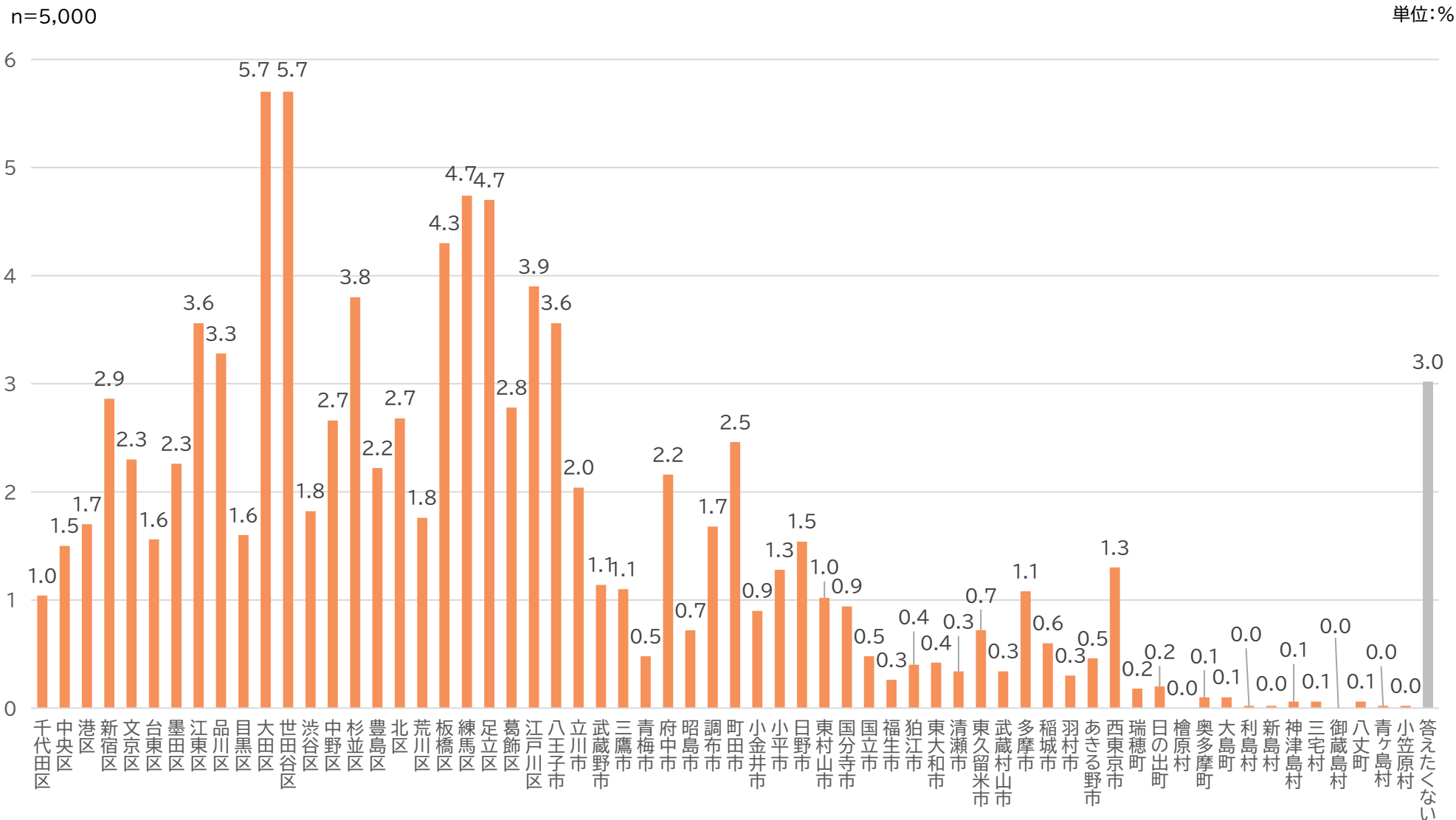
単位: %



■ 現在、住んでいる地域に住み続けたい
 ■ 都内の別の地域へ転居したい
 ■ 近隣県(埼玉県・千葉県・神奈川県)へ転居したい
 ■ 都内・近隣県以外へ転居したい
 ■ 答えたくない

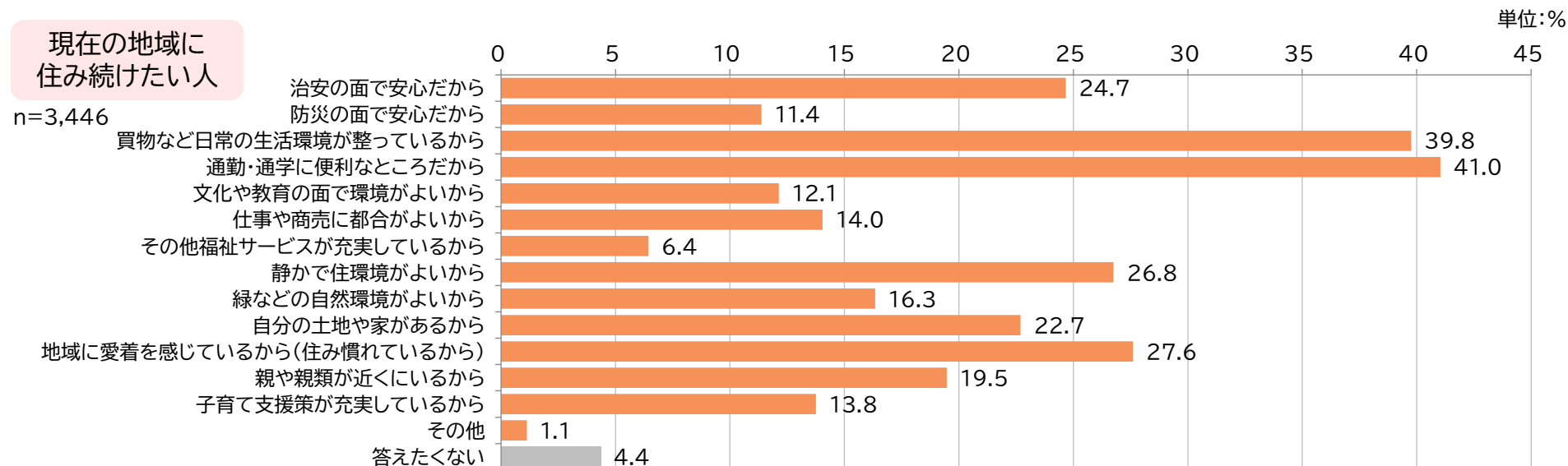
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q4_6 あなたの住んでいる区/市/町村に当てはまるものをお選びください。(SA)

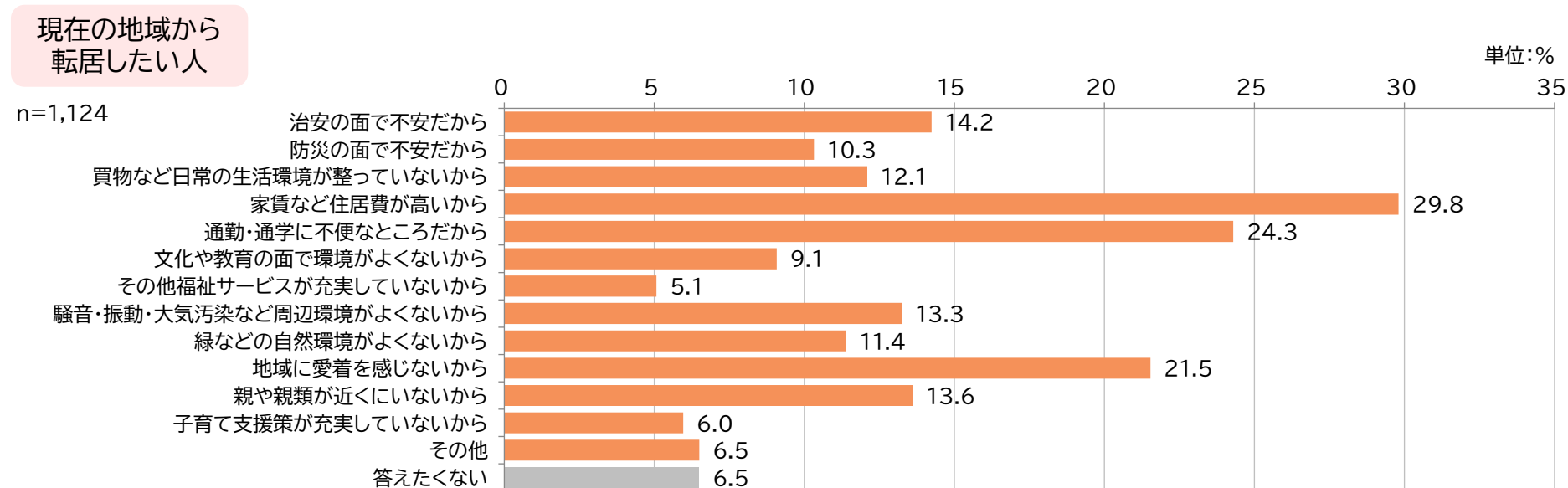


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q8 現在、住んでいる地域に住み続けたいと考える理由として、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

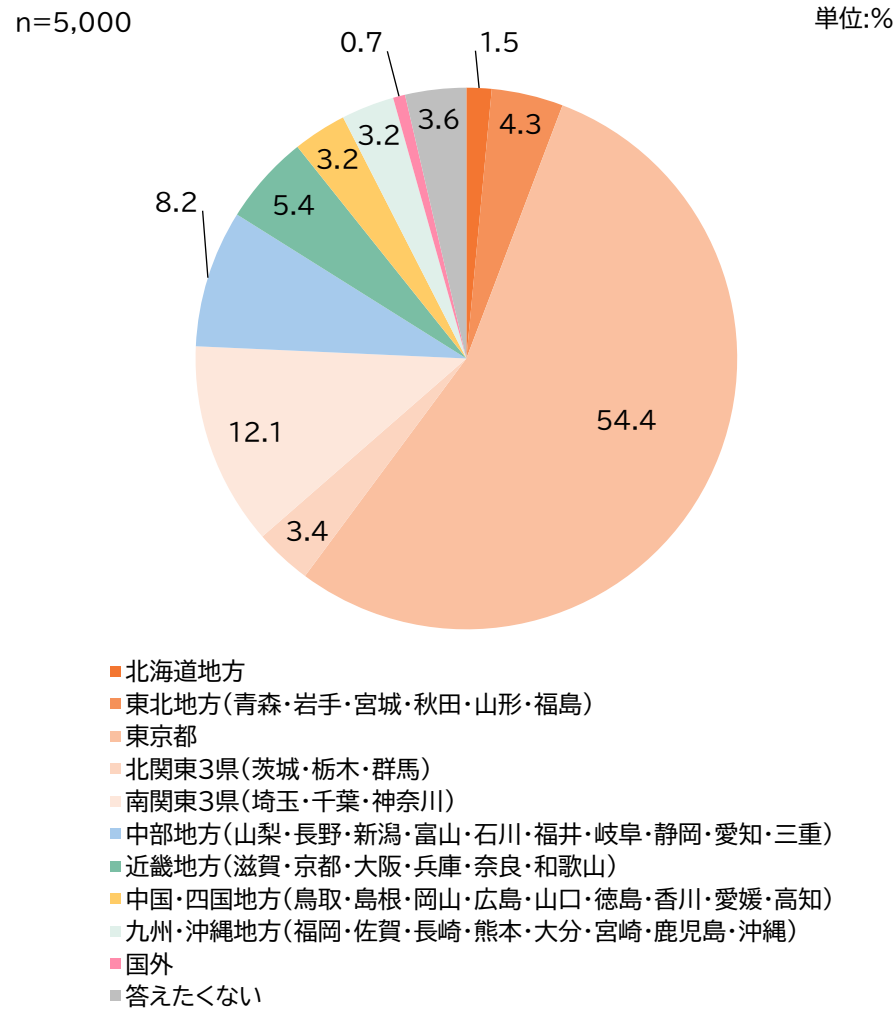


Q9 現在、住んでいる地域から転居したいと考える理由として、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

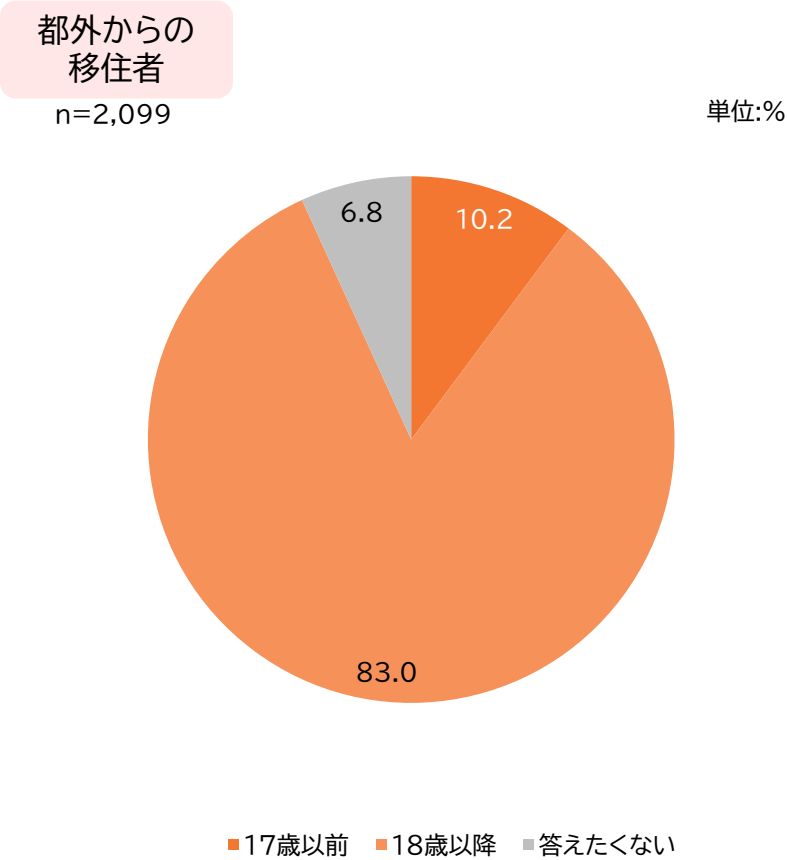


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q10 あなたが18歳になるまでの間で最も長く過ごした地域に当てはまるものをお選びください。(SA)



Q11 あなたが東京都に移住した年齢をお答えください。
(18歳以降も、都内外の移動を複数回されている場合は、18歳以降初めて移住した年齢をお答えください。)(SA)



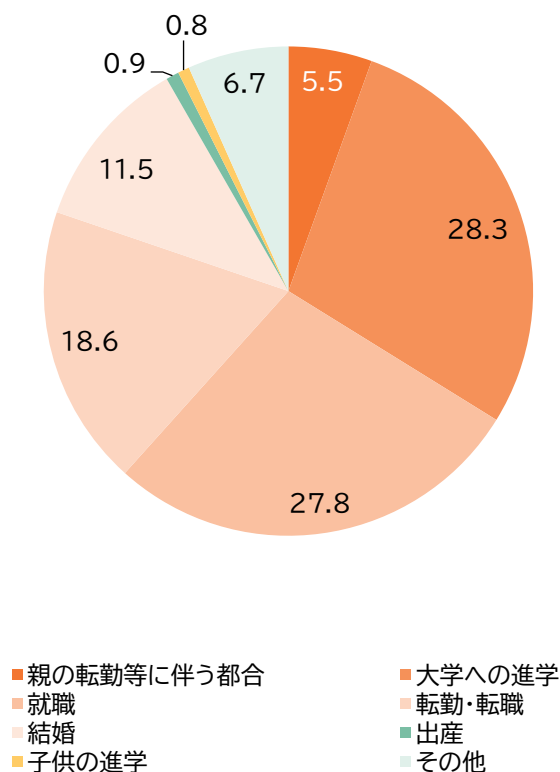
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q12 あなたが東京都に移住した理由をお答えください。(SA)

都外からの
移住者

n=2,099

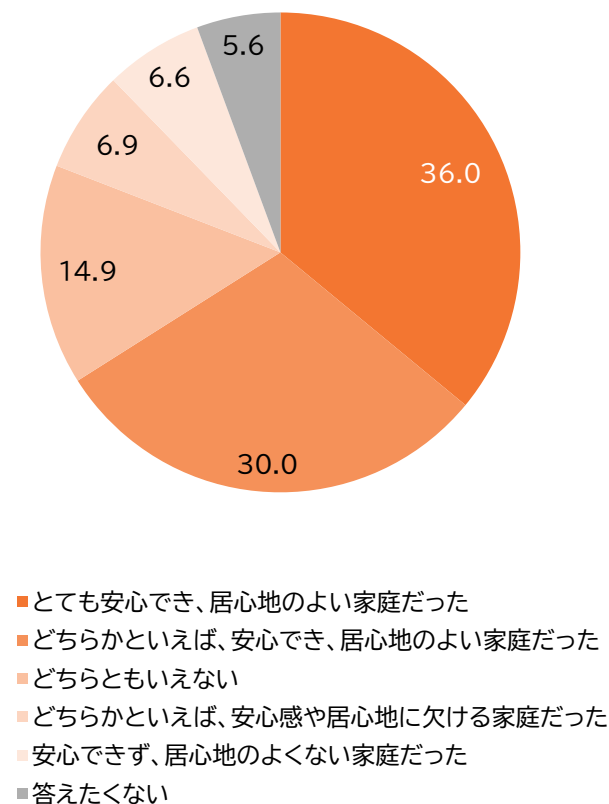
単位:%



SQ14 あなたが18歳頃までに過ごした家庭環境について、最も近いものをお選びください。(SA)

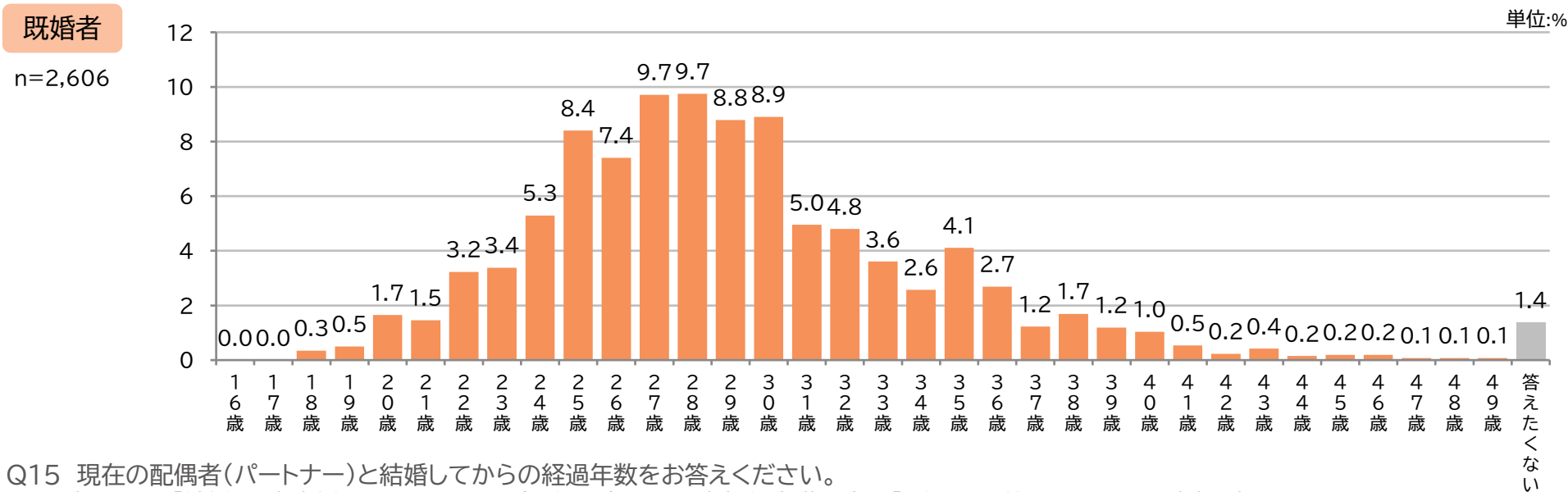
n=5,000

単位:%

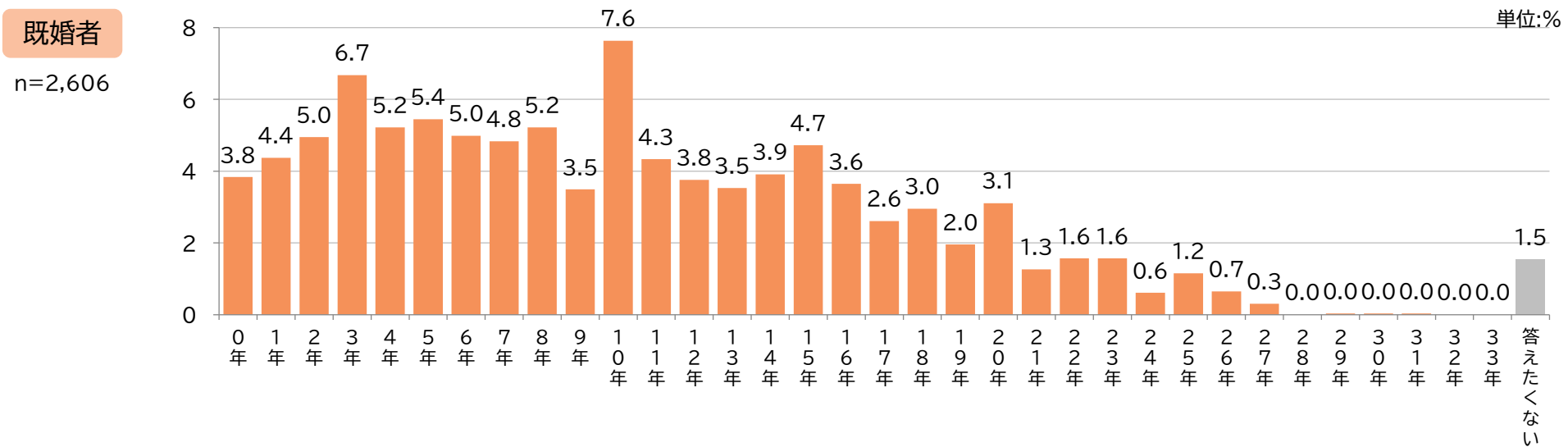


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q14 あなたが最初に結婚した時の年齢をお答えください。(ここでの「結婚」は事実婚・パートナーシップ関係を含みます。)(SA)



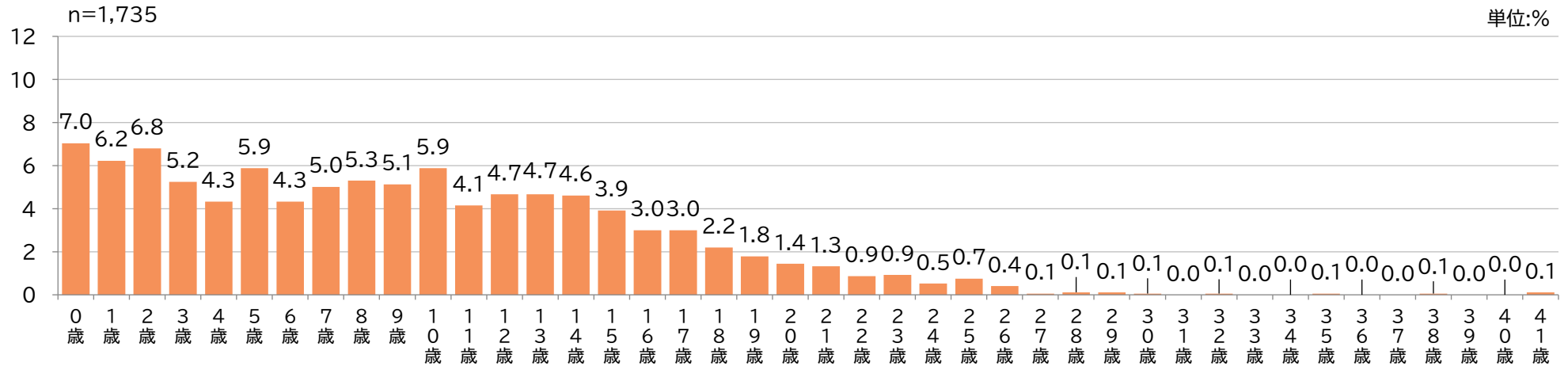
Q15 現在の配偶者(パートナー)と結婚してからの経過年数をお答えください。
(ここでの「結婚」は事実婚・パートナーシップ関係を含みます。)(1年未満の方は「0年」と回答してください。)(SA)



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

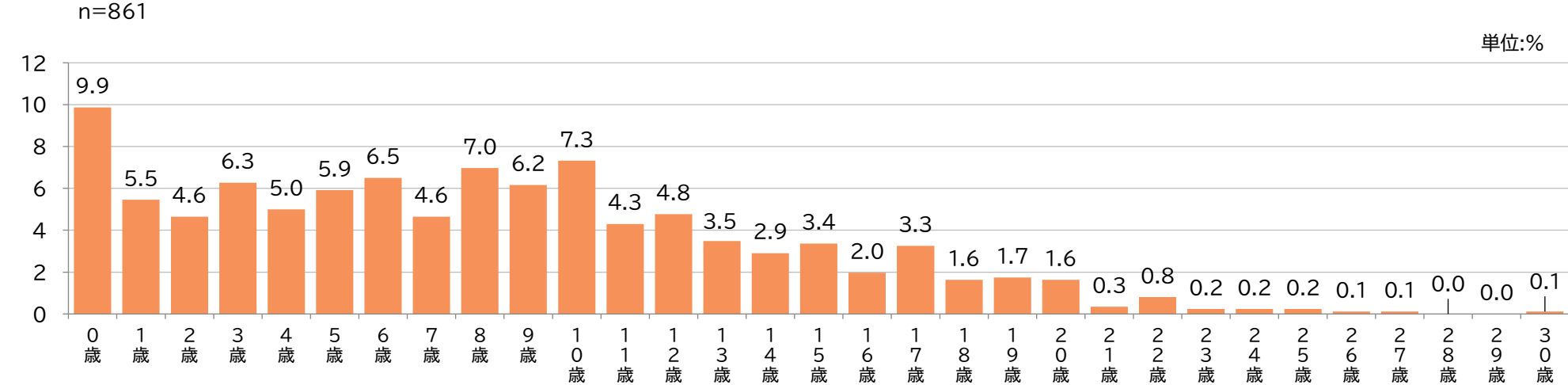
Q17_1 現在のお子さんの年齢をそれぞれお答えください。(第1子の年齢)
(現在妊娠中のお子さんに関しては、0とお答えください。)

子供がいる人



Q17_2 現在のお子さんの年齢をそれぞれお答えください。(第2子の年齢)
(現在妊娠中のお子さんに関しては、0とお答えください。)

子供がいる人
(2人以上)

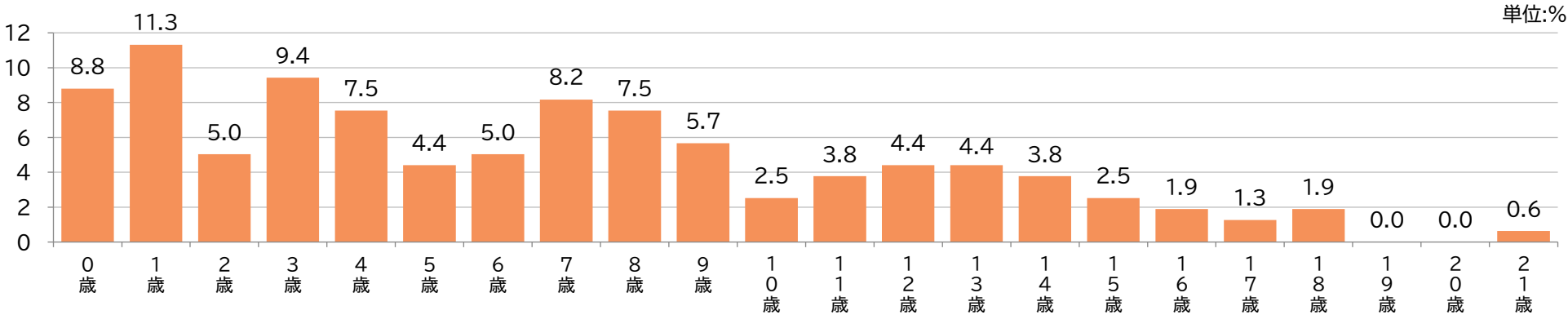


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q17_3 現在のお子さんの年齢をそれぞれお答えください。(第3子の年齢)
(現在妊娠中のお子さんに関しては、0とお答えください。)

子供がいる人
(3人以上)

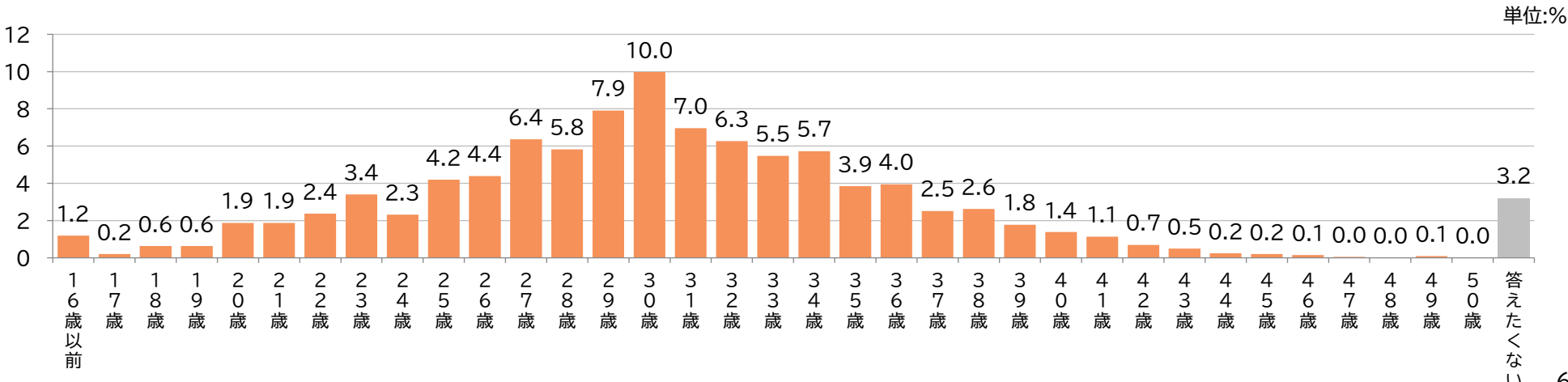
n=159



Q18 1人目のお子さんが生まれた時のあなたの年齢をお答えください。(SA)
(現在、1人目のお子さんをご自身又はパートナーが妊娠中の方は、出産予定日時点の年齢をお答えください。)

子供がいる人

n=2,025

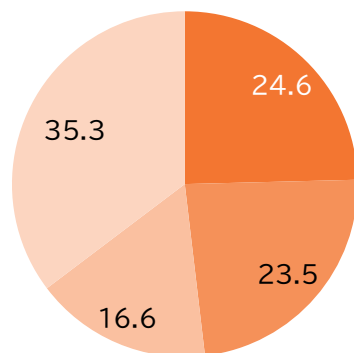


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q19 あなたの子供を持つことに対するお考えについて最も近いものをお選びください。(SA)

子供がいない人

n=2,915



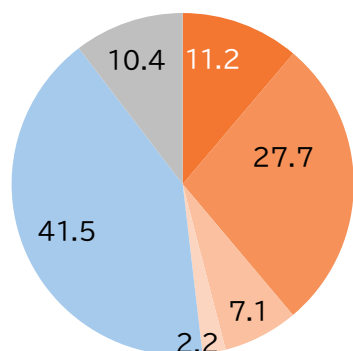
単位:%

- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない
- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない
- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない
- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない

Q20 あなたにとって、将来的に希望する子供の数は何人ですか。(SA)

未婚者

n=2,394



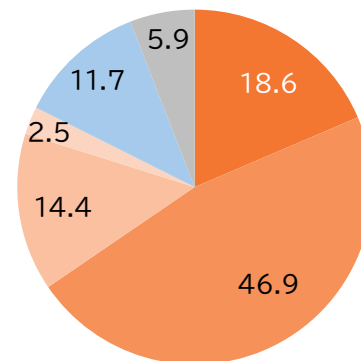
単位:%

- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない

Q21 あなた方ご夫婦にとっての理想的な子供の数は何人ですか。(SA)

既婚者

n=2,606



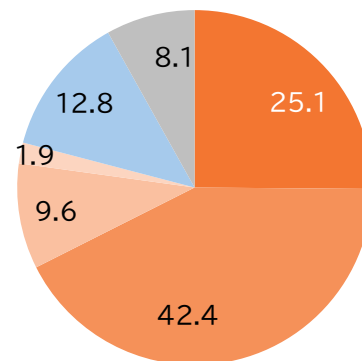
単位:%

- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない ■ 答えたくない

Q22 あなた方ご夫婦にとっての予定の子供の数は何人ですか。(SA)

既婚者

n=2,606



単位:%

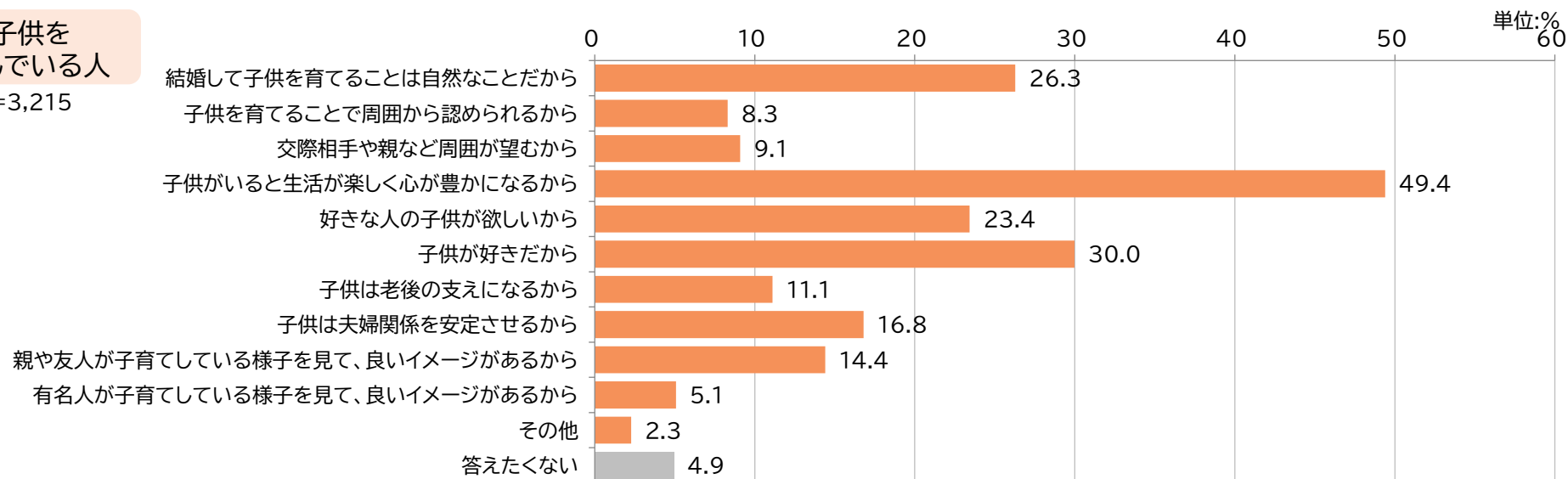
- 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 子供を欲しいとは思わない/子供を持つ予定はない ■ 答えたくない

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q23 予定の(希望する)子供の数を1人以上とお考えになる理由について、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

子供を
望んでいる人

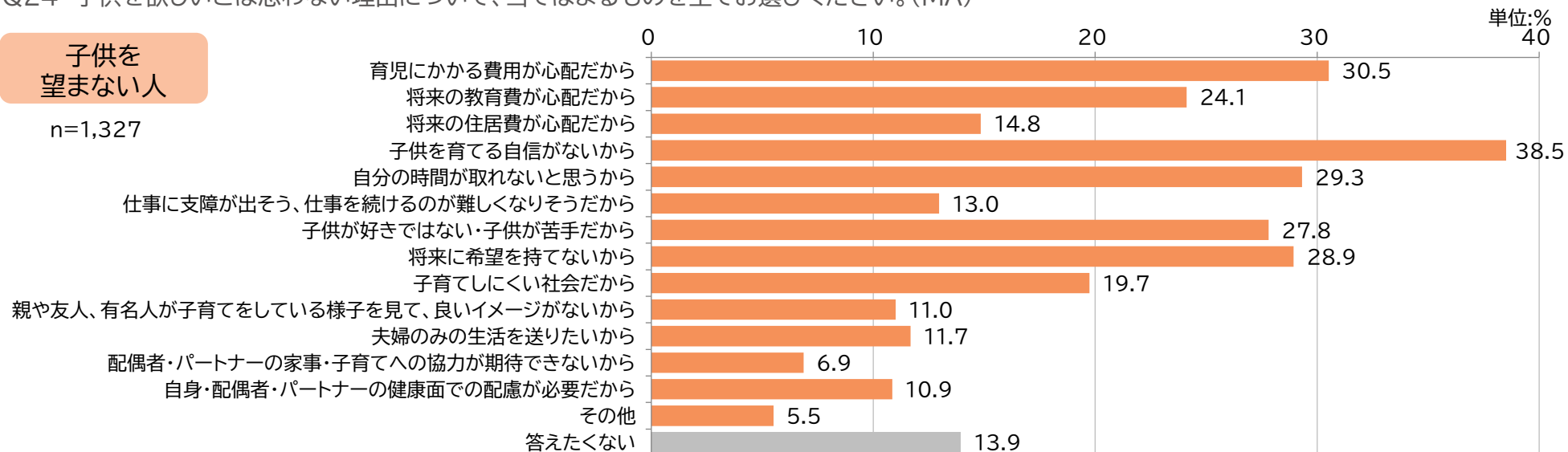
n=3,215



Q24 子供を欲しいとは思わない理由について、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

子供を
望まない人

n=1,327

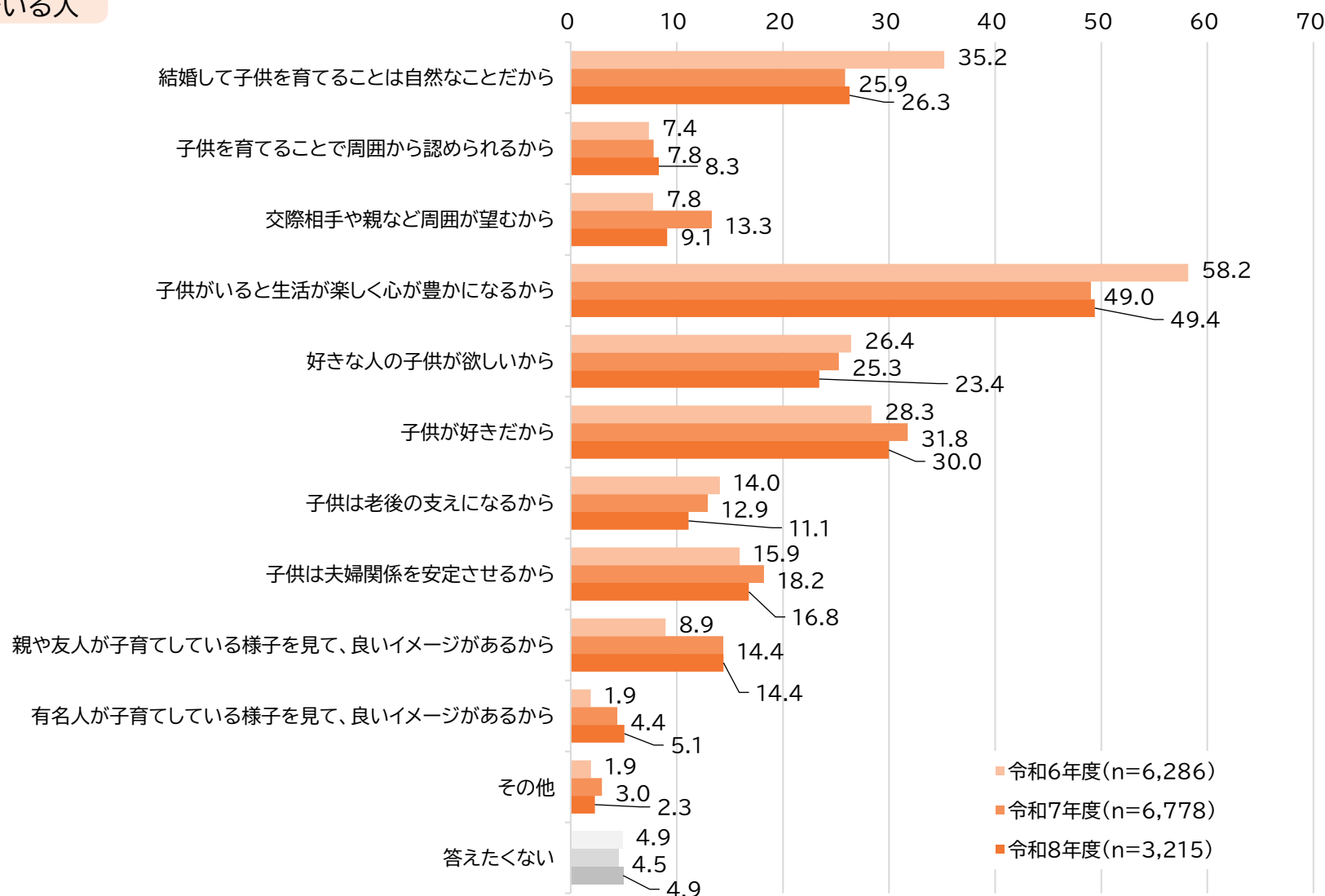


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q23 予定の(希望する)子供の数を1人以上とお考えになる理由について、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

子供を
望んでいる人

単位:%

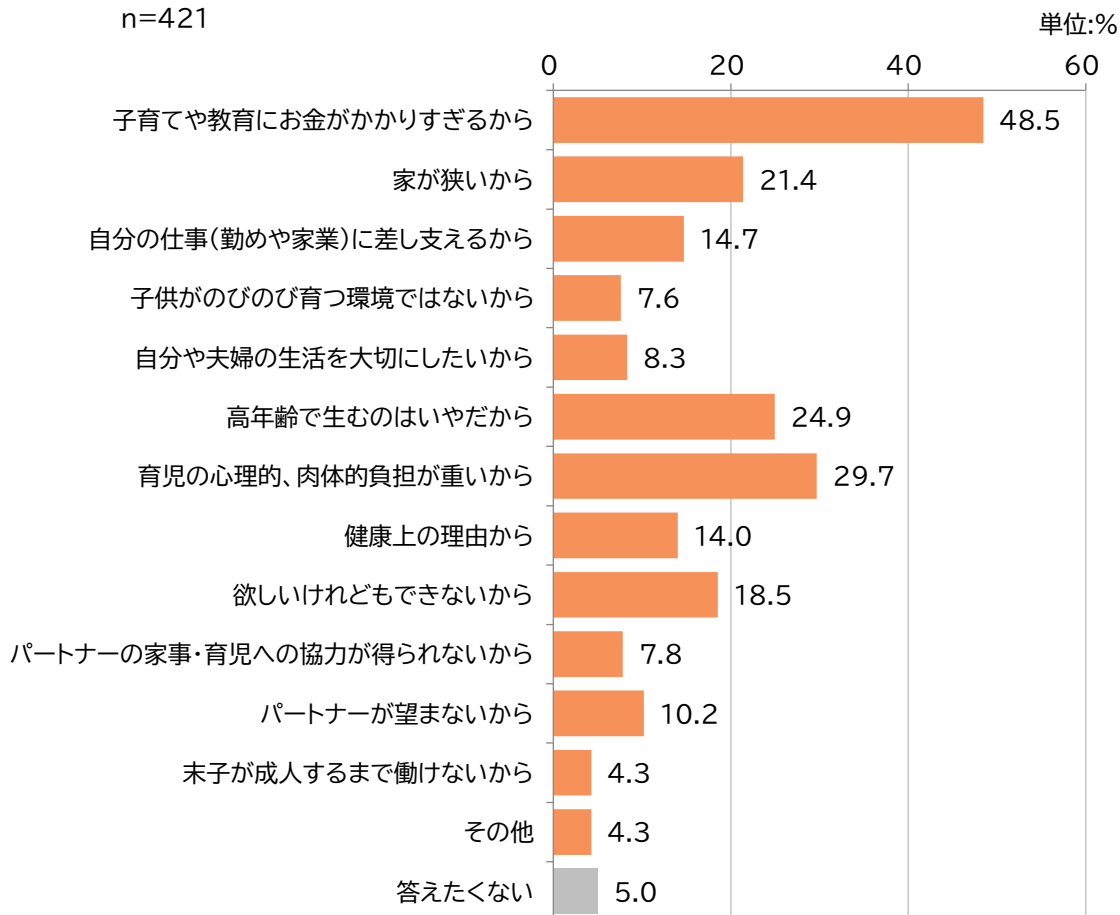


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q25 予定の子供の数が、理想的な子供の数より少ない理由として当てはまるものを全てお選びください。(MA)

予定の子供の数が
理想より少ない人

n=421

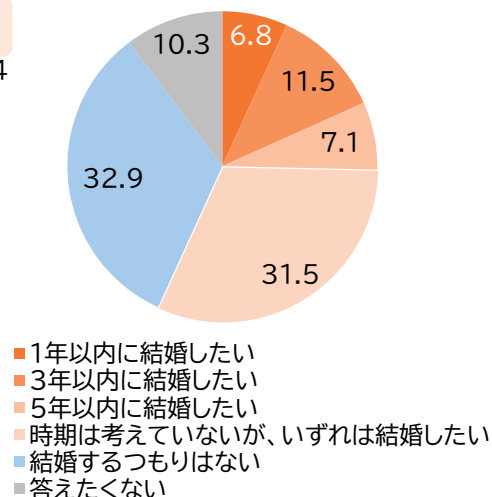


Q26 あなたは結婚に対してどのような考えをお持ちでしょうか。(SA)

未婚者

n=2,394

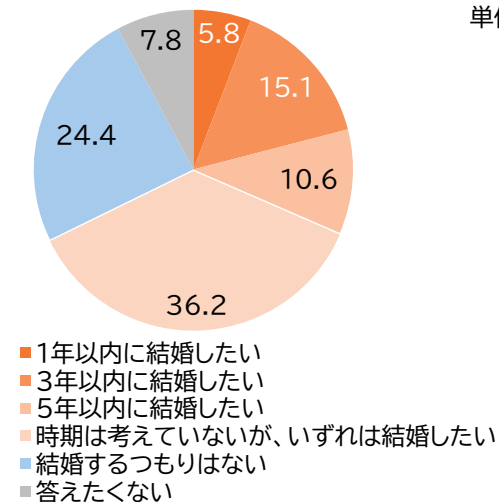
単位:%



未婚者・
若年層・子なし

n=1,250

単位:%



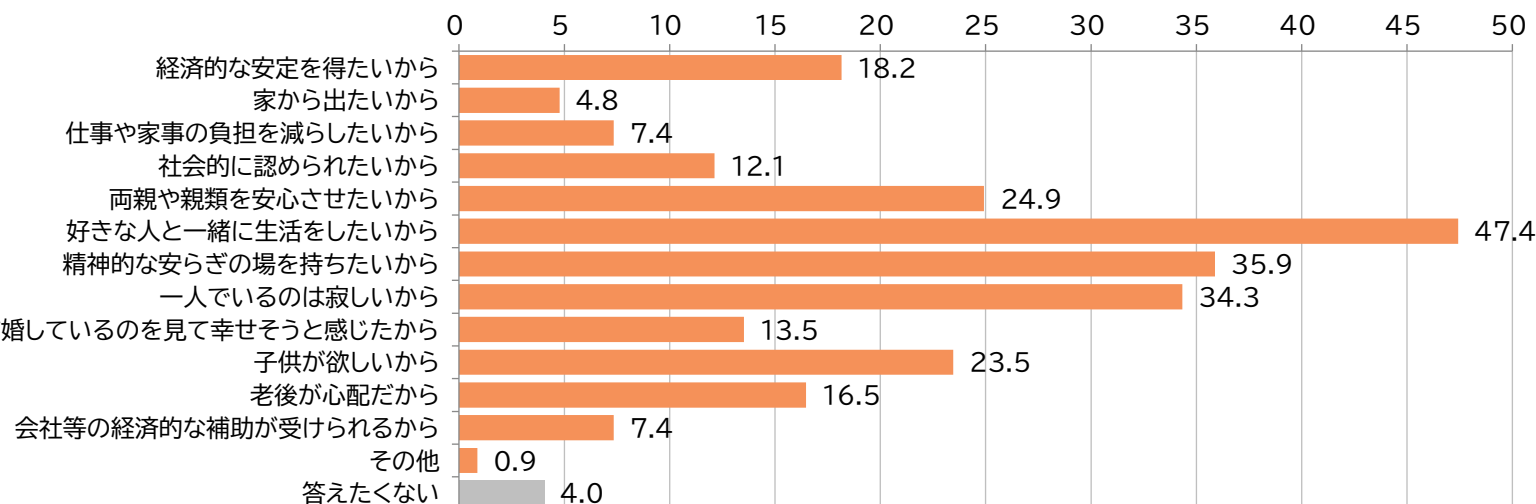
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q27 結婚したいと思う理由について、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

単位:%

未婚者・
結婚願望あり

n=1,360

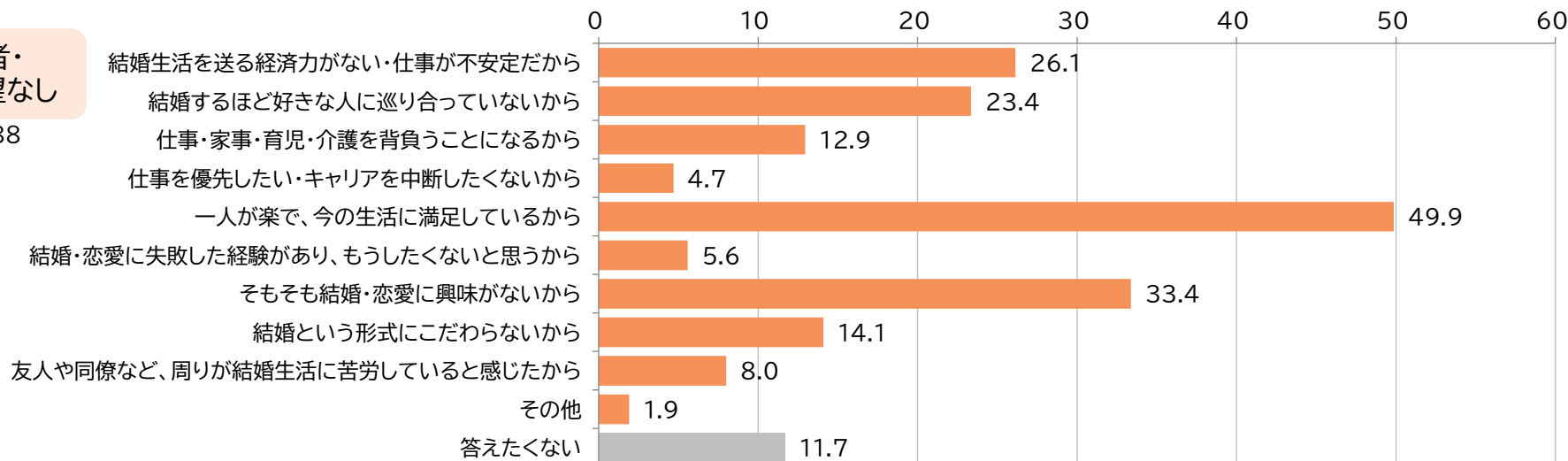


Q28 結婚するつもりはないと思う理由について、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

単位:%

未婚者・
結婚願望なし

n=788



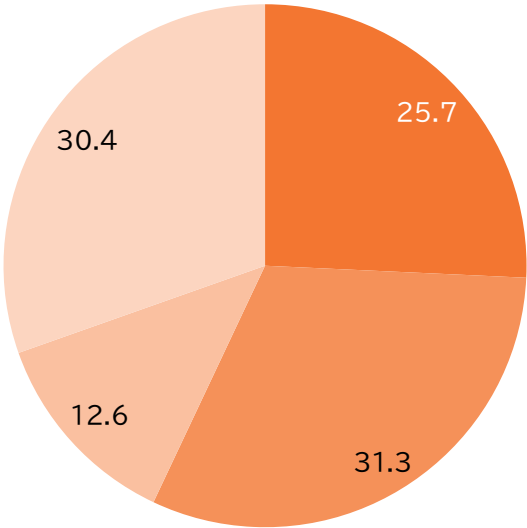
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q29 あなたの結婚に対するお考えについて最も近いものをお選びください。(SA)

Q30 あなたの交際経験(恋人との交際)として当てはまるものをお選びください。(SA)

未婚者
n=2,394

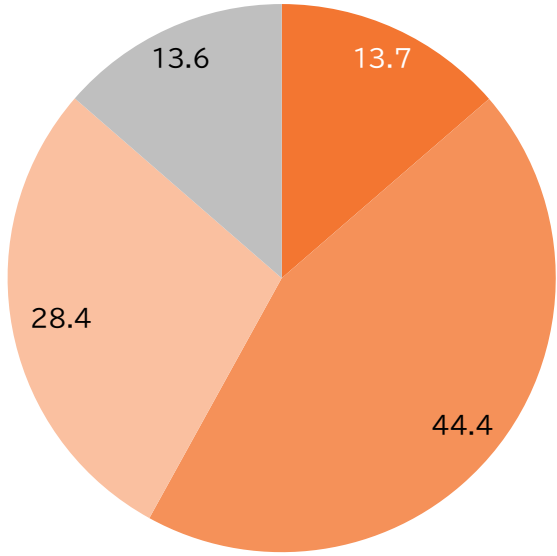
単位:%



- 1人との交際経験がある
- 複数人との交際経験がある
- 交際したことがない
- 答えたくない

未婚者
n=2,394

単位:%



- 1人との交際経験がある
- 複数人との交際経験がある
- 交際したことがない
- 答えたくない

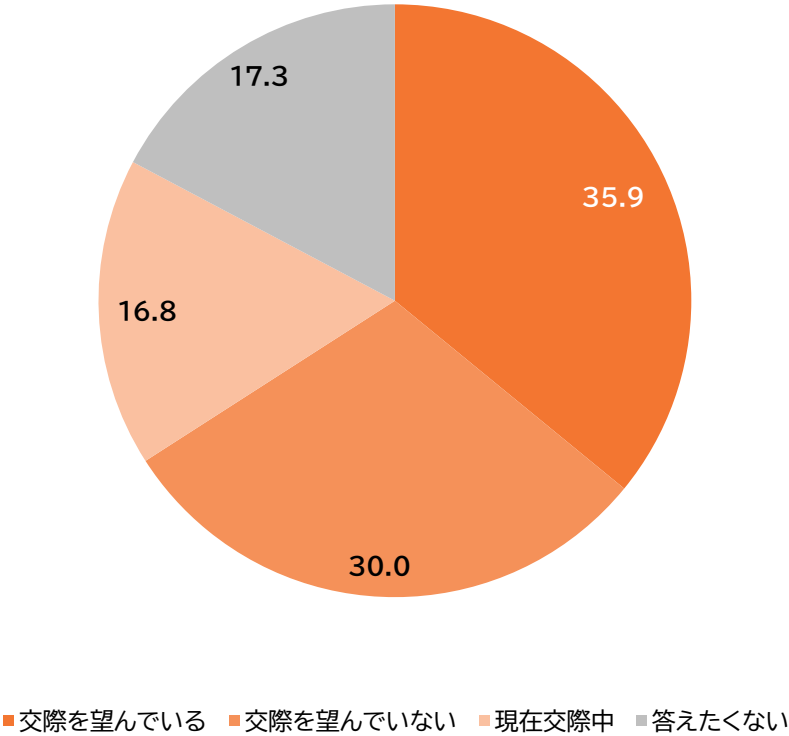
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q31 あなたは恋人との交際を望んでいますか。(SA)

未婚者

n=2,394

単位:%

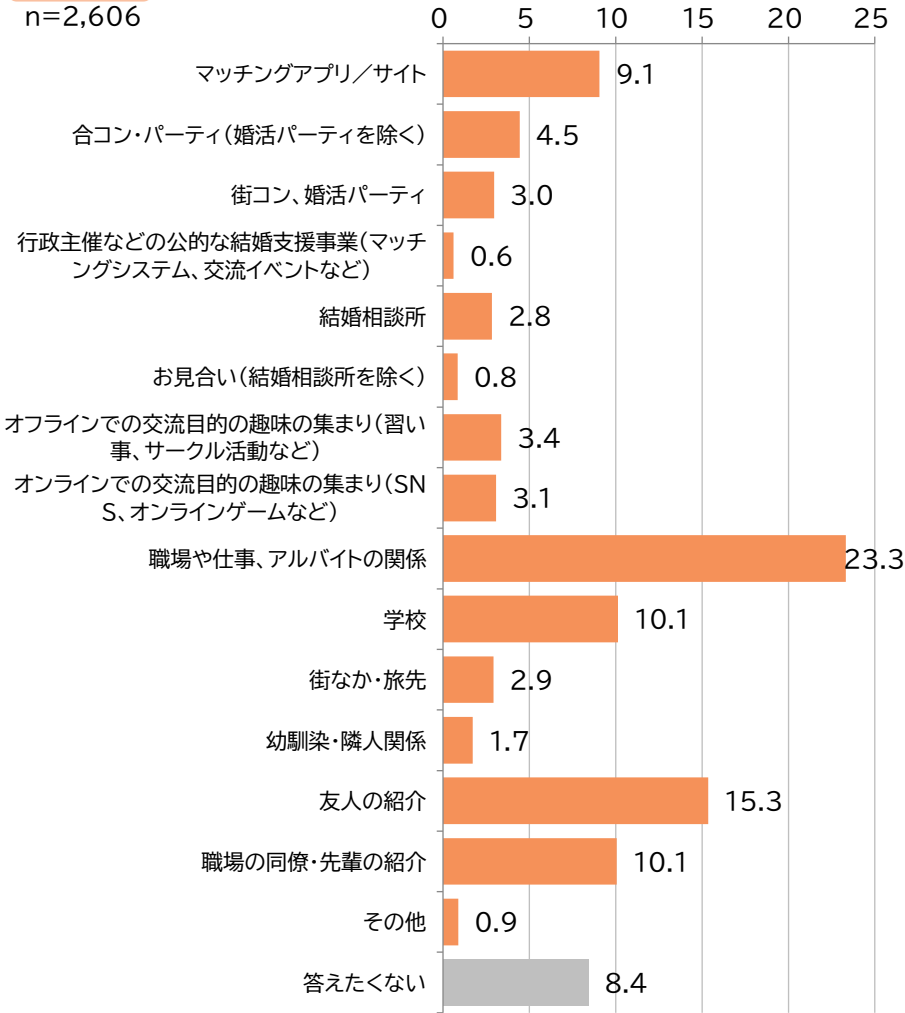


Q32 配偶者・パートナーとどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。(SA)

既婚者

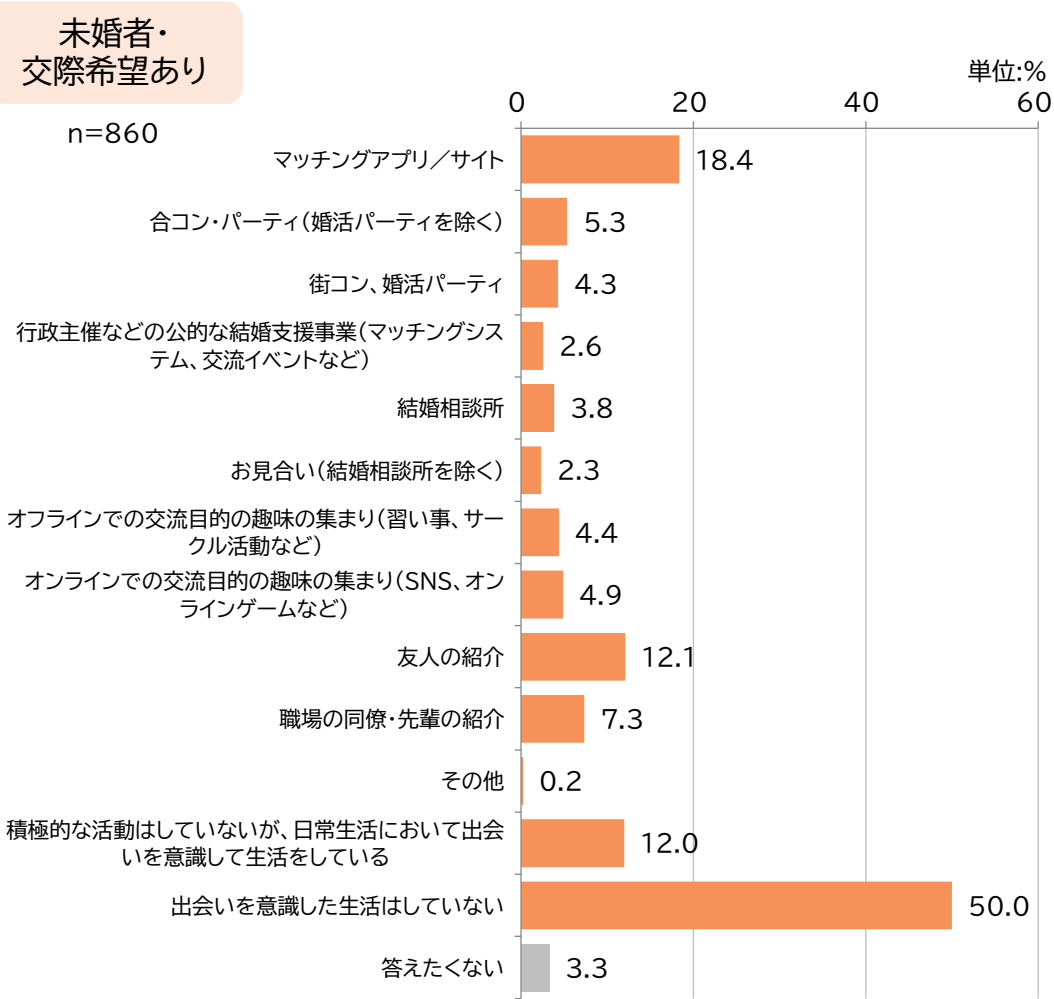
n=2,606

単位:%

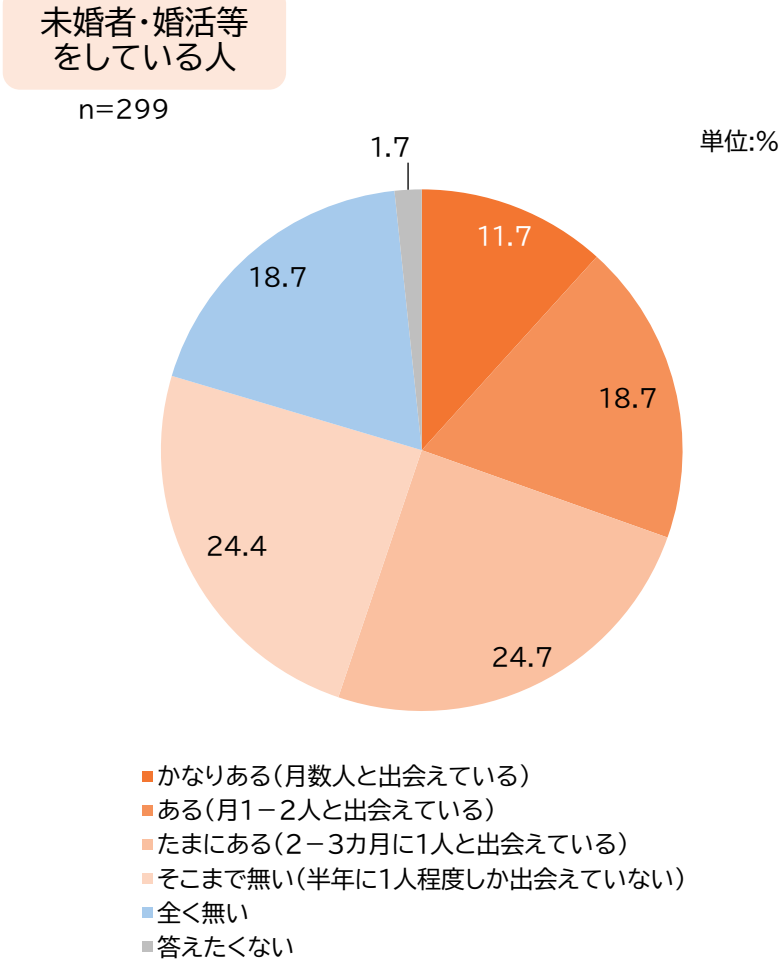


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q33 現在、結婚相手・交際相手を見つけることを目的とした活動を行っていますか。行っている場合は、実施している活動を全てお選びください。(MA)



Q34 現在実施している活動を通して、交際相手となりうる人との出会いはありましたか。(SA)



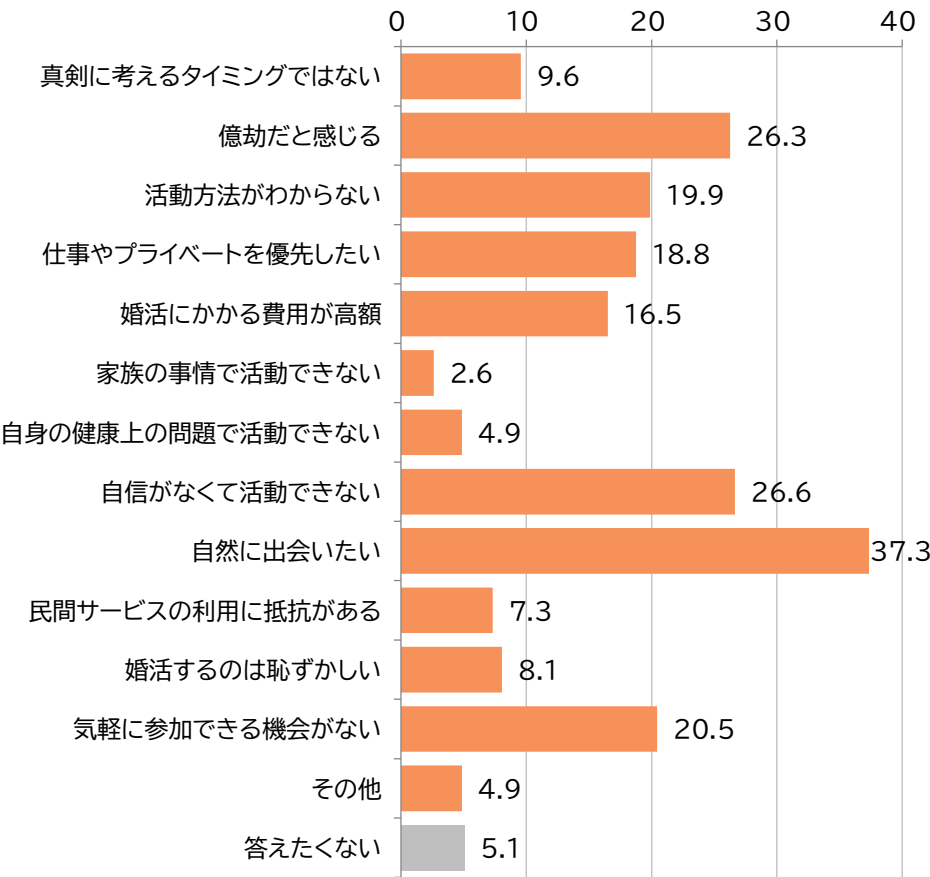
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q35 結婚相手・交際相手を見つけることを目的とした活動を行っていない理由として当てはまるものを全てお選びください。(MA)

未婚者・婚活等
していない人

n=533

単位:%

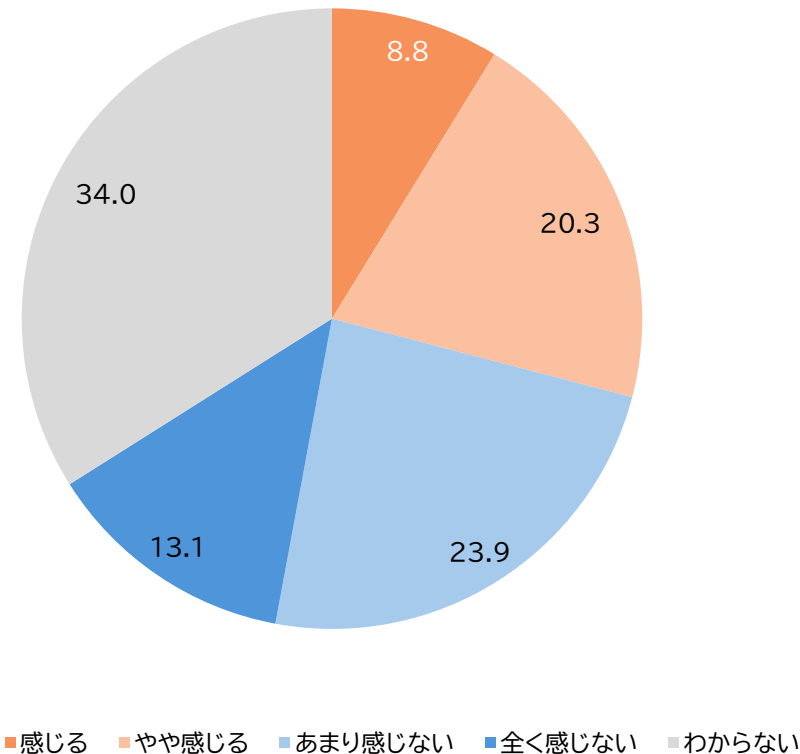


Q36 東京都は婚活がしやすい環境が整っていると感じますか。(SA)

未婚者

n=2,394

単位:%

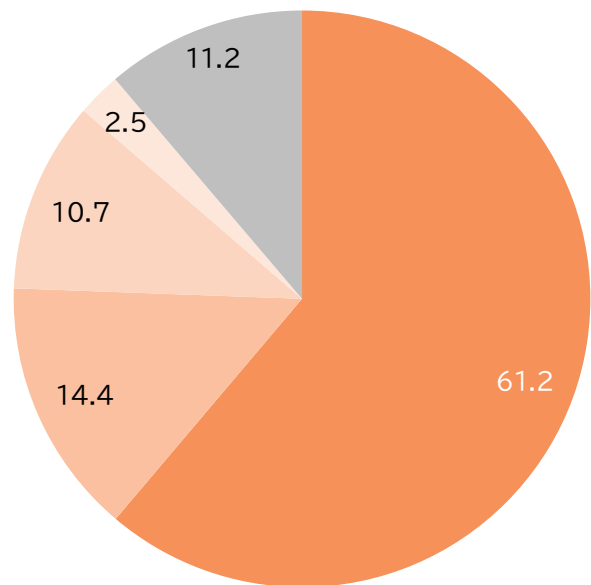


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q37 あなたは、不妊を心配した経験や不妊治療の経験はありますか。(SA) Q38 東京都は安心して出産できる環境が整っていると感じますか。(SA)

n=5,000

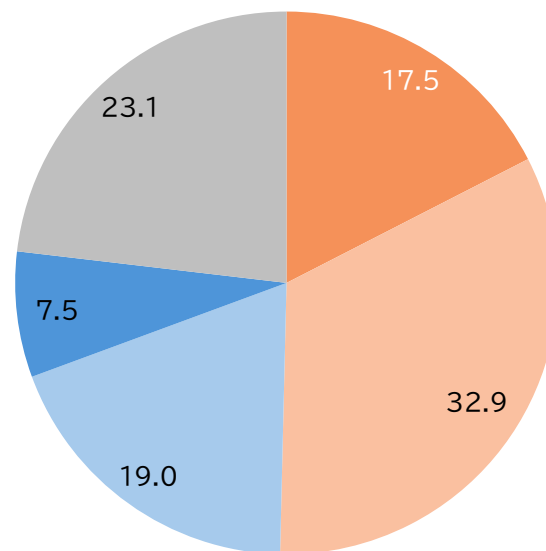
単位:%



- 特に心配した／していることはない
- 心配した／しているが、特に医療機関にかかったことはない
- 過去に検査や治療を受けたことがある
- 現在、検査や治療を受けている
- 答えたくない

n=5,000

単位:%

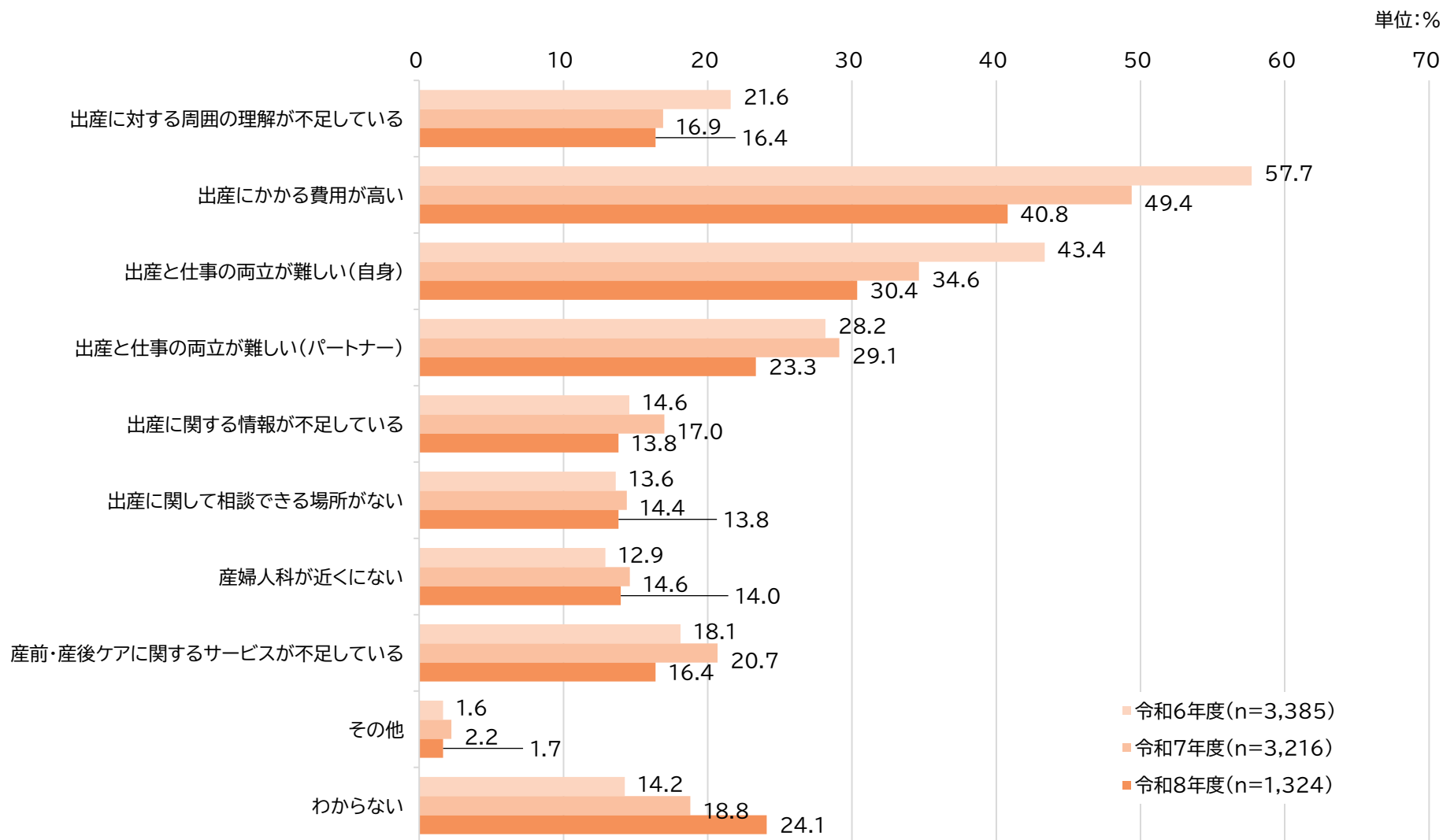


- 感じる
- やや感じる
- あまり感じない
- 全く感じない
- わからない

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q39 安心して出産ができる環境が整っていないと感じる理由として当てはまるものを全てお選びください。(MA)

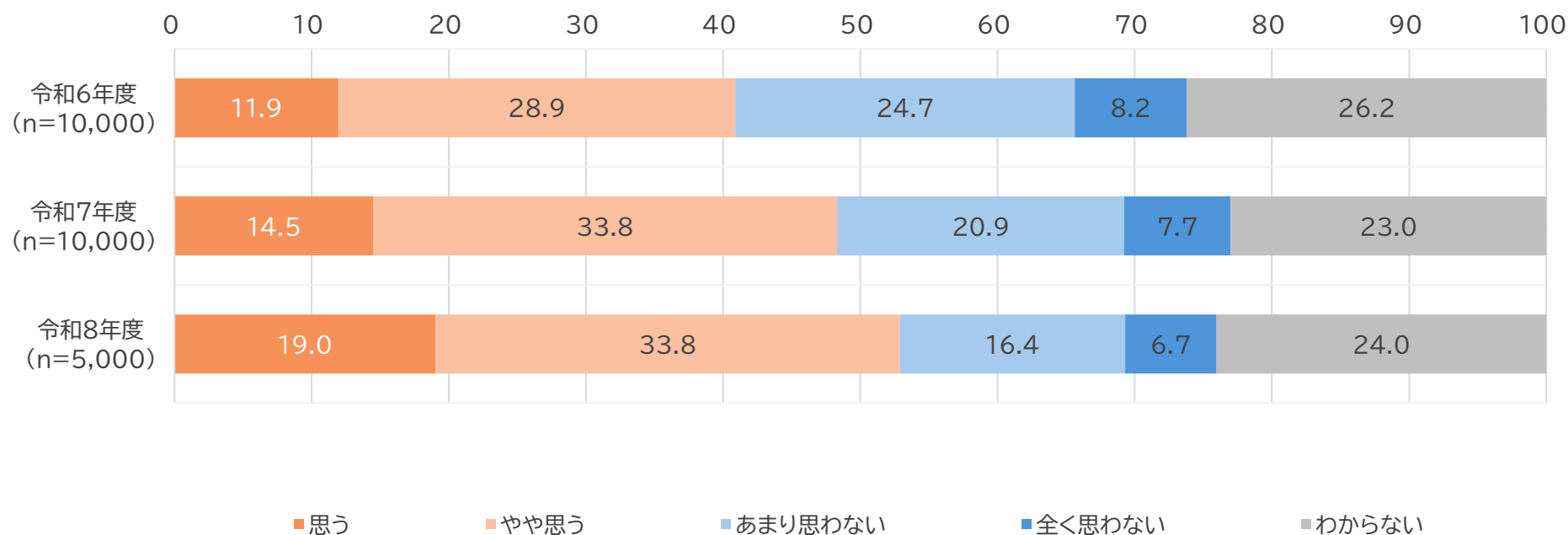
出産環境が整っていないと感じる人



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q40 東京都は、子供・子育て支援の施策が充実していると思いますか。(SA)

単位:%

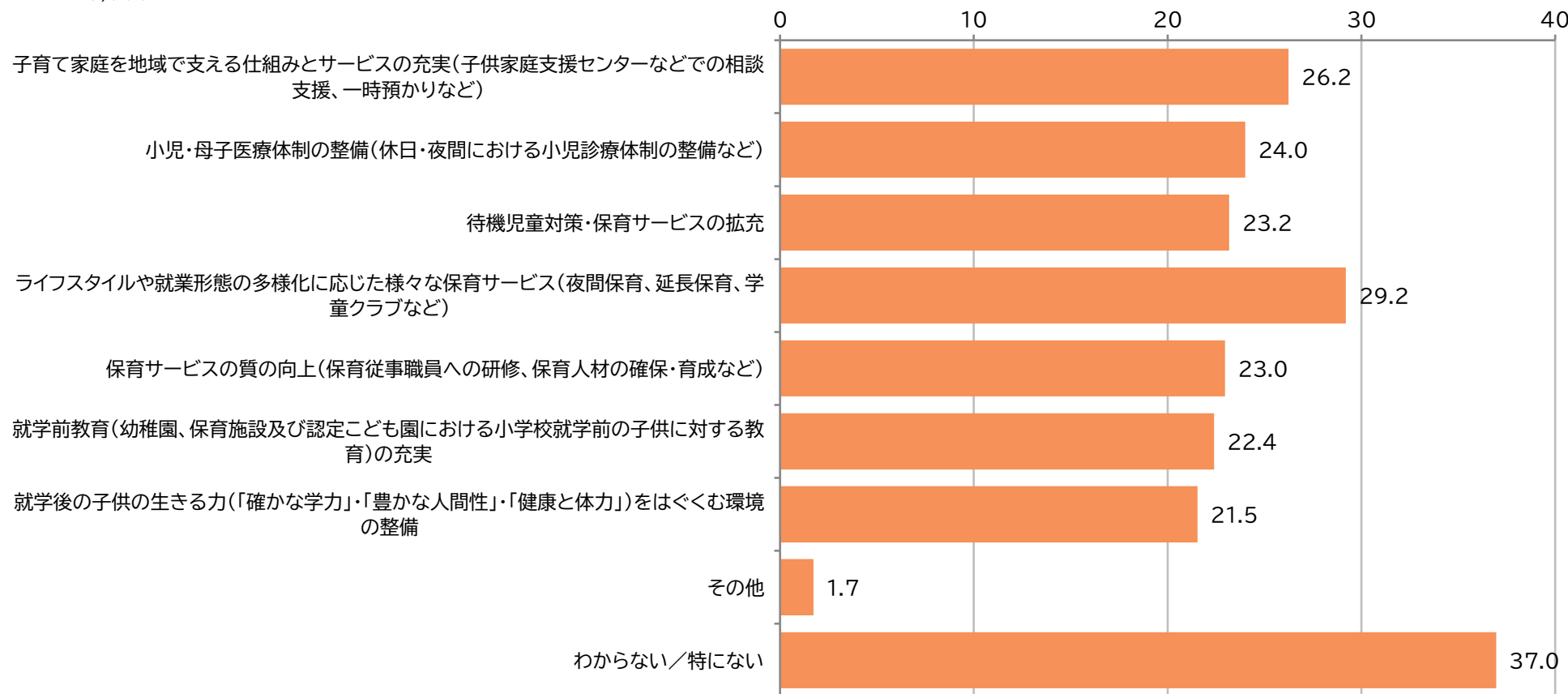


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q41 東京都の子供・子育て支援の施策として充実して欲しいと思うものについて当てはまるものを全てお選びください。(MA)

n=5,000

単位:%

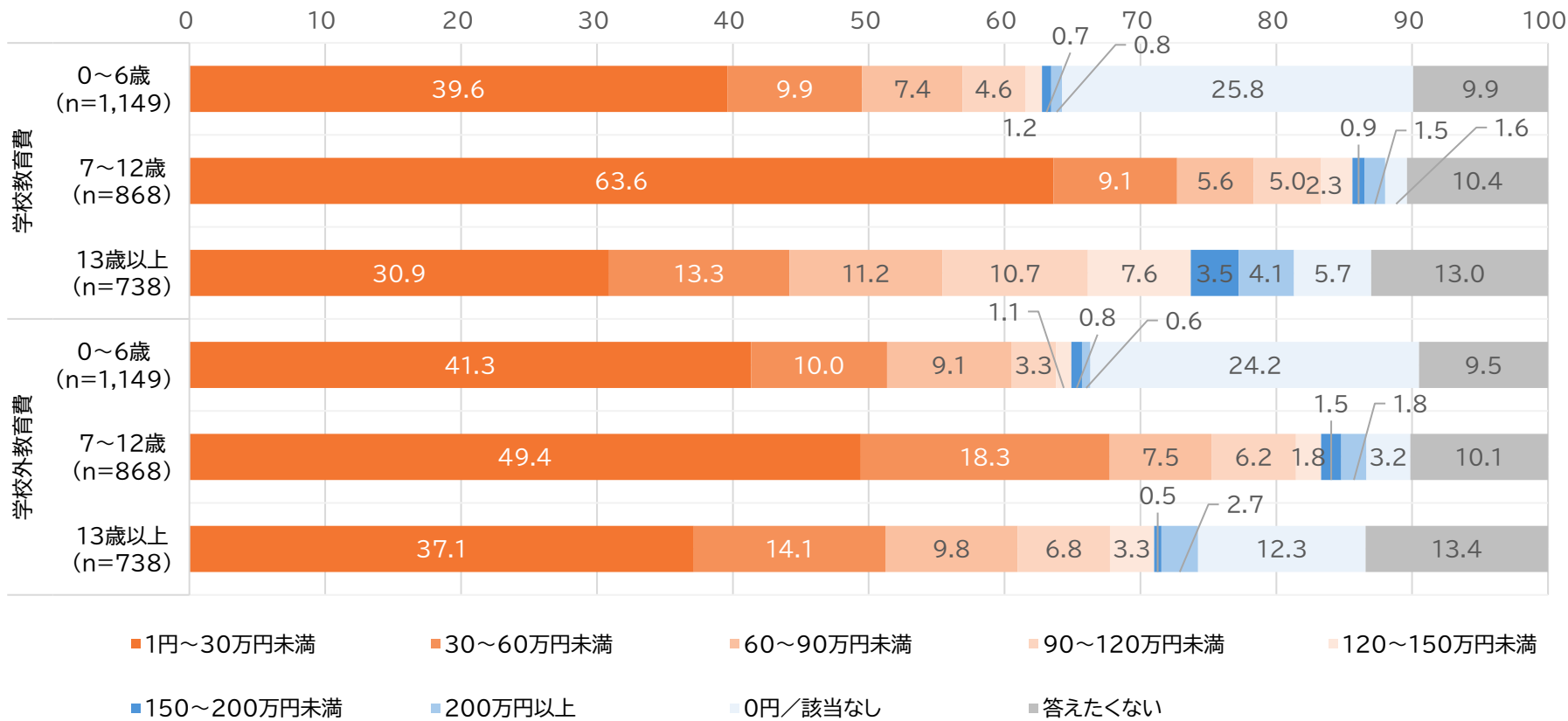


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q42 子供1人あたりに1年間でかかっている教育費について、学校教育費(授業料、教科書代、修学旅行費、通学費等)と学校外教育費(塾代、その他の習いごと等)の自己負担額(減額・免除等を受けている費用は、額面から減額・免除額を差し引きして、実際にご家庭が負担した額)をそれぞれお答えください。
※4人以上お子さんがいらっしゃる場合は、第1子～第3子までについてお答えください。
※税込みでお答えください。(SA)

子供がいる人

単位:%

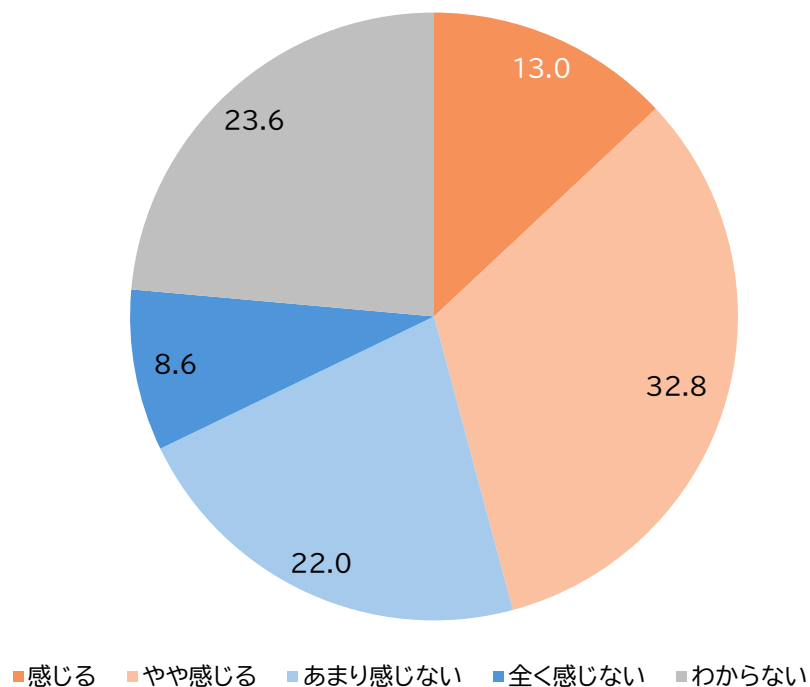


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q43 東京都は子育て世帯に適した住まいや住環境が整っていると
感じますか。(SA)

n=5,000

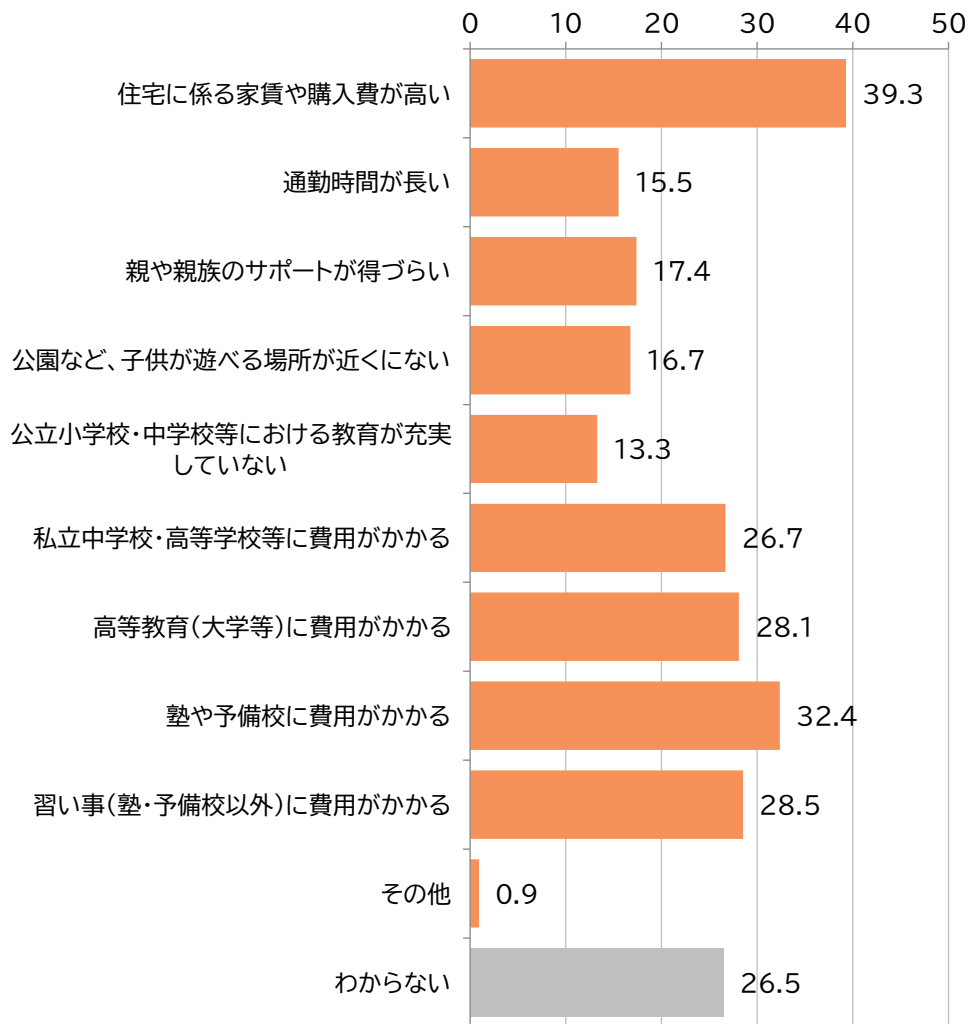
単位:%



Q44 望む人が子育てをする上で、住環境・教育での課題は何ですか。
当てはまるものを全てお選びください。(MA)

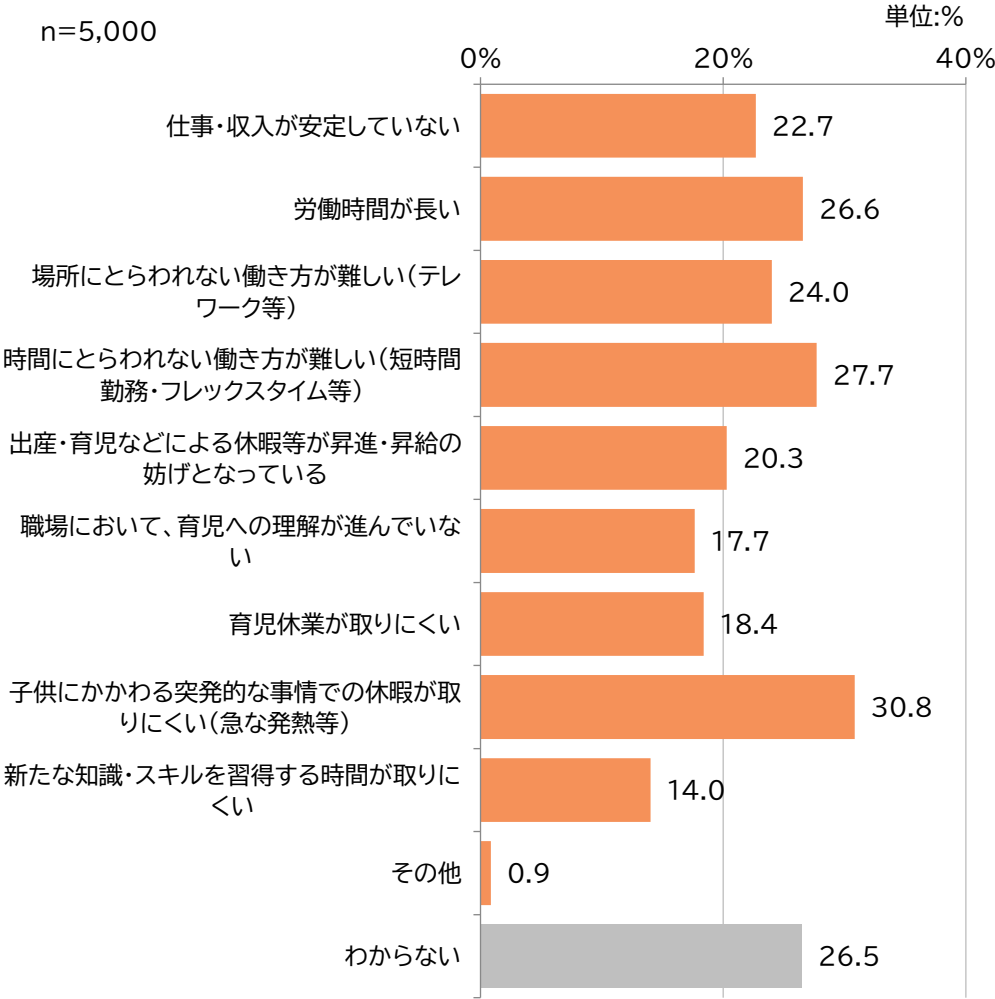
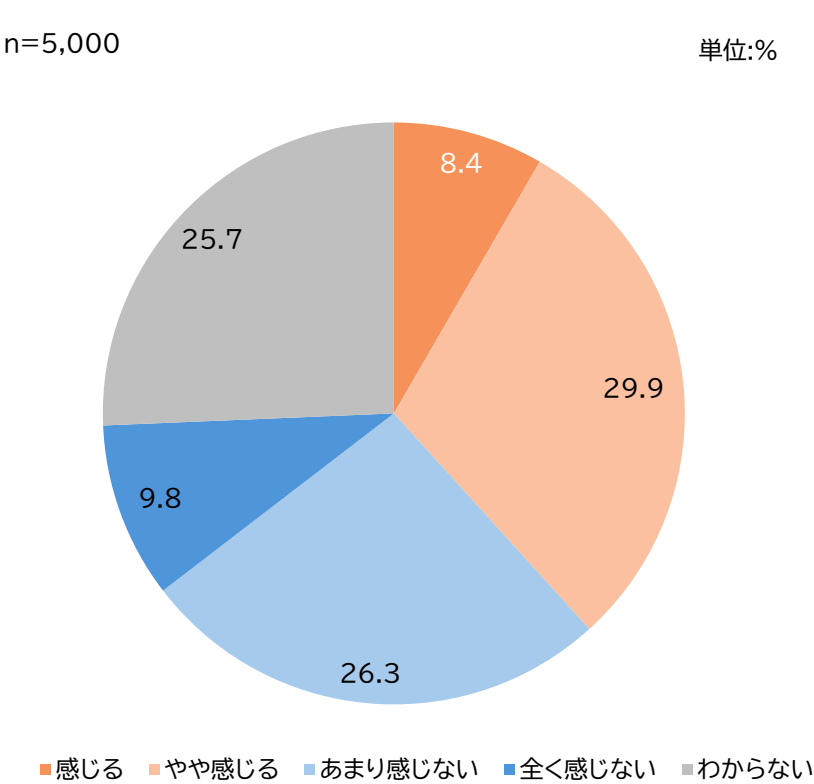
n=5,000

単位:%



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q45 東京都は育児と仕事の両立がしやすい環境が整っていると感じますか。 Q46 望む人が子育てをする上で、仕事・働き方での課題は何ですか。
(SA) 当てはまるものを全てお選びください。(MA)



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

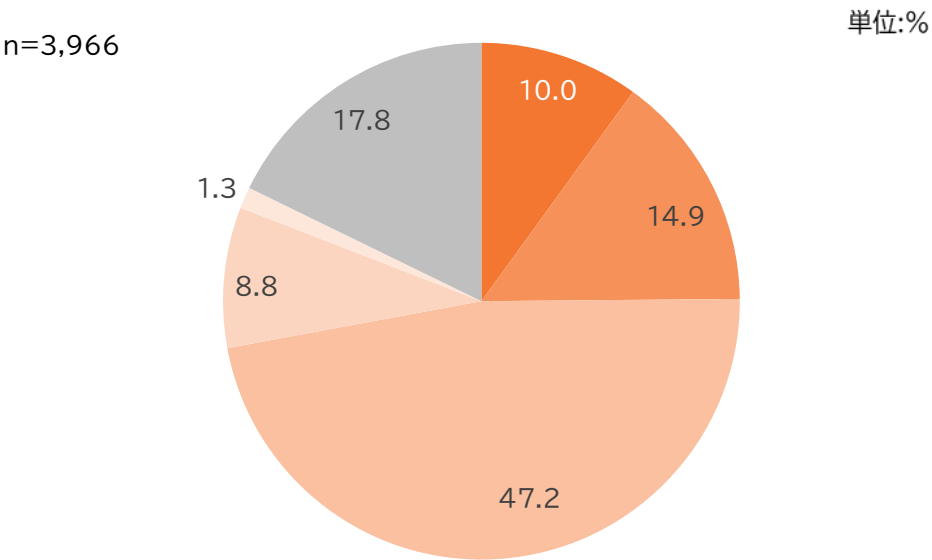
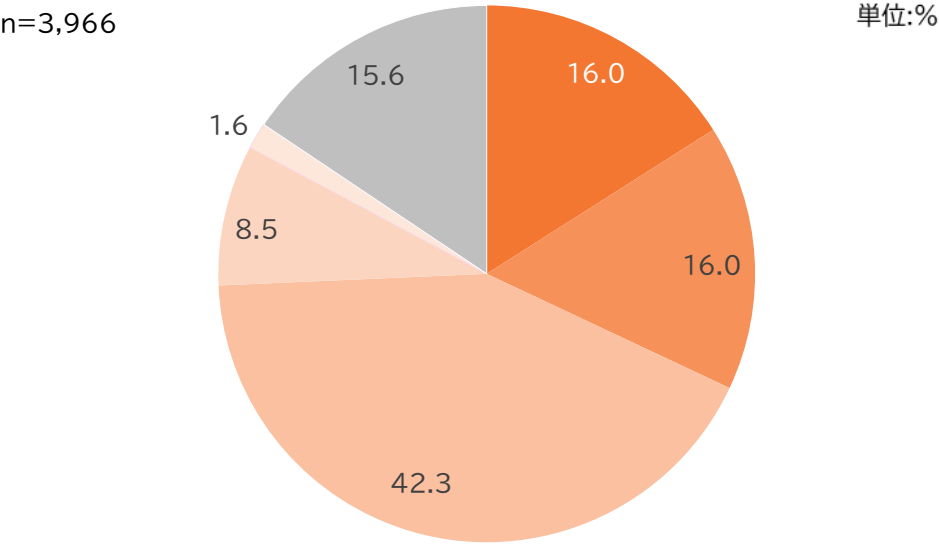
Q47 あなたが理想とする人生と配偶者・パートナーに送ってほしい人生はそれぞれのタイプですか。当てはまるものをお答えください。(SA)

無配偶者・
結婚願望あり

有配偶者

【あなたが理想とする人生】

【配偶者・パートナーに送ってほしい人生】



- 専業主婦(夫)コース(結婚し子供を持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない)
- 再就職コース(結婚し子供を持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ)
- 両立コース(結婚し子供を持つが、仕事も続ける)
- DINKSコース(結婚するが子供は持たず、仕事を続ける)
- 非婚就業コース(結婚せず、仕事を続ける)
- 答えたくない/該当なし

- 専業主婦(夫)コース(結婚し子供を持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない)
- 再就職コース(結婚し子供を持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ)
- 両立コース(結婚し子供を持つが、仕事も続ける)
- DINKSコース(結婚するが子供は持たず、仕事を続ける)
- 非婚就業コース(結婚せず、仕事を続ける)
- 答えたくない/該当なし

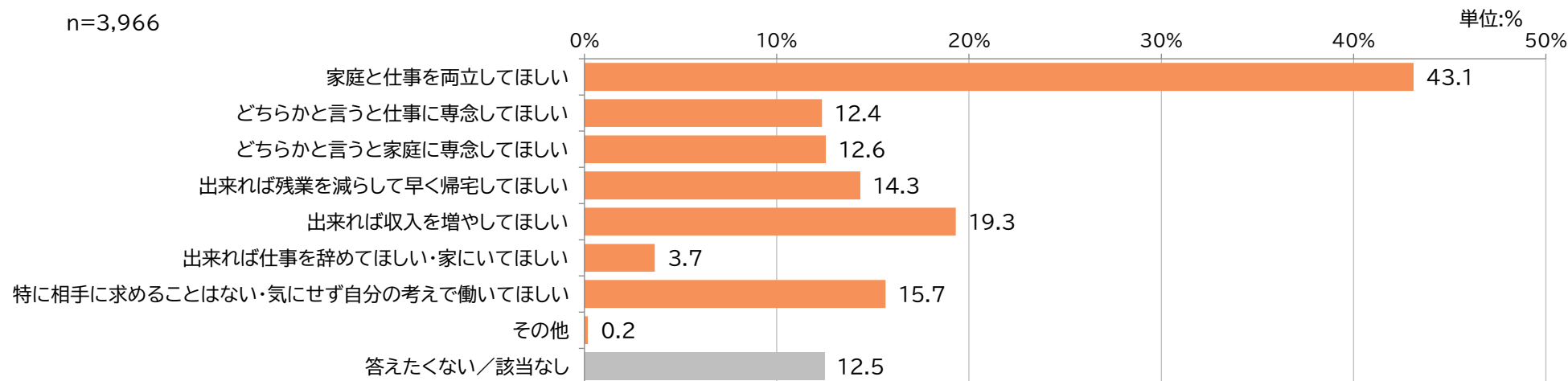
東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q48 あなたが配偶者・パートナーに望む働き方として、当てはまるものを全てお選びください。(MA)

無配偶者・
結婚願望あり

有配偶者

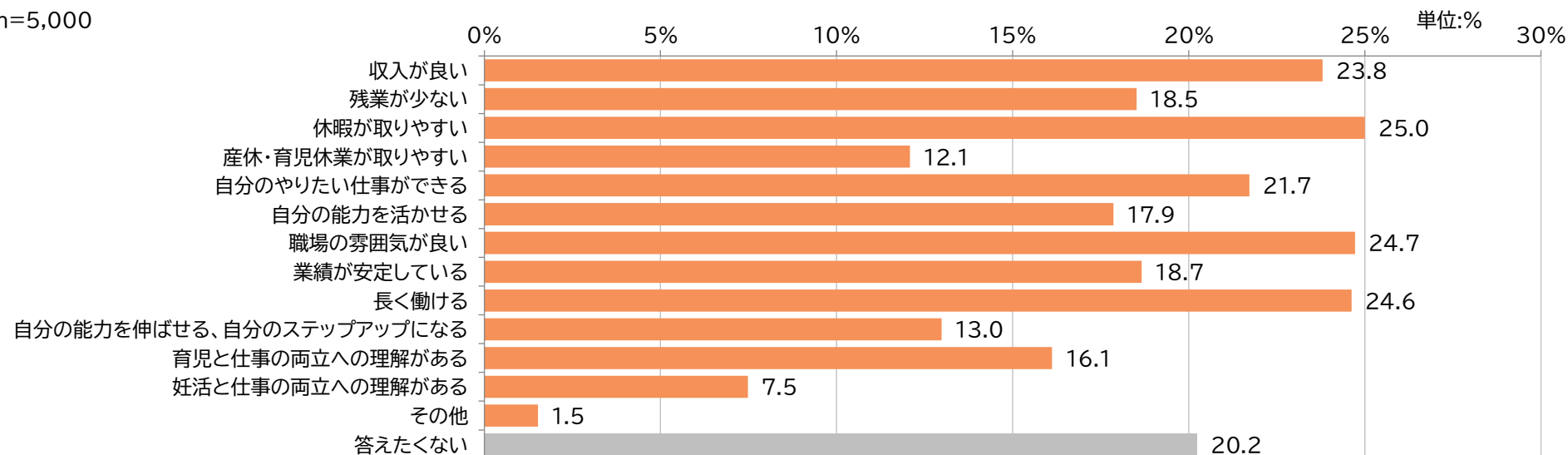
n=3,966



Q49 現在従事されている仕事／お勤めの企業についてお聞きます。仕事や企業を選んだときに重視したこととして当てはまるものを全てお選びください。

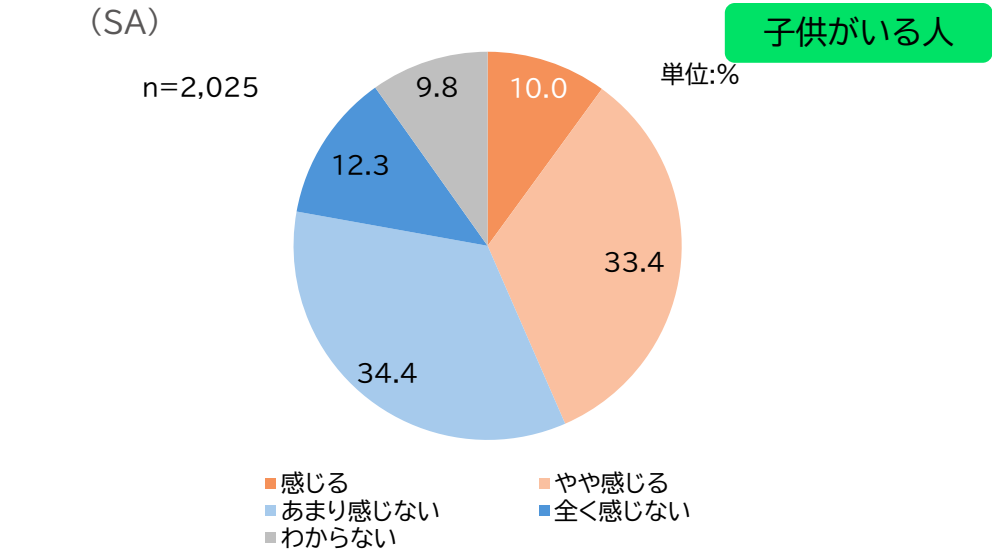
(MA)

n=5,000

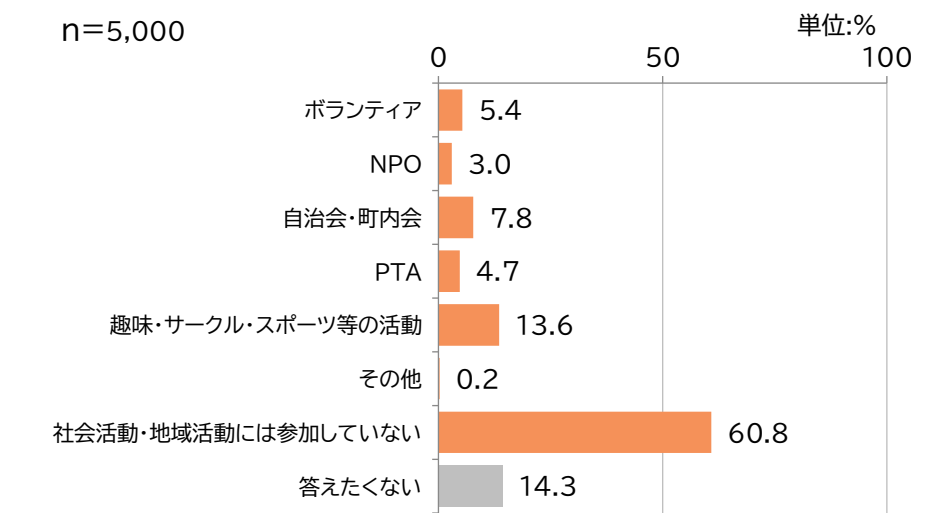


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

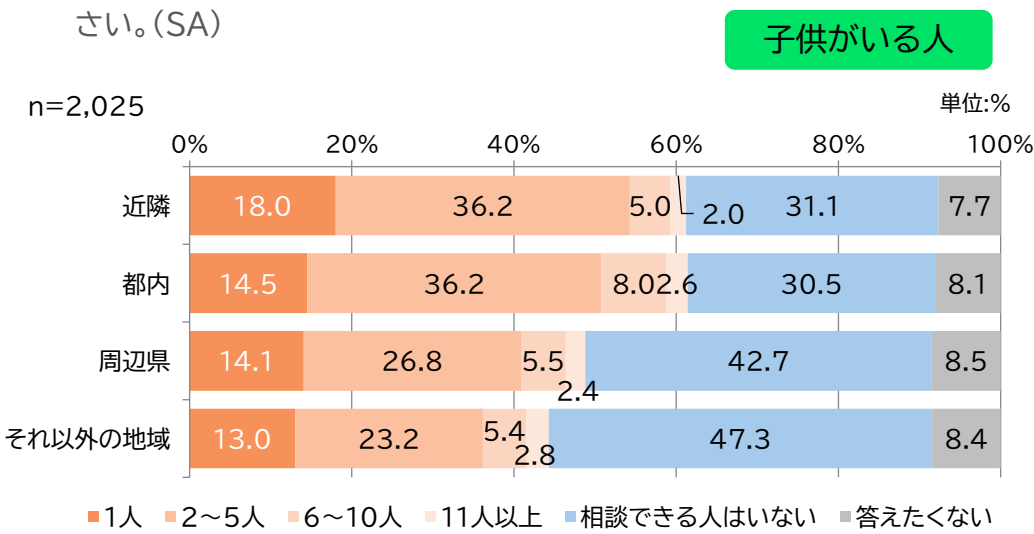
Q50 あなたが子育てをする上で、地域に支えられていると感じていますか。
(SA)



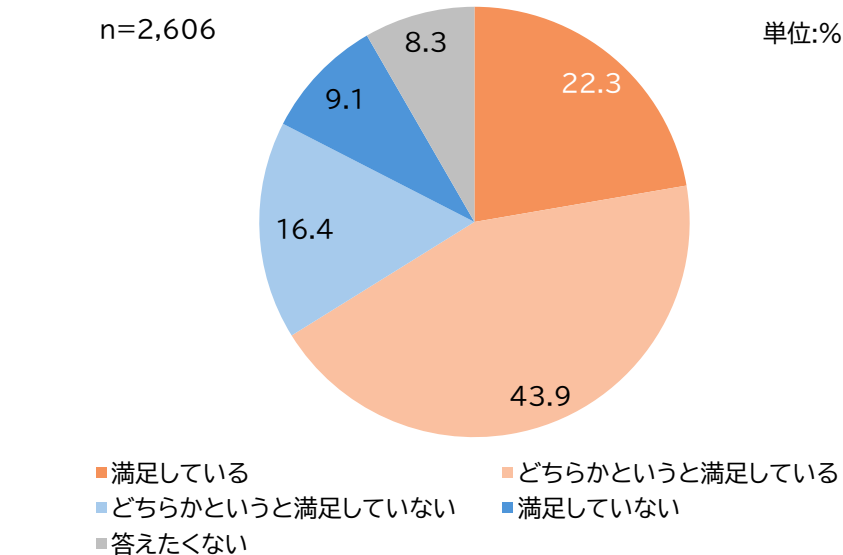
Q52 あなたが参加している、職業以外の社会活動、地域活動として当てはまるものを全てお選びください。(MA)



Q51 子育てに関して困ったことがあれば相談できる人が周囲に何人いますか。「近隣」「都内」「周辺県」「それ以外の地域」のそれぞれについてお答えください。(SA)



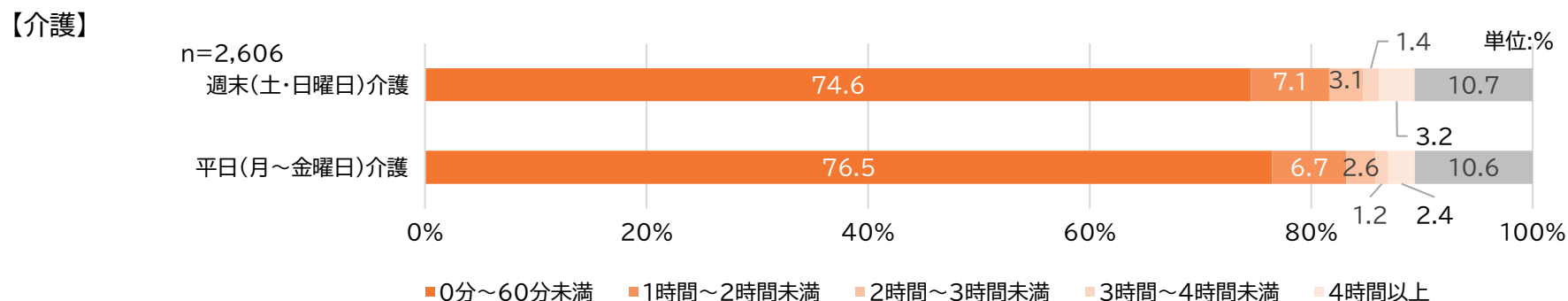
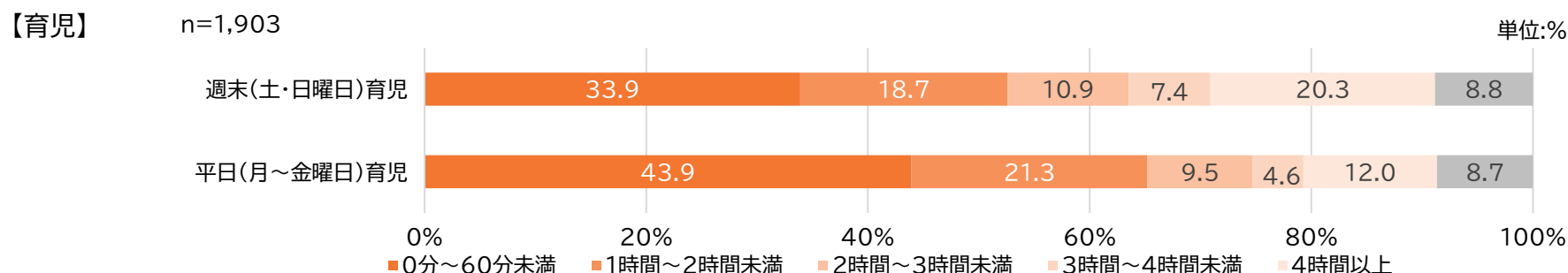
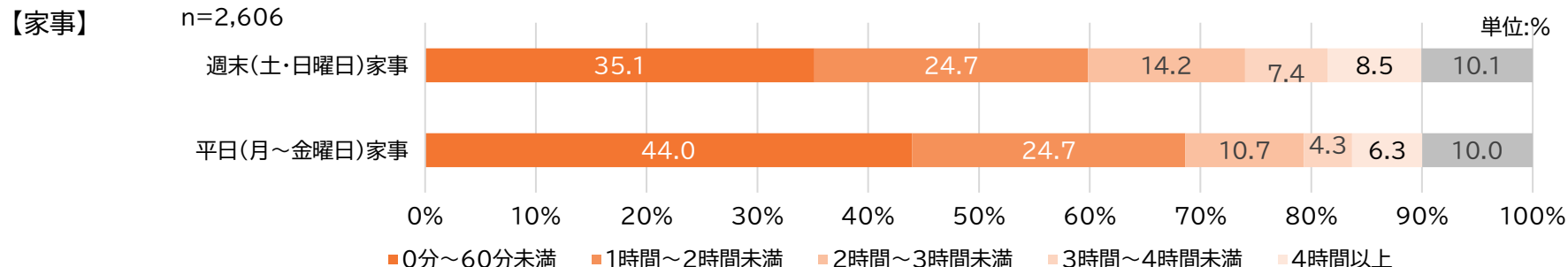
Q53 あなたは夫婦間における家事・育児分担に満足していますか。(SA)



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

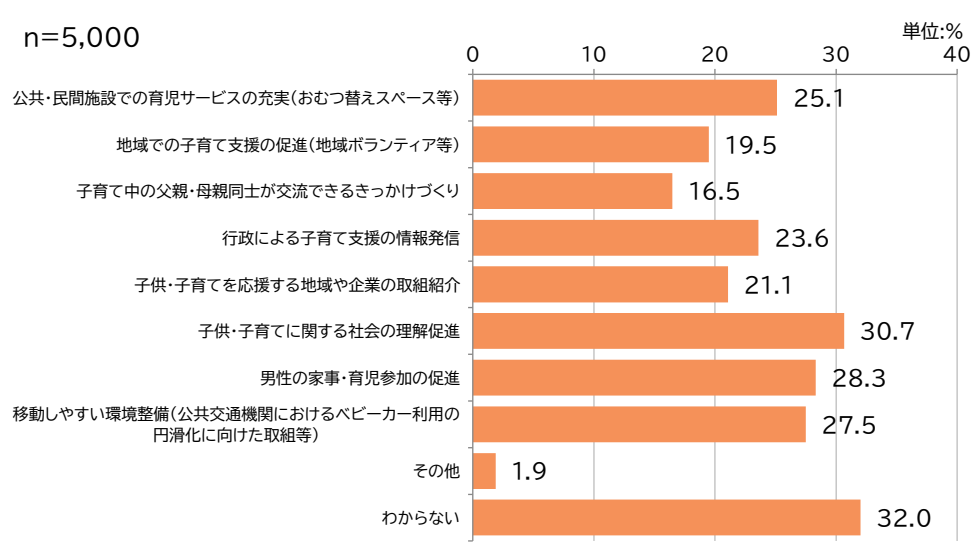
Q54 あなたが平日(月～金曜日)及び週末(土・日曜日)に家事、育児、介護にかかる時間(1日平均)をそれぞれお答えください。(SA)

有配偶者・一部
子供がいる人のみ

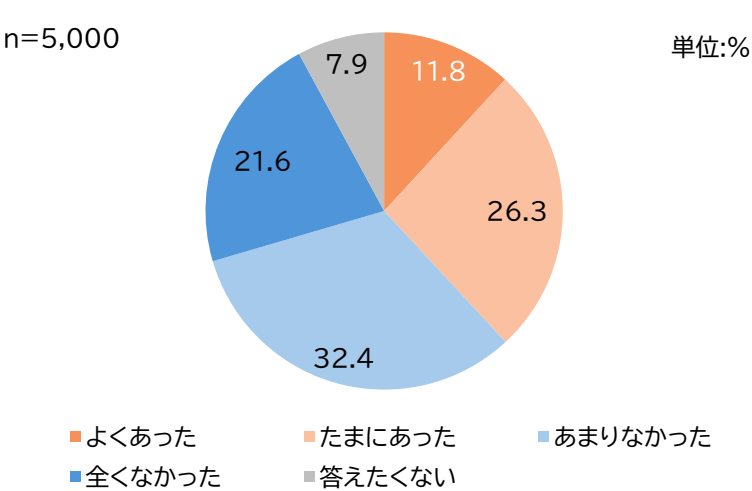


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

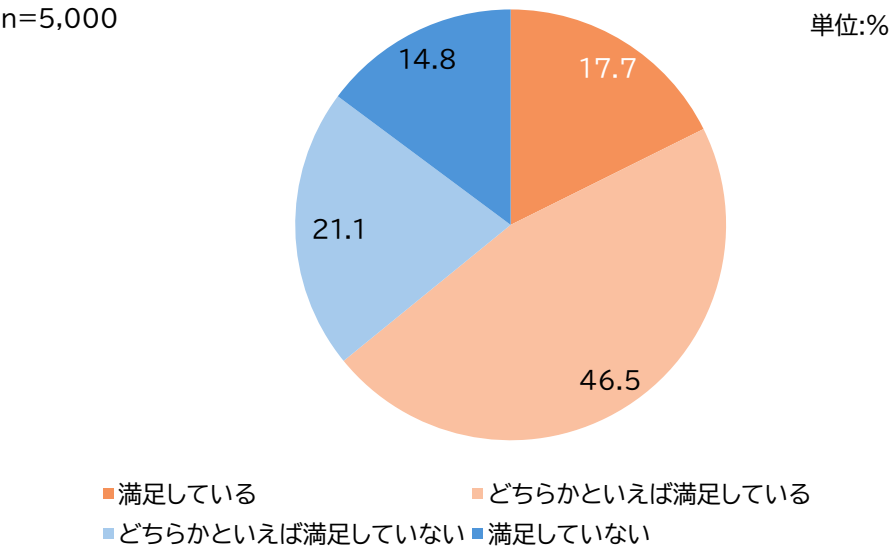
Q55 子供・子育てにやさしい社会をつくる上で、有効だと思う取組は
何だと思いますか。当てはまるものを全てお選びください。(MA)



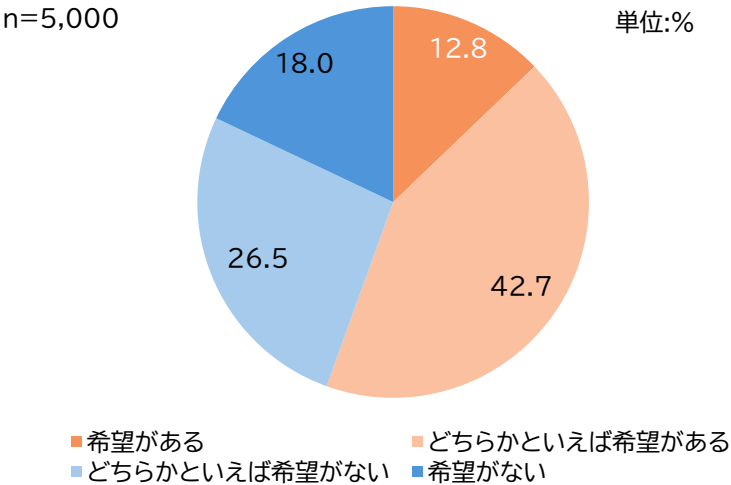
Q56 あなたはこれまで、赤ちゃんや小さい子供とふれあう機会がよくありましたか。子供のいる方は、ご自身の子供以外とふれあった機会についてお答えください。(SA)



Q57 あなたは、今の自分の暮らしに満足していますか。(SA)

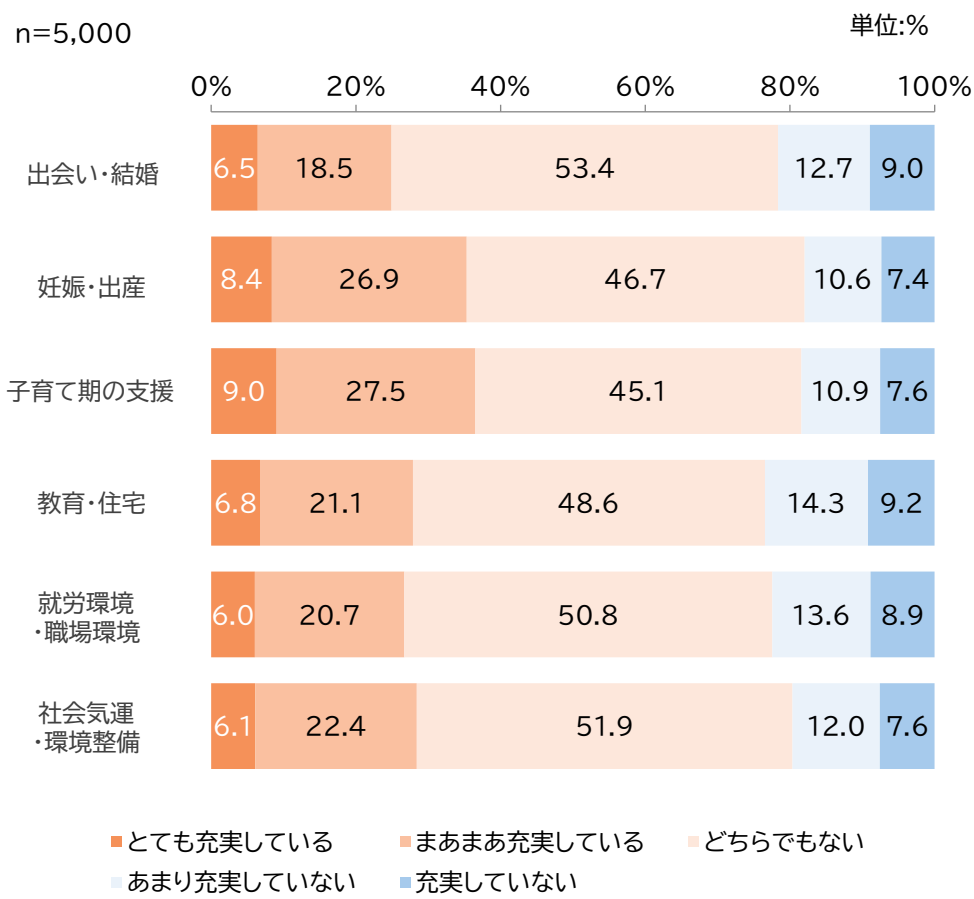


Q58 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(SA)

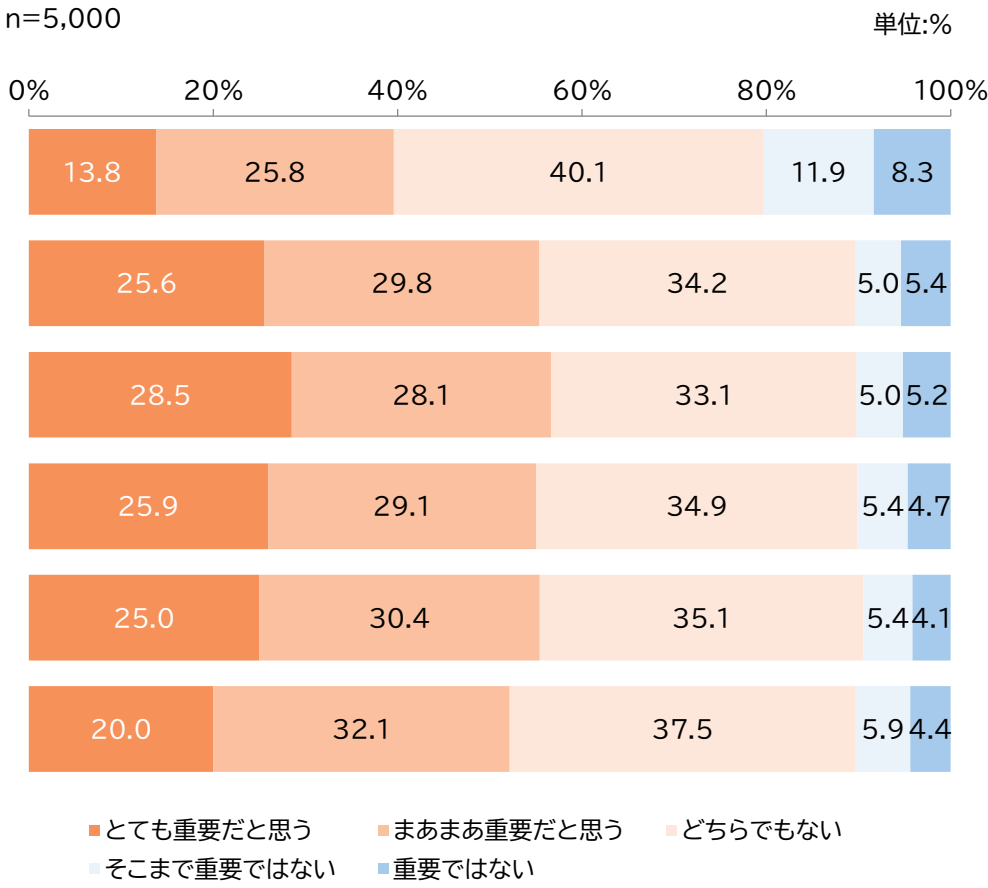


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q59 あなたは東京都におけるこれらの取組について、どの程度充実していると思いますか。(SA)

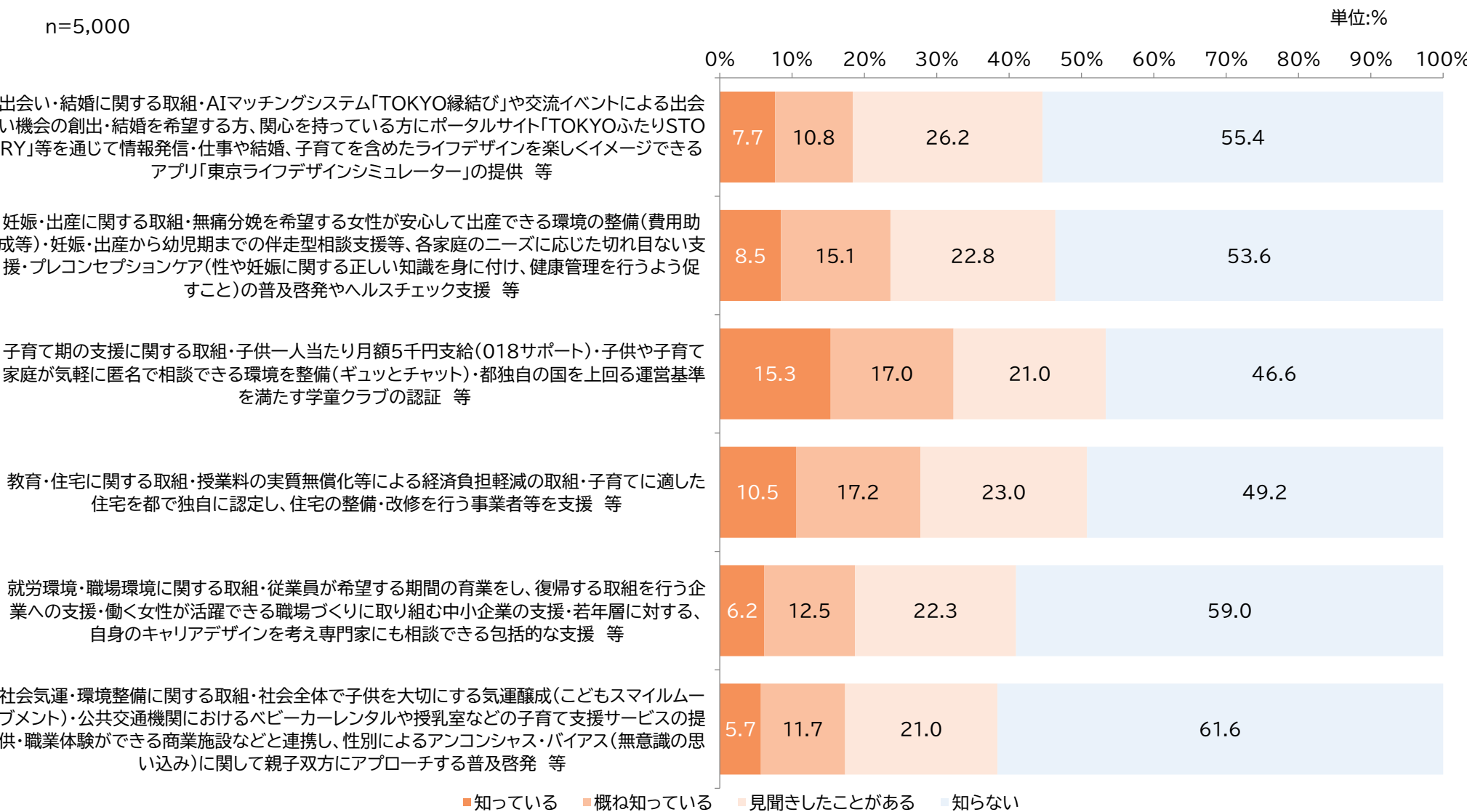


Q60 あなたは東京都におけるこれらの取組について、どの程度重要だと思いますか。(SA)



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q61 東京都で行っている各取組の認知度について、当てはまるものをお選びください。(SA)

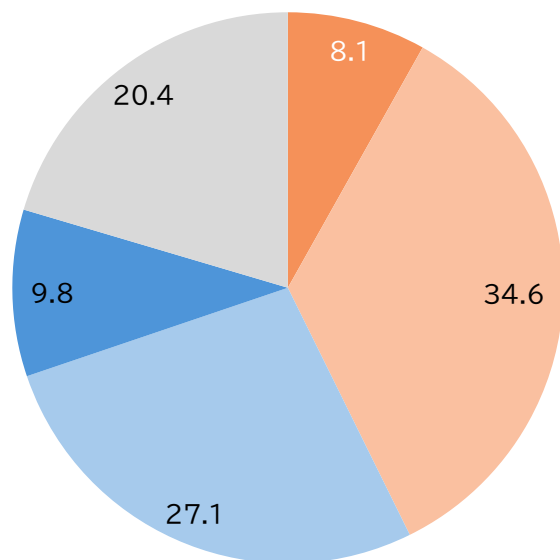


東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

Q62 東京都は、望む人が安心して子供を産み育てやすい社会の実現に向かっていていると思いますか。(SA)

n=5,000

単位:%

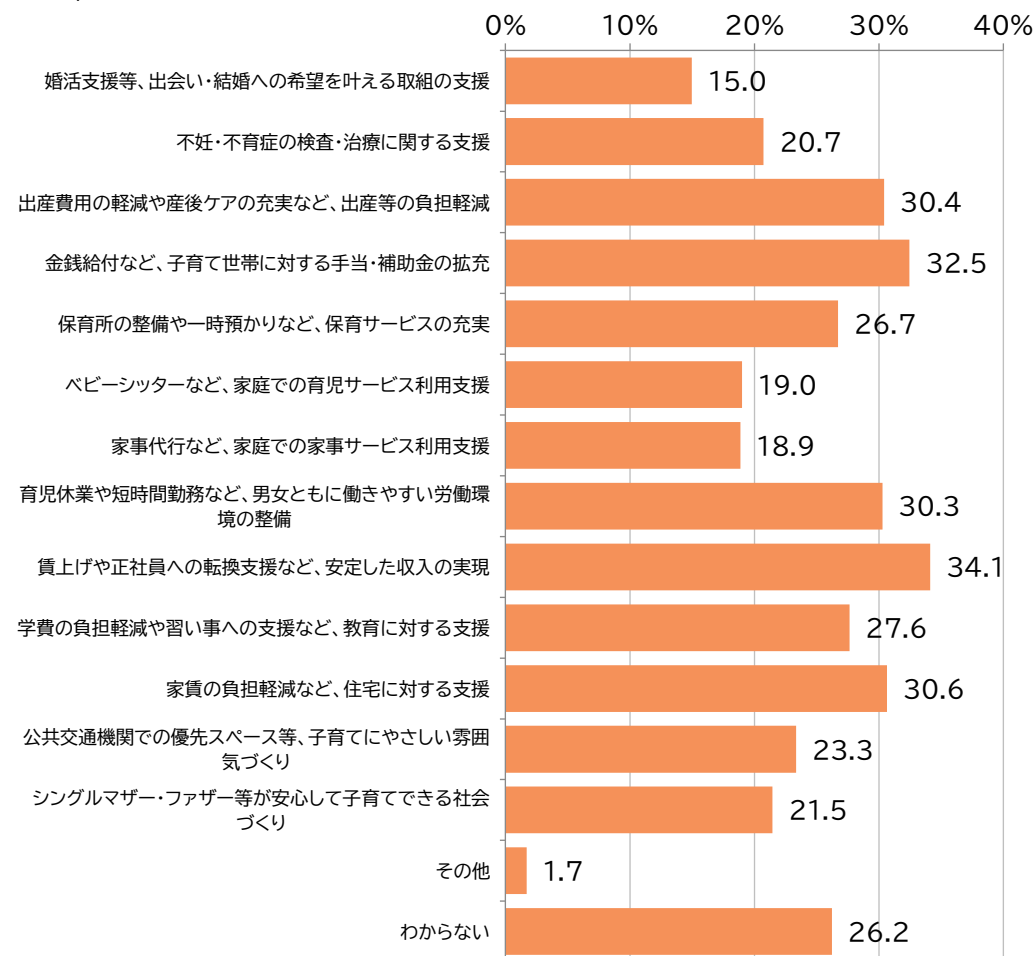


■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 全く思わない ■ 分からない

Q63 望む人が結婚から妊娠・出産・子育てしやすい社会を実現するためには、どのような取組が有効だと思いますか。
当てはまるものを全てお選びください。(MA)

n=5,000

単位:%



東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

〔グループインタビュー〕

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性①】 未婚・ 結婚願望あり・ 婚活なし or 未婚・ 結婚願望あり・ 婚活中/交際中	1	10代	パート タイム	あり	なし	なし	—	—	—	- 結婚は人生が豊かになる一方で、友人の話を聞いていると責任の発生や、育児にかかる資金面の負担など大変なイメージもある。子供はいつか欲しいが、まずは結婚したいと思う人を見つけたい。恋愛と結婚に違いを感じる。結婚は価値観のすり合わせなどが重要だと思う。 - 妊娠については、女性の体調を尊重するためにライフスタイルを変える必要性を感じる。子供を持つことで、子供のために頑張るというモチベーションにつながるのではないかな。 - 東京は、人口は多いため婚活しやすいのではないかなと思う。一方で子育て面では、子供部屋を与えるなどが難しい。費用面での不安が大きいので、その点が政策で解消されると子供を持つ人が増えるのではないかな。
	2	20代	正規の 社員・ 職員	あり	なし	なし	—	—	—	- 結婚するなら相手も幸せにしたいが、自分にその力があるのか100%自信が持てない。SNSが発展し、外見面で魅力的な人にならないと交際にハードルを感じる。 - 収入面だけでなく、日勤・夜勤など働き方や価値観なども結婚においては重要だろうと考える。 - 大人になっても子供をずっとかわいいたいと思えるのかどうか不安。子供が減っているため、親戚などから子供一人に集まる期待やプレッシャーが大きく、子供をつづさないか不安。 - 子供を3人持とうと思うとそれなりの家の広さが必要で、東京では難しいと考える。 - 家事分担については、厳密に家事を分担するよりも臨機応変にお互い実施できればと思う。
	3	20代	正規の 社員・ 職員	あり	交際中	—	—	—	—	- 交際アプリで見つけた、今交際している人と結婚したい。一方で結婚し、生活を送るには金銭面で少し不安で、また交際して1年であるため、もう少し交際を続けてから結婚したい。 - 子供が成長していく面を見られるのは微笑ましいと思う一方、育児を推奨されていることから取得せざるを得ない場合がある。自分がそのまま働き続けたい場合、悩ましいと感じる。 - 子供が自分の誇りになるのではないかな。成長を見守りながら、子供が新しいことができるようになることが自分の喜びになる。 - 東京は、婚活はしやすい環境だと思うが、人が多い分選択肢が多く、結婚はしにくいのではないかな。
	4	30代	正規の 社員・ 職員	あり	なし	活動中	—	—	—	- 家庭を持って子育てをしたいと思うが、子供が成長するまでは、妻が働けないことを想定すると、養っていけないのかどうか不安。 - メッセージのやり取りやパーティーの参加費など、婚活は金銭的な負担が大きいと感じる。 - 子供ができるとより責任感が増すのではないかな。また、子供中心の生活になると思うが、全くマイナスのイメージはない。一方、金銭面の負担が大きくなることが不安。子供が塾や習い事に通いたいと言いついた際に、希望を叶えられるのか不安。 - 東京都で婚活支援をしていることは知っているが詳細は調べていない。SNSなどを通じて、補助金の情報が回ってくることもある。
	5	20代	正規の 社員・ 職員	あり	なし	なし	—	—	—	- マッチングアプリを数回使用したが、男性は利用金額が高く現在は使用していない。また、男性は、婚活パーティーなどに参加しようとしても年収の制限があるなど条件面で制約がある。 - 結婚に金銭面はそこまで関係なく、むしろ時間面で制約が大きいのでは。勤務時間が長く結婚後に生活を送るにあたりライフサイクルをすり合わせられるのか不安。 - 子供ができると、自分にはない視点を与えてくれ成長できる気がする。 - 少子化なのに保育士や幼稚園教諭の数が足りないのが不思議。保育職の給与が低いと子育てしやすい社会にはならないのではないかな。 - 気軽に子育てについて相談できるとありがたい。隔週でも土日に関所の相談窓口を開けてくれるとよい。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	希望の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性①】 未婚・ 結婚願望あり・ 婚活なし or 未婚・ 結婚願望あり・ 婚活中/交際中	1	20代	学生	あり	なし	なし	—	—	—	- 結婚は好きだからというよりも同志のような関係になるイメージ。想像と違えば離婚すればいいので、一度くらいは結婚してみてもいいと考えている。自然な出会いを望んでいる。 - 母との会話が楽しいので、自分も子供が欲しいと思う。ただ、金銭的余裕がないと子供がかわいそうだと思う。 「当たり前」とされる子育てや親であることのハードルが上がっていると感じている。男性が収入・家計への拠出・家事負担を含めてどう考えているか、男性側から発信してほしい。 - 東京都の子育て施策は支援が手厚いとSNS等で見聞きする一方、友人からは中学受験をするのは東京都だけと言われた経験もあり競争社会であると感じる。
	2	20代	パート タイム	あり	交際中	—	—	—	—	- 結婚して他人同士と一緒に住むと生活習慣や価値観の違いで大変そうだと感じる一方、一緒にいる安心感や将来への安心感には価値を感じる。結婚は、家計の問題があり、相手のお金の使い方が気になる。 - 元々子供がそれほど好きではない。子供がいると子供中心の生活になり行き先や食生活が制約され、自分の楽しみが減ることを懸念している。子供を持つよりパートナーと二人で過ごしたい。 - 妊娠するとできることに制約が生じる点を負担に感じている。 - 東京都に愛着がある。仕事を続けながら子育てするには保育サービスが重要。職場には育児支援がない。
	3	20代	正規の 社員・ 職員	あり	交際中	—	—	—	—	- 結婚は契約であり、公的文書により夫婦であることが証明される。老後まで助け合えるよう公的に結ばれたい。パートナーに倫理観や価値観の違いがなければ結婚するつもりだが、家族・近所付き合いには不安がある。 - 子供を持つことについて、もう一人家族が増えたら楽しそうと思うが、ライフステージのなかでも最も重たい決断の1つである。SNSで子育ての大変な側面ばかり目にする影響もあり、踏み切りにくい。 - 妊娠について、産後うつなどホルモンバランスの崩れで自分ではどうにもできない体調になることが怖い。 - 母から「完璧にやらなければならない」という考え方で育てられ、その意識を解消できないと子供を持てない。 - 東京都は子育てしやすい地域もあるが、公園が多い近隣県への転居も検討している。
	4	20代	正規の 社員・ 職員	あり	交際中	—	—	—	—	- 結婚すれば身元の保証ができる。子育てに当たっても協力者がいるほうがよいので結婚したい。マッチングアプリで知り合ったパートナーも自分も実家が地方にあるため将来の介護への対応が気になる。 - 自分の血を分けた実子が欲しい。一方、子育てが始まれば十数年ノンストップとなるため耐えられるか不安。 - 妊娠・出産については、身体への負担と金銭的な負担が不安。産むまでの支援は整いつつあると思う。 - 家事・育児の分担については、得意な家事・育児で役割分担し、2人とも苦手なものは折半か外部サービスを使いたい。ファミサポのような支援を充実させてほしい。 - 東京都の出会いを支援するマッチングアプリは独身証明が必要で手続きは煩雑だが信用できると感じた。
	5	20代	正規の 社員・ 職員	あり	交際中	—	—	—	—	- 結婚は社会的信用につながる。老後を一人で生きていくのは金銭的・精神的にきついと思うので結婚したい。マッチングアプリで知り合ったパートナーと同棲を検討しており順調にいけば結婚するつもりである。 - 自分の家族や両親が仲が良く理想的なので、自分も家族をつくりたいので子供は欲しい。一方で子育ては取り返しがつかず、自分に子育て適性があるか、親族以外のサポートがあるかという点が不安。 - 妊娠中は通院が必要でお金がかかるイメージ。出産にはリスクもあるので早めに動きたい。 - 仕事・家事に加えて育児もこなすことに大変さを感じる。自分の時間が持てなくなるのではないかと思う。 - 赤ちゃん訪問で保健師が個別相談や支援紹介をしてくれる仕組みは良い。子育てに必要な住まいの広さを確保すると、職場等へのアクセスを犠牲にせざるを得ない現状は変わってほしい。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性②】 既婚・ 子供なし・ 子供いらない or 既婚・ 子供なし・ 子供欲しい	1	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	• 中学からの同級生と偶然再会、交際を経て結婚した。結婚後しばらくして双方の親からの干渉も落ち着いた。 • 子供を持ちたいが踏み切れずにいる。妻の両親が過干渉気味なため家族の同意が必要だと感じている。 • 妊娠・出産に関する情報量がまだ十分でない。電車の液晶広告など身近な媒体を通じて情報を入手したい。 • 子育てを通じて自分自身が成長できると思う。また、両親との関係を見つめ直す機会になる。住宅は子供部屋がある間取りとフリースペースのある間取りとそれぞれに良い点があると感じている。 • 東京都は住宅支援がもっと充実しても良い。公営住宅での割引サービスがあるが、不足している。
	2	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	0人	0人	• マッチングアプリで出会った相手と4年前から同棲を開始し、自身が32歳・相手が30歳になるタイミングで「はじめ」と覚悟を決めて結婚した。二人暮らし開始時はぶつかったが、結婚自体に障壁は感じなかった。 • 子供がいることで信頼を得るところもあると思う。キャリア等の制約や子供に起因するトラブルが懸念点。将来どうなるか分からない世の中で、子供を残すことがいいのが悩ましい。 • 妻の心理面・身体面の負担があると思うが、夫として何ができるのか、どう支えればよいのか分からない。 • 子供部屋がある間取りが子にも親にも望ましい。職場では男性育休も増えている。 • 自治体主体の年齢別街コンやパパ向け講座の情報に触れる機会があり自治体による違いも感じている。同じ境遇の人と相談できる情報交流の場や、該当者に必要な情報が確実に届く仕組みが欲しい。
	3	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	• 仕事柄、他人の人生に触れる機会があり、独身者の強さを見て、自分は「普通の流れに乗ったほうがよい」と考えて結婚に至った。妻は実家暮らしと比べると生活水準が下がることに抵抗はあった。 • 子供を持つことにためらいはない。視野が広がるし、社会保障が縮小する中で親族の存在が重要になる。一方で夫婦ともフルタイムでの子育て、妻との関係性の変化、どんな子に育つかへの不安もある。 • 妊娠・出産に向けては資金準備と家事分担が必要と考えている。 • 子育てはお金をかけることが前提となっている。子育てのため妻は実家近くに住みたい意向で、親の援助が行政の支援かの綱引きになっている。 • 住宅事情以外の子育て環境は良いと感じる一方、普通に働く層の家族向け住宅や駐車場付き住宅の供給が不足している。情報を取りに行ける層にしか情報が届いていないと感じる。
	4	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	• 共通の知人を介して出会い、相手の強い結婚意向を受けて昨年結婚した。家賃や食費を折半する暮らしになり貯金もできるようになった。 • 当初は自分が子供を持つことを全く考えていなかったが、今年に入って妻から子供が欲しいと告げられた。最初はとまどったが、徐々に受け止められるようになった。体力面から1人か2人をイメージしている。 • 妊娠・出産は男性には分からない領域だと感じつつ、喫煙をやめようと考えている。 • 自分に子供を叱れるかなど不安はある。住まいは子供が大きくなったら一人になれる子供部屋を設けたい。 • 妻が調べてくれて東京の子育て支援は手厚いと感じる。一方、億ション化が進み庶民には住宅取得が難しい。
	5	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	0人	0人	• 親との折り合いが悪く、給料を全て親に渡していた。今の妻に話したところ「うちに来い」と言われて転がり込む形で結婚した。実家で「男は台所に立つな」と育てられ家事ができないため、今の分担に不満はない。 • 明確に(子供は)持たないと考えている。自分が受けてきたことを子供にしてしまう「連鎖」への懸念が大きい。本人が気を付けていても何らかの影響が出てしまうのではないかと心配している。 • 支援が揃っており子育ては圧倒的にしやすい環境と感じる一方、あらゆる支援金が申請主義でプッシュ型がない。東京アプリのようなプッシュ型支援の発展に期待している。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性②】 既婚・ 子供なし・ 子供いらない or 既婚・ 子供なし・ 子供欲しい	1	20代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	1人	- 同業者と結婚。プライベートで仕事の話が出たり、お互い忙しいため、子育ての観点などから当初は懸念。 - 親戚から促されたりする中で、家族のために結婚した方がよいかなと考えていた。 - 子供がいる友人を見ると幸せそうだと思うが、職場で障害児の家庭を見ており、耐えられるか不安。仕事ならよいが、プライベートで耐えられるか不安である。 - 夫が子供2人欲しいと考えている。今の環境では難しいと思っているが、いずれ欲しい。どちらかが仕事をセーブしないのだが、どちらもキャリアを重視しており、まだ話し合いの決着がついていない。 - 都が主催するマッチングアプリの存在を知らなかった。YouTubeなどで広報に力を入れた方がよいのではないかな。
	2	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	0人	0人	- 姉が子供二人いてかわいいと思う。同時に責任も発生する。SNSなどをみて、自分の子供が障害があったときにすべて親が責任を持たないといけないことを目の当たりにし、簡単に生みたいとは言えない。 - 出産は神秘的な行為だと思う。新たな命が生まれることはすごいと思う。 - 出身が地方で祖父母が近くにいたため、両親は共働きで祖父母が子育てを担っていた。自分は東京で夫婦だけで頑張らないといけない。時間的に厳しいと感じる。 - 子供は、どちらでもよいと思っていたが、夫が欲しくないと言っているのでやめた。 - 子供が遊べる場所は、東京は多いのではないかと感じる。公園だけでなく、多様な施設がたくさんある。
	3	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	0人	0人	- マッチングアプリで会い、お互い直感で結婚したいと感じていた。30歳までに結婚したいと考えており、逆算して結婚へのスケジュールを考えていた。結婚式の費用の負担割合や金銭感覚、準備の分担などに苦労した。直前に大丈夫なのかかなり不安になったが、話し合うことで乗り越えた。 - 世間体を気にして、結婚しなければと思っていた。「結婚していない人」と見られなくなかったため、早期に婚活を開始。子供が生まれたことにより、夫と喧嘩が増えるなど、関係性が変わるのではないかと懸念している。子供が生まれると、夫を第一優先にできないことに負い目を感じそう。 - 子供は欲しいと思っていたが、不妊治療をしてもダメだった。今は子供を設ける予定はない。
	4	30代	フリー ランス	—	—	—	なし	0人	2人	- 本を読んでいると、子供と子持ちの世帯は幸せの象徴のようなイメージがあるが、現実的には幸せなことばかりではないと思う。SNSで妊娠についての投稿を見ると、皆大変そう。 - 子供いたら楽しいだろうと思う。一方、子育てに当たって費用は負担。大学や習い事のお金を負担できる気がしない。まして2人目などは本当に想像できない。 - 夫が子供が欲しいと思っている。金銭面などの準備が整えば問題ないのではないかと考えている。 - 東京は享受できる文化的レベルが地方とは全然違う。東京は子育てに当たって多様な経験をさせてあげられると感じている。 - マッチングのために休暇が取れたりすると仕事が忙しくても出会いに時間を割けるようになるのかもしれない。
	5	30代	専業主 婦	—	—	—	なし	0人	0人	- ドラマを見て、妊娠後に大変であることだと認識した。出産も大変そうである。 - 子供がいなくても夫婦で楽しくやっていたらいいかなと思っている。夫は欲しいと思っているようだ。夫を見ていると子供が好きそうだなと思うが、話し合ったことはない。金銭的な面から子育ては難しいと思っている。 - 区でマッチングアプリの使い方講座などをやっているそうだ。東京は手厚いと感じた。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性③】 既婚・ 子供なし・ 子供意欲あり or 既婚・ 子供あり・ 追加欲しい	1	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	- 学生時代の友人と交際し、結婚した。子供がいた方が生きがいになるのではないかと考えているが、時間の制約が生じるため仕事とのバランスが取りづらくなることを懸念。妻は年齢等を気にして、具体的にいつ妊活するかという話をすることがある。子供ができれば妻は休業するだろうが、自身については考えていない。 - 理想は1-2人だが、結論は出ていない。 - 家を既にもっているため、子供が2人と考えると、住み替えが必要なことが障害となる。 - 子供を見てくれるシッターのサービスや、ピンポイントで利用できる家事代行サービスがあると良いと思う。
	2	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	あり	2人	2人	- 職場で出会って結婚した。子供が生まれると家族(両親や義両親含む)の時間が増えたことがよかった。一方、経済的な負担が生じる。 - もともと家族でワイワイするのが好きなので、子供を持つイメージがあった。妻も若いうちに生みたいと考えており、主に金銭面について話し合った。 - 妻には妊娠中の体の変化および産後の子供との時間でかなりストレスがかかった。自身が仕事で帰りが遅く、平日は妻に負担が集中している。週末は自分が家事も子育ても担い、平日も毎日子供の様子を報告してもらっている。 - 周りで聞くのは「育てることに自信がないが欲しい」。体験していないことをやらなければいけない。しかもできないということが許されない。情報共有の場を積極的に作った方が良いのではないかな。 - 子供を2人持つことを考えると、より広い住宅に引っ越す必要がある。都心は難しい。 - 家事の代行はありがたいが、何かあったときに責任を自分たちが持てないことが不安で利用のイメージがつかない。
	3	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	- 社会人サークルで出会い、結婚した。明るい家庭を築きたいと考えており、半年前から話し合って不妊治療を始めた。なるべく早く(子供を)持てると良い。 - 出張が多いため、妻や妻の家族に頼る必要があり、育休が取れるかについても会社と要相談。出張以外はフルリモートで子育てに専念する相談を会社と進めている。 - 自身に兄弟がおり、2人欲しいと考えている。自身の年齢や金銭面から2人が限界だろう。 - 金銭面に加え、周囲の子育てに対する理解やサポートがあるとより子育てしやすくなるのではないかな。
	4	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	- 学生時代の友人と交際し、結婚した。なるべく早く子供を持ちたいが、共働きのためもう少し落ち着いたらと妻と話している。 - 子供の成長を見ることができるとは楽しみだが、自身が経営者のため子育てに時間を割けない。故に子供も1人だろう。 - ハウスキーパーを既に利用している。ベビーシッターは必須。 - 東京は生活環境が充実しているが、十分な広さの住宅を見つけることが困難。
	5	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	- 結婚相談所での出会い、結婚した。将来のことを考えると子供がいた方が良いと考える。成長を見る楽しさはあるが、仕事との両立に不安を感じる。 - 子供は1人か2人。時間や身体的な負担から、1人いたら十分だと思えるかもしれない。 - 物価は東京も地方もあまり変わらないが、住居費が非常に高い。子供を持ったら成長に合わせて引っ越しが必要だろう。 - 首都圏では結婚前の交際にもお金がかかる。子供を持つ前のハードルになってしまっているのではないかな。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性③】 既婚・ 子供なし・ 子供意欲あり	1	20代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	1人	- マッチングアプリ経由で付き合った。夫の家賃補助の金額が増加するということだったので、結婚を決意。結婚に当たっては名字・住所の変更や銀行の口座名義変更など、手続き周りが大変だった。 - 年齢が上がると結婚が難しくなるという認識があった。子育ても大変になるため、早めに結婚するのがよいと考えていた。 - 夫が子供が欲しいと思っているため、いつかはと思うが今はキャリアを大事にしたい。自分は子供が好きではなく、夫は子育てに前向きなので基本は任せたい。妊娠を経て外見の変化(肌の状態など)はあることに抵抗感がある。 - 金銭的な不安がある。進学にあたって、金銭的な理由で進路を諦めさせたくない。親が頑張って稼がないといけない。
	2	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	- 漠然と1人で死ぬのは嫌だなと思い結婚を考え、現在の人と出会い結婚を決意。SNSで未婚を揶揄するような投稿を見て、できれば30歳までに結婚したいなどは考えていた。 - 子供は得意ではない一方、子供を持つことにマイナスなイメージはないが、責任が発生する認識。現在は不妊治療中。不妊治療も金銭的・時間的負担が大きく大変。 - 理想は二人。自分も姉がいて仲が良かったため、2人以上がいいなと思っている。一方で、2人の場合は金銭的に結構厳しいだろうと史料。
	3	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	1人	- 大学で障害児の研究をしており、自分が育てられるか少し不安。夫もふたりでよいと考えているようで、現在夫婦間で検討中。職場に事務職が自分しかない。妊娠した際に、業務をどのように引き継げばよいのか不安。 - 子供は夫が欲しいと思っている、理想は2人だが、経済的理由から1人が限界だと感じている。 - 東京は補助金などは充実しているので子育てはしやすいのではないかな。
	4	30代	専業主 婦	—	—	—	なし	2人	2人	- キャリアも大事にしたいため、子供とキャリアを迫られると厳しいと考えて、子供に積極的になれない。 - 夫が高齢であるため、一人になった後寂しくないように子供を作ることになった。その際に、親がエコー写真を見てすごく喜んでくれて、子供を持つことで周りの人を幸せにできる力に驚いた。 - 前職が医療系で女性が大半だった。くるみんなども取得していたが、実態が伴っているかどうかはやや懐疑的。育休から復帰してすぐに昇進などさせていたが、かえって現場からは不満が出ていた。
	5	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	20代に結婚したいと考えていたが、その時にはいい人がいなく、30代になるとそれぞれこだわりがある人が増えてきて、合う人がだんだん見つからなくなってきた。 - 子供が欲しくて妊活中。職場が子供を抱えて公私ともに激務の人が多いため、自分もできるかどうか少し不安。会社の先輩の話聞く限りでは子育て、受験などは本当に大変で、働きながらできるのかどうか不安。 - 子育ての都合で時短勤務している社員の業務が、独身社員にしわ寄せがいており不満があることを聞いている。その中で、自分が妊娠した際に仕事がどのように回るのか不安だ。 - 子供を持つことで、子供から刺激をもらい自分も成長できる気がしている。 - 会社の制度について、不妊治療に寄り添った設計になるとよいと思う。かなり残業があり身体的・精神的に負担があるが、時短勤務の適用などにできればよいと感じる。 - 多様な働き方を施策として展開してほしい。女性活躍というが、女性が会社で働き、子供も育てるのはかなり厳しい。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【男性④】 既婚・ 子供なし・ 子供意欲あり or 既婚・ 子供あり・ 追加欲しい or 既婚・ 子供あり・ 追加不要	1	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	- 職場で出会って5年ほど交際した後、自身が癌になったことも1つのきっかけとなって結婚した。 - 結婚をする前は何となく子供をもつだろうと考えていたが、体力面の不安のほか、自身がきちんと大人になれているのかという不安も感じている。 - 妻とも話し合っており、持てても1人だろうと考えている。一方、二人とも国家公務員のため転職があり得ることや、現在の1LDKでは子供を持てないことが障害に感じる。 - 出身は静岡の田舎の方で、のびのびとしている印象。現在は集合住宅のため、子供を持つと騒音が懸念。その他、出身地と比較すると東京はゴミ掃除など地域の仕事がない一方、助けを求めることが難しいと感じる。 - 東京都の支援については目にするものがなく知らなかった。
	2	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	あり	2人	2人	- 友人の紹介で出会い結婚した。自身は平日勤務だが、妻はサービス業のため年末年始等が忙しく、生活リズムの違いが障害となった。妻が育休の取りにくい職場だったため、妻が辞めた。 - 結婚する前は子供を持つことにこだわりはなく、妻が欲しいなら持とうと考えていた。子供が生まれると時間が無くなる、費用がかかるといったイメージだったが、生まれてみると可愛く、イメージが大きく変わった。 - 理想は2人で、妻は出産直後は身体的な負担が大きかったようだが、今は2人目が欲しいと話している。3人以上は居住地のスペースや経済面を理由に難しいだろう。 - 近所の保育園が保育士不足で0歳児を受け入れることが出来ず、仕事との両立に不安を感じる。 - 都内は家と家の間隔が狭く、子供の声など近隣への迷惑が気になる。
	3	30代	個人事業主	—	—	—	あり	1人	1人	- 職場で出会い、周囲の影響もあって結婚した。結婚後地方転勤となり、不妊治療が中断され大変だった。 - 積極的に子供が欲しかったわけでもないが、自身のルーツを止めたくない、また子供を持つことで家族としてより結束できると考えた。不妊治療にかなりの時間と費用がかかった。 - 自身が3人兄弟なこともあり、兄弟を持った方が社会性をはぐくむうえで良いと考えていたが、不妊治療のハードルがあり、もう1人欲しいとは伝えたものの、産むのは妻のため妻の意向に合わせた。 - 不妊治療や分娩など、出産までにかかりお金がかかる。金銭的な支援を充実させてほしい。 - 子育て関連は妻が情報を収集し支援を利用している。資金面のほか、生活設計のサポートがあると良い。
	4	40代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	あり	2人	1人	- イベントで知り合い結婚した。妻は正社員だったが育休制度などが整っておらず、子育てにあたって辞めざるを得なかったことが経済的に痛手だった。 - 自身が3人兄弟なこともあり、子供を複数持つイメージがあったが、妻のつわりが重く出産後に妻が1人に希望を変更したので、1人にした。 - 第1子から第2子へのハードルが高いのではないかと。主に経済面での支援が手厚くなると良いと思う。 - 騒音へのクレーム等、東京はのびのびと子供を育てることが難しいと感じる。行政の支援は手厚い。
	5	40代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	2人	2人	- 結婚相談所で出会った。30代後半になって1人で生きていくのは嫌だと思い、出会うまで10年近く通った。 - 子供は欲しく、不妊治療中。自身がよく家族旅行をしたため、同じ経験をできると良い。 - 年齢的に子供が成人する前に定年を迎えることや、不妊治療の費用など、経済面の不安を感じる。 - 理想的には2人欲しい。自身も2人兄弟であり、また両親に何かあったときに子供が1人にならないようにしたい。 - 子供をつくろうとしている人、特に不妊治療の支援をより拡充してほしい。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【グループ】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	子供 有無	理想の 子供数	予定の 子供数	主な発言・意見
【女性④】 既婚・ 子供なし・ 子供意欲あり or 既婚・ 子供あり・ 追加子供意欲 あり or 既婚・ 子供あり・ 追加子供意欲 なし	1	30代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	なし	1人	1人	- 同じ会社の同期で同部署となり関係が深まり、長期同棲の末、夫の転勤を機に結婚。 - 子供は自然にできればよいというスタンスで、強い希望はないが老後不安から持つべきか迷いがある。妊娠・出産の身体的負担への不安は大きい、制度面は整っており最終的には自分の判断次第と認識している。 - 東京は出会いの機会が多い一方、結婚への金銭的支援や、出産不安を軽減する政策の周知が不足していると感じる。
	2	40代	専業主 婦	—	—	—	なし	1人	0人	- 隣部署から同じ部署となる中で関係が深まり、年上の夫の人柄や仕事ぶりに惹かれて交際・結婚。結婚願望は薄かったが、長期間の安定した交際と家族への配慮を経て結婚を決断。 - 夫婦ともに子供は好きで希望はあったが、体調面や年齢、育児負担への不安から「自分には難しいのではないか」という認識に変化した。 - 特に自分の時間が大きく制約されることへの抵抗感が強く、時間確保の見通しが持てないことが子供をもつことへの大きなハードルだと感じる。 - 東京は出会いの機会はある一方で人間関係は希薄と感じる。子育ては責任の重さへの不安が大きく、金銭支援だけでなく心理的負担の軽減につながる施策が欲しいと感じる。
	3	40代	パート タイム	—	—	—	あり	3人	1人	- 夫とは大学同期で卒業後に再会し、遠距離交際を経て約半年で結婚。結婚に伴い関東へ移住したが、知人がいない環境で孤独を感じ、就労を通じて外部とのつながりの重要性を実感した。 - 当初は子供を複数人希望していたが、夫との二人目以降の意向の違いや転勤、年齢等を踏まえ一人となった。育児は想定以上に大変だったが、結果的には良い経験と捉えている。 - 乳幼児期の預け先不足や「母親役割」への負担感が大きく、一時預かりや地域での支援体制の充実が重要と感じる。 - 東京は家族やライフコースの多様性が受容されている点は肯定的に評価する一方、選択肢の多さゆえの迷いや情報不足を感じる。出会い機会や支援制度は行政主体の安心感があるが認知が低く、情報発信やつながり創出の工夫が必要だと感じる。
	4	40代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	あり	2人	2人	- 夫とは高校時代からの知り合いで大学時代に交際し、同居希望や妊娠をきっかけに学生・社会人初期の時期に結婚。出産後は社会とのつながりの希薄化に不安を感じたが、子供の成長を機に就労し、精神的な安定につながった。 - 第一子の育児経験は大変ながらも前向きに捉えており、夫婦関係の形成にも影響。一方で高齢での不妊治療を長く続けているが、第二子は授かっていない。 - 東京都の子育て支援(医療費・教育費等)は評価する一方、保育や結婚支援、都市の過密・不安感などに課題を感じる。多様な選択がある中で安心して選べる環境や心の余裕を支える支援が重要なのではないかと。
	5	40代	正規の 社員・ 職員	—	—	—	あり	3人	3人	- 同じ会社で、夫の東京赴任をきっかけに関係が深まり、交際当初から結婚を意識していた。結婚後も働き方に大きな変化はなかった。 - もともと子供が好きで希望しており、育児は大変さもあるが「生まれれば何とかする」という認識で受け止めている。一方で手続き面や制度の理解に不安があり、漠然とした負担感を感じている。 - 都市部では人間関係が適度で暮らしやすい一方、将来像をイメージできるモデルケースの提示があると安心材料になると感じる。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

〔個別インタビュー〕

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【男性①】未婚・結婚願望なし	1	20代	正社員/ IT 【システムエンジニア】	なし	なし	なし	-	-	意向の背景・ 具体的条件	・ 熟年離婚などの話を見聞きしたことや、他者と同居して価値観を合わせるのは難しいとの考えから、成人後に結婚願望は持っていない。明確なきっかけはないが、テレビなどの情報に影響された可能性がある。 ・ 結婚に関する主な不安は、価値観・性格が一致するかどうかである。自身にやや潔癖な傾向があり、衛生観念の不一致がストレスにつながると認識しているが、この点はマッチング精度が高まれば考えが変わる可能性がある。出会いへの関心度が低いため、婚活はしていない。 ・ 結婚は必須ではないとの認識。あくまで希望する人がすればよいという立場である。SNSは男女対立的な投稿が盛り上がりやすく、そうしたものを見ると男女の交際そのものに幻滅してしまう。 ・ 子供を持つことにもネガティブな印象が強い。子育ては正解がないように、失敗時のリスクが大きいとの認識（子供がニート化するなど）。子育てのポジティブな面は、社会的な信用の向上が考えられるが、社会的には「子供を持たなくてもよい」という価値観が広がっていると認識している。子供を持つことに対する意向に影響を与える要素としては、社会情勢（教育費・生活費の高さ）への懸念が挙げられる。自身の老後資金も必要な中で、子育ての追加負担は困難と感じる。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度は、5段階中「3.5」程度。今後について明確なビジョンはないが、老後も働き続ける生活は好ましくない。老後などへの不安が取り除かれても結婚願望は上がらないだろう。
									都の支援 について	・ 都の施策内容は比較的理解しやすく、東京アプリの操作性も優れていた。TOKYO縁結びはテレビニュースで認知しており、民間のマッチングアプリより安心性が高く好印象であるが、自身は結婚願望がないため利用意向はない。 ・ 子供をコミュニティで見守る仕組みがあれば、子育て負担は軽減されると認識している。現状は近隣との関係が希薄であるため、コミュニティ形成支援は有効な施策になるのではないかと感じる。
	2	30代	正社員/ IT 【人事】	なし	なし	なし	-	-	意向の背景・ 具体的条件	・ 結婚願望は全くない。結婚に対して、ポジティブなイメージもネガティブなイメージもなく、自分には縁のないものだというイメージ。20代、30代になり、自分がどのような生活をしたいのかが明確になり、その中で結婚は必要ないと思うようになった。自分の日々の生活の中に、他の人が入ってくことで、ルーティンが乱れることが嫌だと感じた。 ・ 結婚に対する経済的な障壁はないが、これまで交際していた相手と真剣に結婚の話をしたことはなく、今後でも結婚願望は変わることはないと思う。他人に影響されて考え方が変わることは99%ない。昔よりは結婚の形が多様になっているため、生きやすくなったのではないかと感じる。 ・ 子供を持つことに対しては、ポジティブなイメージがある。子育てをすることで、人として成長できる面はあるのではないかと感じる。ネガティブなイメージとしては、自分の生活が乱れる点が挙げられる。基本的に今の生活の動きを全く変えたくない。どこかで自分が妥協しなければならないというイメージがある。 ・ 東京都は子育てをしやすくなっているという話は耳にするため、あまり不安はない。ただし、身近な人から話を聴く限りは、子育ては大変そうである。常に疲れているように見える。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度は、5段階でいうと「5」。今を重視しており、人生設計は考えていない。1年でも長く健康で生きられれば良い。仕事でも様々なチャレンジをできると良いだろう。
									都の支援 について	・ 東京都が出会いに関する支援を行っていることは何となく知っているが、プッシュ型で情報提供されることには抵抗感がある。自分に必要な情報であれば、自ら取りに行く。 ・ 結婚・子育てに関する支援については、行政からの金銭的な補助は必要ではないかと考えている。ただし、少子化対策という目的を前面に出すよりも、当事者に寄り添う形で支援を行う方がよいのではないかと感じている。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性①】未婚・結婚願望なし	1	20代	正社員/ 福祉関係 【機能訓 練士】	なし	なし	なし	-	-	意向の背景・ 具体的条件	- 現時点では結婚願望はない。両親の不和・別居の影響があり、結婚に対してはネガティブなイメージがある。また過去の交際経験において、趣味や生活への干渉(推し活の制限や、服装・体型などへの要求)や、価値観の不一致(家族よりも交際相手に時間を使うことを要求)があった。その結果、結婚よりも自分の生活の自由を重視するようになった。 - 地元と異なり、東京では結婚が必須ではないという認識が定着していると感じる。独身の友人も多く、単身でも充実した時間を過ごしている。 - 子供を持つことに対してもネガティブに感じている。物価上昇等により自身の生活維持で精一杯であり、子供の人生に責任を持つことへの不安が大きい。母親が19歳で出産し、自身の夢や趣味をある程度諦めて子育てをしてきたという話を聞いており、その影響で「無理に子供を持たなくてもよい」という認識を持っている。 - 結婚は相手との関係性が前提であり、無理に行うものではないと考えている。子供についても必須ではなく、配偶者との関係性が前提にあったうえでの付随的な存在という認識。もともと子供は好きではなかった。 - 現時点では積極的に出会いを求めているものの、今後の出会いや交際相手によっては考え方が変わる可能性はあると認識しているが、子供そのものへの関心は高くない。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「3.5」程度。特に、将来的にどうなりたいという希望はない。将来的に母親の生活を支える必要が生じる可能性を懸念している。現状は経済的な余裕があまりなく、独身者向けの社宅住まいであることから、母を受け入れる際の経済的負担に不安を感じている。
									都の支援 について	都の出会い支援施策は認知しているが、民間サービスとの差異や利用者層の実像などが分かりにくく、利用には至っていない。SNSからの情報は認知しやすいが信頼性は低い。
	2	30代	正社員/ 保育業 【調理師】	なし	あり	なし	-	-	意向の背景・ 具体的条件	- 結婚願望はない。10年程度一人暮らししているが、慣れているため自分の生活に干渉されたくないという思いがある。20代の頃は周りが結婚していたので、結婚も良いと思っていたが、子供がもう持てない年齢になったため、結婚のメリットが感じられない。もともと結婚願望が強かったわけではない。付き合ってから10年程度になる交際相手はいるが、相手も結婚願望はない。 - 周囲に独身の友人もいる上に、親も干渉してこないため、世間体を気にすることはない。相手にあわせなければいけない点や家事負担が増える点が結婚のデメリットに感じる。 - 自身が子供を持つことを考えたことはない。他の子供と比較してしまうなど、子供を持つことに良いイメージもない。また、職場の子育てをしている社員が、子供のために早退している姿を見ると、自分の時間が取れるのだろうかと思う。 - 高齢化やいじめなど、子供が生きづらい社会だと感じるため、生まれても未来がないと思う。 - 家族について、表立って喧嘩はしないが、あまり仲は良くなく、両親はドライな関係であった。 - 一人で生きていけるのであれば、結婚はしなくても良いと思う。子供を持つべきだとは思わない。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「4」。今後の理想は特にない。
									都の支援 について	- 行政はもう少し子育ての環境を良くしたり、女性が仕事と子育てがしやすい環境を作ったりした方が良いのではないかな。 - 多様なパートナーを認めるなど、結婚に縛られなくてよい社会になっても良いのではないかな。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
									意向の背景・ 具体的条件	生活満足度・ 人生設計
【男性②】未婚・結婚願望あり	1	20代	正社員/ イベント業 【企画】	あり	なし	なし	2	-	意向の背景・ 具体的条件	27歳くらいのときに相手もいなかったが結婚したいと思うようになった。それまでは結婚しなくてもいいかなと思っていた。今もいい人がいれたいが、彼女がいるわけではない。35歳くらいになったらもう結婚しなくてもいいと思い始める気がする。 - 子供を持ちたいという気持ちは昔からあるし、今も変わっていない。結婚するなら子供が欲しいと思っている。 - 結婚観について、友達が結婚している時期なので、その影響。友達の結婚式に出席して楽しそうに感じた。話を聞くと、楽しいことばかりではないようだが、それでも楽しそう。一人で生きているのも楽しいが、自分ひとりで完結しているし、楽しさを共有できない。相手がいれば楽しさを共有できて、幸福度が上がる。 - 子供を持つことに対して、人間は人に教えることで成長する。同僚・上司で尊敬できる人は結婚していて子供を持っているイメージがある。
									生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活(満足度)について、転職して東京に来たが、家賃が高いことだけが不満。 - 子供は35歳までに欲しい。子供が20歳になるまで十分に面倒をみられる。子供はできれば2人。35歳で1人目だと2人は難しいか。2人と考えると1人目は32歳か。そこまでまずは彼女を作らないといけな。
									都の支援 について	- 行政の支援は基本的には分かりづらい。 - 東京都でマッチングサービスをしていることは良い印象だが、独身証明書の存在を知らなかった。少し使ってみたと思ったが、面接や独身証明書を準備するために平日を使わないといけなのでハードルが高い。 - デート支援金があると嬉しい。物価高で給料も上がっていないのに、デートにお金を割かなければならない。お金を増やすためにダブルワークすると時間がなくなる。彼女ができた後も支援があると結婚につながりやすい。この年齢で付き合い始めると結婚を意識するが、結婚をするために相手のことを知らないといけなのに、デートをできないと結婚が遠のく。
	2	20代	正社員/ 郵便局 【窓口】	あり	なし	なし	3	-	意向の背景・ 具体的条件	- 小学校の頃から将来結婚して子供を持つだろうとぼんやり思っていた。両親が喧嘩したり、兄弟間で扱いの違いを感じたり、友達の両親との違いを感じたときに、結婚は必ずしもいいものではないと思うことがあった。 - できれば結婚したいが、自分が良いと思ってくれる相手がいなくてできないと思っている。最近は、友人が結婚するようになり、隣に誰かいてくれたほうが、自分の人生が明るくなるだろうし、誰かの人生を自分が少しでも良くしたい、それが結婚と考えるようになった。 - 自分の子供は見てみたいが、子供に対して素晴らしい人生を用意できる自信がない。そうすると結婚・出産に及び腰になっている。理想の子育てについて、子供の頃は人として認めてもらえないと感じたので、そういう風に子供に感じさせないようにしたい。衣食住はきちんと用意しつつ、過干渉にならず、子供のことを尊重したい。 - 運命的な出会いをした友人がいて、結婚に至った経緯や理由を聞いた。お互いがお互いにないものを補完しあっている。自分に見せる姿より、妻に見せる姿が優しく温かった。それが良い印象だった。
									生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活の満足度について、5段階中「3」。家族には良くしてもらったと思っている。恩を返したい。今後もっと頑張るというのを含めて3点。 - 世界は知らないものばかり。知らないものに対して自分で行動する必要がある、金銭面の準備も必要。知らないものを知ることをしていくなかで、結婚もできたらいい。
									都の支援 について	- 東京都のマッチングアプリについて聞いたことはあるが、留学の準備に集中したく行動には起こさなかった。 - 東京都の施策には安心感がある。結婚するつもりがないのに相手を探したり、年収を偽ったりする人がいると思うが、そういったことは排除されていそう。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【男性②】未婚・結婚願望あり	3	30代	正社員/ 法律関係 【研究】	あり	あり	なし	2	-	意向の背景・ 具体的条件	・ 今付き合っている人と4、5カ月くらい。相手が前向きであれば結婚したいと考えている。 ・ 一人の段階では生活は困っていないが、将来的に相手が満足する所得が得られるのか漠然とした不安がある。 ・ 兄の夫婦に子供が3人いる。子供がいると生活が楽しくなるのを感じていた。 ・ 将来的には子供を持ちたい。楽しみを共有できる人が増えるので楽しい時間が増えるのではないかと。子供を持つに当たっての障壁として、相手も仕事に集中したい時期のため、仕事との両立が挙げられる。 ・ 気さくで隠し事もなく何でも言い合える家族だとよく言われた。自分の両親みたいな育て方をしたい。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度について、5点中「3」。 ・ 可能なら1年以内に結婚したい。40歳になるまでに子供を持ちたい。根拠はないが2人くらい子供が欲しい。
									都の支援 について	・ 家事代行やベビシッターの紹介は嬉しい。自身もパートナーも子育てについて知らない。おむつの付け方とか初歩の初歩から教えてもらいたい。子育て中の人とつながれる仕組みやコミュニティがあると良い。
	4	30代	自営業/ アパレル 【卸売業】	あり	なし	なし	2	-	意向の背景・ 具体的条件	・ 結婚について、20代から意識し始めて、30代で友人の結婚や出産が続き、現在30代後半になった。自分の趣味を理解してくれる相手がいれば結婚したい。周りを見てきて結婚は良いなと感じている。自分を1段階進められる気がする。 ・ 妻は幸せにできるかもしれないが、子供まで幸せにできるかという不安がある。 ・ 子育てについて、金銭が不安。都内で何不自由なく好きなことをさせるとなると、給与を倍くらい増やさないといけない。お金の面で不安はあるが、間違いなく楽しいだろうと思う。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度について、5点満点中「3」。 ・ できれば40前半には家庭を持って、自己犠牲しても家族をうまく育てるとか幸せにできるようにしたい。
									都の支援 について	・ 子供は将来の納税者だと思う。子供を持つ親の疲弊を解消するべき。親側の金銭面の負担を助けるものがもっとないといけない。また、支援策があったとして、知られていない。情報量の違いで損得が生まれている。 ・ 子供が電車でおしゃべりしていても良い社会の証だというようなキャンペーンを電車のサイネージに表示してはどうか。今の人は心が狭くなっている。
	5	40代	正社員/ 教育 【事務】	あり	なし	なし	2	-	意向の背景・ 具体的条件	・ 結婚願望自体はあるが、無理して結婚したいわけではない。結婚について、お互い支えあって生活できる点はポジティブに思う。一方、一人の自由な時間が過ごせない点はネガティブ。交際相手はおらず、婚活はしていない。日常生活の中で出会いがあれば良い。弟には子供が二人おり、姪たちの成長を見ていると、結婚も良いと思う。 ・ 子供の成長を楽しめる点は良いと思う。姪の成長を見るのが楽しいため、自分の子供であればより楽しいと思う。 ・ もしパートナーができれば子供が欲しい。子供の成長を見ること自体が楽しいだろうし、老後に支えてもらえるのではないかとと思うが、物価も上がっている中、子育てに非常にお金がかかるため、費用面が障壁になるだろう。 ・ 親は基本的に進学など自由にさせてくれた。その影響もあり、自分も子供を自由にさせたいと思う。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度について、5段階で言うと「4」ではないか。 ・ 自由気ままに過ごしたい。一生一緒に過ごしたい人がいれば結婚したい。
									都の支援 について	・ 子供を持ったら所得税をゼロにするなど、政府が強制力を持って施策を打つべきではないか。また、結婚して数年の夫婦に対して、住宅費用の一部を補助するような支援があると良いだろう。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	N o.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性②】未婚・結婚願望あり	1	20代	正社員/ IT 【事務】	あり	あり	なし	1	-	意向の背景・ 具体的条件	- 両親の仲が悪かったため、結婚のイメージが持てなかった。今のパートナーと会って結婚のイメージができて、結婚したいと思うようになった。お互い奥手なこともあり、具体的な話はしていないが、同棲する際に結婚を前提にお互いの親には挨拶しており、もうすぐ交際して1年程度なので、結婚の話をしてもし良いかもしれない。 - 子供を持つことにはネガティブなイメージがある。親子関係が良くなかったので、悪い関係を繰り返さないか心配であった。自分のパーソナルな課題を解決しなければ、出産や子育てはできないと考えている。 - 子供を尊重する子育てができればよいと思う。自分の親がやりたいことを否定してくることが影響している。また、東京は塾が多く、成長が求められるイメージがある。SNSを見ていると、私立の学校に通わせないといけないのかなと感じる。
									生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活の満足度について、5段階でいうと「3」。 - 仕事の負担が大きすぎるため、子育てと仕事を両立できるようになると良い。自分も幸せになりつつ、子育てができるくらいの余裕が欲しい。そのためには、お金と時間の余裕が必要だと感じる。
									都の支援 について	- 子育てで困った際に、ネットやAIに聞けば良い点は昔よりも子育てしやすくなったと思うが、昔よりも金銭面の負担が大きいに感じる。 - 医療費や子育て支援金などの金銭的支援があると良い。
	2	20代	正社員/ 協同組合 【広報】	あり	あり	なし	2	-	意向の背景・ 具体的条件	- 幼い頃から結婚願望があった。周囲の同年代が結婚をすると、より結婚したいという思いが強まる。(周囲の結婚によって)漠然とイメージしていたことが、より自分事として思われるようになり、いつ頃までに子供を持つかという逆算的な考えに変わった。 - 子供を持ちたいという思いも昔から持っている。自分の家族の仲が良いため、子供が出来たら楽しい、両親と同じように楽しい家庭をつくりたいという思いが幼少期からあるような気がする。 - 家庭での経験は自身の意向に大きく影響を及ぼしていると思う。姉妹そろって高校から大学まで私立に通ったが、改めて費用面は大変だったと思う。自分も同じようにできるだろうかという思いはある。
									生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活の満足度について、5段階中「4」ぐらい。家賃や物価が高く、独り暮らしの現状お金がたまらず、自由に使えるお金はあるものの、金銭的な余裕はあまりない点がマイナス。また、仕事とプライベートの両立について、仕事も忙しく自分の時間が取れない点もマイナス。 - 時間とお金により余裕が生まれると良い。職場は現状子育てがしやすい環境と思うため、長く働きたいと思う。 - 自分の時間が持ていないことで、結婚・子育てに対する意向に影響があるとは思わない。結婚、子育てをすると自分の時間は短くなると思うが、何とか時間は確保したい。むしろ忙しいことを理由に後回しにする(より高齢での結婚・出産)ことの方が不安ではある。子育てをしている方がより早く産んで体力があるうちにしたかったと話していて、高齢出産のリスクが気になる。
									都の支援 について	- 無痛分娩などについて、東京に住むのに費用が掛かるため、そのような補助でプラスになるほどのメリットを感じられる気はしない。その支援があるから東京にいよう、とまではならないのではないかと。 - 行政の支援について、自分から情報を取りに行かなければあまり情報を得られない印象がある。 - 理想の子育ての実現について、ハードルとなるのは費用面。東京は様々な経験ができ、選択肢も多いので、環境としては恵まれているが、それらの実現には費用がかかるため、それは心配である。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴		No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性】②未婚・結婚願望あり	3	30代	正社員/ 人材派遣 【事務】	あり	なし	なし	2	-		意向の背景・ 具体的条件	- 結婚願望自体はある。結婚の次のステップとして子育てがある認識である。現在の交際相手は相性が良いが、本当に今の交際相手で良いか、離婚しないかどうかハードルになっている。 - 甥や姪がいるため、子供には唯一無二の可愛さを感じる。一方で、労力や時間を犠牲にしなければならないと感じるため、自分の時間を子供に費やすことができるのか心配である。 - 老後を考えると、支えになる存在がいらないことは寂しいと感じるため、子供や家族がいた方が良いと思う。 - 元々我が道を行くタイプなので、親族や友人に結婚しないのかと聞かれたことはあるが、あまり周囲からの言葉は気にしておらず、自分自身については、必ずしも結婚はしなくてよいと感じる。
										生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度について、5段階でいうと「5」に近い。今の生活に満足しているが、結婚や子供がいても良いような年齢であることを考えると、やや満足度がマイナスになる。
										都の支援 について	今は情報を取りにいかないと支援が漏れる可能性がある。結婚や出産の際に申請したら、自動的に支援の通知が来るようにしたい。知識がない人はサービスを活用できない状況になる。
	4	30代	正社員/ 飲料製造 【営業】	あり	あり	なし	2	-		意向の背景・ 具体的条件	- 来年、会社の独身者向け住宅補助が終了するタイミングでの入籍を想定している。 - 結婚に対する価値観として、「出産・子育てとセットで捉えるもの」という意識が強い。幼少期から、結婚は出産・子育てに伴うものと認識しており、子供を持たない場合には必ずしも入籍は必要ではないと考えている。また、母子家庭で育った経験から、結婚は慎重に判断すべきものとの認識がある。 - 結婚と同様に、子育ては人生の自然なライフステージの変化と捉えており、前向き。子供の成長を通じた学びや喜びへの期待が大きい。交際相手の親族と接する機会もあり、子供と過ごす時間に楽しさを感じている。一方で、育児は仕事が終わった後も求められる負担が大きい。
										生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活の満足度は5段階中「3」程度であり、最大の課題は住宅の狭さとそれに伴う生活の制約にある。 - 今後数年で子供が欲しいと考えている。家を持つかは悩ましい。物価の上昇や税金の負担などもあり、金銭面での不安がある。
										都の支援 について	- 医療費無償化(18歳まで)や無痛分娩への補助など、子育て環境としての魅力を感じているが、妊娠初期や出産前後の費用については自己負担が残る。妊娠・出産・子育ての初期段階への支援拡充は期待したい。 - 公共交通機関の利用のしにくさ(ベビーカー、妊婦への配慮不足)についても問題意識がある。
	5	40代	パート/ 人材派遣 【事務】	あり	あり	なし	1	-		意向の背景・ 具体的条件	- 過去は結婚願望があった。「今は願望がない」という程でもないのだが、また周囲を見ていると結婚には勢いや覚悟が必要だと感じる。一人でいるよりかは誰かと一緒に過ごした方が楽しいだろうと思う。 - 交際者はいる。結婚を意識はしているものの、明確に確認したわけではなく、相手の意向も変わり得る。 - 子供を持つことに対しては、嬉しい反面、怖い反面。きちんと育てられるだろうかという不安がある。妹が3人子供を産んでおり、また周囲で子供は1人だけという家庭についても「大変だから」という声を聞く。 - 子供は持ちたいと思う。女性として生まれたし、家族を増やしたいと思う。
										生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「2-3」程度。「3」と言いたい、自分の生活に満足はしている一方、単に自立しているだけで、もっと時間の余裕が欲しいと思う。
										都の支援 について	東京都の実施している施策は、ほとんど知らないが、高校無償化等の話をきいたとき、子供の食費などを踏まえると、負担が減って良いのではないかなと思う。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	N O. .	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【男性③】既婚・子供なし	1	30代	正社員/ 飲料製造 【エンジニア】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	- 親を見て漠然と自分も結婚するんだろうなと思っていたが、実際に意識し始めたのは27、28歳で周りが結婚し始めたから。それまではもう少し自由にいたいという気持ちもあり、出張に理解を示してくれる女性がいるのかという点も不安だった。 - 子供を持つことについて、結婚してから、2年前から考えるようになった。自分と妻の年齢を考え、年齢を重ねるごとに子供を産める確率も下がっていくので、なるべく早いうちにと考えるようになった。結婚一年目から本格的に考えるようになった。 - 親戚、家族、それ以外は特に影響を受けていないと思う。親がやってきたことを見てきたので、自分もそうしたほうがいいんだろうなという思いはある。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「5」。理由は、お互いの距離感が心地いいから。子供が生まれるとより忙しくなって、満足度が下がるかもしれない。学校や保育園の送迎などのサービスがあればありがたい。
									都の支援 について	自治体の情報までは調べていない。子供が生まれることがわかってから自治体の情報も見していきたい。YouTubeとかで発信していたら見るかもしれないが、自分では調べに行かない。動画で軽く見られるとよいが、文章が多くて全部読まなければ理解できないというのであればハードルが高く感じる。
	2	30代	正社員/ IT 【エンジニア】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	- 妻に出会う前までは、相性のいい相手が見つかったら結婚出来たらいいなという程度。 - 結婚するときには子供を持てると良いなという話はした。コロナ禍だったことや、社会情勢、妻側の家族が過干渉気味という背景から踏み切れていない。 - 子供を持つことのいい点について、社会的なステータスが安定すること、家族が増え、これまでになかった楽しみが生まれることが挙げられる。お互いの成長にもつながる。 - 子供を育てる自信について、3点/5点。子供に何かあったときの不安はある。妻はコミュニティが少ないことを気にしている。同世代の子育て世代とのつながりが重要なのではないかと。また困ったときの窓口があるとすると、家族との関係が悪かったとしても利用が出来るという点で安心できる。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「3」。「5」になるには、住まいを改善するにあたってのサポートがあると良いと思う。他、コミュニティの場としての子育て・夫婦支援がより拡充されると良い。
									都の支援 について	周囲の様子を聞いていると支援が充実していると感じる。出産の費用や保育園の費用などの支援やサービスが手厚い印象。電車広告でこども支援やその窓口が充実しているのだろうと思った。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	N o.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【男性】 既婚・子供なし	3	30代	正社員/ IT 【エンジニア】	-	-	-	1	1	意向の背景・ 具体的条件	32歳ごろに今の妻と出会った。妻と周囲からのプッシュがあり、結婚を意識した。20代の時は「必ずしもしたい」ではなく「結婚したいという人が現れたら」だった。 - 十分な年収はなく、自身の安定性に自信がなかったため、「二人で生きていこう」と話して結婚した。妻側も親に「子供を産むな」と言われていた。一方、妻の体調が回復するなかで「持ちたい」といった。初めは飲み込むのに時間がかかった。段々「子供を持つのか」とワクワクする気持ちも生まれてきた。 - 子供を持つことは1人の人生を大きく変える。子供を持ちたいと言われたことで不安になり、ネットで調べた。そこで「不安にならない人はいない」「責任の裏返し」といった意見を見た。 「子供を育てる自信がない」と感じる背景について、自分がパニック障害と発達障害を持っている。妻も精神障害を持っている。子供に遺伝してしまったり、その責めを受けたりしたとどうしようと話すことはある。妻も同様の不安を抱いていたはずだが、妻は事前に福祉について調べ、支援がとても充実していることが分かり、後は自分を説得すれば…という意識になったのではないかと。
									生活満足度・ 人生設計	これからの理想や人生設計については、妻と話していることとして、持ち家を持つこと。リノベをすれば住める物件もある。中間所得層にも買えるように、リノベの支援等があると良いのではないかと。
									都の支援 について	支援というものは能動的ではないと受けられないものというイメージ
	4	30代	正社員/ 一般財 団法人 【事務】	-	-	-	なし	なし	意向の背景・ 具体的条件	- 結婚について、正直、あまり考えていなかった。願望が強いわけでも、全くないわけでもなかった。今の妻と同棲をし始めたくらい(交際3年目ごろ)から、結婚を具体的にイメージするようになった。 - 子供を持つことについて、結婚観同様、どちらでもなかった。相手次第。子供を持つことに対する責任感や度胸があまりないという意識から、ない方が楽かなとは思っていた。 - 子供が出来たとしたら、自由な選択肢を選ばせてあげたい、というのは自分が受けてきた環境の影響だろうと思った。一方、妹が2人いるが、子供の人数について複数がよいとは思わない。
									生活満足度・ 人生設計	これからの理想や人生設計について、ゆくゆく家が欲しいと個人的には思っている。自身の経済状況や投資などをふまえて、住宅環境をより向上させたい。立地とのバランスを検討していく。
									都の支援 について	妻の体調面に不安を抱えており、キャリアを重視しているので、子育ての優先度を下げている。不安解消に向けた支援としては、各企業が発信している両立支援以外にも、都として発信してほしい。当事者以外は積極的に情報を取りに行かないため、あまり知らないまま「できない」と思っている可能性もある。また、子供を持ちたいが体調・体力的に不安だという方の相談先もより見える化するのと良いのではないかと。
	5	40代	正社員/ 公務員 【事務職】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	30歳になってから結婚相談所に行き始めた。結婚に対する考え方はあまり変わっていない。自分が育ってきた家庭を踏まえて、自分も同じような家庭を持ちたいなど思っていた。 - 子供は2人欲しいが、年齢を考慮すると1人だろう。結婚したら子供が欲しいと思っていた。 (子供を育てる自信)まだ持っていないので、持つ自信というのに実感はわかないが、不自由はさせないのではないかとという意味で5点中の4点だろうか。自分たちの体方面・年齢が心配。
									生活満足度・ 人生設計	現状の満足度は、5段階中の「1」。望みとしては一日でも早く子供が欲しい。
									都の支援 について	もっと子供を持ちたいと思っている人たちの支援を手厚くしてほしい。不妊治療の取組があまりないと感じる。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	N O.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性③】既婚・子供なし	1	20代	正社員/ 医療 (病院) 【看護師】	-	-	-	2	1	意向の背景・ 具体的条件	・ 兄に子供がいて、姪っ子を見ると子供が欲しいと思う。結婚して子供を産むのが通常のルートと思っていた。いざ結婚して、周りで子供はかわいいだけではない場面を見ると、子供を作ることにためらう気持ちがある。 ・ メディアで子供を持たない夫婦が取り上げられていて、夫婦二人もいいと思い始めた。子供がいると子育てに忙しくなる。夫婦二人ならゆっくり過ごせる。お金も自分たちに使える。 ・ 子持ちの親が世間から叩かれている気がする。サッカーボールで遊んでいた壁に当てる音がうるさい、レストランや電車・バス・飛行機で子供の泣く声がうるさい、とクレームになっているエピソードを見聞した。 ・ 夫とは子供を作ることにして話し合いをしていて、子供を持つ気持ちが薄れてきていると話した。仕事を続けたいが、育休を取ると部下にしわ寄せが行き、不満に思っていたことを聞いた。自分も同じように思われるといやだなと思った。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度は、5段階中で「3」。 ・ 子供の欲しい、欲しくないは6:4。やっぱり子供はかわいい一方で経済面と世間の目が気になる。
									都の支援 について	・ 東京都の支援について、SNSで「何の足しにもならない」という投稿が流れてくるのを目にしたことがあるが、子供がいる友達や兄は都外に住んでいるので、東京都は保育料無料でいいと言われる。
	2	30代	正社員/ 医療 (病院) 【看護師】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	・ 30歳になる前に結婚するのではないかと漠然と思っていた。20代半ばから結婚する人が増えている印象ではあったが、結婚しなくても幸せになれるという覚悟は持っていた。 ・ 夫の方ができれば子供が欲しいという感覚を持っていた。自身は、いずれは子供が欲しくなるだろうと思っていた。妊活を始めたのは昨年6月から。結婚して半年程度経過してから、いつ子供を持つかという話をした。 ・ 不妊治療する中で、早めに結婚して、妊活や不妊治療の判断を早くした方が良いと感じるようになった。 ・ 中学から私立に通わせてもらい、20代半ばまで親に頼って生きてきたため、自立するのが遅かった自覚がある。自身の環境が恵まれていたために、むしろ子供はすごくお金がかかるものという認識を持つようになった。特に近年物価高が進む中で、これまでのように500万円で大学に行けないだろうなど、まだしなくても良い心配をしてしまう。 ・ 自身も夫も姉妹兄弟がいたため、二人は欲しいと考えている。20代のうちは、子供を持つことへのハードルを理解していないことが多いのではないかと。早めに子供をもつことの知識を知りたかった。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度は、5段階でいうと「3」。お金の余裕や、年齢的な意味で妊活のゆとりがない。 ・ 母親は、自身が小学校三年生の時まで仕事をしていなかったため、時間や心にゆとりがあったのだと思う。仕事をやめることやセーブすることをしなければ、ストレスがたまるだろう。
									都の支援 について	・ 情報収集は、気になったときにGoogle検索をするようにしている。都度最新情報を得るのは大変。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性③】既婚・子供なし	3	30代	正社員/ 流通小売 【事務】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	- 親がしているので、幼少期から将来結婚するものだと思ってきた。しないということに考えが及ばなかった。大学生、社会人になってから、周囲が結婚し始めたことで、具体的に考え始めた。 - 漠然と昔から「子供が2人欲しい」「30歳で生みたい」などあった。20代後半に周囲が結婚・出産していたので羨ましいとは感じたが、相手や仕事のこともありタイミングが合わなかった。 - 親が晩婚だったため、その影響はあるかもしれない。友人たちは早めに結婚した。東京育ちの友人は独身が半分程度あり、まだ大丈夫だなと感じ遅くなったところもあるかもしれない。 - メディア等で卵子の老化の話や、助成金が30代までという情報を得て、重い腰をあげた。情報源は日々のニュース。後は姉が医者であるため、情報をくれる。今は子供が欲しいと思うが、お金がかかる。期間を決めるべきだと感じている。3年など。
									生活満足度・ 人生設計	- 現状の生活の満足度は、5段階中「2」ぐらい。会社にこき使われて忙しすぎて婚活もする時間がなかった。男女平等で働いたのに、子供を産めと言われる。同じ労働時間で働かされても体力も違う。 - 時間的余裕がないので、余暇をとれる余力と、不妊治療（「先行きの見えないトンネル」）に専念したい。
									都の支援 について	東京都の支援について、申請が必要なものは情報収集が困難な場合もある。SNSでは申請関係の情報は出てこない。
	4	30代	正社員/ 流通小売 【事務】	-	-	-	なし	なし	意向の背景・ 具体的条件	- 今の夫に同棲したいと言われ同棲したが、結婚を前提に同棲するという流れではなく、一緒にいる時間を長くしたいと思って同棲したので、結婚を意識していなかった。独身時代も結婚に焦っていなかった。 - 友達に子供が生まれる機会があると、夫の間では子供を持たない方針にはいるものの、欲しいと思う。夫の決意が固いので、子供を持つことに変わることはないだろう。 - 一人の時間も好き。一人ではない、夫がいる安心感があると同時に、一人のプライベートの時間も確保できている。子供を持つ友人たちは一人の時間がなくなった。
									生活満足度・ 人生設計	今の生活は5段階でいうと「4」。「5」にならないのは自分の収入をもっと上げたいから。
									都の支援 について	東京都は出会いや妊娠・出産は力を入れるので何かやっているのだろうが、具体的にはあまり知らない。
	5	40代	専業主婦	-	-	-	1	なし	意向の背景・ 具体的条件	- 元々は結婚願望がなかった。育った環境の影響（親の2度の離婚など）もあり結婚にいいイメージがなかった。推し活に夢中で、付き合うことにも積極的ではなかった。今の夫は、家族以外で初めて自然体でいられる人だった。結婚するかしないかにかかわらず、ずっと一緒にいたいと思った。 - 元々子供は好きだったが、自分で育てるとなると難しいと思った。結婚前後で、子持ちの身近な人たちの大変そうな様子や、自分の育った環境も影響し、子供を持つことは諦めた。また、婦人科疾患があり、薬を飲んでいる間は妊活ができない。 - 子育て環境は昔よりはいいと思うが、子持ち様と呼ばれることもある。他人に干渉される感じが大変だろう。子供を持っている人は周りに気を遣いながら働いている。子供のいない人にしわ寄せが生じている。
									生活満足度・ 人生設計	今の生活の満足度は5段階中「4」。子供がいた未来はどんなものかなと考えることはある。その未来には今の自由さはないし、逆にその未来の幸せは今の状態ではないと思う。
									都の支援 について	自分から情報を取りに行かないと支援策の情報が届かないように思う。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【男性④】既婚・子供あり	1	20代	正社員/ 教育 【営業】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	- 結婚について明確な契機はないが、周囲に子供を持つ家庭が多く、自然なライフコースとして認識していた。結婚前から子供を授かれれば嬉しいと思っており、交際初期(1〜2ヶ月)から共通認識として確認していた。 - 自身が一人っ子であることから、子供は1人以上持てると思い考えていた。ただし2人目について具体的なイメージが湧いておらず、時期も未定。妻と2人目も持ってもよいとの認識は共有しているが、現状でも育児負担が大きく慎重な姿勢である。 2人目を検討する際は、教育費や育休取得、子供の年齢差による負担、住居費の上昇などが主な検討事項である。理想的には、公的給付や低廉な住宅供給など金銭的支援があれば前向きに検討できる。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階中「4」程度の満足度。経済面では安定しているが、将来(特に小学生期)の時間の使い方に不安がある。学童保育や学習支援の充実があれば、将来不安の軽減につながる。
									都の支援 について	見守りおむつや給付金等の支援を利用しており、情報は妻の調査や出生届時の資料から取得している。制度自体は分かりやすい一方、キャッシュレスポイント等一部施策は情報取得が難しかった。LINE等のプッシュ型媒体、SNS(Instagram、Facebook、YouTube)での情報発信強化が望まれる。
	2	30代	個人事業主/ 配達業 【配達員】	-	-	-	1	1	意向の背景・ 具体的条件	- 実家に住んでいる間、いずれ家庭を持つイメージを持っていた。20代前半は東京都での生活のみで精一杯だったため、経済的な制約や時間の制約もあり、子供を育てるということは可能なのだろうかと思っていた。一方、これまで世代をつないできた中で、自分で途絶えることは寂しいと感じた。1人は出来たらいいなと思っていた。 - 子供を預かるところのルールが守備的。労働時間が短いため、「〇時までには迎えに来てほしい」と言われてしまう。ちょっと遅くなるなどが言いづらい。もう少し融通が付くと良いと思う。
									生活満足度・ 人生設計	これからについて、生活レベルを上げずに、長期設計が重要。
									都の支援 について	不妊治療の支援について、ラインがあるのは仕方がないとはいえ、生物学的にまだ産めるという年齢の人にはある程度の補助があると良い。分娩費用についても最低のプランでも当時60万程度取られた。もう少し国の制度が整うと良いと思った。
	3	40代	正社員/ 情報 サービス 【営業】	-	-	-	2	1	意向の背景・ 具体的条件	20代半ばまでは結婚しなくてよいと思っていた。20代後半になると、周囲が結婚し始めたことから意識するようになった。また、社会からマイナスに見られるなど、そうした未婚のデメリットを感じるようになったことも結婚を後押しした。 - 子供と接する機会は多くなく、当初はあまり子供が欲しいという気持ちはなかった。しかし、結婚をきっかけに子供を持つことを考えるようになった。また、80代になっても妻と二人だけで現在と同じような生活を続けることに漠然とした不安を感じていたほか、結婚して子供を持つ人生の方が一般的であり、望ましいものではないかという意識もあった。 - 第二子を持つかどうかの判断には、二人の子供を育てることへの負担感も影響している。第二子出産後は母親の体力が回復しにくいと感じていることに加え、職場で二人の子供を育てている人の様子を見ても、育児には相当な体力が必要だと感じている。また、自身や妻も第一子の育児だけで精神的な負担を感じた経験があり、第二子をためらう要因となっている。
									生活満足度・ 人生設計	現状の生活の満足度は、5段階で言うと「4」。より都心に住みたいという点、二人子供を持てなかったという点が、マイナスになった。経済的なリスクを考えずに生きていきたい。
									都の支援 について	- 現状の情報提供では、自ら情報を探しに行かなければ利用可能な支援制度を把握しにくいと感じている。また、相談方法が電話に限られる場合があるなど、支援へのアクセスのしづらさも課題であると認識している。 - 進学サイト(高校の偏差値を記載しているサイト)に支援に関する広告があると、認知しやすいのではないかな。

東京都「令和8年度若年層及び子育て世代を対象とした意識調査」

【属性】 特徴	No.	年代	職業	結婚 願望	交際 有無	婚活 有無	理想 の子 供数	予定 の子 供数	主な発言・意見	
【女性④】既婚・子供あり	1	20代	正社員/ アパレル 【接客】	-	-	-	2	2	意向の背景・ 具体的条件	・ 家族関係が良好な環境で育ったことから、自分も同様に温かい家庭を築きたいという思いが強い。結婚前は30歳までに出産という漠然とした願望だったが、結婚後は、仕事や生活との兼ね合いも含めて現実的に出産時期を考えるようになった。 ・ 自身・夫ともにきょうだいがいるため、子供は2人以上を希望。場合によっては3人も視野に入るが、学費負担については懸念している。金銭面や住環境（現在1DK）、仕事との両立に対する不安はあった。 ・ 出産経験自体は前向きに受け止めており、現在も幸福度は高い。一方で、助成制度は自ら調べないと分かりにくく、プッシュ型で情報が届くとよいと感じている。
									生活満足度・ 人生設計	・ 現状の生活の満足度は、5段階中「4」程度である。主な不満は住環境の狭さである。子が成長したら、今の家は手狭である。 ・ 今後は保育園に入れるかが大きな懸念である。まもなく、保活や送迎のスケジュールリングを進めなければならない。
									都の支援 について	・ 産前産後の給付金や児童関連施策については複数利用しており、商品券やギフト券など具体的な金銭的支援は活用できている。一方で、それぞれの制度ごとに申請時期や手続きが分かれており、期限管理や申請漏れへの不安がある。 ・ 制度や子育て関連情報は主にSNSや自治体サイトから取得しており、1つの情報をきっかけに関連情報が連鎖的に表示される環境にある。ただし、情報の真偽を自分で判断する必要があり、正確性を見極めには一定の注意が求められる。
	2	30代	専業主 婦	-	-	-	3	2	意向の背景・ 具体的条件	・ 結婚をする・しないは選べる時代。結婚をしたい/子供を持ちたいと思う背景には自分の両親や家族があると思う。 ・ 夫婦ともに互いに3人以上兄弟がいた。子供は少なくとも2人以上は欲しいという感覚はあった。妊娠・出産前は、「〇歳までに子供を持つ」などは同世代の中で割と考えていた方とは思っていたが、妊活を始めて半年たって、自然に妊娠することが難しいと知った。仕事を辞めていたこともあって誘発剤の注射等の治療が受けやすく、治療を受けてから妊娠までは早かったが、自然な妊娠の難しさを実感した。 ・ (理想の3人から予定2人への変更について)経済的な要因と体力的な要因。後者について、2人目が特に1-2歳の間自分にとってだったため、3人目を想像しづらかった。夫は3人目も欲しいと思っていたと思うが、「誰が生むの？育てるの？」と考える。
									生活満足度・ 人生設計	・ 子供がいる今の生活度の満足度は5。子供を無事に大人にできるか、自分たちの老後の暮らしなど、将来の不安も踏まえると変わってくる。5段階中でいうと「5」寄りの「4」。時代的に先が見えない。
									都の支援 について	・ 教師の働き方改革などを背景に学校で経験可能な体験が変わっているといった話をきく(遠足の規模の縮小など)。教師の負担ももちろん考慮してほしいが、自身の子供時代と比較して、自身が良かったと感じた経験をお子でもできると良いと思う。
	3	40代	正社員/ 社会保 険労務 【土業】	-	-	-	2	1	意向の背景・ 具体的条件	・ 子供のころは結婚するのが当たり前で、早いうちに結婚したい程度に考えていた。若いうちに授かり婚をしたので、あまり考えないまま結婚した。一方、30代以降さまざまな夫婦や家族の形(独身含め)を知り、必ずしも結婚とは考えなくなった。 ・ 第2子については、夫はずっと欲しかったようだ。私が、第1子がかわいくて追加はいらないと思っていた。出産が大変だったのでもう一度を考えられなかった。また、働き始めた先で正社員になり、資格を取得しキャリアアップするなかで、30代は育休など考えられなかった。妊活が保険適用になると聞き、それをやってみようと思うという話をした。一方、子宮筋腫ができ、無理して取ってまで産まなくてもいいという夫の反応だった。職場の人数も少なく、休みづらいつ感じ、腰が重くなった。
									生活満足度・ 人生設計	・ (該当発言なし)
									都の支援 について	・ 3時間ごとのミルクやおむつ替えて精いっぱいの時、義母が夜ご飯を持ってきてくれた。とても助かった。そういう人が身近にいない人の場合は、自分たちの食事にも困るのだなと思い、そのような支援があると良いのだろうと思う。

有識者からの意見聴取の概要

- ・令和5～8年度にかけ、社会学や人口学、経済学、雇用・労働等、幅広い分野の有識者等28名を対象に個別ヒアリングを実施
 - ・令和6年8月に「少子化分析・検証フェロー」を設置。令和8年度は4名の有識者に委嘱(★印)
- (敬称略・50音順)

天野 馨南子	(株)ニッセイ基礎研究所生活研究部 人口動態シニアリサーチャー	竹原 健二	国立成育医療研究センター研究所 政策科学研究部長
池田 心豪	大正大学人間学部人間科学科教授	田中 俊之	大妻女子大学人間関係学部 人間関係学科社会学専攻教授
宇南山 卓	京都大学経済研究所教授	筒井 淳也	立命館大学産業社会学部教授
鎌田 健司 ★	明治大学政治経済学部准教授	永井 暁子	日本女子大学人間社会学部教授
暮石 涉	東京都立大学経済経営学部教授	中里 透	上智大学経済学部准教授
後藤 玲子	茨城大学人文社会科学部教授	深井 太洋	学習院大学経済学部准教授
是枝 俊悟	株式会社大和総研金融調査部主任研究員	藤波 匠 ★	株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員
近藤 恵介	独立行政法人経済産業研究所上席研究員 神戸大学経済経営研究所准教授	増田 幹人	駒沢大学経済学部経済学科准教授
坂元 晴香 ★	聖路加国際大学公衆衛生大学院客員准教授	松田 茂樹	中京大学現代社会学部教授
柴田 悠 ★	京都大学大学院人間・環境学研究科教授	水野 圭子	法政大学法学部法律学科講師
治部 れんげ	東京科学大学リベラルアーツ研究教育院准教授	村上 芽	株式会社日本総合研究所 創発戦略センター チーフスペシャリスト・未来社会価値研究所長
白河 桃子	昭和女子大学 客員教授、IU大学 特任教授、 ジャーナリスト、作家	茂木 良平	ポンペウ・ファブラ大学政治・社会科学学部 研究員
菅 桂太	国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部第1室長	守泉 理恵	国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部第1室長
杉本 浩二	公益財団法人ハイレイフ研究所上席研究員	山田 昌弘	中央大学文学部教授

※肩書については令和8年7月時点のもの

有識者からの意見聴取の概要

人口、世帯 等

- 都は、進学や就職で全国から未婚者が集まり、結婚、子育てを機に隣県に移る人も多く、合計特殊出生率が低く出る傾向
- 合計特殊出生率は移民割合の僅少な日本ではあくまでもマクロ指標として有効。計算対象となる若年人口の大きな人流を伴う自治体単位のマクロ指標としては高低比較は無効
- 東京の人口構造自体は若く人も多く、出生率上昇のポテンシャルは高い
- 都は、若い世代、特に若い女性が就職のために多く集まっている。若年女性雇用の充実と生涯を通じた自立力を高めることで若者に選ばれる都市であって欲しい
- 最近では男女とも結婚相手に経済力を求める傾向が顕著
- ほぼすべての人が結婚していた時代は、高学歴の人は晩婚傾向で出生率も低かったが、最近では、夫婦ともに高学歴で正規社員のように雇用が安定している方が有配偶率が高く、例えばパワーカップルのような方々が都心のマンションを購入し子供を2人程度持つようなパターンも増えていることから、都心での出生率が比較的高い
- 都心部の合計特殊出生率が都内の中で比較的高いのは、都心部以外の都内に地方からの未婚の若者の流入が多いことの影響が大きいと考える
- 東京圏出身者は、晩婚傾向かつ東京圏からの転出が少ない特異な属性
- 就業地と居住地、通勤の3つは同時に決まってくるもので、子供を持つと広い住宅を求めて郊外に住む、その代わり通勤時間が増える、という具合に影響してくる。人口移動を都外への移動と都内移動の二つに分けて捉えたうえで、施策検討の際には都内移動でもこのようなトレードオフが起きることを考慮することが重要。

少子化の要因

- 日本の少子化の大きな要因は未婚化・非婚化。特に東京は、未婚率が高く、晩婚傾向で、20代での出生率が低い傾向
- 全国レベルで結婚行動と夫婦の出生力の要因を分析した結果、結婚行動の変化が出生率低下に大きく寄与
- 婚姻数、特に初婚同士の婚姻件数の低下が問題
- 少子化の要因を分解してみると、近年は有配偶出生率が出生数を押し下げていることが分かる。結婚している人も出生意欲が低下していることを示唆している
- 退職によって失う生涯賃金が大きく、女性にとって結婚や出産がリスクと受け取られている
- 若い世代の不安定な雇用状況と低い年収でそもそも結婚できないこと(未婚化)が少子化の大きな要因
- 子育て費用の高さが一番重要な問題、東京は子育て費用の高さが際立っている
- 子供のいる人だけでなく、結婚していない若年層に対する働き方改革が必要
- 進学や就職に伴う未婚女性の流入により、都市部の合計特殊出生率は低めに出る傾向がある
- 合計特殊出生率を用いて地域差を論じる場合には、自治体間での人口移動の影響があることを十分に認識する必要がある
- 結婚選択の三大要因は「経済要因」「出会い要因」「結婚の必然性要因」と考える
- 少子化の要因として、客観的指標(学歴、所得、職歴)に加え、主観的な経験や状況に対する判断、本人の意識が影響しているという研究が増えている。年収や社会的地位が高くても、将来への不安が高いと出産には繋がらない。幼少期の経験なども視野に入れて調査するとよい
- 結婚したい人、子供を持ちたい人の数自体が減ってきている点が近年注目されている。結婚、出産が可能かどうかの前に、そもそも意欲が減っているのではないか。要因としては特に東京は一人でもさみしくない、充実しているという点があると考えられる
- 結婚以前に交際ができていないことが全体を通じた問題であり、交際・結婚・出産に対する消極性が近年際立っている

有識者からの意見聴取の概要

出会い・結婚

- お見合い文化がなくなった結果、生涯未婚率が上がったという分析もある。結婚支援を自治体でやっていくというのは一定の意味がある
- 最近では職場での出会いがなくなってきたため、学生時代からのつながりで結婚する人が多い
- 全国調査でもネットでの出会いは確実に増えており、結婚支援においては重要な目の付け所である
- マッチングアプリは利用者がアクティブ層に偏在していることが考えられるため、「出会いがない」と言っている人には今もリーチしていない印象。非アクティブ層がアクティブ層に向かっているかという点も検証が必要
- どのような属性の人々が結婚・恋愛に興味がないのかを明らかにすることも重要
- 男女ごとに感じる結婚の障壁を分析することが重要
- 行政だけでなく、民間企業とも協力しながら行うべき。また、区市町村単位で個別に取り組むことに加え、広域的に連携して対応すべき
- 婚活支援単体ではなく、スポーツ振興、文化振興等のイベントで副次的に出会いの場を創出するなど、他分野の政策との連携も視野に入ってくるのではないかな
- 子供を望まない理由が、経済的要因か身体的要因かを分析するためにも、結婚年齢別の分析を深めることは重要
- 結婚・出産を希望しながら実現できていない層にフォーカスし、出会いや働き方などの条件がどう整えば実現に繋がるのか、潜在ニーズを深掘りするとよい
- 日本は恋愛に対し受動的な層の割合が突出して高いため、どのような介入ができるか検討の余地
- 出会いの機会は、職場の人間関係などの職縁結婚が多いことが伺える。若い社会人の交流を促す政策を実施することの副次的効果として、出会いの機会を創出することが期待できるのではないかな
- SNSの現実離れした発信は身近な人が魅力的に見えにくくなることで交際に発展しにくくなっている可能性
- 結婚の意思の変化についても、本当に結婚したくない人と、自分の収入、雇用状況から結婚を考えない人が混在しているため、単純に増加した分を価値観の変化とするのはミスリーディングにつながりかねない

妊娠・出産

- 晩産化が緩やかに進んでおり、不妊治療など生殖補助医療についてサポートしていく必要
- 生殖補助医療に取り組む女性は、仕事との両立に困難を抱えており、ここのケアが大事
- 男性が原因の不妊について啓発を進めるべき
- 出生順位ごとに親が感じる出産の障壁の種類は異なる。第1子の場合は、仕事との両立の不安、保育園に入れるかといった不安、ライフスタイルが変わることへの不安等が考えられる。第2子の場合は、子育ての時間のやりくり、経済力の不安、肉体的・精神的負担など
- 両親の夫婦仲や学業成績など、幼少期の生育環境・家庭環境は、出産意欲の形成に大きく影響を与えていると言われている
- 日本のプレコンセプションケアは概ねグローバルに準拠してきているが、子供を持つことに関するライフプランの教育はまだ十分に見られないのが現状のため、今後取組が増えるといい
- 子供を持つイメージ、子供に対する具体的イメージが薄いのも都市部では課題となっている。若い世代で赤ちゃんや小さい子供と触れ合ったことがあまりない人の割合は5～6割にのぼるなど、小さい子と触れ合う機会が少ないことが指摘されている

有識者からの意見聴取の概要

子育て期の支援

- 保育所の整備は非常に有効な少子化対策。保育所整備が進んでいる都道府県ほど就業継続率が高い傾向
- 2015年頃から被扶養者(専業主婦等)世帯の出生率が低下し始めている。在宅育児世帯、特に子供が小さい時期への支援が必要
- 保育所や学童保育所の待機児童問題について、引き続き、対処していくことが大事
- 共働きの多い地域では保育園拡充、パート勤めや専業主婦が多い地域には孤立防止支援や在宅支援等地域に応じた支援が重要
- 地域の若い夫婦に支援をするNPO等の取組に対して補助するのも一つの手段
- 学童クラブの整備は親の働き方や女性の就労継続という面で重要
- 子育て支援の効果は女性の就業率の上昇に寄与していると考えられ、この寄与度を評価することも重要
- 東京への転入者は両親からの支援を受けられないため、働きながら子育てをするのは相当大変だろう。そういった状況にある人を補助する支援や、男性の育児休業取得に対するインセンティブ付与は重要
- 急に支援が必要になった時の預け先の整備の必要性は高い
- 「結婚」と「子育て」は、それぞれ独立した事象として捉えられることが多いが、「子供を持ちたい」という希望は結婚行動に明確な影響を与えている。有配偶率を上昇させるためには、若者の結婚を支援するとともに 彼らが子供を持ちたいと思えるような子育て支援の充実も必要
- 保育所の整備が進み、量より質のフェーズに入ってきている。延長保育や病児保育、入園時期の柔軟性等が重要だが、子供や預かる側の負担が増える方向の改善のみならず、親側の就労環境の柔軟性とセットに考えていけると良い

教育・住宅

- 都特有の事情として、教育費及び住宅費の高さがある
- 日本、シンガポール、韓国等のアジアと欧州を比較した場合、1人目を産んだ人が2人目を産むハードルが高い要因は教育費
- 東京は教育への意識が高く、良い教育を受けさせるための経済的ハードルも高い
- フランスは公立中高大が中心。近年は若年層の大卒等の高等教育修了者の割合が高まっている。一方で、職業資格や国家資格など専門的なコースも整備されている
- 住宅支援は、2人、3人の子供を持つ際、スペース制約への解決につながるのでインパクトがある
- 通勤の利便性の高い住宅が必要
- 住宅環境は結婚や出産に関わる重要な要素である
- 今後実施すべき施策としては、住宅支援が最重要であると考え
- 都内では住宅価格が急騰しているため、都で出会っても若いカップルは周辺県に出ていってしまう
- 高校教育費の割合が増加している背景には、都における中学受験の一般化と受験産業の過熱がある。都は他道府県に比べて大学進学率が高い可能性があり、塾代などの大学進学準備費用が影響していると考え
- 特に30代半ば以下の若いカップルが結婚するときの、住宅支援があってほしい
- 高層化需要が高い地域の規制緩和によって、都市に比較的近い場所に住めるようになり、通勤の問題が緩和されることも考えられる
- 東京都は住宅のストック数が多いが、単身用世帯が含まれている。家族で住むに適した広さとなると価格面で取得が難しく、郊外に住むことになり、通勤時間と子育て時間のトレードオフになる点が課題
- 特に住居に関するお金の問題が大きく、経済的支援のニーズが高い

有識者からの意見聴取の概要

就労環境・職場環境

- 昔は若い時に貧しくても収入向上が見込めたが、現在では所得の向上が見込めず、物価上昇や社会保障費の高騰と相まって、今は将来展望が描けず、結婚や子供を持つことに躊躇する状態にある
- 要因分析が導く少子化対策は、若年層の描くライフデザインに沿った雇用環境の形成
- 男性の長時間労働は1980年代後半から社会問題化してきたが、解消されていない
- 男性の長時間労働が改善され、家事・育児を男女共同で行うことで女性の社会進出がしやすくなる。それによって、家族を形成する上での経済的な不安が軽減され、結婚への不安や躊躇が解消される
- 男性も女性も働きやすい労働環境整備を進めることが重要
- 若い女性の正規雇用率は高くなっているため、出産等をきっかけに辞めずに済む環境整備が重要
- 男性育業はインパクトが大きい。国の制度が整ったので、男性の家事育児分担に繋がる取組を工夫する必要
- 2010年代からの両立支援は効果があり、出生率を高めていると考えられる
- フランスは、育業も出産時休暇も短時間の取得が可能。例えば、5時間育業を取得して3時間働くことも可能
- テレワークと部分就業を組み合わせれば、引継ぎがよりスムーズになり、取りにくい雰囲気も減る
- キャリアは途切れてしまうと戻るのが非常に困難。切れ目なく仕事を続けるという観点からもテレワークは重要
- テレワークの推進等を通じ、高いポテンシャルを持つ地域を活かしていくべき
- 都自ら働きやすい環境整備を進め、ロールモデルとなるべき
- 男性の1か月以上の育業は、男性の家事・育児時間を週4時間程度増加させる効果を持つことが明らかになっている

- 男性の正社員の働き方が改善されないと結婚や出産には踏み切れない
- 働き方に関する施策としては、中小企業のDXへの支援等も重要と考えられる
- 従来は「女性の社会進出が進むと少子化が進行する」と考えられていたが、各国の事例からは、女性の社会進出によって世帯収入が増え、経済的安定が子供の数の増加に寄与することが示されており、思い込みをなくすることが期待される
- 企業での働きやすさ・企業による充実した子育て支援が必要なのであって、企業に対するインセンティブ付与が必要
- 完全な育業はハードルが高い場合、時短勤務や部分的な育業、8割テレワークなど柔軟な働き方が選べるとよい。時間や住宅面の改善につながり、企業も人手不足に対応しやすい
- ライフデザイン支援について、根本的に大事なものは、個人のライフデザインや希望を1on1で聞き、それを実現できるように企業の在り方を変えていくこと
- 大企業ではリモートワークやフレックスなどの制度整備が進んでいる。時間の経過とともに子育てと就労環境に対する意識変化が顕在化してくるだろう。現在20～30代の男性をみると、育業取得に対する意識や、主体的に育児に関わりたいという意識が少しずつ高くなっていると感じる

有識者からの意見聴取の概要

社会気運・環境整備

- 都には若い世代が多いので、子育てしやすい街、子育てにフレンドリーな街になることを期待
- 人手不足で子育て支援に力を入れる企業に人が集まるようになってきた。大企業だけでなく中小企業にも広がるとよい
- 男女格差の解消が、出産結婚に対して前向きになり、社会の寛容さの広がりにつながっていく
- 女性が子育てへのプレッシャーから「子供を育てる自信がない」ので「子供を欲しいと思わない」となってしまうよう、政策では子育てにおける男女のジェンダー規範への対策が重要
- 子育て応援車両等、子育てスペースの整備で子育ての心理的負担を軽減できる
- 男性も育児中心でいこうという掛け声と、実際にそうした男性が社会でどう評価されるかに乖離がある
- 未婚者に対して子育て支援策などを情報発信して、認知してもらうことは結婚を前向きに考えてもらうことにもつながる
- 都は子供を優先していることをアナウンスメントする。それがメッセージになる
- 結婚や出産・子育てに向けた経済的支援など不安を取り除くためのポジティブな情報をパッケージでもっと発信するべき
- 若年層・未婚者の間で、子供を持つことのメリットがあまり支持されなくなっている。「子供がいると楽しい」というイメージよりも「大変」というイメージが勝っている
- かつてより規範意識が弱まっている分、周囲からの影響を受けやすくなっていることも考察される。実際には様々な子育て支援策があり、一人で産み育てるものではない、という認識をどう広めていくかが重要
- 政策の認知度は若年層が課題。SNSやYouTubeを通じたターゲティング広告が有効だと考えられる

- 自治会等が減少傾向にある中で、地域のつながりが見える化する組織が弱体化してきている。「意外と地域から支えられているんだ」と思える機会をどう作っていくかは難しい課題だが、非常に重要
- 地域における祖父母のような面倒見や相談役の役割を果たす、地域による子育ての支援も重要なのではないかと。心理的ハードルが低く、ちょっとした相談もできる、というのが大切
- 欧州ではジェンダー平等の取組が進んでおり、「産みたい人が子供を産める環境づくり」に寄与
- 男性の育児休業取得率は上昇しているが、長期取得ができていないわけではない。家事や育児を分担できる状態になるには、半年から1年は必要であり、長期取得に向けた見直しが必要。家事・育児を公平に分担するには女性の意識改革も必要
- 未婚者や子供がいない層は、都の子育て支援に関する評価について、「分からない」と回答する傾向が強い。全国でも同様の傾向と思うが、直面した人以外は情報をとりにいかないため、周知広報が重要
- 子育てに対するネガティブな印象が先行している。ポジティブな意見を広く人々に届けることも重要な取組
- 支援に対する評価は上がっているが各政策の認知度は低い。婚姻届の際に説明するなど、ニーズのある人に届ける周知の工夫が必要
- SNSが必ずしも悪影響とは限らないと考えており、家族形成についてポジティブな情報発信を行いたい場合、媒体・経路を選択する際に参考になるだろう
- 子育てにおける地域の支援の実感については、学生として体験学習等で地域の人と身近に交流した経験がある若年層の方が実感を得ている可能性がある
- 東京では女性の家事時間が減少しているが、男性が代わりに担っているわけではなく、外食や家事代行などのサービスを購入することで補っている

有識者からの意見聴取の概要

行政の役割、要因分析、効果検証

- 都が先進的な政策を全国に先駆けて行うことは意味がある
- 区市町村と一緒にやっていく、または取組を支援する必要がある
- 少子化対策が自治体間での競争にならないよう、国は良い取組を国全体で保証していく必要がある
- 少子化対策は都市レベルでは注目されず、子供政策や移民対策などがメインとなっている
- 東京出身者と転入者のライフコースの違いについて分析が必要
- 雇用状況、収入、共働き率等、地域によって状況が異なるため、地域ごとに把握することも重要
- 所得階級、持ち家の有無、女性の就業状況など、どのような世帯で出生が生じているか把握すべき
- 効果検証については、合計特殊出生率、出生数や未婚率などの定量的な指標に加え、子育ての負担に対する意識の変化や住民満足度などの定性的な指標も大事
- 施策や制度は為されてから5年から10年で効果が出る。ある程度の時間差を考慮して、影響を見ていくべき
- 幅広い施策の実施がプラスの効果を与える
- 意識調査から、政策の実施状況と人々の意識のギャップについて示唆が得られるかもしれない
- 2015年頃から、家族政策が充実した国も含めほとんどの先進国で出生率は減少傾向にあり、1.6程度に収束してきている。かつては政策の影響が大きいとされてきたが、近年では意識変容と紐づけられた研究が盛んである
- 近年の新しい少子化対策についても、政策効果があったのか長期的に分析できるようにしておいた方がよい。長期的なスパンでの観察が必要になるが、意識調査で利用率のデータを蓄積できるとよい
- 少子化の要因分析や対策の効果検証を行うに当たっては、政策の情報を与えるグループと与えないグループをランダムに割付けることによって意向が変わるか否かを分析することも一案

- 将来の子育て費用を見据えて出産を検討するのであれば、その費用の増減が出産の判断に影響すると考えるのが自然
- 父親と母親が一緒に家に居ると母親に育児負担が偏りがちになる。これを防ぎ、母親の育児負担を軽減するためには、父親が単独で育児をすることにも重きを置き、男性育業支援を進める必要がある。そのためには、父親が稼ぐ役割を気にせず育児に専念できるようにする支援も重要
- 東京都の政策が他地域、日本全体にも良い影響を及ぼすといったスピルオーバー効果があることを示せると良い